

SAS[®] Viya[™] 3.1 出力形式と入力形式: リファレンス

The correct bibliographic citation for this manual is as follows: SAS Institute Inc. 2016. SAS® Viya™ 3.1 出力形式と入力形式: リファレンス. Cary, NC: SAS Institute Inc.

SAS® Viya™ 3.1 出力形式と入力形式: リファレンス

Copyright © 2016, SAS Institute Inc., Cary, NC, USA

All Rights Reserved. Produced in the United States of America.

For a hard copy book: No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, or transmitted, in any form or by any means, electronic, mechanical, photocopying, or otherwise, without the prior written permission of the publisher, SAS Institute Inc.

For a web download or e-book: Your use of this publication shall be governed by the terms established by the vendor at the time you acquire this publication.

The scanning, uploading, and distribution of this book via the Internet or any other means without the permission of the publisher is illegal and punishable by law. Please purchase only authorized electronic editions and do not participate in or encourage electronic piracy of copyrighted materials. Your support of others' rights is appreciated.

U.S. Government License Rights; Restricted Rights: The Software and its documentation is commercial computer software developed at private expense and is provided with RESTRICTED RIGHTS to the United States Government. Use, duplication, or disclosure of the Software by the United States Government is subject to the license terms of this Agreement pursuant to, as applicable, FAR 12.212, DFAR 227.7202-1(a), DFAR 227.7202-3(a), and DFAR 227.7202-4, and, to the extent required under U.S. federal law, the minimum restricted rights as set out in FAR 52.227-19 (DEC 2007). If FAR 52.227-19 is applicable, this provision serves as notice under clause (c) thereof and no other notice is required to be affixed to the Software or documentation. The Government's rights in Software and documentation shall be only those set forth in this Agreement.

SAS Institute Inc., SAS Campus Drive, Cary, NC 27513-2414

September 2016

SAS® and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration.

Other brand and product names are trademarks of their respective companies.

3.1-P1:leforinforref

目次

1部 SAS 出力形式 1

1章・SAS 出力形式について	3
出力形式について	4
構文	4
出力形式の使用	5
ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディア ンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング	8
データの変換とエンコーディング	10
パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理	10
ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理	14
2章・他のドキュメントで説明されている SAS 出力形式	31
その他の出力形式のドキュメント	31
3章・SAS 出力形式のディクショナリ	33
カテゴリ別の出力形式	37
ディクショナリ	60

2部 SAS 入力形式 323

4章・SAS 入力形式について	325
入力形式について	325
構文	326
入力形式の使用	327
ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディア ンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング ..	330
パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理	332
ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み	336
5章・他のドキュメントで説明されている SAS 入力形式	343
その他の入力形式のドキュメント	343
6章・SAS 入力形式のディクショナリ	345
カテゴリ別の入力形式	347
ディクショナリ	358
推奨資料	503
キーワード	505

1 部

SAS 出力形式

1 章	
SAS 出力形式について	3
2 章	
他のドキュメントで説明されている SAS 出力形式	31
3 章	
SAS 出力形式のディクショナリ	33

1 章

SAS 出力形式について

出力形式について	4
構文	4
出力形式の使用	5
出力形式の指定方法	5
恒久的な関連付けと一時的な関連付け	6
ユーザー定義の出力形式	7
日付の整形に関する制約	7
ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディア ンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング	8
定義	8
バイトオーダーリングの相違点	8
ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラッ トフォームで生成されたデータの書き出し	8
バイナリ整数表記と各種プログラミング言語	9
データの変換とエンコーディング	10
パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理	10
定義	10
データの種類	11
パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートす るプラットフォーム	12
パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートする言語	12
パック 10 進とゾーン 10 進の出力形式と入力形式の概要	13
ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理	14
ISO 8601 規格のフォーマットシンボル	14
定義	16
ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間について	16
基本 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値	17
拡張 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値	18
タイムゾーンオフセットを使用した UTC 出力形式確認のヒント	19
基本および拡張 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時 値の読み込みと書き出しの例	20
ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の書き出し	25

出力形式について

出力形式は、出力として表示または出力されるデータ値へのパターンの適用や命令の実行を行う SAS 言語要素です。出力形式の種類は、データの種類(数値、文字、日付、時間、タイムスタンプ)に対応します。ユーザー定義の出力形式を作成することもできます。SAS 出力形式の例として、BINARY、DATE、WORDS などがあります。たとえば、数値を英語表記に相当する値に変換する WORDS22. 出力形式は、数値 692 を **six hundred ninety-two** として出力します。

構文

SAS 出力形式の形式は次のようになります。

```
<$>format<w>.<d>
```

\$

文字出力形式であることを表します。数値出力形式には使用されません。

format

出力形式名です。出力形式には、SAS 出力形式、PROC FORMAT の VALUE ステートメントを使用して定義されたユーザー定義の出力形式があります。

参照項目: ユーザー定義の出力形式の詳細については、“[FORMAT Procedure](#)” ([SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide](#))を参照してください。

w

出力形式の幅です。大部分の出力形式では、出力データの列数となります。

d

オプションの小数点以下の桁数です(数値出力形式)。

出力形式は、名前の一部としてピリオド(.)を含みます。出力形式の *w* 値と *d* 値を省略すると、デフォルト値が使用されます。出力形式で指定する *d* 値に基づき、SAS は小数点以下の桁数を表示します。出力形式は、内部的に保存されているデータ値は変更または切り捨てるものではありません。

たとえば、DOLLAR10.2 では、*w* 値に 10 が指定されているため、値の最大列数は 10 となります。*d* 値には 2 が指定されているため、10 列のうち 2 列が値の小数部分に使用されます。値の残りの文字には 8 列が使用されます。この残りの列には、小数点、小数以外の数値、マイナス記号(値が負の場合)、ドル記号、およびカンマが必要に応じて含まれます。

値を表すには出力形式の幅が狭すぎる場合、値は利用可能なスペースに合うように圧縮されます。文字出力形式では、値の右側が切り捨てられます。数値出力形式では、BEST*w.d* 出力形式が使用される場合があります。十分な幅を指定していない場合、アスタリスクが出力されます。次の例では、結果は *x=*** となります。

```
x=123;  
put x=2.;
```


数値出力形式で文字値を書き出すなど、矛盾する出力形式を使用した場合、まず他の種類の類似した出力形式が試されます。失敗時には、問題を説明するエラーメッセージが SAS ログに表示されます。

d の値が 15 より大きい場合、有効桁数 15 桁以降の桁の小数値が正確でない場合があります。

出力形式の使用

出力形式の指定方法

出力形式の指定について

出力形式を次の方法で使用できます。

- PUT ステートメントで使用する
- PUT 関数、PUTC 関数、または PUTN 関数と使用する
- %SYSFUNC マクロ関数と使用する
- DATA ステップまたは PROC ステップの FORMAT ステートメントで使用する
- DATA ステップまたは PROC ステップの ATTRIB ステートメントで使用する

PUT ステートメント

変数名の後に出力形式が指定された PUT ステートメントは、DATA ステップでその出力形式を使用してデータ値を書き出します。たとえば、次の PUT ステートメントは、DOLLAR $w.d$ 出力形式を使用して、AMOUNT の数値をドルで書き出します。

```
amount=1145.32;
put amount dollar10.2;
```

DOLLAR $w.d$ 出力形式の結果は次のようになります。

```
$1,145.32
```

詳細については、“[PUT Statement](#)” (*SAS Viya Statements: Reference*)を参照してください。

PUT 関数

PUT 関数は、数値変数、文字変数、定数を有効な出力形式を使用して変換し、変換後の文字値を返します。たとえば、次のステートメントは、数値変数の値を 2 桁の 16 進表現に変換します。

```
num=15;
char=put(num,hex2.);
```

この PUT 関数は、値 0F を返します。この値は、変数 CHAR に割り当てられません。

PUT 関数は、数値を文字値に変換する場合に使用します。

詳細については、“[PUT Function](#)” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)を参照してください。

%SYSFUNC マクロ関数

%SYSFUNC (または%QSYSFUNC)マクロ関数は、SAS 関数またはユーザー定義関数を実行し、DATA ステップ外でオプションの出力形式を関数に適用します。たとえば、次のプログラムは、マクロ変数の数値をドルとして書き出します。

```
%macro tst(amount);
  %put %sysfunc(putn(&amount,dollar10.2));
%mend tst;
```

```
%tst (1154.23);
```

詳細については、“[%SYSFUNC and %QSYSFUNC Functions](#)” (*SAS Viya Macro Language: Reference*)を参照してください。

FORMAT ステートメント

FORMAT ステートメントは、文字変数を文字出力形式に、数値変数を数値出力形式に恒久的に関連付けます。

SAS は出力形式を使用して、ユーザーが指定する変数の値を書き出します。たとえば、DATA ステップの次のステートメントは、COMMAw.d 数値出力形式を SALES1 から SALES3 までの変数に関連付けます。

```
format sales1-sales3 comma10.2;
```

FORMAT ステートメントは恒久的に出力形式を変数に関連付けるため、次に続く DATA ステップや PROC ステップは、COMMA10.2 を使用して、SALES1、SALES2、SALES3 の値を書き出します。

詳細については、“[FORMAT Statement](#)” (*SAS Viya Statements: Reference*)を参照してください。

注: PUT ステートメントの前に FORMAT ステートメントを使用して出力形式を割り当てる場合、先頭の空白はすべて切り捨てられます。FORMAT ステートメントを使用して変数に関連付けられた出力形式は、後続の PUT ステートメントでコロン(:)修飾子と一緒に指定された出力形式と同じ結果を出力します。コロンフォーマット修飾子の使用に関する詳細については、“[PUT Statement, List](#)” (*SAS Viya Statements: Reference*)を参照してください。

ATTRIB ステートメント

ATTRIB ステートメントは、他の属性と同様に、出力形式を 1 つ以上の変数と関連付けることができます。次のステートメントの ATTRIB ステートメントは、恒久的に COMMAw.d 出力形式を SALES1 から SALES3 までの変数に関連付けます。

```
attrib sales1-sales3 format=comma10.2;
```

ATTRIB ステートメントは恒久的に出力形式を変数に関連付けるため、次に続く DATA ステップや PROC ステップは、COMMA10.2 を使用して、SALES1、SALES2、SALES3 の値を書き出します。

詳細については、“[ATTRIB Statement](#)” (*SAS Viya Statements: Reference*)を参照してください。

恒久的な関連付けと一時的な関連付け

PUT ステートメントで出力形式を指定すると、DATA ステップではその出力形式を使用してデータ値が書き出されますが、出力形式と変数を恒久的に関連付けるものではありません。出力形式を変数と恒久的に関連付けるには、DATA ステップで FORMAT ステートメントまたは ATTRIB ステートメントを使用します。

SAS では、SAS データセットのディスクリプタ情報を変更することにより、出力形式と変数を恒久的に関連付けます。

PROC ステップで FORMAT ステートメントまたは ATTRIB ステートメントを使用すると、この PROC ステップに加えて、このプロシジャが作成して出力形式が適用される変数を含む出力データセットに対しても、出力形式を変数に関連付けます。

ユーザー定義の出力形式

Base SAS で提供されている出力形式に加えて、独自の出力形式を作成できます。Base SAS では、PROC FORMAT を使用して、文字変数と数値変数の両方に対し独自の出力形式を作成できます。

SAS Cloud Analytic Services(CAS)では、PROC FORMAT により、SAS クライアント上のカタログにユーザー定義の出力形式を作成できます。PROC FORMAT の CASFMLIB ステートメントで、出力形式や出力形式ライブラリを、CAS セッションに追加できるようになっています。CAS ステートメントでユーザー定義の出力形式を作成し、CAS セッションで使用できます。詳細については、[“Working with User-Defined Formats” \(SAS Cloud Analytic Services: Accessing and Manipulating Data\)](#)を参照してください。および[“FORMAT Procedure” \(SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide\)](#)です。

ユーザー定義の出力形式を使用する SAS プログラムの実行時に、次の 2 つの方法でこれらの出力形式を使用できます。

- 一時的でなく、恒久的な出力形式を PROC FORMAT で作成する
- 出力形式を作成する(PROC FORMAT ステップ)ソースコードを、それを使用する SAS プログラムと一緒に保存する

恒久的な SAS 出力形式を作成するには、[“FORMAT Procedure” \(SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide\)](#)を参照してください。

ユーザー定義の出力形式を見つけれないプログラムを実行すると、その結果は FMterr システムオプションの設定によって異なります。ユーザー定義の出力形式が見つからない場合、次のシステムオプションの結果は次のようになります。

システムオプション	結果
FMterr	現在の DATA ステップまたは PROC ステップを停止するエラーを発生します。
NOFMterr	処理は続行され、デフォルトの出力形式を置き換えます。通常は BESTw. または \$w. 出力形式です。

NOFMterr を使用すると変数を処理できますが、ユーザー定義の出力形式によって提供される情報は失われます。

問題を避けるため、使用されるすべてのユーザー定義の出力形式にプログラムがアクセスできることを確認してください。

日付の整形に関する制約

注意:

年として 4000 以上の値を指定すると、不正な日付になることがあります。SAS は 4000 で割り切れる年を閏年として扱いません。4000 年や 8000 年は、閏年

にならないのです。4000年以降の日付がからむと、日付がずれるおそれがあります。

ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング

定義

バイナリ整数データの整数値は、通常、1バイト、2バイト、4バイトの3つのサイズのいずれかで保存されます。整数のバイトオーダーリングは、整数が生成されるプラットフォーム(動作環境)によって異なります。

バイトオーダーリングは、“ビッグエンディアン”プラットフォームと“リトルエンディアン”プラットフォームとで異なります。これらの俗称は、IBMメインフレーム(ビッグエンディアン)とIntel基準のプラットフォーム(リトルエンディアン)のバイトオーダーリングを表すために使用されます。SASシステムでは、AIX、HP-UX、Macintosh、Solaris on SPARCのプラットフォームをビッグエンディアンとします。一方、Intel ABI、Linux、OpenVMS on HP Integrity Servers、OpenVMS Integrityのプラットフォームはリトルエンディアンとします。

バイトオーダーリングの相違点

ビッグエンディアンプラットフォームでは、値1はバイナリで保存され、16進表記で表されます。1バイトは01、2バイトは00 01、4バイトは00 00 00 01としてそれぞれ保存されます。リトルエンディアンプラットフォームでは、値1は1バイトで01(ビッグエンディアンと同じ)、2バイトで01 00、4バイトで01 00 00 00としてそれぞれ保存されます。

負の整数には、2の補数表現が使用されます。整数の最大有効バイトの高位ビットに設定されます。たとえば-2は、ビッグエンディアンプラットフォームでは、1バイト、2バイト、4バイトの場合それぞれFE、FF FE、FF FF FF FEとして表されます。リトルエンディアンプラットフォームでは、それぞれFE、FE FF、FE FF FF FFとして表されます。これらの表現は、16進表記のバイナリ整数値-2の出力結果です。

ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し

SASでは、符号付き整数および符号なし整数をビッグエンディアンプラットフォームまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されていても読み込むことができます。同様に、ビッグエンディアン形式とリトルエンディアン形式の符号付き整数および符号なし整数を書き出すことができます。これらの整数の長さは、最大で8バイトまで可能です。

次の表は、プラットフォームのさまざまな組み合わせに使用する出力形式を示したものです。符号付き整数列の“いいえ”は、符号なしで、負でない数字を示します。“はい”は、数字が負または正のいずれかであることを示します。

データが作成されたプラットフォーム	データを書き出すプラットフォーム	符号付き整数	出力形式
ビッグエンディアン	ビッグエンディアン	はい	IB または S370FIB
ビッグエンディアン	ビッグエンディアン	いいえ	PIB、S370FPPIB、S370FIBU
ビッグエンディアン	リトルエンディアン	はい	S370FIB
ビッグエンディアン	リトルエンディアン	いいえ	S370FPPIB
リトルエンディアン	ビッグエンディアン	はい	IBR
リトルエンディアン	ビッグエンディアン	いいえ	PIBR
リトルエンディアン	リトルエンディアン	はい	IB または IBR
リトルエンディアン	リトルエンディアン	いいえ	PIB または PIBR
ビッグエンディアン	いずれか	はい	S370FIB
ビッグエンディアン	いずれか	いいえ	S370FPPIB
リトルエンディアン	いずれか	はい	IBR
リトルエンディアン	いずれか	いいえ	PIBR

バイナリ整数表記と各種プログラミング言語

次の表は、プログラミング言語別のバイナリ整数表記を比較したものです。

言語	2 バイト	4 バイト
SAS	IB2.、IBR2.、PIB2.、PIBR2.、S370FIB2.、S370FIBU2.、S370FPPIB2.	IB4.、IBR4.、PIB4.、PIBR4.、S370FIB4.、S370FIBU4.、S370FPPIB4.
PL/I	FIXED BIN(15)	FIXED BIN(31)
Fortran	INTEGER*2	INTEGER*4
COBOL	COMP PIC 9(4)	COMP PIC 9(8)
IBM アセンブラ	H	F
C	short	long

データの変換とエンコーディング

エンコーディングは、文字セットの各文字を一意的な数値表現にマップし、コードポイントの表を作成します。各文字は、エンコーディングごとに異なる数値表現がされます。たとえば、ドル記号\$の ASCII エンコーディングは、24 (16 進表現) となります。また、ドル記号\$のデンマーク語の EBCDIC エンコーディングは、67 (16 進表現) となります。通常は ASCII を使用するバージョンの SAS がデンマーク語の EBCDIC でエンコーディングされたデータセットを適切に解釈するためには、データをトランスコードする必要があります。

トランスコーディングとは、1つのエンコーディングから別のエンコーディングにデータを移動する処理のことです。SAS では、ASCII のドル記号がデンマーク語の EBCDIC のドル記号にトランスコードされると、この文字の 16 進表現が値 24 から値 67 に変換されます。

データがトランスコードされる頻度が高いいくつかの状況を次に示します。

- 互換性のないロケールまたは互換性のない動作環境で実行している、2つの異なる SAS セッション間でデータを共有する場合たとえば it_CH と it_IT は異なるロケールですが、同じセッションエンコーディングなので、トランスコードは発生しません。HP_UX_64、SOLARIS_64、HP_IA_64 は互換オペレーティングシステムであり、トランスコードは発生しません。しかし、LINUX との間でデータを共有しようとする、トランスコードが発生します。
- 別の言語の文字を表示または出力する場合。
- 異なるロケールで実行している SAS セッション間でデータをコピーして貼り付ける場合。

注: UTF-8 以外のエンコーディング値をデータに設定した場合、トランスコードが発生します。

異なるエンコーディングまたは動作環境からの[各国語サポート関連のトランスコーディング](#)を処理するために設計された SAS 機能の詳細については、[SAS Viya 各国語サポート: リファレンスガイド](#)を参照してください。

パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理

定義

パック 10 進

10 進数の 2 桁を 1 バイトで表現する、10 進数のエンコード方法です。パック 10 進表現は、正確な精度で 10 進データを保存します。数字の小数部分は、別に仮数や指数がないため、入力形式または出力形式によって設定されます。

パック 10 進データを使用する利点は、正確な精度を維持できることです。ただし、10 進データを含む計算はネイティブ命令を欠く場合は不正確になることがあります。

ゾーン 10 進 I

1 桁がストレージの 1 バイトを使用する 10 進数のエンコード方法です。最終バイトには、最終桁と数字の符号が含まれます。ゾーン 10 進データは、出力可能な表現を生成します。

ニブル
0.5 バイトです。

データの種類

パック 10 進データ

パック 10 進表現は、10 進数の桁をバイトの"ニブル"に保存します。各バイトは 2 つのニブルを含み、ニブルは 1 桁の 16 進数によって示されます。たとえば値 15 は、16 進数の 1 と 5 を使用して 2 つのニブルに保存されます。

符号の表示は動作環境によって異なります。IBM メインフレームでは、符号は最後のニブルによって示されます。出力形式の使用時、C は正の値、D は負の値を示します。入力形式の使用時は、A、C、E および F は正の値、B と D は負の値を示します。他のニブルは、符号付きパック 10 進データに使用できません。他のすべての動作環境では、符号はその独自のバイトで示されます。高位ビットが 1 の場合、数字は負になります。その他の場合、数字は正になります。

次の情報がパック 10 進データ表現に当てはまります。

- すべてのプラットフォーム上で S370FPD 出力形式を使用して、IBM メインフレーム形式の 10 進データを取得できます。
- 符号インジケータのない符号なしパックデータを使用できます。パック 10 進の出力形式および入力形式により、パック 10 進データ表現が処理されます。その表現は、ASCII プラットフォームでも、EBCDIC プラットフォームでも同じです。
- S370FPDU の出力形式および入力形式では最後のニブルに F が必要です。パック 10 進では符号のニブルは必要ありません。

ゾーン 10 進データ

次の情報がゾーン 10 進データ表現に当てはまります。

- ゾーン 10 進表現は、10 進数の桁をバイトの下位ニブルに保存します。符号を含むバイト以外のすべてのバイトにおいて、上位ニブルは数値ゾーンニブル(EBCDIC では F、ASCII では 3)になります。
- 符号はその表現によって、桁を含むバイトに結合することも、切り離すことも可能です。ただし、標準ゾーン 10 進の出力形式および入力形式では、符号が最後のバイトに結合されます。
- EBCDIC および ASCII のゾーン 10 進出力形式は、同じ出力可能な表現で数字を生成します。バイトは 2 つのニブルを含み、それぞれが 1 桁の 16 進数によって示されます。たとえば、値 15 は 2 バイトで保存されます。1 番目のバイトには 16 進値の F1 が、2 番目のバイトには 16 進値の C5 がそれぞれ含まれます。

パックユリウス暦の日付

次の情報がパックユリウス暦の日付に当てはまります。

- パック 10 進表現のユリウス暦の日付を処理する 2 つの出力形式と入力形式は、PDJULI と PDJULG です。PDJULI は IBM メインフレームの年計算を使用し、PDJULG はグレゴリオ暦の計算を使用します。
- IBM メインフレームの計算では、1900 を基準年とし、データの年値は 1900 からのオフセットを示します(たとえば、98 は 1998、100 は 2000、102 は 2002 をそれぞれ表します)。また、1998 は 3898 を表します。

- グレゴリオ暦の計算では、2桁または4桁の年を利用できます。2桁の年を使用する場合、YEARCUTOFF=システムオプションの設定を使用して実際の年を決定します。

パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートするプラットフォーム

一部のプラットフォームには、パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートするためのネイティブ命令が含まれています。その他のプラットフォームでは、ソフトウェアを使用して計算をエミュレートする必要があります。たとえば、IBM メインフレームにはパック 10 進データを追加するためのパック追加命令が含まれていますが、Intel 基準のプラットフォームにはそのような命令は含まれていないため、10 進データを他の形式に変換する必要があります。

パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートする言語

複数の言語で、パック 10 進データとゾーン 10 進データがサポートされています。次の表は、COBOL の picture 句に対応する SAS 出力形式および入力形式を示したものです。

IBM VS COBOL II 句	対応する S370Fxxx 出力形式および入力形式
PIC S9(X) PACKED-DECIMAL	S370FPDw.
PIC 9(X) PACKED-DECIMAL	S370FPDUw.
PIC S9(W) DISPLAY	S370FZDw.
PIC 9(W) DISPLAY	S370FZDUw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN LEADING	S370FZDLw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE	S370FZDSw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN TRAILING SEPARATE	S370FZDTw.

前述の表内のパック 10 進表現では、X は表す桁数、W はバイト数を表します PIC S9(X)PACKED-DECIMAL では、W は $\text{ceil}((x+1)/2)$ になります。PIC 9(X)PACKED-DECIMAL では、W は $\text{ceil}(x/2)$ になります。たとえば、PIC S9(5) PACKED-DECIMAL は 5 桁を表します。符号が含まれる場合、6 つのニブルが必要です。 $\text{ceil}((5+1)/2)$ の長さは 3 バイトであり、W の値は 3 になります。

PACKED-DECIMAL のかわりに COMP-3 を使用できます。

IBM アセンブリ言語では、P ディレクティブはパック 10 進を、Z ディレクティブはゾーン 10 進をそれぞれ示します。次はアセンブリ言語リストの抜粋であり、オフセット、値、DC ステートメントが示されています。

```
offset value (in hex)  inst label  directive
+000000 00001C      2 PEX1   DC PL3'1'
+000003 00001D      3 PEX2   DC PL3'-1'
+000006 F0F0C1     4 ZEX1   DC ZL3'1'
```


+000009 F0F0D1 5 ZEX2 DC ZL3'-1'

PL/I では、FIXED DECIMAL 属性はパック 10 進データとともに使用されます。ゾーン 10 進データを表すには、PICTURE 指定を使用する必要があります。Fortran または C 言語では、10 進データの統一した表現はありません。

パック 10 進とゾーン 10 進の出力形式と入力形式の概要

SAS では、パック 10 進データとゾーン 10 進データを処理するために、一連の出力形式および入力形式を使用します。次の表は、これらの出力形式および入力形式のデータ表現の種類を示したものです。S370 で始まる出力形式および入力形式は、IBM メインフレーム表現を示します。

出力形式	データ表現の種類	対応する入力形式	コメント
PD	パック 10 進	PD	ローカル符号付きパック 10 進
PK	パック 10 進	PK	符号なしパック 10 進; 動作環境に固有でない
ZD	ゾーン 10 進	ZD	ローカルゾーン 10 進
なし	ゾーン 10 進	ZDB	EBCDIC の空白(16 進 40)を EBCDIC のゼロ(16 進 F0)に変換; ゾーン 10 進の入力形式に相当
なし	ゾーン 10 進	ZDV	IBM 以外のゾーン 10 進表記
S370FPD	パック 10 進	S370FPD	最後のニブルが C (正)または D (負)
S370FPDU	パック 10 進	S370FPDU	最後のニブルは常に F (正)
S370FZD	ゾーン 10 進	S370FZD	最終バイトの上位ニブルに符号が含まれる: C (正)または D (負)
S370FZDU	ゾーン 10 進	S370FZDU	符号なし; 符号ニブルは常に F
S370FZDL	ゾーン 10 進	S370FZDL	先頭バイトに符号ニブルが含まれる(入力形式); 先頭に 16 進数の C0 (正)または D0 (負)を含む符号バイトが個別にある(出力形式)
S370FZDS	ゾーン 10 進	S370FZDS	先頭に符号- (16 進数の 60)または+ (16 進数の 4E)あり

出力形式	データ表現の種類	対応する入力形式	コメント
S370FZDT	ゾーン 10 進	S370FZDT	末尾に符号- (16 進数の 60)または+ (16 進数の 4E)あり
PDJULI	パック 10 進	PDJULI	パック表現のユリウス暦の日付 - IBM 計算
PDJULG	パック 10 進	PDJULG	パック表現のユリウス暦の日付 - グレゴリオ暦計算
なし	パック 10 進	RMFDUR	入力レイアウト: <i>mmssttF</i>
なし	パック 10 進	SHRSTAMP	入力レイアウト: <i>yyyydddFhhmmssth</i> 。 <i>yyyydddF</i> はパックユリウス暦の日付、 <i>yyyy</i> は 1900 を基準年とする年。
なし	パック 10 進	SMFSTAMP	入力レイアウト: <i>xxxxxxxxxyyydddF</i> 。 <i>yyyydddF</i> はパックユリウス暦の日付、 <i>yyyy</i> は 1900 を基準年とする年。
なし	パック 10 進	PDTIME	入力レイアウト: <i>0hhmmssF</i>
なし	パック 10 進	RMFSTAMP	入力レイアウト: <i>0hhmmssFyyyydddF</i> 。 <i>yyyydddF</i> はパックユリウス暦の日付、 <i>yyyy</i> は 1900 を基準年とする年。

ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理

ISO 8601 規格のフォーマットシンボル

次のリストは、ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値、期間値、間隔値の表記に使用されるフォーマットシンボルについて説明したものです。

n

年数、月数、日数を表す数字です。

P

年数、月数、日数、時間数、分数、秒数で示される期間が続くことを示します。

T

時間値が続くことを示します。時間を含む値は T で始まる必要があります。

要件 文字 E8601 で始まる拡張表記入力形式から読み込む時間値には、大文字の T を使用する必要があります。

W

期間が週数で示されることを示します。

Z

時間値がイギリスのグリニッジに対応した時間、つまり UTC 時間であることを示します。

+|-

+は、イギリスのグリニッジの東部タイムゾーンのオフセットを示します。-

は、イギリスのグリニッジの西部タイムゾーンのオフセットを示します。

yyyy

4桁の年を示します。

mm

日付の一部。2桁の月、01-12を示します。

dd

2桁の日、01-31を示します。

hh

2桁の時間、00-24を示します。

mm

時間の一部。2桁の時間、00-59を示します。

ss

2桁の秒、00-59を示します。

fff | fffff

秒の端数 0-9 を示します(オプション)。

fff \$N8601B 入力形式と \$N8601E 入力形式では、小数点以下の桁数が 1 - 3 桁の値を読み込みます

ffffff \$N8601B 入力形式および \$N8601E 入力形式以外の入力形式では、小数点以下の桁数が 1 - 6 桁の値を読み込みます

Y

期間のこの値の前に年数値が配置されることを示します。

M

日付の一部。期間のこの値の前に月数値が配置されることを示します。

D

期間のこの値の前に日数値が配置されることを示します。

H

期間のこの値の前に時間値が配置されることを示します。

M

時間の一部。期間のこの値の前に分数値が配置されることを示します。

S

期間のこの値の前に秒数値が配置されることを示します。

定義

ローカル時間

タイムゾーンが TIMEZONE=システムオプションによって指定されていない場合のローカル時間。

タイムゾーンオフセット

タイムゾーンと協定世界時(UTC)の時間差と分差を+|-hh:mm または+|-hhmm の形式で示します。

ユーザーローカル時間

TIMEZONE=システムオプションによって指定されたタイムゾーンのローカル時間。詳細については、“[TIMEZONE= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

UTC

協定世界時は、基準子午線(イギリスのグリニッジ付近)上の時間です。UTC は、ISO 8601 規格の基本形式 `yyyymmddThhmmss+|-hhmm` または ISO 8601 規格の拡張形式 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+|-hh:mm` を使用した日時値です。

ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間について

ISO 8601 は日付と時間を表現するための国際規格です。これには、日付、時間および間隔のさまざまな表現が含まれます。ISO 8601 規格における日付値、時間値および日時値の主な 2 つの表現は、基本表記と拡張表記です。区切り文字によって値のさまざまな構成要素が区切られている場合は拡張値と見なされますが、基本値では区切り文字が省略されます。拡張出力形式では、日付要素(年、月および日)にはハイフンの区切り文字、時間要素(時間、分および秒)にはコロンの区切り文字が必要です。いずれの ISO 8601 表現でもスペースは許可されません。データの各種類の構造では、1桁の月、日、時間、分にゼロを追加するなどして、各プレースホルダを値で埋める必要があります。日時値を指定する場合、日付と時間の間に必要な区切り文字は大文字の T です。

ISO 8601 出力形式には、UTC の時間値と日時値をフォーマットするためのものもあります。その時間値または日時値にはタイムゾーンオフセットが含まれます。これはタイムゾーンと基準子午線の時間差を表す正数または負数です。正数は基準子午線の東部、負数は基準子午線の西部です。基準子午線上ではタイムゾーンオフセットは常にゼロです。

ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値、期間値の基本表記と拡張表記の例を次に示します。

- 2013-02-01 は、拡張表記を使用してフォーマットした日付です。
- 125234-0500 は、基準子午線の西部に 5 時間のタイムゾーンオフセットが付いた時間で、基本表記を使用してフォーマットされています。
- 2013-02-01T12:52:34+09:00 は、基準子午線の東部に 9 時間のタイムゾーンオフセットが付いた日時値で、拡張表記を使用してフォーマットされています。
- P20130501T120000 は、基本表記を使用してフォーマットした期間値です。

時間オフセット付きの UTC が指定された ISO 8601 値が読み込まれると、時間値または日時値が基準子午線からのオフセットに従って調整されます。

タイムゾーンオフセット付き UTC 用の SAS ISO 8601 出力形式は、以下の時間、日時およびタイムゾーンオフセットに基づいています。

- イギリスのグリニッジ付近における基準子午線の時間または日時(オフセットは常に+|-0000 または+|-00:00)。
- ローカル時間または日時。ローカル時間に対するタイムゾーンオフセット付き基準子午線時間が使用されます。
- ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線日時。
- ユーザーローカル時間または日時。ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセット付きでタイムゾーンの現在時間が使用されます。

基本 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値

基本出力形式と基本入力形式には B8601 の接頭辞が付いて、次の形式を取ります。

日付	<i>yyyymmdd</i>
時間	<i>hhmmss<ffffff></i>
日時	<i>yyyymmddThhmmss<ffffff></i>
タイムゾーン付き時間	<i>hhmmss<ffffff>+ -hhmm</i>
タイムゾーン付き日時	<i>yyyymmddThhmmss<ffffff>+ -hhmm</i>

SAS では次の表の出力形式を使用して、SAS 日付値、SAS 時間値、SAS 日時値から日付値、時間値、日時値を ISO 8601 規格の基本表記で書き出します。

日付、時間、日時	ISO 6801 表記	例	出力形式
日付	<i>yyyymmdd</i>	20120915	B8601DAw. (86 ページ)
日時からの日付の書き出し	<i>yyyymmdd</i>	20120915	B8601DNw. (87 ページ)
時間	<i>hhmmssffffff</i>	155300322348	B8601TMw.d (95 ページ)
基準子午線時間とタイムゾーンオフセット タイムゾーンオフセットは常に+0000 または Z	<i>hhmmss+ -hhmm</i>	155300+0000	B8601TZw. (98 ページ)
	<i>hhmmssZ</i>	155300Z	B8601TZw. (98 ページ)
ローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線時間	<i>hhmmss+ -hhmm</i>	155300-0500	B8601LZw. (94 ページ)
ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用して時間をユーザーローカル時間に変換	<i>hhmmss+ -hhmm</i>	155300-0500	B8601TXw. (96 ページ)

日付、時間、日時	ISO 6801 表記	例	出力形式
日時	<i>yyyymmddThhmmssffffff</i>	20120915T155300	B8601DTw.d (88 ページ)
基準子午線日時とタイムゾーンオフセット タイムゾーンオフセットは常に+0000 または Z	<i>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</i>	20120915T155300-0000	B8601DZw. (91 ページ)
	<i>yyyymmddThhmmssZ</i>	20120915T155300Z	B8601DZw. (91 ページ)
ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線日時	<i>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</i>	20120915T155300+0500	B8601LXw. (92 ページ)
ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用して日時値をユーザーローカル時間に変換	<i>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</i>	20120915T155300+0500	B8601DXw. (89 ページ)

アスタリスク(*)は、日付または時間フォーマット値が範囲外の場合に使用されます。幅を広げてください。

拡張 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値

拡張出力形式と拡張入力形式には E8601 の接頭辞が付いて、次の形式を取ります。

日付	<i>yyyy-mm-dd</i>
時間	<i>hh:mm:ss<ffffff></i>
日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss<ffffff></i>
タイムゾーン付き時間	<i>hh:mm:ss<ffffff>+ -hh:mm</i> または <i>hh:mm:ss<ffffff>Z</i>
タイムゾーン付き日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss<ffffff>+ -hh:mm</i> または <i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss<ffffff>Z</i>

SAS では次の表の出力形式を使用して、SAS 日付値、SAS 時間値、SAS 日時値から日付値、時間値、日時値を ISO 8601 規格の拡張表記で書き出します。

日付、時間、日時	ISO 8601 表記	例	出力形式
日付	<i>yyyy-mm-dd</i>	2012-09-15	E8601DAw. (128 ページ)
日時からの日付の書き出し	<i>yyyy-mm-dd</i>	2012-09-15	E8601DNw. (87 ページ)
時間	<i>hh:mm:ss.ffffff</i>	15:53:00.322348	E8601TMw.d (95 ページ)

日付、時間、日時	ISO 8601 表記	例	出力形式
基準子午線時間とタイムゾーンオフセット タイムゾーンオフセットは常に+00:00	<i>hh:mm:ss.ffffff+ -hh:mm</i>	15:53:00+00:00	E8601TZw.d (98 ページ)
ローカルタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線時間	<i>hh:mm:ss.ffffff+ -hh:mm</i>	15:53:00+05:00	E8601LZw.d (94 ページ)
ローカルタイムゾーンオフセットを使用して時間をユーザーローカル時間に変換	<i>hh:mm:ss+ -hh:mm</i>	15:53:00+05:00	EB8601TXw. (139 ページ)
日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.ffffff</i>	2012-09-15T15:53:00	E8601DTw.d (88 ページ)
基準子午線日時とタイムゾーンオフセット タイムゾーンオフセットは常に+00:00	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.nnnnnn+ -hh:mm</i>	2013-09-15T15:53:00+00:00	E8601DZw.d (133 ページ)
ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm</i>	2013-09-15T15:53:00-05:00	E8601LXw. (135 ページ)
ユーザーローカル時間に対するタイムゾーンオフセットを使用して日時値をユーザーローカル時間に変換	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm</i>	2013-09-15T185300-0500	E8601DXw. (132 ページ)

アスタリスク(*)は、日付または時間フォーマット値が範囲外の場合に使用されます。出力形式の幅を広げてください。

タイムゾーンの詳細については、“[Specifying Time Zones in SAS](#)” ([SAS Viya National Language Support: Reference Guide](#))および“[TIMEZONE= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

タイムゾーンオフセットを使用した UTC 出力形式確認のヒント

UTC に対してどの出力形式を使用すべきかを確認するためのヒントは次のとおりです。

- 最後の 2 文字の T は時間値です。
- 最後の 2 文字の D は日時値です。
- 最後の 2 文字の Z は基準子午線時間および基準子午線オフセットです。ただし、LZ は例外です。
- 最後の 2 文字の L は、ローカルまたはユーザーローカルのタイムゾーンオフセット付き基準子午線時間です。

- 最後の 2 文字の X はユーザーローカル時間または日時を示し、TIMEZONE=システムオプションで決定されたユーザーローカルタイムゾーンオフセットが使用されます。

UTC に対する出力形式を決定するための情報を次に示します。

	TZ または DZ	LZ	LX	TX または DX
基準子午線タイムゾーンオフセットを使用した基準子午線日付または日時	✓			
ローカルタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線時間		✓		
ユーザーローカルタイムゾーンオフセットを使用した基準子午線日時			✓	
ユーザーローカルタイムゾーンオフセットを使用したユーザーローカル時間または日時				✓

基本および拡張 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値の読み込みと書き出しの例

基本および拡張 ISO 8601 規格の例について

このセクションの例では、さまざまな入力形式を使用して、日付値、時間値および日時値を SAS 日付変数、SAS 時間変数および SAS 日時変数に読み込む方法を説明します。この例では、出力形式を使用して、これらの値をユーザーにとって意味のある形で書き出す方法も説明します。

CAS 上での実行方法

以下のトピックに示す例は、SAS クライアントと連動して動作します。CAS 上で実行する場合、1 行目に次の CAS ステートメントを付け加えてください:

```
cas casuser;
```

ISO 8601 規格の拡張出力形式の出力比較

この例では、時間値と日時値に対する異なる拡張表記の出力を比較します。

```
data _null_;
```



```
d='15Sep2013:5:53:00'dt;
tm='05:53:00't;
put 'd=' d datetime.;
put 'e8601dz=' d e8601dz.;
put 'e8601lx=' d e8601lx.;
put 'e8601dx=' d e8601dx.;
put 'tm=' tm time.;
put 'e8601tz=' tm e8601tz.;
put 'e8601lz=' tm e8601lz.;
put 'e8601tx=' tm e8601tx.;
run;
```

米国東部のローカル時間を使用して、TIMEZONE=システムオプションの値は指定せずに、プログラムが実行されました。したがって、タイムゾーン出力形式 E8601LZ、E8601DX、および E8601TX、ではローカル時間が示されます。

- E8601DZ、および E8601TZ、出力形式の出力では、+0000 または+00:00 のタイムゾーンオフセットを使用して、SAS 日時値および SAS 時間値が基準子午線上の時間として書き出されます。
- E8601LX、および E8601LZ、出力形式の出力では、ローカル時間のタイムゾーンオフセットを使用して、SAS 日時値が基準子午線上の時間として書き出されます。
- E8601DX、および E8601TX、出力形式の出力では、ローカル時間のタイムゾーンオフセットを使用して、時間が東部標準時に変換されます。

```
d=15SEP13:05:53:00 e8601dz= 2013-09-15T05:53:00+00:00 e8601lx=
2013-09-15T05:53:00-05:00 e8601dx= 2013-09-15T00:53:00-05:00 tm= 5:53:00
e8601tz=05:53:00+00:00 e8601lz=05:53:00-05:00 e8601tx=00:53:00-05:00
```

TIMEZONE=オプションを America/Los_Angeles に設定した場合の結果を次に示します。

```
d=15SEP13:05:53:00 e8601dz= 2013-09-15T05:53:00+00:00 e8601lx=
2013-09-15T05:53:00-07:00 e8601dx= 2013-09-14T22:53:00-07:00 tm= 5:53:00
e8601tz=05:53:00+00:00 e8601lz=05:53:00-05:00 e8601tx=21:53:00-08:00
```

- E8601DZ、および E8601TZ、出力形式は変更されません。示される時間は常に基準子午線上での時間です。
- E8601LX、出力形式では、America/Los_Angeles タイムゾーンのタイムゾーンオフセットを使用して、基準子午線時間が示されます。
- E8601DX、出力形式では、America/Los_Angeles タイムゾーンのタイムゾーンオフセットを使用して、ローカル日付とローカル時間が示されます。ロサンゼルススのタイムゾーンオフセットは-07:00 で、ローカル時間は基準子午線上の時間の 7 時間前になります。そのため、日付が 14 日に変更されます。
- E8601LZ、出力形式では、米国東部のタイムゾーンオフセットを使用して基準子午線上の時間が示されます。これは米国東部がコードを実行した場所であるためです。
- E8601TX、出力形式では、America/Los_Angeles タイムゾーンのタイムゾーンオフセットを使用して、基準子午線の 7 時間前の時間が示されます。

日付値の読み込みと書き出し

臨床試験が行われ、そのイベントが 2012 年 4 月 2 日に開始し、2012 年 4 月 8 日に終了するとします。日付は時間値なしで、「20120402」、「2012-04-08」の

ように記録します。これらの値は、B8601DAw.入力形式および E8601DAw.入力形式で SAS に読み込めます。B8601DAw. 出力形式および E8601DAw. 出力形式を使用すると、同じ形式で日付を書き出せます。これらの出力形式では、新規作成された SAS 日付が、1/1/1960 からの日数の数値よりもわかりやすいレイアウトで出力されます。

```
data a;
input var1 b8601da8. +1 var2 e8601da10.;
put var1=b8601da. var2=e8601da.;
datalines;
20120402 2012-04-08
;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
var1=20120402 var2=2012-04-08
```

B8601DNw. および E8601DNw. 出力形式を使用すると、日時値から日付を推測できます。この例では、B8601DNw.入力形式を使用して日時値が読み込まれ、B8601DNw. 出力形式を使用して日付が書き出されます。

```
data _null_;
input @1 dt b8601dn.;
put dt b8601dn.;
datalines;
20130915T094322
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
20130915
```

タイムゾーンオフセットなしの時間値の読み込みと書き出し

B8601TMw.d および E8601TMw.d 入力形式を使用すると、タイムゾーンオフセット値のない時間値を SAS 時間値に読み込めます。B8601TMw.d および E8601TMw.d 出力形式では、この例に示すように、タイムゾーンオフセット値のない時間値が書き出されます。

```
data _null_;
x=input('12:34:56',e8601tm8.);
put x=b8601tm8. x=e8601tm10.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=123456 x=12:34:56
```

タイムゾーンオフセット付き時間値の読み込みと書き出し

この例では、E8601TZw.d 入力形式を使用して、タイムゾーンオフセットを含む時間値を読み込みます。B8601TZw.d 出力形式および E8601TZw.d 出力形式では、基準子午線のタイムゾーンオフセットを使用して時間値が書き出されます。

```
data _null_;
x=input('12:34:56-04:00',e8601tz14.);
put x=e8601tz14.;
```

```
put x=b8601tz.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=16:34:56+00:00 x=163456+0000
```

タイムゾーンオフセットを使用すると、時間を調整して、別のタイムゾーンの時間に行うことができます。TIMEZONE=システムオプションを使用してタイムゾーンを指定し、B8601TXw. 出力形式または E8601TXw. 出力形式を使用して時間をフォーマットします。この例では、PST(太平洋標準時)というタイムゾーンを使用してユーザーに対する時間が書き出されます。

```
options timezone=pst;
data _null_;
x='12:34:56't;
put x=e8601tx.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
4:34:56-08:00
```

ローカルタイムゾーンオフセット付き時間値の読み込みと書き出し

時間値はスカラであるため、SAS では通常、プログラムの居場所のタイムゾーンに基づいて時間値を計算することはありません。(SAS 日時ではなく)SAS 時間が計算され、B8601LZw. 出力形式か E8601LZw. 出力形式のどちらかでフォーマットされた場合、このルールに対する 1 つの例外が発生します。これら 2 つの出力形式では、ホストコードのクエリが行われ、タイムゾーンオフセットが決定されます。すると、それに応じて現在のローカル時間とタイムゾーンオフセット(ユーザーのタイムゾーンに基づく)が表示されます。

```
data _null_;
x=time();
put x=e8601lz.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=13:49:02-04:00
```

タイムゾーンオフセットなしの日時値の読み込みと書き出し

次の DATA ステップでは、B8601DTw.入力形式および E8601DTw.入力形式を使用して日時値が読み込まれ、B8601DTw.出力形式および E8601DTw.出力形式を使用してその日時値が書き出されます。

```
data _null_;
input dtB :b8601dt15. dtE :e8601dt19.;
put dtB=b8601dt. dtE=e8601dt.;
datalines;
20120402T124022 2012-04-02T12:30:22
;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
dtB=20120402T124022 dtE=2012-04-02T12:30:22
```

この例では、Java 日時値の読み込みと書き出しが行われ、B8601DTw.d 出力形式を使用して値が書き出されます。

```
data a;
input dt1 b8601dj.;
put dt1=b8601dt.;
datalines;
20120402123245
;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
dt1=20120402T123245
```

タイムゾーンオフセット付き日時値の読み込みと書き出し

B8601DZw. 出力形式および E8601DZw. 出力形式では常に基準子午線の日時値が書き出されます。オフセットは常に+0000 または+00:00 です。

この例では、オフセット付き日時値が読み込まれ、基準子午線のオフセットを使用して日時値が書き出されます。

```
data _null_;
x=input('2012-08-01T12:34:56-04:00',e8601dz25.);
put x=e8601dz25.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=2012-08-01T16:34:56+00:00
```

B8601DXw. 出力形式および E8601DXw. 出力形式を使用して、タイムゾーンオフセット付き日時が特定のタイムゾーンの時間になるように調整します。

TIMEZONE=システムオプションを使用してタイムゾーンを設定します。入力値はそのタイムゾーンの時間に変換され、タイムゾーンオフセットを使用してフォーマットされます。この例では、E8601DZw.入力形式を使用してオフセット(-04:00)付き日時値が読み込まれ、チューリヒのタイムゾーン(+02:00)の日時値が書き出されます。

```
options timezone='europe/zurich';
data _null_;
x=input('2012-08-01T12:34:56-04:00',e8601dz25.);
put x=e8601dx25.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=2012-08-01T18:34:56+02:00
```

この例では、TIMEZONE=システムオプションで、タイムゾーン ID が America/Anchorage に設定されます。このタイムゾーン ID に対する日時値は、E8601DXw. 出力形式を使用して書き出されます。タイムゾーンオフセットは America/Anchorage タイムゾーンと UTC の差で、ここでは9時間になります。

```
options timezone='america/anchorage';
data _null_;
t='01Feb2013T12:34:56'dt;
put t=e8601dx.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
2013-02-01T03:34:56-09:00
```

ローカル時間に対するタイムゾーンオフセット付きの時間値と日時値の読み込みと書き出し

時間値はスカラであるため、SAS では通常、プログラムの居場所のタイムゾーンに基づいて時間値を計算することはありません。(SAS 日時ではなく)SAS 時間が計算され、B8601LZw. 出力形式か E8601LZw. 出力形式のどちらかでフォーマットされた場合、このルールに対する 1 つの例外が発生します。これら 2 つの出力形式では、ホストコードのクエリが行われ、オフセットが決定されます。すると、それに応じて現在のローカル時間とオフセット(ユーザーのタイムゾーンに基づく)が表示されます。

```
data _null_;
x=time();
put x=e8601lz.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
x=13:49:02-04:00
```

タイムゾーンオフセットを使用すると、ユーザーのローカル日時値を書き出せませす。TIMEZONE=システムオプションならびに B8601LXw. 出力形式もしくは E8601LXw. 出力形式を使用して、ユーザーのタイムゾーンを指定します。この例では、PST(太平洋標準時)というタイムゾーンを使用してユーザーに対する日時が書き出されます。

```
options timezone=pst;
data _null_;
x='01Feb2013T12:34:56'dt;
put x=e8601lx.;
run;
```

SAS ログからの出力は次のとおりです。

```
2013-02-01T12:34:56-07:00
```

ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の書き出し

期間、日時、間隔の出力形式

*期間*とは、2 つの時点の時間差です。各時点は P で始まり、その後に基本表記か拡張表記のどちらかで日付と時間が続きます。期間は負の値でも正の値でも指定可能で、次の形式で表せます。

- PyyyymmddThhmmss

- *Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss*
- *Pyyyy-mm-dd* は、年、月および日から成る期間
- *PnYnMnDTnHnMnS* は、年(Y)、月(M)、日(D)、時間(H)、分(M)、秒(S)の数
- *PnW* は週数を示す

y、*m* および *d* プレースホルダには、値が 0 の場合でも値を指定する必要があります。

n プレースホルダには、0 または正数を指定できます。*n* を含む構成要素は省略できます。たとえば、*P0Y0M3DT0H0M0S* は *P3D* として書き出せます。

PnW 表記を使用する場合、期間の構成要素は *W* のみにする必要があります。

間隔とは、イベントの開始と終了を表す 2 つの値から成る、特定の時点に固定された期間です。間隔は次の形式で表されます。

- *datetime/datetime*
- *datetime/duration*
- *duration/datetime*

SAS では、次の出力形式を使用して、文字データから期間値、日時値、間隔値を書き出します。

時間要素	ISO 8601 表記	例	出力形式
期間 - 基本表記	<i>PyyyyymmddThhmmssfff</i>	P20120915T155300	\$N8601BA
	<i>-PyyyyymmddThhmmssfff</i>	-P20120915T155300	\$N8601BA
期間 - 拡張表記	<i>Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	P2012-09-15T15:53:00	\$N8601EA
	<i>-Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	-P2012-09-15T15:53:00	\$N8601EA
期間 - 基本表記と拡張表記	<i>PnYnMnDTnHnMnS</i>	P2y10m14dT20h13m45 S	\$N8601B \$N8601E
	<i>-PnYnMnDTnHnMnS</i>	-P2y10m14dT20h13m45 S	\$N8601B \$N8601E
	<i>PnW (週)</i>	P6w	\$N8601B \$N8601E
間隔 - 基本表記	<i>yyyyymmddThhmmssfff/</i> <i>yyyyymmddThhmmssfff</i>	20120915T155300/2014 1113T000000	\$N8601BA
	<i>PnYnMnDTnHnMnS/</i> <i>yyyyymmddThhmmssfff</i>	P2y10M14dT20h13m 45s/20120915T155300	\$N8601B
	<i>yyyyymmddThhmmssfff/P</i> <i>nYnMnDTnHnMnS</i>	20120915T155300/ P2y10M14dT20h13m45 S	\$N8601BA

時間要素	ISO 8601 表記	例	出力形式	
間隔 - 拡張表記	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	2012-09-15T15:53:00/2014-11-13T00:00:00	\$N8601EA	
	<i>PnYnMnDTnHnMnS/yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	P2y10M14dT20h13m45s/2012-09-15T15:53:00	\$N8601E	
	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/PnYnMnDTnHnMnS</i>	2012-09-15T15:53:00/P2y10M14dT20h13m45s	\$N8601EA	
日時 - 基本表記	<i>yyyymmddThhmmss.fff+ -hhmm</i>	20120915T155300	\$N8601BA	
	(すべて空白)		\$N8601B \$N8601BA \$N8601E \$N8601EA	
	日時 - 拡張表記	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff+ -hhmm</i>	2012-09-15T15:53:00+04:30	\$N8601EA
		(すべて空白)		\$N8601B \$N8601BA \$N8601E \$N8601EA

部分的な欠損構成要素の書き出し

日付または時間のいずれかの構成要素が指定されていない場合、その値は部分値と呼ばれ、構成要素が欠損していると思なされます。値の欠損構成要素は、ハイフン(-)または x を使用して表現します。1つのハイフンは指定構成要素の値全体を表します。たとえば、1つのハイフンで4桁の年を置き換えられます。1つの x は指定構成要素の1文字を表します。欠損している2桁の月は xx として書き出されます。日付値が指定されているときに時間部分が省略されている場合は、T も省略する必要があります。

期間形式 *PnYnMnDTnHnMnS* の欠損構成要素は削除されます。ハイフンも x も含まれません。たとえば、P2mT4H では、年、日、分、秒が欠損し、削除されています。

欠損構成要素とゼロ値を混同しないでください。0の構成要素値が欠損構成要素値と同一ではないので、期間 P3D と P0000-00-03 は同一ではありません。この値のインスタンスを 0 から x(Pxxxx-xx-03)に変更すると、P3D に等しい値と思なされます。

タイムゾーンオフセットを含む値では、欠損構成要素は許可されません。したがって、省略構成要素のかわりに 00 を使用します。

次の出力形式は、省略構成要素をハイフンおよび x を使用して書き出します。

出力形式	日時形式	期間形式	例
\$N8601H	yyyy-mm-ddThh:mm:ss	PnYnMnDTnHnMnS	--09-15T15:-:53 P2Y2DT4H5M6S/--09-15 T15:-:00
\$N8601EH	yyyy-mm-ddThh:mm:ss	Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss	P000---02T02:55:20/201 2---15T-:-:45
\$N8601X	yyyy-mm-ddThh:mm:ss	PnYnMnDTnHnMnS	P2Y2DT4H5M6S/ xxxx-09-15T15:xx:00
\$N8601EX	yyyy-mm-ddThh:mm:ss	Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss	P0003- xx-02T02:55:20/2012- xx-15Txx:xx:45

欠損構成要素がある日時値を\$N8601B. 出力形式または\$N8601BA. 出力形式のいずれかでフォーマットする場合、欠損構成要素にハイフンを使用する拡張表記で書き出され、正確なデータが提供されます。たとえば、月が欠損構成要素の場合、値 2012-15 ではなく、値 2012---15 が書き出されます。

また、ハイフンを使用する拡張表記は、期間が\$N8601BA. 出力形式で書き出される場合にも基本表記の代わりに使用されます。上述と同じ日付の場合、P2012-15 ではなく P2012---15 が書き出されます。

切り捨て期間値、日時値、間隔値の書き出し

期間値、日時値および間隔値では、下位値が 0 または有効でない場合に切り捨てられます。出力形式\$N8601B.、\$N8601BA.、\$N8601E.、\$N8601EA. を使用した切り捨て値を書き出す場合、値は最後の非欠損構成要素まで書き出されます。

\$N8601H. 出力形式または\$N8601EH. 出力形式のいずれかを使用して切り捨て値を書き出す場合、下位構成要素はハイフンを使用して書き出されます。

\$N8601X. 出力形式または\$N8601EX. 出力形式を使用した切り捨て値を書き出す場合、下位構成要素は x を使用して書き出されます。

切り捨て値の例は次のとおりです。

- p00030202T1031
- 2012-09-15T15/2014-09-15T15:53
- -p0003-03-03T-:-:-
- P2y3m4dT5h6m
- 2012-09-xxTxx:xx:xx
- 2012

期間構成要素の標準化

期間構成要素の値が構成要素の最大標準値を超えると、構成要素はその期間構成要素が単一の構成要素である場合を除いて標準化されます。次の表は、標準化された期間構成要素の例を示したものです。

期間	標準化された期間(拡張表記)
p3y13m	p0004-01

期間	標準化された期間(拡張表記)
pt24h24m65s	P----01T-:25:05
p3y13mT24h61m	P0004-01-01T01:01
p0004-13	p0005-01
p0003-02-61T15:61:61	P0003-04-01T16:02:01
p13m	P13M

構成要素に最大値(分や秒の場合は 60)が含まれている場合、その値は標準化され、ハイフンと置き換えられます。たとえば **pT12:60:13** は **PT13:-:13** になります。

30 日で月が標準化されます。

日時値の日付と時間が構成要素の標準値を超える場合は、標準化されません。この場合、エラーが発生します。

期間値、日時値、間隔値の端数

終わりの構成要素には、1 つのピリオドまたはカンマとそれに続く 1 桁から 3 桁までの小数点以下の桁数からなる端数を含めることができます。次の例は、期間値、日付値、間隔値での端数の使用を表したものです。

- **201209.5**
- **P2012-09-15T10.33**
- **2012-09-15/P0003-03-03,333**

2 章

他のドキュメントで説明されている SAS 出力形式

その他の出力形式のドキュメント 31

その他の出力形式のドキュメント

その他の出力形式の詳細については、[“Dictionary of Formats for NLS” \(SAS Vija National Language Support: Reference Guide\)](#)を参照してください。

3 章

SAS 出力形式のディクショナリ

カテゴリ別の出力形式	37
ディクショナリ	60
\$出力形式	60
\$ASCII 出力形式	61
\$BASE64X 出力形式	62
\$BINARY 出力形式	63
\$CHAR 出力形式	64
\$CSTR 出力形式	65
\$EBCDIC 出力形式	66
\$HEX 出力形式	67
\$MSGCASE 出力形式	68
\$N8601B 出力形式	69
\$N8601BA 出力形式	70
\$N8601E 出力形式	71
\$N8601EA 出力形式	73
\$N8601EH 出力形式	74
\$N8601EX 出力形式	75
\$N8601H 出力形式	76
\$N8601X 出力形式	78
\$OCTAL 出力形式	79
\$QUOTEw.出力形式	80
\$REVERJ 出力形式	81
\$REVERS 出力形式	82
\$UPCASE 出力形式	83
\$VARYING 出力形式	84
B8601DA 出力形式	86
B8601DN 出力形式	87
B8601DT 出力形式	88
B8601DX 出力形式	89
B8601DZ 出力形式	91
B8601LX 出力形式	92
B8601LZ 出力形式	94
B8601TM 出力形式	95
B8601TX 出力形式	96
B8601TZ 出力形式	98
BEST 出力形式	99
BESTD 形式	101
BESTDOTX 出力形式	103
BINARY 出力形式	104
COMMA 形式	105
COMMAX 出力形式	106

D 出力形式	107
DATE 出力形式	109
DATEAMPM 出力形式	110
DATETIME 出力形式	112
DAY 出力形式	114
DDMMYY 出力形式	115
DDMMYYx 出力形式	116
DOLLAR 出力形式	118
DOLLARX 出力形式	119
DOWNAME 出力形式	121
DTDATE 出力形式	122
DTMONYY 出力形式	123
DTWKDATX 出力形式	124
DTYEAR 出力形式	125
DTYYQC 出力形式	126
E 出力形式	127
E8601DA 出力形式	128
E8601DN 出力形式	129
E8601DT 出力形式	130
E8601DX 出力形式	132
E8601DZ 出力形式	133
E8601LX 出力形式	135
E8601LZ 出力形式	136
E8601TM 出力形式	138
E8601TX 出力形式	139
E8601TZ 出力形式	140
EURO 出力形式	142
EUROX 出力形式	145
FLOAT 出力形式	147
FRACT 出力形式	148
HEX 出力形式	149
HHMM 出力形式	150
HOUR 出力形式	152
IB 出力形式	154
IBR 出力形式	155
IEEE 出力形式	157
JULDAY 出力形式	158
JULIAN 出力形式	159
MDYAMPM 出力形式	160
MMDDYY 出力形式	161
MMDDYYx 出力形式	163
MMSS 出力形式	165
MMYY 出力形式	167
MMYYx 出力形式	168
MONNAME 出力形式	170
MONTH 出力形式	171
MONYY 出力形式	172
NEGPAREN 出力形式	173
NENGO 出力形式	174
NLBEST 出力形式	176
NLDATE 出力形式	178
NLDATEL 出力形式	179
NLDATEM 出力形式	180
NLDATEMD 出力形式	180
NLDATEMDL 出力形式	181
NLDATEMDM 出力形式	182

NLDATEMDS 出力形式	183
NLDATEMN 出力形式	184
NLDATES 出力形式	185
NLDATEW 出力形式	186
NLDATEWN 出力形式	187
NLDATEYM 出力形式	188
NLDATEYML 出力形式	190
NLDATEYMM 出力形式	190
NLDATEYMS 出力形式	191
NLDATEYQ 出力形式	192
NLDATEYQL 出力形式	193
NLDATEYQM 出力形式	194
NLDATEYQS 出力形式	195
NLDATEYR 出力形式	196
NLDATEYW 出力形式	197
NLDATM 出力形式	198
NLDATMAP 出力形式	199
NLDATMDT 出力形式	200
NLDATML 出力形式	201
NLDATMM 出力形式	202
NLDATMMD 出力形式	202
NLDATMMDL 出力形式	203
NLDATMMDM 出力形式	204
NLDATMMDS 出力形式	205
NLDATMMN 出力形式	206
NLDATMS 出力形式	207
NLDATMTM 出力形式	208
NLDATMTZ 出力形式	209
NLDATMW 出力形式	210
NLDATMWN 出力形式	211
NLDATMWZ 出力形式	212
NLDATMYM 出力形式	213
NLDATMYML 出力形式	214
NLDATMYMM 出力形式	215
NLDATMYMS 出力形式	215
NLDATMYQ 出力形式	216
NLDATMYQL 出力形式	217
NLDATMYQM 出力形式	218
NLDATMYQS 出力形式	219
NLDATMYR 出力形式	220
NLDATMYW 出力形式	221
NLDATMTZ 出力形式	222
NLMNY 出力形式	223
NLMNYI 出力形式	224
NLNUM 出力形式	226
NLNUMI 出力形式	227
NLPCT 出力形式	228
NLPCTI 出力形式	230
NLPCTN 出力形式	231
NLPCTP 出力形式	232
NLPVALUE 出力形式	233
NLSTRMON 出力形式	234
NLSTRQTR 出力形式	236
NLSTRWK 出力形式	237
NLTIMAP 出力形式	238
NLTIME 出力形式	239

NUMX 出力形式	240
OCTAL 出力形式	241
PD 出力形式	242
PDJULG 出力形式	244
PDJULI 出力形式	245
PERCENT 出力形式	247
PERCENTN 出力形式	248
PIB 出力形式	249
PIBR 出力形式	251
PK 出力形式	252
PVALUE 出力形式	253
QTR 出力形式	255
QTRR 出力形式	255
RB 出力形式	256
ROMAN 出力形式	258
S370FF 出力形式	258
S370FIB 出力形式	259
S370FIBU 出力形式	261
S370FPD 出力形式	262
S370FPDU 出力形式	264
S370FPIB 出力形式	265
S370FRB 出力形式	266
S370FZD 出力形式	268
S370FZDL 出力形式	269
S370FZDS 出力形式	270
S370FZDT 出力形式	271
S370FZDU 出力形式	272
SSN 出力形式	274
TIME 出力形式	274
TIMEAMPM 出力形式	276
TOD 出力形式	278
VAXRB 出力形式	280
VMSZN 出力形式	281
w 出力形式	283
WEEKDATE 出力形式	284
WEEKDATX 出力形式	285
WEEKDAY 出力形式	287
WEEKU 出力形式	288
WEEKV 出力形式	290
WEEKW 出力形式	291
WORDDATE 出力形式	293
WORDDATX 出力形式	294
WORDF 出力形式	295
WORDS 出力形式	296
YEAR 出力形式	297
YEN 出力形式	298
YYMM 出力形式	299
YYMMDD 出力形式	301
YYMMDDx 出力形式	303
YYMMx 出力形式	305
YYMON 出力形式	306
YYQ 出力形式	307
YYQx 出力形式	309
YYQR 出力形式	310
YYQRx 出力形式	312
YYQZ Format	313

YYWEEKU 出力形式 314
 YYWEEKV 出力形式 316
 YYWEEKW 出力形式 317
 Z 出力形式 319
 ZD 出力形式 320

カテゴリ別の出力形式

このリストには、次の 4 つのカテゴリの出力形式があります。

カテゴリ	説明
CAS	CAS Server 上で実行されるステートメントです。
文字	文字変数から文字データ値を書き出します。
日付と時間	日付、時刻および日時を表す変数からデータ値を書き出します。
ISO 8601	日付値、時間値、日付値を ISO 8601 規格を使用して書き出します。
数値	数値変数から数値データ値を書き出します。

各国語サポートの出力形式については、[SAS Viya 各国語サポート: リファレンスガイド](#)を参照してください。

ユーザー定義の出力形式の保存は、永久 SAS データセット、特に他のユーザーと共有するデータセットの変数にその出力形式を関連付ける場合に大変重要になります。ユーザー定義の出力形式の作成および保存の詳細については、["FORMAT Procedure" \(SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide\)](#)を参照してください。

次の表に、従来の SAS および CAS でサポートされている SAS 出力形式の概要を示します。詳細については、各出力形式のディクショナリエントリを参照してください。

カテゴリ	言語要素	説明
CAS	\$出力形式 (p. 60)	標準文字データを書き出します。
	\$BASE64X 出力形式 (p. 62)	Base 64 エンコーディングを使用して、文字データを ASCII テキストに変換します。
	\$BINARY 出力形式 (p. 63)	文字データを 2 進表現に変換します。
	\$CHAR 出力形式 (p. 64)	標準文字データを書き出します。
	\$CSTR 出力形式 (p. 65)	文字引数の最後の空白ではない文字を探し、末尾の空白でない文字の後にヌルターミネータを持つ文字列のコピーを渡します。
	\$HEX 出力形式 (p. 67)	文字データを 16 進表現に変換します。

カテゴリ	言語要素	説明
	\$OCTAL 出力形式 (p. 79)	文字データを 8 進表現に変換します。
	\$QUOTEw.出力形式 (p. 80)	データ値を二重引用符で囲んで書き込みます。
	\$REVERJ 出力形式 (p. 81)	文字データの末尾から順に書き込みます。空白も保持されます。
	\$REVERS 出力形式 (p. 82)	文字データの末尾から順に、左揃えで書き込みます。
	\$UPCASE 出力形式 (p. 83)	文字データを大文字に変換します。
	BEST 出力形式 (p. 99)	SAS により最適な出力が選択されます。
	BESTD 形式 (p. 101)	同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。整数は小数なしで出力します。
	BESTDOTX 出力形式 (p. 103)	SAS が最適な表記を選び、小数点としてドット(.)を使うように指定します。
	BINARY 出力形式 (p. 104)	数値を 2 進表現に変換します。
	COMMA 形式 (p. 105)	3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	COMMA 形式 (p. 105)	3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	COMMAX 出力形式 (p. 106)	3 桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	D 出力形式 (p. 107)	値の桁数をできる限り最大にし、同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。
	DATE 出力形式 (p. 109)	SAS 日付値を ddmmmyy、ddmmmyyyy または dd-mmm-yyyy 形式で書き出します。
	DATEAMPM 出力形式 (p. 110)	SAS 日時値を、AM または PM を付けて ddmmmyy:hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	DATETIME 出力形式 (p. 112)	SAS 日時値を ddmmmyy:hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	DAY 出力形式 (p. 114)	SAS 日付値の日付部分を書き出します。
	DDMMYY 出力形式 (p. 115)	SAS 日付値を ddmm<yy>yy または dd/mm/<yy>yy 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	DDMMYYx 出力形式 (p. 116)	SAS 日付値を ddmm<yy>yy または dd-mm-yy<yy>形式で書き出します。出力形式名の x は、日、月、年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ	言語要素	説明
	DOLLAR 出力形式 (p. 118)	先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	DOLLARX 出力形式 (p. 119)	先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	DOWNAME 出力形式 (p. 121)	SAS 日付値から曜日名を書き出します。
	DTDATE 出力形式 (p. 122)	入力として日時値が必要です。SAS 日付値を ddmmmyy または ddmmmyyyy 形式で書き出します。
	DTMONYY 出力形式 (p. 123)	SAS 日時値を mmyyy または mmyyyy 形式で書き出します。
	DTWKDATX 出力形式 (p. 124)	SAS 日時値を day-of-week, dd month-name yy (または yyyy)形式で書き出します。
	DTYEAR 出力形式 (p. 125)	SAS 日時値を yy または yyyy 形式で書き出します。
	DTYYQC 出力形式 (p. 126)	SAS 日時値から、年と四半期をコロン(:)で区切って書き出します。
	E 出力形式 (p. 127)	数値を指数表記で書き出します。
	EURO 出力形式 (p. 142)	先頭にユーロ(E)記号を付け、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	EUROX 出力形式 (p. 145)	先頭にユーロ(E)記号を付け、3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	FLOAT 出力形式 (p. 147)	数値に 10 の d 乗を掛けた、単精度のネイティブ浮動小数点値を書き出します。
	FRACT 出力形式 (p. 148)	数値を分数に変換します。
	HEX 出力形式 (p. 149)	バイナリ実数(浮動小数点)値を 16 進表現に変換します。
	HHMM 出力形式 (p. 150)	SAS 時間値を時間および分として hh:mm 形式で書き出します。
	HOUR 出力形式 (p. 152)	SAS 時間値を時間および時間の小数として書き出します。
	IEEE 出力形式 (p. 157)	数値を 10 の d 乗し、IEEE 浮動小数点値を生成します。
	JULIAN 出力形式 (p. 159)	SAS 日付値を yyddd または yyyyddd 形式のユリウス日付として書き出します。
	MDYAMPM 出力形式 (p. 160)	SAS 日時値を mm/dd/yy<yy> hh:mm AM PM 形式で書き出します。年は 2桁または 4桁で表示されます。

カテゴリ	言語要素	説明
	MMDDYY 出力形式 (p. 161)	SAS 日付値を mmdd<yy>yy または mm/dd/<yy>yy 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	MMDDYYx 出力形式 (p. 163)	SAS 日付値を mmdd<yy>yy または mm-dd-<yy>yy 形式で書き出します。出力形式名の x は、月、日、年を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	MMSS 出力形式 (p. 165)	SAS 時間値を午前 0 時から経過した分数および秒数として書き出します。
	MMYY 出力形式 (p. 167)	SAS 日付値を mmM<yy>yy 形式で書き出します。M は区切り文字を表し、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	MMYYx 出力形式 (p. 168)	SAS 日付値を mm<yy>yy または mm-<yy>yy 形式で書き出します。出力形式名の x は、月と年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	MONNAME 出力形式 (p. 170)	SAS 日付値を月の名前として書き出します。
	MONTH 出力形式 (p. 171)	SAS 日付値を月として書き出します。
	MONYY 出力形式 (p. 172)	SAS 日付値を月および年として mmmyy または mmmyyyy 形式で書き出します。
	NEGPAREN 出力形式 (p. 173)	負の数値をカッコで囲んで書き出します。
	NENGO 出力形式 (p. 174)	SAS 日付値を日本の日付として e.yymmdd 形式で書き出します。
	NLBEST 出力形式 (p. 176)	ロケールに基づいて最適な数値表記を書き出します。
	NLDATE 出力形式 (p. 178)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付を書き出します。
	NLDATEL 出力形式 (p. 179)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEM 出力形式 (p. 180)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEMD 出力形式 (p. 180)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。
	NLDATEMDL 出力形式 (p. 181)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLDATEMDM 出力形式 (p. 182)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。
	NLDATEMDS 出力形式 (p. 183)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。
	NLDATEMN 出力形式 (p. 184)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から月の名前を書き出します。
	NLDATES 出力形式 (p. 185)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEW 出力形式 (p. 186)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付と曜日を書き出します。
	NLDATEWN 出力形式 (p. 187)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から曜日を書き出します。
	NLDATEYM 出力形式 (p. 188)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。
	NLDATEYML 出力形式 (p. 190)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATEYMM 出力形式 (p. 190)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と年を日付値として書き出します。
	NLDATEYMS 出力形式 (p. 191)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATEYQ 出力形式 (p. 192)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。
	NLDATEYQL 出力形式 (p. 193)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。
	NLDATEYQM 出力形式 (p. 194)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。
	NLDATEYQS 出力形式 (p. 195)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して年と四半期値(1-4)を書き出します。
	NLDATEYR 出力形式 (p. 196)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年を書き出します。
	NLDATEYW 出力形式 (p. 197)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と週を書き出します。
	NLDATM 出力形式 (p. 198)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から日時を書き出します。
	NLDATMAP 出力形式 (p. 199)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から午前または午後付きの日時を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLDATMDT 出力形式 (p. 200)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前、月の日および年を書き出します。
	NLDATML 出力形式 (p. 201)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時文字列に変換し、月、日、年、時間を書き出します。
	NLDATMM 出力形式 (p. 202)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月名と時間の短縮形を使用して月、日、年、時間を書き出します。
	NLDATMMD 出力形式 (p. 202)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。
	NLDATMMDL 出力形式 (p. 203)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、長い形式で月と日を書き出します。
	NLDATMMDM 出力形式 (p. 204)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と日を書き出します。
	NLDATMMDS 出力形式 (p. 205)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と日を書き出します。
	NLDATMMN 出力形式 (p. 206)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前を書き出します。
	NLDATMS 出力形式 (p. 207)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、MM/dd/yyyy の形式で書き出します。
	NLDATMTM 出力形式 (p. 208)	SAS 日時値の時間部分を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。
	NLDATMTZ 出力形式 (p. 209)	ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。
	NLDATMW 出力形式 (p. 210)	SAS 日時値を、曜日および日時形式の、ロケール依存の日時文字列に変換します。
	NLDATMWN 出力形式 (p. 211)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から曜日を書き出します。
	NLDATMWZ 出力形式 (p. 212)	指定されたロケールの SAS 日時値を、曜日、日時、およびタイムゾーン値に変換します。
	NLDATMYM 出力形式 (p. 213)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。
	NLDATMYML 出力形式 (p. 214)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATMYMM 出力形式 (p. 215)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATMYMS 出力形式 (p. 215)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と年を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLDATMYQ 出力形式 (p. 216)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。
	NLDATMYQL 出力形式 (p. 217)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)値、年の順に書き出します。
	NLDATMYQM 出力形式 (p. 218)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)、年の順に書き出します。
	NLDATMYQS 出力形式 (p. 219)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、年と四半期(1-4)を数字と区切り文字を使用して書き出します。
	NLDATMYR 出力形式 (p. 220)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年を書き出します。
	NLDATMYW 出力形式 (p. 221)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と週の名前を書き出します。
	NLDATMTZ 出力形式 (p. 222)	ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。
	NLMNY 出力形式 (p. 223)	指定されたロケールで、ローカル通貨を使用してローカル表示形式で通貨データを書き出します。
	NLMNYI 出力形式 (p. 224)	指定されたロケールで、通貨データを国際表示形式で書き出します。
	NLNUM 出力形式 (p. 226)	指定されたロケールで、数値をローカル表示形式で書き出します。
	NLNUMI 出力形式 (p. 227)	指定されたロケールで、数値を国際表示形式で書き出します。
	NLPCT 出力形式 (p. 228)	指定されたロケールで、百分率のデータをローカル表示形式で書き出します。
	NLPCTI 出力形式 (p. 230)	指定されたロケールで、百分率のデータを国際表示形式で書き出します。
	NLPCTN 出力形式 (p. 231)	百分率を書き出します。負の値にはマイナス記号を使用します。
	NLPCTP 出力形式 (p. 232)	ロケール固有の数値を百分率として書き出します。
	NLPVALUE 出力形式 (p. 233)	指定されたロケールで、p 値をローカル表示形式で書き出します。
	NLSTRMON 出力形式 (p. 234)	指定されたロケールの月名を書き出します。
	NLSTRQTR 出力形式 (p. 236)	指定されたロケールの四半期の形式で数値を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLSTRWK 出力形式 (p. 237)	指定されたロケールの曜日の形式で数値を書き出します。
	NLTIMAP 出力形式 (p. 238)	SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から午前または午後付きの時間値を書き出します。NLTIMAP は、SAS 日時値も変換します。
	NLTIME 出力形式 (p. 239)	SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。NLTIME は、SAS 日時値も変換します。
	OCTAL 出力形式 (p. 241)	数値を 8 進表現に変換します。
	PERCENT 出力形式 (p. 247)	数値を百分率として書き出します。
	PERCENTN 出力形式 (p. 248)	百分率を書き出します。負の値にはマイナス符号を使用します。
	QTR 出力形式 (p. 255)	SAS 日付値を年の四半期として書き出します。
	QTRR 出力形式 (p. 255)	SAS 日付値を年の四半期としてローマ数字で書き出します。
	ROMAN 出力形式 (p. 258)	数値をローマ数字で書き出します。
	TIME 出力形式 (p. 274)	SAS 時間値を hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	TIMEAMPM 出力形式 (p. 276)	SAS 時間値と SAS 日時値を AM または PM を使用して hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	TOD 出力形式 (p. 278)	SAS 時間値と、SAS 日時値の時間部分を hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	VAXRB 出力形式 (p. 280)	VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)を書き出します。
	VAXRB 出力形式 (p. 280)	VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)を書き出します。
	w 出力形式 (p. 283)	標準数値でデータを書き出します(1 バイト 1 桁)。
	WEEKDATX 出力形式 (p. 285)	SAS 日付値を day-of-week, dd month-name yy (または yyyy)形式で書き出します。
	WEEKDAY 出力形式 (p. 287)	SAS 日付値から曜日の値を書き出します。
	YEAR 出力形式 (p. 297)	SAS 日付値から年部分を書き出します。
	YEN 出力形式 (p. 298)	円記号、桁区切り、小数点付きの数値を出力します。
	YYMM 出力形式 (p. 299)	SAS 日付値を <yy>yyMmm 形式で書き出します。M は月号が M の後に続くことを示す区切り文字で、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	YYMMDD 出力形式 (p. 301)	SAS 日付値を yymmdd または <yy>yy-mm-dd 形式で書き出します。ハイフンが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ	言語要素	説明
	YYMMDDx 出力形式 (p. 303)	SAS 日付値を yymmdd または <yy>yy-mm-dd 形式で書き出します。出力形式名の x は、年、月、日を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	YYMMx 出力形式 (p. 305)	SAS 日付値を <yy>yymm または <yy>yy-mm 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と月を区切る特殊文字を表します。この特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁で表示されます。
	YYMON 出力形式 (p. 306)	SAS 日付値を yymmm または yyymmm 形式で書き出します。
	YYQ 出力形式 (p. 307)	SAS 日付値を <yy>yyQq 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また、q は四半期を表します。
	YYQx 出力形式 (p. 309)	SAS 日付値を <yy>yyq または <yy>yy-q 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と四半期または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	YYQR 出力形式 (p. 310)	SAS 日付値を <yy>yyQqr 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また qr はローマ数字表現の四半期を表します。
	YYQRx 出力形式 (p. 312)	SAS 日付値を <yy>yyqr または <yy>yy-qr 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と四半期、または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出され、また qr は、ローマ数字表現の四半期です。
	YYQZ Format (p. 313)	Writes SAS date values in the form <yy><qq>, where the year appears as 2 or 4 digits, and qq is the quarter of the year.
	YYWEEKU 出力形式 (p. 314)	曜日情報を除外し、U アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	YYWEEKV 出力形式 (p. 316)	曜日情報を除外し、V アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	YYWEEKW 出力形式 (p. 317)	曜日情報を除外し、W アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	Z 出力形式 (p. 319)	先頭に 0 を含む標準数値データを書き出します。
Date and Time	YYQZ Format (p. 313)	Writes SAS date values in the form <yy><qq>, where the year appears as 2 or 4 digits, and qq is the quarter of the year.

カテゴリ	言語要素	説明
ISO 8601	\$N8601B 出力形式 (p. 69)	基本表記 PnYnMnDTnHnMnS と yyyymmddThhmmss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601BA 出力形式 (p. 70)	基本表記 PyyyymmddThhmmss と yyyymmddThhmmss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601E 出力形式 (p. 71)	拡張表記 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EA 出力形式 (p. 73)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EH 出力形式 (p. 74)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、省略した構成要素にハイフン(-) を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EX 出力形式 (p. 75)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、省略した構成要素の各数字に x を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601H 出力形式 (p. 76)	期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素にハイフン(-)を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を書き出します。
	\$N8601X 出力形式 (p. 78)	期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素の数字に x を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を書き出します。
	B8601DA 出力形式 (p. 86)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyymmdd を使用して日付値を書き出します。
	B8601DN 出力形式 (p. 87)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyymmdd を使用して、日時値から日付を書き出します。
	B8601DT 出力形式 (p. 88)	日時値を ISO 8601 規格の基本表記 yyyymmddThhmmss<ffffff>を使用して日時値を書き出します。
	B8601DX 出力形式 (p. 89)	協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 yyyymmddThhmmss+hhmm を使用して書き出されます。
	B8601DZ 出力形式 (p. 91)	ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 yyyymmddThhmmss+0000 を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	B8601LX 出力形式 (p. 92)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。
	B8601LZ 出力形式 (p. 94)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。
	B8601TM 出力形式 (p. 95)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>hhmmss<ffff></code> を使用して、時間値を書き出します。
	B8601TX 出力形式 (p. 96)	協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ISO 8601 規格の基本時間表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間を書き出します。
	B8601TZ 出力形式 (p. 98)	ISO 8601 規格の基本時間表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を書き出します。
	E8601DA 出力形式 (p. 128)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-dd</code> を使用して日付値を書き出します。
	E8601DN 出力形式 (p. 129)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-dd</code> を使用して、SAS 日付値から日付を書き出します。
	E8601DT 出力形式 (p. 130)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.ffffff</code> を使用して日時値を書き出します。
	E8601DX 出力形式 (p. 132)	協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+hh:mm</code> を使用して書き出されます。
	E8601DZ 出力形式 (p. 133)	ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+00:00</code> を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。
	E8601LX 出力形式 (p. 135)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm</code> を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。
	E8601LZ 出力形式 (p. 136)	ISO 8601 規格の拡張時間表記 <code>hh:mm:ss+ -hh:mm</code> を使用して、ローカル SAS セッションに対応した協定世界時(UTC)のオフセットを追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。
	E8601TM 出力形式 (p. 138)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>hh:mm:ss.ffffff</code> を使用して時間値を書き出します。
	E8601TX 出力形式 (p. 139)	協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ローカル時間は、ISO 8601 規格の日時とタ

カテゴリ	言語要素	説明
		タイムゾーンの拡張表記 hh:mm:ss+ -hh:mm を使用して読み込まれます。
	E8601TZ 出力形式 (p. 140)	時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss.<fff>+ -hh:mm を使用して書き出します。
数値	BEST 出力形式 (p. 99)	SAS により最適な出力が選択されます。
	BESTD 形式 (p. 101)	同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。整数は小数なしで出力します。
	BESTDOTX 出力形式 (p. 103)	SAS が最適な表記を選び、小数点としてドット(.)を使うように指定します。
	BINARY 出力形式 (p. 104)	数値を 2 進表現に変換します。
	COMMA 形式 (p. 105)	3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	COMMAX 出力形式 (p. 106)	3 桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	D 出力形式 (p. 107)	値の桁数をできる限り最大にし、同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。
	DOLLAR 出力形式 (p. 118)	先頭にドル(\$)記号を付け、3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	DOLLARX 出力形式 (p. 119)	先頭にドル(\$)記号を付け、3 桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	E 出力形式 (p. 127)	数値を指数表記で書き出します。
	EURO 出力形式 (p. 142)	先頭にユーロ(E)記号を付け、3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。
	EUROX 出力形式 (p. 145)	先頭にユーロ(E)記号を付け、3 桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。
	FLOAT 出力形式 (p. 147)	数値に 10 の d 乗を掛けた、単精度のネイティブ浮動小数点値を書き出します。
	FRACT 出力形式 (p. 148)	数値を分数に変換します。
	HEX 出力形式 (p. 149)	バイナリ実数(浮動小数点)値を 16 進表現に変換します。
	IB 出力形式 (p. 154)	負の値を含む、ネイティブのバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	IBR 出力形式 (p. 155)	Intel および DEC 形式のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	IEEE 出力形式 (p. 157)	数値を 10 の d 乗し、IEEE 浮動小数点値を生成します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NEGPAREN 出力形式 (p. 173)	負の数値をカッコで囲んで書き出します。
	NLBEST 出力形式 (p. 176)	ロケールに基づいて最適な数値表記を書き出します。
	NLMNY 出力形式 (p. 223)	指定されたロケールで、ローカル通貨を使用してローカル表示形式で通貨データを書き出します。
	NLMNYI 出力形式 (p. 224)	指定されたロケールで、通貨データを国際表示形式で書き出します。
	NLNUM 出力形式 (p. 226)	指定されたロケールで、数値をローカル表示形式で書き出します。
	NLNUMI 出力形式 (p. 227)	指定されたロケールで、数値を国際表示形式で書き出します。
	NLPCT 出力形式 (p. 228)	指定されたロケールで、百分率のデータをローカル表示形式で書き出します。
	NLPCTI 出力形式 (p. 230)	指定されたロケールで、百分率のデータを国際表示形式で書き出します。
	NLPCTN 出力形式 (p. 231)	百分率を書き出します。負の値にはマイナス記号を使用します。
	NLPCTP 出力形式 (p. 232)	ロケール固有の数値を百分率として書き出します。
	NLPVALUE 出力形式 (p. 233)	指定されたロケールで、p 値をローカル表示形式で書き出します。
	NLSTRMON 出力形式 (p. 234)	指定されたロケールの月名を書き出します。
	NLSTRQTR 出力形式 (p. 236)	指定されたロケールの四半期の形式で数値を書き出します。
	NLSTRWK 出力形式 (p. 237)	指定されたロケールの曜日の形式で数値を書き出します。
	NUMX 出力形式 (p. 240)	小数点をカンマにして数値を書き出します。
	OCTAL 出力形式 (p. 241)	数値を 8 進表現に変換します。
	PD 出力形式 (p. 242)	パック 10 進形式のデータを書き出します。
	PERCENT 出力形式 (p. 247)	数値を百分率として書き出します。
	PERCENTN 出力形式 (p. 248)	百分率を書き出します。負の値にはマイナス符号を使用します。
	PIB 出力形式 (p. 249)	正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PIBR 出力形式 (p. 251)	Intel 形式と DEC 形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	PK 出力形式 (p. 252)	符号なしパック 10 進形式のデータを書き出します。
	PVALUE 出力形式 (p. 253)	p 値を書き出します。
	RB 出力形式 (p. 256)	バイナリ実数データ(浮動小数点)をバイナリ実数形式で書き出します。
	ROMAN 出力形式 (p. 258)	数値をローマ数字で書き出します。
	S370FF 出力形式 (p. 258)	IBM メインフレーム形式の標準数値データを書き出します。
	S370FIB 出力形式 (p. 259)	IBM メインフレーム形式の負の値を含むバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	S370FIBU 出力形式 (p. 261)	IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	S370FPD 出力形式 (p. 262)	IBM メインフレーム形式のパック 10 進データを書き出します。
	S370FPDU 出力形式 (p. 264)	IBM メインフレーム形式の符号なしパック 10 進データを書き出します。
	S370FPIB 出力形式 (p. 265)	IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。
	S370FRB 出力形式 (p. 266)	IBM メインフレーム形式のバイナリ実数(浮動小数点)を書き出します。
	S370FZD 出力形式 (p. 268)	IBM メインフレーム形式のゾーン 10 進データを書き出します。
	S370FZDL 出力形式 (p. 269)	IBM メインフレーム形式の前符号付きゾーン 10 進データを書き出します。
	S370FZDS 出力形式 (p. 270)	IBM メインフレーム形式の分離した前符号付きゾーン 10 進データを書き出します。
	S370FZDT 出力形式 (p. 271)	IBM メインフレーム形式の分離した後符号付きゾーン 10 進データを書き出します。
	S370FZDU 出力形式 (p. 272)	IBM メインフレーム形式の符号なしゾーン 10 進データを書き出します。
	SSN 出力形式 (p. 274)	アメリカの社会保障番号形式で書き出します。
	VMSZN 出力形式 (p. 281)	VMS および MicroFocus COBOL ゾーン数値データを生成します。
	w 出力形式 (p. 283)	標準数値でデータを書き出します(1 バイト 1 桁)。

カテゴリ	言語要素	説明
	WORDF 出力形式 (p. 295)	数値を英語表現で書き出します。分数は数値で表示します。
	WORDS 出力形式 (p. 296)	数値を英語表現で書き出します。
	YEN 出力形式 (p. 298)	円記号、桁区切り、小数点付きの数値を出力します。
	YYMON 出力形式 (p. 306)	SAS 日付値を yymmm または yyyyymm 形式で書き出します。
	YYQRx 出力形式 (p. 312)	SAS 日付値を <yy>yyqr または <yy>yy-qr 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と四半期、または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます、また qr は、ローマ数字表現の四半期です。
	Z 出力形式 (p. 319)	先頭に 0 を含む標準数値データを書き出します。
	ZD 出力形式 (p. 320)	ゾーン 10 進形式の数値データを書き出します。
日付と時間	\$N8601B 出力形式 (p. 69)	基本表記 PnYnMnDTnHnMnS と yyyyymmddThhmmss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601BA 出力形式 (p. 70)	基本表記 PyyyyymmddThhmmss と yyyyymmddThhmmss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601E 出力形式 (p. 71)	拡張表記 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EA 出力形式 (p. 73)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EH 出力形式 (p. 74)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、省略した構成要素にハイフン(-) を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601EX 出力形式 (p. 75)	拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、省略した構成要素の各数字に x を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。
	\$N8601H 出力形式 (p. 76)	期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素にハイフン(-) を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を書き出します。
	\$N8601X 出力形式 (p. 78)	期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素の数字に x を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	B8601DA 出力形式 (p. 86)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmdd</code> を使用して日付値を書き出します。
	B8601DN 出力形式 (p. 87)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmdd</code> を使用して、日時値から日付を書き出します。
	B8601DT 出力形式 (p. 88)	日時値を ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmddThhmmss<ffffff></code> を使用して日時値を書き出します。
	B8601DX 出力形式 (p. 89)	協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 <code>yyyymmddThhmmss+hhmm</code> を使用して書き出されます。
	B8601DZ 出力形式 (p. 91)	ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 <code>yyyymmddThhmmss+0000</code> を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。
	B8601LX 出力形式 (p. 92)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。
	B8601LZ 出力形式 (p. 94)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。
	B8601TM 出力形式 (p. 95)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>hhmmss<ffff></code> を使用して、時間値を書き出します。
	B8601TX 出力形式 (p. 96)	協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ISO 8601 規格の基本時間表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、ローカル時間を書き出します。
	B8601TZ 出力形式 (p. 98)	ISO 8601 規格の基本時間表記 <code>hhmmss+ -hhmm</code> を使用して、時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を書き出します。
	DATE 出力形式 (p. 109)	SAS 日付値を <code>ddmmyy</code> 、 <code>ddmmyyyy</code> または <code>dd-mmm-yyyy</code> 形式で書き出します。
	DATEAMPM 出力形式 (p. 110)	SAS 日時値を、AM または PM を付けて <code>ddmmyy:hh:mm:ss.ss</code> 形式で書き出します。
	DATETIME 出力形式 (p. 112)	SAS 日時値を <code>ddmmyy:hh:mm:ss.ss</code> 形式で書き出します。
	DAY 出力形式 (p. 114)	SAS 日付値の日付部分を書き出します。
	DDMMYY 出力形式 (p. 115)	SAS 日付値を <code>ddmm<yy>yy</code> または <code>dd/mm/<yy>yy</code> 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ	言語要素	説明
	DDMMYYx 出力形式 (p. 116)	SAS 日付値を ddmm<yy>yy または dd-mm-yy<yy>形式で書き出します。出力形式名の x は、日、月、年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	DOWNAME 出力形式 (p. 121)	SAS 日付値から曜日名を書き出します。
	DTDATE 出力形式 (p. 122)	入力として日時値が必要です。SAS 日付値を ddmmmyy または ddmmmyyyy 形式で書き出します。
	DTMONYY 出力形式 (p. 123)	SAS 日時値を mmmyy または mmmyyyy 形式で書き出します。
	DTWKDATX 出力形式 (p. 124)	SAS 日時値を day-of-week, dd month-name yy (または yyyy)形式で書き出します。
	DTYEAR 出力形式 (p. 125)	SAS 日時値を yy または yyyy 形式で書き出します。
	DTYYQC 出力形式 (p. 126)	SAS 日時値から、年と四半期をコロン(:)で区切って書き出します。
	E8601DA 出力形式 (p. 128)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して日付値を書き出します。
	E8601DN 出力形式 (p. 129)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して、SAS 日時値から日付を書き出します。
	E8601DT 出力形式 (p. 130)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss.ffffff を使用して日時値を書き出します。
	E8601DX 出力形式 (p. 132)	協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+hh:mm を使用して書き出されます。
	E8601DZ 出力形式 (p. 133)	ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+00:00 を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。
	E8601LX 出力形式 (p. 135)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。
	E8601LZ 出力形式 (p. 136)	ISO 8601 規格の拡張時間表記 hh:mm:ss+ -hh:mm を使用して、ローカル SAS セッションに対応した協定世界時(UTC)のオフセットを追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。
	E8601TM 出力形式 (p. 138)	ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss.ffffff を使用して時間値を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	E8601TX 出力形式 (p. 139)	協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ローカルの時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 hh:mm:ss+ -hh:mm を使用して読み込まれます。
	E8601TZ 出力形式 (p. 140)	時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss.<fff>+ -hh:mm を使用して書き出します。
	HHMM 出力形式 (p. 150)	SAS 時間値を時間および分として hh:mm 形式で書き出します。
	HOUR 出力形式 (p. 152)	SAS 時間値を時間および時間の小数として書き出します。
	JULDAY 出力形式 (p. 158)	SAS 日付値からユリウス暦の日付部分を書き出します。
	JULIAN 出力形式 (p. 159)	SAS 日付値を yyddd または yyyyddd 形式のユリウス日付として書き出します。
	MDYAMPM 出力形式 (p. 160)	SAS 日付値を mm/dd/yy<yy> hh:mm AM PM 形式で書き出します。年は 2 桁または 4 桁で表示されます。
	MMDDYY 出力形式 (p. 161)	SAS 日付値を mmdd<yy>yy または mm/dd/<yy>yy 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	MMDDYYx 出力形式 (p. 163)	SAS 日付値を mmdd<yy>yy または mm-dd/<yy>yy 形式で書き出します。出力形式名の x は、月、日、年を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	MMSS 出力形式 (p. 165)	SAS 時間値を午前 0 時から経過した分数および秒数として書き出します。
	MMYY 出力形式 (p. 167)	SAS 日付値を mmM<yy>yy 形式で書き出します。M は区切り文字を表し、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されません。
	MMYYx 出力形式 (p. 168)	SAS 日付値を mm<yy>yy または mm-<yy>yy 形式で書き出します。出力形式名の x は、月と年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	MONNAME 出力形式 (p. 170)	SAS 日付値を月の名前として書き出します。
	MONTH 出力形式 (p. 171)	SAS 日付値を月として書き出します。
	MONYY 出力形式 (p. 172)	SAS 日付値を月および年として mmmyy または mmmyyyy 形式で書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NENGO 出力形式 (p. 174)	SAS 日付値を日本の日付として e.yymmdd 形式で書き出します。
	NLDATE 出力形式 (p. 178)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付を書き出します。
	NLDATEL 出力形式 (p. 179)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEM 出力形式 (p. 180)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEMD 出力形式 (p. 180)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。
	NLDATEMDL 出力形式 (p. 181)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。
	NLDATEMDM 出力形式 (p. 182)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。
	NLDATEMDS 出力形式 (p. 183)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。
	NLDATEMN 出力形式 (p. 184)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から月の名前を書き出します。
	NLDATES 出力形式 (p. 185)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。
	NLDATEW 出力形式 (p. 186)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付と曜日を書き出します。
	NLDATEWN 出力形式 (p. 187)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から曜日を書き出します。
	NLDATEYM 出力形式 (p. 188)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。
	NLDATEYML 出力形式 (p. 190)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATEYMM 出力形式 (p. 190)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と年を日付値として書き出します。
	NLDATEYMS 出力形式 (p. 191)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATEYQ 出力形式 (p. 192)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。
	NLDATEYQL 出力形式 (p. 193)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLDATEYQM 出力形式 (p. 194)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。
	NLDATEYQS 出力形式 (p. 195)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して年と四半期値(1-4)を書き出します。
	NLDATEYR 出力形式 (p. 196)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年を書き出します。
	NLDATEYW 出力形式 (p. 197)	SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と週を書き出します。
	NLDATM 出力形式 (p. 198)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から日時を書き出します。
	NLDATMAP 出力形式 (p. 199)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から午前または午後付きの日時を書き出します。
	NLDATMDT 出力形式 (p. 200)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前、月の日および年を書き出します。
	NLDATML 出力形式 (p. 201)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時文字列に変換し、月、日、年、時間を書き出します。
	NLDATMM 出力形式 (p. 202)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月名と時間の短縮形を使用して月、日、年、時間を書き出します。
	NLDATMMD 出力形式 (p. 202)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。
	NLDATMMDL 出力形式 (p. 203)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、長い形式で月と日を書き出します。
	NLDATMMDM 出力形式 (p. 204)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と日を書き出します。
	NLDATMMDS 出力形式 (p. 205)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と日を書き出します。
	NLDATMMN 出力形式 (p. 206)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前を書き出します。
	NLDATMS 出力形式 (p. 207)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、MM/dd/yyyy の形式で書き出します。
	NLDATMTM 出力形式 (p. 208)	SAS 日時値の時間部分を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。
	NLDATMTZ 出力形式 (p. 209)	ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。

カテゴリ	言語要素	説明
	NLDATMW 出力形式 (p. 210)	SAS 日時値を、曜日および日時形式の、ロケール依存の日時文字列に変換します。
	NLDATMWN 出力形式 (p. 211)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から曜日を書き出します。
	NLDATMWZ 出力形式 (p. 212)	指定されたロケールの SAS 日時値を、曜日、日時、およびタイムゾーン値に変換します。
	NLDATMYM 出力形式 (p. 213)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。
	NLDATMYML 出力形式 (p. 214)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATMYMM 出力形式 (p. 215)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。
	NLDATMYMS 出力形式 (p. 215)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と年を書き出します。
	NLDATMYQ 出力形式 (p. 216)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。
	NLDATMYQL 出力形式 (p. 217)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)値、年の順に書き出します。
	NLDATMYQM 出力形式 (p. 218)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)、年の順に書き出します。
	NLDATMYQS 出力形式 (p. 219)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、年と四半期(1-4)を数字と区切り文字を使用して書き出します。
	NLDATMYR 出力形式 (p. 220)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年を書き出します。
	NLDATMYW 出力形式 (p. 221)	SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と週の名前を書き出します。
	NLDATMTZ 出力形式 (p. 222)	ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。
	NLTIMAP 出力形式 (p. 238)	SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から午前または午後付きの時間値を書き出します。NLTIMAP は、SAS 日時値も変換します。
	NLTIME 出力形式 (p. 239)	SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。NLTIME は、SAS 日時値も変換します。
	PDJULG 出力形式 (p. 244)	パックユリウス日付値を、IBM で使用する 16 進の yyyydddF 形式で書き出します。

カテゴリ	言語要素	説明
	PDJULI 出力形式 (p. 245)	パック表現のユリウス日付値を、IBM で使用する 16 進の ccyyddF 形式で書き出します。
	QTR 出力形式 (p. 255)	SAS 日付値を年の四半期として書き出します。
	QTRR 出力形式 (p. 255)	SAS 日付値を年の四半期としてローマ数字で書き出します。
	TIME 出力形式 (p. 274)	SAS 時間値を hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	TIMEAMPM 出力形式 (p. 276)	SAS 時間値と SAS 日時値を AM または PM を使用して hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	TOD 出力形式 (p. 278)	SAS 時間値と、SAS 日時値の時間部分を hh:mm:ss.ss 形式で書き出します。
	WEEKDATE 出力形式 (p. 284)	SAS 日付値を day-of-week, month-name dd, yy (または yyyy)形式で書き出します。
	WEEKDATX 出力形式 (p. 285)	SAS 日付値を day-of-week, dd month-name yy (または yyyy)形式で書き出します。
	WEEKDAY 出力形式 (p. 287)	SAS 日付値から曜日の値を書き出します。
	WEEKU 出力形式 (p. 288)	U アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	WEEKV 出力形式 (p. 290)	V アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	WEEKW 出力形式 (p. 291)	W アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	WORDDATE 出力形式 (p. 293)	SAS 日付値を month-name dd, yyyy 形式で書き出します。
	WORDDATX 出力形式 (p. 294)	SAS 日付値を dd month-name yyyy 形式で書き出します。
	YEAR 出力形式 (p. 297)	SAS 日付値から年部分を書き出します。
	YMMM 出力形式 (p. 299)	SAS 日付値を <yy>yyMmm 形式で書き出します。M は月番号が M の後に続くことを示す区切り文字で、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	YMMDD 出力形式 (p. 301)	SAS 日付値を yymmdd または <yy>yy-mm-dd 形式で書き出します。ハイフンが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	YMMDDx 出力形式 (p. 303)	SAS 日付値を yymmdd または <yy>yy-mm-dd 形式で書き出します。出力形式名の x は、年、月、日を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ	言語要素	説明
	YYMMx 出力形式 (p. 305)	SAS 日付値を <yy>yy x または <yy>yy-mm 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と月を区切る特殊文字を表します。この特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁で表示されます。
	YYMON 出力形式 (p. 306)	SAS 日付値を yy x mm または yyyy x mm 形式で書き出します。
	YYQ 出力形式 (p. 307)	SAS 日付値を <yy>yyQq 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また、q は四半期を表します。
	YYQx 出力形式 (p. 309)	SAS 日付値を <yy>yyq または <yy>yy-q 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と四半期または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。
	YYQR 出力形式 (p. 310)	SAS 日付値を <yy>yyQqr 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また qr はローマ数字表現の四半期を表します。
	YYQRx 出力形式 (p. 312)	SAS 日付値を <yy>yyqr または <yy>yy-qr 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と四半期、または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます、また qr は、ローマ数字表現の四半期です。
	YYWEEKU 出力形式 (p. 314)	曜日情報を除外し、U アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	YYWEEKV 出力形式 (p. 316)	曜日情報を除外し、V アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
	YYWEEKW 出力形式 (p. 317)	曜日情報を除外し、W アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。
文字	\$出力形式 (p. 60)	標準文字データを書き出します。
	\$ASCII 出力形式 (p. 61)	ネイティブなフォーマットの文字データを ASCII 表現に変換します。
	\$BASE64X 出力形式 (p. 62)	Base 64 エンコーディングを使用して、文字データを ASCII テキストに変換します。
	\$BINARY 出力形式 (p. 63)	文字データを 2 進表現に変換します。
	\$CHAR 出力形式 (p. 64)	標準文字データを書き出します。
	\$CSTR 出力形式 (p. 65)	文字引数の最後の空白ではない文字を探し、末尾の空白でない文字の後にヌルターミネータを持つ文字列のコピーを渡します。

カテゴリ	言語要素	説明
	\$EBCDIC 出力形式 (p. 66)	ネイティブな形式の文字データを EBCDIC 表現に変換します。
	\$HEX 出力形式 (p. 67)	文字データを 16 進表現に変換します。
	\$MSGCASE 出力形式 (p. 68)	MSGCASE システムオプションが有効になっているときに、文字データを大文字で書き込みます。
	\$OCTAL 出力形式 (p. 79)	文字データを 8 進表現に変換します。
	\$QUOTEw.出力形式 (p. 80)	データ値を二重引用符で囲んで書き込みます。
	\$REVERJ 出力形式 (p. 81)	文字データの末尾から順に書き込みます。空白も保持されます。
	\$REVERS 出力形式 (p. 82)	文字データの末尾から順に、左揃えで書き込みます。
	\$UPCASE 出力形式 (p. 83)	文字データを大文字に変換します。
	\$VARYING 出力形式 (p. 84)	可変長の文字データを書き込みます。

ディクショナリ

\$出力形式

標準文字データを書き出します。

カテゴリ: 文字
CAS
配置: 左
別名: \$Fw.

構文

\$w.

構文の説明

w

出力幅を指定します。数値または列範囲を指定できます。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 1。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

比較

\$w.出力形式と\$CHARw.出力形式は同じで、先頭の空白を切り捨てません。先頭の空白を切り捨てるには、LEFT 関数を使用して文字データを左揃えにするか、リスト出力でコロン(:)フォーマット修飾子と選択した出力形式と使用します。

例

```
put @10 name $5.;
put name $ 10-15;
```

name の値 *	結果
	----+----1----+----2
#Cary	Cary
Tokyo	Tokyo

* (文字#は空白を表します)。

\$ASCII 出力形式

ネイティブなフォーマットの文字データを ASCII 表現に変換します。

カテゴリ: 文字

配置: 左

構文

\$ASCII*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32767

詳細

ASCII がネイティブな形式の場合、変換は実行されません。

比較

- EBCDIC システムで\$ASCII*w*.を使用すると、EBCDIC 文字データは ASCII*w*.に変換されます。
- その他のすべてのシステムでは、\$ASCII*w*. は\$CHAR*w*.出力形式と同じ結果になります。

例

```
put x $ascii3.;
```

x の値	結果*
abc	616263
ABC	414243
();	28293B

* 上記の結果は、ASCII 形式のコード値を 16 進表現で出力したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに相当し、1 バイトが 1 文字に相当します。

\$BASE64X 出力形式

Base 64 エンコーディングを使用して、文字データを ASCII テキストに変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$BASE64X*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

次の式を使用して幅を決定できます。

出力形式の幅=(変数長+2)/3*4

変数長+2 が 3 で除算されるとき、整数未満を切り捨てて 4 を掛けたものが結果になります。たとえば、変数長が 48 の場合、幅は(48+2)/3*4=64 で計算されます。

出力形式の幅が小さすぎる場合、値は変換されません。SAS ログにメッセージは書き込まれません。

デフォルト 1

範囲 1-32767

詳細

Base 64 は、ポジション指定スキームに基づき、ASCII 文字のみ使用したエンコード文字を指定するエンコーディング方式です。複数の Base 64 エンコーディングスキームが、メールやコンテンツマスキングなどの特定の用途に定義されています。ポジション 0-61 を文字 A-Z、a-z、0-9 にマップします。ポジション 62 は文字+にマップし、ポジション 63 は文字/にマップします。

次に、Base 64 エンコーディングの使用例を示します。

- XML ファイルの埋め込みバイナリデータ
- パスワードのエンコード
- URL のエンコード

エンコード結果の '=' 文字は、結果にゼロビットが埋め込まれたことを示します。エンコード文字をデコードするには、 '=' をデコードする値に含める必要があります。

例

```
put x $base64x64.;
```

x の値	結果
"FCA01A7993BC"	RkNBMDFBNzk5M0JD
"MyPassword"	TXIQYXNzd29yZA=
"www.mydomain.com/ myhiddenURL"	d3d3Lm15ZG9tYWluLmNvbi9teWhpZGRlbnVSTA= =

関連項目:

- LIBNAME ステートメントオプション [“XMLDOUBLE=DISPLAY | INTERNAL”](#) (*SAS Viya XML LIBNAME Engine: User's Guide*)

入力形式:

- [“\\$BASE64X 入力形式”](#) (359 ページ)

\$BINARY 出力形式

文字データを 2 進表現に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$BINARY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト デフォルトの幅は、出力対象となる変数の長さに基づいて計算されます。

範囲 1-32767

比較

\$BINARYw.出力形式は、文字値を 2 進表現に変換します。\$BINARYw.出力形式は、数値を 2 進表現に変換します。

例

```
put @1 name $binary16.;
```

name の値	結果
	ASCII
AB	0100000101000010

\$CHAR 出力形式

標準文字データを書き出します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$CHARw.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 8 if the length of variable is undefined; otherwise, the length of the variable

範囲 1-32767

比較

- \$CHARw.出力形式は、\$w.出力形式と同じものです。
- \$CHARw. および \$w. 出力形式は先頭の空白を切り捨てません。先頭の空白を切り捨てるには、LEFT 関数を使用して、文字データを左揃えにします。または、PUT ステートメントにフォーマット修飾子のコロン(:)と選択した出力形式を指定して使用して、リスト出力します。

例

```
put @7 name $char4,;
```

name の値	結果
	---+---1
XYZ	XYZ

\$CSTR 出力形式

文字引数の最後の空白ではない文字を探し、末尾の空白でない文字の後にヌルターミネータを持つ文字列のコピーを渡します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$CSTR_w.

必須引数

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32767

詳細

\$CSTR_w出力形式を使用して、文字引数をヌルで終了された文字列として渡します。\$CSTR は文字引数の最後の空白ではない文字を探し、末尾の空白でない文字の後にヌルターミネータを持つ文字列のコピーを渡します。

例

```
put name $cstr10,;
```

name の値	結果
	---+---1
XYZ	XYZ

\$EBCDIC 出力形式

ネイティブな形式の文字データを EBCDIC 表現に変換します。

カテゴリ: 文字

配置: 左

注: サポートされているセッションエンコーディングは UTF-8 のみです。\$EBCDIC 出力形式は 7 ビット ASCII 文字でのみ動作します。

構文

\$EBCDIC*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32767

詳細

EBCDIC がネイティブな形式の場合、変換は実行されません。

ASCII システムでは、\$EBCDIC*w*.出力形式は、SAS 起動時に指定された LOCALE= オプションのデフォルトエンコーディング値に基づいています。たとえば、ロケールが en_US ロケールに設定されていた場合、\$EBCDIC*w*.出力形式で使用されるデフォルトのエンコーディングは Open_ed-1047 です。ロケールが de_DE (German_Germany)である場合、\$EBCDIC*w*.出力形式で使用されるデフォルトのエンコーディングは Open_ed-1141 です。ロケールおよびエンコーディング値のリストについては、“[Default Values for the DFLANG, DATESTYLE, and PAPERSIZE System Options Based on the LOCALE= System Option](#)” (*SAS Viya National Language Support: Reference Guide*)を参照してください。

MAPEBCDIC2ASCII システムオプションを使用して、EBCDIC と ASCII 間での文字のマッピングに使用される変換テーブルを指定できます。詳細については、“[MAPEBCDIC2ASCII= System Option](#)” (*SAS Viya National Language Support: Reference Guide*)を参照してください。

比較

- ASCII システムで \$EBCDIC*w*.を使用すると、ASCII 文字データは EBCDIC に変換されます。
- その他のすべてのシステムでは、\$EBCDIC*w*. は \$CHAR*w*.出力形式と同じ結果になります。

例

```
put name $ebcdic3.;
```

name の値	ロケール値が en_US の場合	ロケール値が fr_FR の場合	ロケール値が de_DE の場合
ABC	C1C2C3	C1C2C3	C1C2C3
{ä}	C043D0	514354	43C0DC
[@]	AD7CBD	9044B5	63B5FC

上記の結果は、EBCDIC 形式のコード値を 16 進表現で出力したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに相当し、1 バイトが 1 文字に相当します。

\$HEX 出力形式

文字データを 16 進表現に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

`$HEXw.`

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト デフォルトの幅は、出力対象となる変数の長さに基づいて計算されます。

範囲 1-32,767

ヒント データに相当する 16 進表現を完全に書き出すには、*w* に、変換した変数またはフィールドの長さを 2 倍した値を指定する必要があります。

w が変換したい変数の長さの 2 倍を超えている場合、`$HEXw.`により空白が埋め込まれます。

詳細

`$HEXw.`出力形式は、文字の ASCII コードの 16 進表現を生成します。各バイトで 2 カラムが必要とされます。したがって、`$HEXw.`出力形式で値を出力するには 2 倍のカラムが必要です。

比較

`HEXw.`出力形式は、バイナリ実数を 16 進数の表現に変換します。

例

```
put @5 name $hex4.;
```

name の値	結果
	ASCII
	----+----1
AB	4142

\$MSGCASE 出力形式

MSGCASE システムオプションが有効になっているときに、文字データを大文字で書き込みます。

カテゴリ: 文字

配置: 左

構文

\$MSGCASE*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 1。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

MSGCASE=システムオプションが有効な場合、SAS が生成する NOTES、WARNINGS、ERROR メッセージはすべて大文字で表示されます。その他の場合、NOTES、WARNINGS、ERROR メッセージはすべて大文字小文字混在で表示されます。MSGCASE=システムオプションは、構成ファイルに指定するか、または SAS 起動時に指定します。

例

```
put name $msgcase.;
```

name の値	結果
sas	SAS

関連項目:**システムオプション:**

- [“MSGCASE System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

\$N8601B 出力形式

基本表記 $PnYnMnDTnHnMnS$ と $yyyymmddThhmmss$ を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
制限事項:	UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
サポート:	ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文**\$N8601B***w.d***構文の説明****w**

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601B 出力形式は、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の基本表記の文字データとして書き出します。

- $PnYnMnDTnHnMnS$
- $yyyymmddThhmmss$
- $PnYnMnDTnHnMnS/yyyymmddThhmmss$
- $yyyymmddThhmmssT/PnYnMnDTnHnMnS$

最小単位の構成要素には、次の例のように端数を含めることができます。

- **p2y3.5m**
- **p00020304T05.335**

例

```
put nb $n8601b.;
```

nb の値	結果
0002405050112FFC	P2Y4M5DT5H1M12S
2012915155300FFD	20120915T155300
2012915000000FFD2014915000000FFD	20120915T000000/20140915T000000
0033104030255FFC2012915155300FFD	P33Y1M4DT3H2M55S/20120915T155300

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601BA 出力形式

基本表記 `PyyyyymmddThhmmss` と `yyyyymmddThhmmss` を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.5.4.2, alternative format

構文

\$N8601BA*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601BA 出力形式は、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の基本表記の文字データとして書き出します。

- PyyyymmddThhmmss
- yyyymmddThhmmss
- PyyyymmddThhmmss/yyyymmddThhmmss
- yyyymmddThhmmss/PyyyymmddThhmmss

最小単位の構成要素には、次の例のように端数を含めることができます。

- p00023.5
- 00020304T05.335

例

put @1 nba \$N8601ba.;

nba の値	結果
00024050501127D0	P00020405T050112.5
2012915155300FFD	20120915T155300
00023040506075282012915155300FFD	P00020304T050607.33/20120915T155300

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601E 出力形式

拡張表記 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文

\$N8601E*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601E 出力形式は、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の基本表記の文字データとして書き出します。

- PnYnMnDTnHnMnS
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- PnYnMnDTnHnMnS/yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ssT/PnYnMnDTnHnMnS

最小単位の構成要素には、次の例のように端数を含めることができます。

- **p2y3.5m**
- **p0002-03-04T05.335**

例

```
put @1 ne $n8601e.;
```

ne の値	結果
00024050501127D0	P2Y4M5DT5H1M12.5S
2012915155300FFD	2012-09-15T15:53:00
2012915000000FFD2014915000000FFD	2012-09-15T00:00:00/2013-09-15T00:00:00
0033104030255FFC2012915155300FFD	P33Y1M4DT3H2M55S/2012-09-15T15:53:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601EA 出力形式

拡張表記 `Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss` と `yyyy-mm-ddThh:mm:ss` を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
制限事項:	UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
サポート:	ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文

\$N8601EA*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601EA 出力形式は、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の基本表記の文字データとして書き出します。

- `Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss`
- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss`
- `Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss`
- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss/Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss`

最小単位の構成要素には、次の例のように端数を含めることができます。

- **p00023.5**

- 0002-03-04T05.335

例

```
put @1 nea $N8601ea.;
```

nea の値	結果
00024050501127D0	P0002-04-05T05:01:12.500
2012915155300FFD	2012-09-15T15:53:00
00023040506075282012915155300FFD	P0002-03-04T05:06:07.330/2012-09-15T15:53:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601EH 出力形式

拡張表記 `Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss` と `yyyy-mm-ddThh:mm:ss` を使用して、省略した構成要素にハイフン(-) を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文

`$N8601EH`*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601EH 出力形式は、省略した構成要素を表すためにハイフン(-)を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の拡張表記の文字データとして書き出します。

- Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss/Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss

省略した日時構成要素は常に表示され、切り詰められません。

例

put a \$n8601eh.;

a の値	結果
00023FFFFFFFFFC2012FFF15FFFFFFD	P0002-03—T:::/2012—T15::-
2012FFF15FFFFFFdFFF3FF1553FFFC	2012--T15::-/P—03—T15:53:-

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601EX 出力形式

拡張表記 Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を使用して、省略した構成要素の各数字に x を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式を書き出します。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 左
- 制限事項:** UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
- サポート:** ISO 8601 Elements 5.5.3, 5.5.4.1, and 5.5.4.2

構文

\$N8601EX*w.d*

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲	1-200
要件	期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601EX 出力形式は、省略した構成要素を表すためにハイフン(-)を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の拡張表記の文字データとして書き出します。

- Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss/Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss
- yyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss

省略した日時構成要素は常に表示され、切り詰められません。

例

```
put nex $n8601ex.;
```

nex の値	結果
00023FFFFFFFFFC2012FFF15FFFFFFD	P0002-03xxTxx:xx:xx/2012-xx-xxT15:xx:xx
2012FFF15FFFFFFdFFF3FF1553FFFC	2012-xx-xxT15:xx:xx/Pxxxx-03-xxT15:53:xx

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601H 出力形式

期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素にハイフン(-)を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 PnYnMnDTnHnMnS と yyyy-mm-ddThh:mm:ss を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Elements 5.5.3, 5.5.4.1, and 5.5.4.2

構文

\$N8601H*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601H 出力形式は、*PnYnMnDTnHnMnS* の形式の構成要素を省略し、省略した日時形式の構成要素を表すためにハイフン (-) を使用して、ISO 8601 規格の期間、間隔、日時を次の形式で書き出します。

- *PnYnMnDTnHnMnS*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ss*
- *PnYnMnDTnHnMnS/yyyy-mm-ddThh:mm:ss*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ssT/PnYnMnDTnHnMnS*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss*

省略した日時構成要素は常に表示され、切り詰められません。

例

put nh \$n8601h.;

nh の値	結果
0002304FFFFFFFFFC2012FFF15FFFFFFD	P2Y3M4D/2012—T15::-
FFFF102FFFFFFFFFD2012FFF15FFFFFFD	—01-02T::-:0/2012—T15::-

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$N8601X 出力形式

期間値の省略した構成要素を削除し、日時値の省略した構成要素の数字に *x* を使用して、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の形式 *PnYnMnDTnHnMnS* と *yyyy-mm-ddThh:mm:ss* を書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
制限事項:	UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
サポート:	ISO 8601 Elements 5.5.3, 5.5.4.1, and 5.5.4.2

構文

\$N8601X*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

最小単位の構成要素に小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

\$N8601X 出力形式は、*PnYnMnDTnHnMnS* の形式の構成要素を省略し、省略した日時形式の構成要素を表すために *x* を使用して、ISO 8601 規格の期間、間隔、日時を次の形式で書き出します。

- *PnYnMnDTnHnMnS*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ss*
- *PnYnMnDTnHnMnS/yyyy-mm-ddThh:mm:ss*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ssT/PnYnMnDTnHnMnS*
- *yyyy-mm-ddThh:mm:ss/yyyy-mm-ddThh:mm:ss*

省略した日時構成要素は常に表示され、切り詰められません。

例

```
put nx $n8601x.;
```

nx の値	結果
0002304FFFFFFFFFC2011FFF15FFFFFFD	P2Y3M4D/2011-xx-xxT15:xx:xx
FFFF102FFFFFFFFFD2011FFF15FFFFFFd	xxxx-01-02Txx:xx:xx/2011x-xxT15:xx:xx

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

\$OCTAL 出力形式

文字データを 8 進表現に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$OCTAL*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト デフォルトの幅は、出力対象となる変数の長さに基づいて計算されます。

範囲 1-32767

ヒント 文字値はそれぞれ 3 つの 8 進表現の文字を生成するため、*w* の値には文字値の長さを 3 倍した値を指定します。

比較

\$OCTAL*w*. 出力形式は、文字値をその文字コードの 8 進表現に変換します。
OCTAL*w*. 出力形式は、数値を 8 進表現に変換します。

例

次の例は、**\$OCTAL***w*. 出力形式を使用した場合の ASCII 出力です。

```
data _null;
infile datalines trunccover;
input item $5.;
put item $octal15.;
```

```

    datalines;
art
rice
bank
;
run;

```

SAS は次の結果をログに書き込みます。

```
141162164040040 162151143145040 142141156153040
```

\$QUOTEw.出力形式

データ値を二重引用符で囲んで書き込みます。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$QUOTEw.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていない場合は 2。その他の場合、デフォルトは変数の長さ+ 2。

範囲 2-32767

ヒント w の幅を左と右の引用符を含められるよう十分な大きさにします。

詳細

次のリストは、\$QUOTEw.出力形式を使用した場合に作成される出力です。これらの項目の例については、次の例を参照してください。

- データ値が引用符で囲まれていない場合、出力が二重引用符で囲まれます。
- データ値が引用符で囲まれていないが値に単一引用符が含まれている場合、次の処理が実行されます。
 - データ値を二重引用符で囲む
 - 単一引用符を変更しない
- データ値が単一引用符で始まり終わっていて、値に二重引用符が含まれている場合、次の処理が実行されます。
 - データ値を二重引用符で囲む
 - データ値に見つかった二重引用符を複製する

- 単一引用符を変更しない
- データ値が単一引用符で始まり終わっていて、値に2つの隣接した単一引用符が含まれている場合、次の処理が実行されます。
 - 値を二重引用符で囲む
 - 単一引用符を変更しない
- データ値が単一引用符で始まり終わっていて、二重引用符と隣接した単一引用符が含まれている場合、次の処理が実行されます。
 - 値を二重引用符で囲む
 - データ値に見つかった二重引用符を複製する
 - 単一引用符を変更しない
- ターゲットフィールドの長さが文字列と引用符を含めるのに十分でない場合、そのフィールドの長さに合う長さの引用符付き文字列が返されます。

例

```
put name $quote20.;
```

name の値	結果
	----+----1----+----2
SAS	"SAS"
SAS's	"SAS's"
'ad"verb"'	""ad""verb""
'ad"verb'	""ad"verb"
	----+----1----+----2
""ad""verb""	""""ad""""verb""
deoxyribonucleotide	"deoxyribonucleotid" *

* deoxyribonucleotide は 19 文字です。引用符が追加される場合、文字列の長さは 21 文字です。テキストの末尾の文字 e が切り捨てられ、引用符が挿入されます。

\$REVERJ 出力形式

文字データの末尾から順に書き込みます。空白も保持されます。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 右

構文

\$REVERJ*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト *w* が指定されていない場合は 1。

範囲 1-32767

比較

\$REVERJ*w*.出力形式は、\$REVER*S**w*.出力形式とほぼ同じですが、\$REVER*S**w*.では先頭の空白がすべて削除され、結果を左揃えにします。

例

```
put @1 name $reverj7.;
```

名前*	結果
	----+----1
ABCD###	DCBA
###ABCD	DCBA

* (文字#は空白を表します)。

\$REVERS 出力形式

文字データの末尾から順に、左揃えで書き込みます。

カテゴリ: 文字

CAS

配置: 左

構文

\$REVER*S**w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト *w* が指定されていない場合は 1。

範囲 1-32767

比較

\$REVERSw.出力形式は、\$REVERJw.出力形式とほぼ同じですが、\$REVERJw.では結果を左揃えにしません。

例

```
put @1 name $revers7.;
```

名前*	結果
	----+----1
ABCD###	DCBA
###ABCD	DCBA

* (文字#は空白を表します)。

\$UPCASE 出力形式

文字データを大文字に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$UPCASE*w*.

構文の説明

w 出力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

ハイフンやその他の記号などの特殊文字は、変更されません。

例

```
put @1 name $upcase9.;
```

name の値	結果
	---+---1
coxe-ryan	COXE-RYAN

\$VARYING 出力形式

可変長の文字データを書き込みます。

該当要素: DATA ステップ

カテゴリ: 文字

配置: 左

構文

\$VARYING*w*. *length-variable*

構文の説明

w

出力行または出力ファイルレコードに対する出力フィールドの最大幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていない場合は 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

length-variable

文字変数の現在の値の長さを含む数値変数を指定します。*length-variable* の値は、INPUT ステートメントに記述されているフィールドから直接読み込むか、既存の SAS データセットから読み込むか、あるいは値を計算して求めます。

制限事項 *length-variable* には、配列参照は使えません。

要件 *length-variable* は、SAS ステートメント内で \$VARYING*w*. の直後に指定する必要があります。

ヒント *length-variable* の値が 0、負の値、あるいは欠損値ならば、出力フィールドには何も書き出しません。

length-variable の値が 0 より大きく、*w* 未満の場合は、*length-variable* によって指定された文字数を書き出します。

length-variable の値が *w* と同じか、それよりも大きい場合は、*w* 幅の列を書き出します。

詳細

文字値の長さがレコード間で異なる場合は、\$VARYINGw.を使用します。データ値を\$VARYINGw.で書き出した後、ポインタはこのデータ値の次のカラムに移動します。

例

例 1: 変数長を直接的に取得する

既存のデータセット変数に変数の長さが含まれています。データ値とその結果は、この SAS ステートメントの説明の後に示します。

```
put @10 name $varying12. varlen;
```

NAME は長さが 12 の文字変数です。文字長が 1 から 12 までの値が含まれます。VARLEN は、同一のデータセットに存在し、現在のオブザベーションの NAME の実際の長さを含む数値変数です。

name の値 *	結果
	----+----1----+----2----+
New York 8	New York
Toronto 7	Toronto
Buenos Aires 12	Buenos Aires
Tokyo 5	Tokyo

* NAME の値が VARLEN の値の前に表示されます。

例 2: 変数長を間接的に取得する

LENGTH 関数を使用して、変数の長さを設定します。データ値とその結果は、これらの SAS ステートメントの説明の後に示します。

```
varlen=length(name);
put @10 name $varying12. varlen;
```

割り当てステートメントにより、可変長変数の長さが決定されます。変数 VARLEN には長さが含まれ、この変数は\$VARYING12.出力形式の *length-variable* 引数になります。

値 *	結果
	----+----1----+----2----+
New York	New York
Toronto	Toronto
Buenos Aires	Buenos Aires

値 *	結果
Tokyo	Tokyo

* NAME の値が VARLEN の値の前に表示されます。

B8601DA 出力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して日付値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

B8601DA*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 8-10

詳細

B8601DA 出力形式は、ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して日付値を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

0 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

```
put bda b8601da.;
```

bda の値	結果
18885	20110915

bda の値	結果
18628	20110101

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601DN 出力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して、日時値から日付を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

B8601DN*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 8-10

詳細

B8601DN 出力形式は、ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して、日時値から日付を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

```
put bdn b8601dn.;
```

bdn の値	結果
1631664000	20110915

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601DT 出力形式

日時値を ISO 8601 規格の基本表記 `yyyymmddThhmmss<ffffff>` を使用して日時値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#) を参照してください。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

B8601DT*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 15-26

d

秒の端数を表す秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601DT 出力形式は、ISO 8601 規格の基本表記 `yyyymmddThhmmss<ffffff>` を使用して、日時値を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

- mm*
01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。
- dd*
01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。
- hh*
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。
- mm*
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。
- ss*
00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。
- ffffff*
6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

put bdt b8601dt.;

bdtd の値	結果
----+----1	
1631721180	20110915T155300

関連項目:

["ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理" \(14 ページ\)](#)

B8601DX 出力形式

協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 *yyyymmddThhmmss+hhmm* を使用して書き出されます。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 左
- サポート:** ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

B8601DX*w*.

構文の説明

- w*
出力幅を指定します。

デフォルト	26
範囲	20-35

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく日付と時間を示します。SAS は、この出力形式を使用して、日時値を UTC 値に変換したり、TIMEZONE=システムオプションの値を使用することで、ユーザーローカルの日付と時間を決定したりします。TIMEZONE=オプションが設定されていない場合、ユーザーローカルの日付と時間は、ローカルの日付と時間に基づきます。B8601DX 出力形式は、SAS 日時値を次の ISO 8601 規格の基本日時表記を使用して書き出します。

- `yyyymmddThhmmss+hhmm`

`YYYY`

4 桁の年です。

`mm`

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

`dd`

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

`hh`

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

`mm`

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

`ss`

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

`+|-hhmm`

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは `+|-hhmm` (つまり、+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式 `+|-hh` はサポートされていません。

例

最初の例では、時間とタイムゾーンオフセットの決定にローカル時間を使用します。2 番目の例では、タイムゾーンを America/Adak に変更します。それはハワイ-アリューシャン標準時です。

ステートメント	結果
<pre>data _null_; t='01Feb2013T12:34:56'dt; put t b8601dx.; run;</pre>	20130201T073456-0500

ステートメント	結果
<pre>options timezone='America/Adak'; data _null_; t='01Feb2013T12:34:56'dt; put t b8601dx.; run;</pre>	20130201T023456-1000

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601DZ 出力形式

ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 `yyyymmddThhmmss+0000` を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
サポート:	ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

B8601DZ*w*.

構文の説明

w	出力幅を指定します。
デフォルト	26
範囲	20-35

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。B8601DZ 出力形式は、次の ISO 8601 規格の基本日時表記のいずれかを使用して、基準子午線の日時に対応した SAS 日時値を書き出します。

- `yyyymmddThhmmss+0000`
注: この形式は、*w* の長さがこのタイムゾーン表記に十分な場合に使用します。
- `yyyymmddThhmmssZ`
注: この形式は、*w* の長さが+0000 タイムゾーン表記に十分でない場合に使用します。

yyyy
4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+0000

基準子午線(イギリスのグリニッジ)の UTC 時間を示します。

タイムゾーンオフセットが指定された ISO 8601 規格の時間値または日時値は、オフセットに示された時間数と分数によって調整されます。その後、タイムゾーンオフセットが基準子午線(イギリスのグリニッジ)の時間または日時として処理されます。B8601DZ 出力形式は、常に基準子午線オフセット値の+0000 を使用して日時値を書き出します。+0000 以外のタイムゾーンオフセットを使用した日時を書き出すには、“[B8601LZ 出力形式](#)” (94 ページ) を参照してください。

制約: 短い形式+00 はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+0000UTC 時間であることを示します。出力形式の幅が+0000 表記をサポートしない場合に Z が使用されます。

例

```
put bdz b8601dz20.;
```

日時値	bdz の値	結果
20110915T155300+0500	1631703180 *	20110915T105300+0000
20110915T155300Z	1631721180	20110915T155300+0000

* この ISO 8601 値のタイムゾーンオフセットは、5 時間です。SAS にこの値が読み込まれる際、SAS 日時値に 5 時間の調整が行われます。結果列には 5 時間が調整された日時値が表示されます。

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601LX 出力形式

ISO 8601 規格の基本表記 `yyyymmddThhmmss+|-hhmm` を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601
 配置: 右
 サポート: ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4.2

構文

B8601LX*w*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 20-35

詳細

B8601LX 出力形式は、ISO 8601 規格の基本日時表記を使用し、時間値を調整せずに書き出してローカル SAS セッションに対応した UTC タイムゾーンオフセットを追加します。

- *yyyymmddThhmmss+|-hhmm*

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは *+|-hhmm* (つまり、+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式 *+|-hh* はサポートされていません。

例

この PUT ステートメントは東部標準タイムゾーンに対応した時間を書き出します。

```
blx='01Feb2013T12:34:56'dt;
```

```
put blx b8601lx.;
```

blx の値	結果
1675341296	20130201T123456-0500

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601LZ 出力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *hhmmss+|-hhmm* を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 左
- サポート:** ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4.2

構文

B8601LZ*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

詳細

B8601LZ 出力形式は、ISO 8601 規格の基本表記 *hhmmss+|-hhmm* を使用して時間値を調整せずに書き出し、ローカル SAS セッションに対応した UTC タイムゾーンオフセットを追加します。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss
00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-hhmm
基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは **+|-hhmm** (つまり+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-hh はサポートされていません。

SAS では UTC 時間を B8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 000000 と 235959 の間になるように値を調整します。B8601LZ 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

例

この PUT ステートメントは東部標準タイムゾーンに対応した時間を書き出します。

```
put blz b8601lz;
```

blz の値	結果
46380	125300-0500

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601TM 出力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *hhmmss<ffff>* を使用して、時間値を書き出します。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 左
- 制限事項:** UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
- 操作:** DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*) を参照してください。
- サポート:** ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

B8601TM*w.d*

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 6-15

d

秒の端数を表す秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601TM 出力形式は、ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss<ffffff>* を使用して、SAS 時間値を書き出します。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

```
put btm b8601tm.;
```

btm の値	結果
57180	155300

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601TX 出力形式

協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss+|-hhmm* を使用して、ローカル時間を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 右

サポート: ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4

構文

B8601TX*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間を示します。SAS は、この出力形式を使用して、時間値を UTC 値に変換したり、TIMEZONE=システムオプションを使用することで、ユーザーのローカル時間を決定したりします。TIMEZONE=オプションが設定されていない場合、ユーザーのローカル時間は、ローカル時間に基づきます。B8601TX 出力形式は、SAS 日時値を次の ISO 8601 規格の基本時間表記を使用して書き出します。

- *hhmmss+|-hhmm*

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-*hhmm*

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-*hhmm* (つまり、+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-*hh* はサポートされていません。

SAS では UTC 時間を B8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 000000 と 240000 の間になるように値を調整します。B8601TX 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

例

最初の例では、時間とタイムゾーンオフセットの決定にローカル時間を使用します。2 番目の例では、タイムゾーンを America/Adak に変更します。それはハワイ-アリューシャン標準時です。

ステートメント	結果
<pre>data _null; t='12:34:56't; put t b8601tx.; run;</pre>	073456-0500

ステートメント	結果
<pre>options timezone='America/Adak'; data _null_; t='12:34:56't; put t b8601tx.; run;</pre>	023456-1000

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

B8601TZ 出力形式

ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss+|-hhmm* を使用して、時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
サポート:	ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4

構文

B8601TZ*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

詳細

UTC 時間値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。B8601TZ 出力形式は、時間値を基準子午線の時間に調整し、その時間値を次の ISO 8601 規格の基本時間表記のいずれかで書き出します。

- *hhmmss+|-hhmm*
注: この形式は、*w* の長さがこの時間表記に十分である場合に使用します。
- *hhmmssZ*
注: この形式は、*w* の長さが *+|-hhmm* タイムゾーン表記に十分でない場合に使用します。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

SS

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-hhmm (つまり+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-hh はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+0000 UTC 時間であることを示します。

SAS では UTC 時間を B8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 000000 と 240000 の間になるように値を調整します。B8601TZ 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

比較

000000 と 240000 の間の時間値に対して、B8601TZ 出力形式は時間値を基準子午線の時間に調整し、調整後の値を国際規格の拡張時間表記で書き出します。B8601LZ 出力形式は、時間を調整せず、ローカル SAS セッションの UTC タイムゾーンオフセットを使用して時間値を国際規格の拡張時間表記で書き出します。

例

```
put btz b8601tz.;
```

blz の値	結果
73441	202401+0000

関連項目:

["ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理" \(14 ページ\)](#)

BEST 出力形式

SAS により最適な出力が選択されます。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、["DECIMALCONV= System Option" \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

BEST*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

ヒント 0 から.01 までの数字を出力する場合、過度に丸めないように 7 以上のフィールド幅を使用します。0 から-.01 までの数字を出力する場合は、8 以上のフィールド幅を使用します。

詳細

出力形式が数値の書き出しに指定されていない場合、BEST*w*出力形式がデフォルトの出力形式として使用されます。BEST*w*出力形式は、読みやすさ、精度、簡潔性という相反する要求のバランスをとって数を書き出そうとします。ルールをいくつか示します。

- 値は、幅によって決定される最大読み込み可能有効桁数で書き出されます。浮動小数点数の最大有効桁数は、幅に応じて 14 桁または 15 桁になります。
- 整数は小数なしで書き出されます。
- 小数を含む数字は、小数点の前と後に必要な桁数、または幅によって許可される桁数で書き出されます。
- 極値、0 を前置または後置する値は、指定された幅に応じて、指数表記にすることがあります。精度を高め、あるいは大きさの程度を分かりやすくするのが目的です。指数表記に対して幅が小さすぎる場合、極小値は 0 と書かれる可能性があります。
- 末尾のゼロは書き出されません。
- 指定された幅で表示しきれないとき、10 進表記または指数表記のいずれかの場合は、出力フィールドにアスタリスクが埋め込まれます。
- BEST*w*出力形式の動作は、DECIMALCONV オプションの設定により影響を受けます。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。これらのルールは、オプションの設定にかかわらず、一般的に適用可能です。

比較

- BEST*w*出力形式は、出力フィールドに可能な限りの有効桁数を書き出しますが、数字の大きさが異なる場合に小数点以下の桁数を揃えません。整数は小数点なしで出力されます。
- Dw.*p* 出力形式は数字を指定した有効桁数で書き出し、BEST*w* 出力形式よりも小数点揃えを行います。
- BESTDw.*p* 出力形式は、BEST*w*出力形式と Dw.*p* 出力形式を組み合わせたもので、すべての数値データに適用されます。また、BEST*w*出力形式よりも小数点揃えに優れています。

- *w.d* 出力形式は小数点揃えを行いますが、すべての数字が必ずしも同じ有効桁数で表示されません。

例

ステートメントによって、次の結果が作成されます。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
x=1257000; put x best6.;	1.26E6
x=1257000; put x best3.;	1E6

関連項目:

出力形式:

- [“BESTD 形式” \(101 ページ\)](#)

BESTD 形式

同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。整数は小数なしで出力します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

BESTD*w.p*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

p

有効桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト	3
範囲	0 - w-1
要件	w より小さい数にします。
ヒント	p が省略される、または 0 が指定されると、p は 3 に設定されます。

詳細

BESTDw,p 出力形式は、同じような大きさの値グループ内で小数点を揃えて値を書き出します。整数は小数点なしで出力されます。p の値が大きくなると、出力されるデータ値の有効桁数が増え、小数点揃えのシフトが増す可能性があります。p の値が小さくなると、出力されるデータ値の有効桁数が減り、小数点揃えの可能性が高くなります。

出力形式は、値の範囲に対して、値をより少ない小数点以下の桁数で表示できる場合でも、出力に適した小数点以下の桁数を選択します。

比較

- BESTw 出力形式は、出力フィールドに可能な限りの有効桁数を書き出しますが、数字の大きさが異なる場合に小数点以下の桁数を揃えません。整数は小数点なしで出力されます。
- Dw,p 出力形式は数字を指定した有効桁数で書き出し、BESTw 出力形式よりも小数点揃えを行います。
- BESTDw,p 出力形式は、BESTw 出力形式と Dw,p 出力形式を組み合わせたもので、すべての数値データに適用されます。また、BESTw 出力形式よりも小数点揃えに優れています。
- w.d 出力形式は小数点揃えを行いますが、すべての数字が必ずしも同じ有効桁数で表示されません。

例

```
put x bestd14.;
```

データ行	結果
	----+----1----+
12345	12345
123.45	123.4500000
1.2345	1.2345000
.12345	0.1234500
1.23456789	1.2345679

関連項目:**出力形式:**

- [“BEST 出力形式” \(99 ページ\)](#)
- [“D 出力形式” \(107 ページ\)](#)

BESTDOTX 出力形式

SAS が最適な表記を選び、小数点としてドット(.)を使うように指定します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

BESTDOTX.w.

引数

w

出力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

ヒント 0 から.01 までの数字を出力する場合、過度に丸めないように 7 以上のフィールド幅を使用します。0 から-.01 までの数字を出力する場合は、8 以上のフィールド幅を使用します。

詳細

NLDECSEPARATOR システムオプションが無効である場合、BESTw と BESTDOTXw はデータを同じように処理します。NLDECSEPARATOR システムオプションが有効であれば、BESTw か BESTDOTXw によって出力形式が異なります。違いについては次の表を参照してください。

LOCALE オプション	ロケールに応じたデフォルトの小数点文字	NLDECSEPARATOR オプション	BESTw の場合の小数点文字	BESTDOTXw の場合の小数点文字
en_US	ドット(.)	無効(デフォルト)	ドット(.)	ドット(.)
		有効	ドット(.)	ドット(.)

LOCALE オプション	ロケールに応じたデフォルトの小数点文字	NLDECSEPARATOR オプション	BESTw.の場合の小数点文字	BESTDOTXw.の場合の小数点文字
fr_FR	カンマ(,)	無効(デフォルト)	ドット(.)	ドット(.)
		有効	カンマ(,)	ドット(.)

NLDECSEPARATOR システムオプションの詳細については、[SAS Viya 各国語サポート: リファレンスガイド](#)を参照してください。

比較

BESTDOTXw 出力形式の場合、出力フィールド内にできるだけ多くの有効数字を収めようとします。整数は小数点付きで出力されます。BESTw.出力形式は、出力フィールドに可能な限りの有効桁数を書き出しますが、数字の大きさが異なる場合に小数点以下の桁数を揃えません。整数は小数点なしで出力されます。

関連項目:

出力形式:

- “BEST 出力形式” (99 ページ)

BINARY 出力形式

数値を 2 進表現に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

BINARY*w*.

構文の説明

w 出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-64

比較

BINARY*w*. は、数値を 2 進表現に変換します。\$BINARY*w*.出力形式は、文字値を 2 進表現に変換します。

例

```
put @1 x binary8.;
```

x の値	結果
	----+----1
123.45	01111011
123	01111011
-123	10000101

COMMA 形式

3 桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値

CAS

CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

COMMA $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

ヒント

w の幅に数値、カンマ、オプションの小数点の書き出しに十分な値を指定します。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

詳細

COMMAw.d 出力形式は、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。

比較

- COMMAw.d 出力形式は COMMAXw.d 出力形式とほぼ同じですが、COMMAXw.d 出力形式では小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。
- COMMAw.d 出力形式は DOLLARw.d 出力形式とほぼ同じですが、COMMAw.d 出力形式は先頭のドル記号を出力しません。

例

```
put @10 sales comma10.2;
```

sales の値	結果
	---+---1---+---2
23451.23	23,451.23
123451.234	123,451.23

関連項目:

出力形式:

- [“COMMAX 出力形式” \(106 ページ\)](#)
- [“DOLLAR 出力形式” \(118 ページ\)](#)

COMMAX 出力形式

3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

COMMAXw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 6

範囲 1-32

ヒント *w* の幅に数値、カンマ、オプションの小数点の書き出しに十分な値を指定します。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

範囲 0-31

要件 *w* より小さい数にします。

比較

COMMA*w.d* 出力形式は COMMAX*w.d* 出力形式とほぼ同じですが、COMMAX*w.d* 出力形式では小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。

例

```
put @10 sales commax10.2;
```

sales の値	結果
	---+---1---+---2
23451.23	23.451,23
123451.234	123.451,23

D 出力形式

値の桁数をできる限り最大にし、同じような大きさの数値に対しては小数点以下の桁数を揃えて出力します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

Dw.p

構文の説明

w

出力幅を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 12

範囲 1-32

p

有効桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 3

範囲 0-16

要件 *p* は *w* より小さい数でなければなりません。

ヒント *p* が省略される、または 0 が指定されると、*p* は 3 に設定されます。

0 が指定した有効桁数の場合、*w.d* 出力形式を *Dw.p* 出力形式の代わりに使用します。

詳細

Dw.p 出力形式は、同じような大きさの値グループ内で小数点を揃えて値を書き出します。*p* の値が大きくなると、出力されるデータ値の有効桁数が増え、小数点揃えのシフトが増す可能性があります。*p* の値が小さくなると、出力されるデータ値の有効桁数が減り、小数点揃えの可能性が高くなります。

比較

- *BESTw*.出力形式は、出力フィールドに可能な限りの有効桁数を書き出しますが、数字の大きさが異なる場合に小数点以下の桁数を揃えません。
- *Dw.p* は数字を指定した有効桁数で書き出し、*BESTw* 出力形式よりも小数点揃えを行います。
- *BESTDw.p* 出力形式は、*BESTw*.出力形式と *Dw.p* 出力形式を組み合わせたもので、すべての数値データに適用されます。また、*BESTw*.出力形式よりも小数点揃えに優れています。
- *w.d* 出力形式は小数点揃えを行いますが、すべての数字が必ずしも同じ有効桁数で表示されません。

例

```
put @1 x d10.4;
```

x の値	結果
	----+----1

x の値	結果
12345	12345.0
1234.5	1234.5
123.45	123.45000
12.345	12.34500
1.2345	1.23450
.12345	0.12345

関連項目:

出力形式:

- [“BESTD 形式” \(101 ページ\)](#)

DATE 出力形式

SAS 日付値を *ddmmyy*、*ddmmyyyy* または *dd-mmm-yyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DATE*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 5-11

ヒント 4桁の年を日、月、年の間を区切らずに出力する場合は、幅に9を指定します。4桁の年を日、月、年の間をハイフンで区切って出力する場合は、幅に11を指定します。

詳細

DATE*w*.出力形式は、SAS 日付値を *ddmmyy*、*ddmmyyyy* または *dd-mmm-yyyy* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または **yyyy**

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

例の表では、19068 を入力値として使用します。この値は 2012 年 3 月 16 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put day date5.;	16MAR
put day date6.;	16MAR
put day date7.;	16MAR12
put day date8.;	16MAR12
put day date9.;	16MAR2012
put day date11.;	16-MAR-2012

関連項目:

関数:

- [“DATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)

DATEAMPM 出力形式

SAS 日時値を、AM または PM を付けて *ddmmmyy:hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

DATEAMPM $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 7-40

ヒント AM または PM を出力するには、 w に少なくとも 13 を指定する必要があります。幅の値が 10 と 12 の間の場合、24 時間表記が出力されます。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-39

要件 w より小さい数にします。

注 $w-d < 17$ の場合、小数点以下の値は切り捨てられます。

詳細

DATEAMPM $w.d$ 出力形式は、SAS 日時値を $ddmmmyy:hh:mm:ss.ss$ 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy

年を表す 2 桁の整数です。

hh

時間を表す整数です。

mm

分を表す整数です。

ss.ss

小数点以下 2 桁の秒数です。

比較

DATEAMPM $w.d$ 出力形式は DATETIME $w.d$ 出力形式とほぼ同じですが、DATEAMPM $w.d$ は時間の最後に AM または PM を出力します。

例

例の表では 1650538894 を入力値として使用します。この値は 2012 年 4 月 20 日、午前 11:01:34 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1-----2-----+
put event dateampm.;	20APR12:11:01:34 AM
put event dateampm7.;	20APR12
put event dateampm10.;	20APR:11
put event dateampm13.;	20APR12:11 AM
put event dateampm22.2.;	20APR12:11:01:34.00 AM

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)

DATETIME 出力形式

SAS 日時値を *ddmmyy:hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

制限事項: $w-d < 17$ の場合、小数点以下の値は切り捨てられます。

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

DATETIME*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 7-40

ヒント 日付、時間、秒を含む SAS 日時値の出力には、*w* 値として少なくとも 16 を指定する必要があります。秒の端数も含めて値を返す場合、*w* にさらに 2 桁、*d* に値を追加します。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-39

要件 *w* より小さい数にします。

詳細

DATETIME*w.d* 出力形式は、SAS 日時値を *ddmmyy:hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy

年を表す 2 桁の整数です。

hh

時間を 24 時間表記で表す整数です。

mm

分を表す整数です。

ss.ss

小数点以下 2 桁の秒数です。

例

例の表では 1668138559 を入力値として使用します。この値は 2012 年 11 月 10 日、午前 3:49:19 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1-----2-----+
put event datetime.;	10NOV12:03:49:19
put event datetime7.;	10NOV12
put event datetime12.;	10NOV12:03
put event datetime18.;	10NOV12:03:49:19
put event datetime18.1;	10NOV12:03:49:19.0
put event datetime19.;	10NOV2012:03:49:19
put event datetime20.1;	10NOV2012:03:49:19.0

SAS ステートメント	結果
put event datetime21.2;	10NOV2012:03:49:19.00

関連項目:**出力形式:**

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)

関数:

- [“DATETIME Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

DAY 出力形式

SAS 日付値の日付部分を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DAY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 2

範囲 2-32

例

例の表では、19158 を入力値として使用します。この値は 2012 年 6 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+
put date day2.;	14

DDMMYY 出力形式

SAS 日付値を *ddmm<yy>yy* または *dd/mm/<yy>yy* 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DDMMYY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8
ト

範囲 2-10

操作 *w* の値が 2 から 5 までの場合、日と月が可能な範囲で表示されます。*w* が 7 の場合、年を 2 桁で表し、スラッシュを使わずに出力します。詳細については、次の例を参照してください。

詳細

DDMMYY*w*. 出力形式は、SAS 日付値を *ddmm<yy>yy* または *dd/mm/<yy>yy* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

/

区切り文字です。

mm

月を表す整数です。

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、入力値として 19351 を使用します。この入力値は、2012 年 12 月 24 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1

SAS ステートメント	結果
put date ddmmyy5.;	24/12
put date ddmmyy6.;	241212
put date ddmmyy7.;	241212
put date ddmmyy8.;	24/12/12
put date ddmmyy10.;	24/12/2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYYx 出力形式” \(116 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YYMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

DDMMYYx 出力形式

SAS 日付値を *ddmm<yy>yy* または *dd-mm-yy<yy>* 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、日、月、年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DDMMYY_{xw}.

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字を日、月、年の間に挿入しないことを示します。*x* で有効な値は次のとおりです。

B

空白で区切ります。

C

コロンで区切ります。

- D** ハイフンで区切ります。
- N** 区切り文字なしを表します。
- P** ピリオドで区切ります。
- S** スラッシュで区切ります。

w 出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-10

操作 *w* の値が 2 から 5 までの場合、日と月が可能な範囲で表示されます。*w* が 7 の場合、日付の年は 2 桁で、区切り文字を使用せずに表示されます。詳細については、次の例を参照してください。

x の値が *N* の場合、幅の範囲は 2-8 に変化します。

詳細

DDMMYY xw .出力形式は、SAS 日付値を *ddmm*<*yy*>*yy* or *ddxmmx*<*yy*>*yy* 形式で書き出します。

dd 月の日を表す整数です。

x 指定された区切り文字です。

mm 月を表す整数です。

<*yy*>*yy* 年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、入力値として 19137 を使用します。この入力値は、2012 年 5 月 24 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date ddmmmyc5.;	24:05
put date ddmmyyd8.;	24-05-12
put date ddmmyyyp10.;	24.05.2012

SAS ステートメント	結果
put day ddmmyyn7.;	240512
put date ddmmyyn8.;	24052012

関連項目:

出力形式:

- “DATE 出力形式” (109 ページ)
- “DDMMYY 出力形式” (115 ページ)
- “MMDDYYx 出力形式” (163 ページ)
- “YMMDDx 出力形式” (303 ページ)

関数:

- “DAY Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “MDY Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “MONTH Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “YEAR Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))

DOLLAR 出力形式

先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

DOLLAR*w.d*

構文の説明

w 出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 2-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

詳細

DOLLAR $w.d$ 出力形式は、先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。

ドル記号文字(\$)のコードの16進表現は、EBCDICのシステムでは5B、ASCIIのシステムでは24です。これらのコードが表す通貨記号は、他の国では異なる場合があります。しかし、DOLLAR $w.d$ は、常にこれらのコードのどちらかを生成します。別の通貨記号が必要な場合、独自の出力形式をFORMATプロシジャを使用して定義します。詳細については、“[FORMAT Procedure](#)” ([SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide](#))を参照してください。

比較

- DOLLAR $w.d$ 出力形式は DOLLARX $w.d$ 出力形式とほぼ同じですが、DOLLARX $w.d$ 出力形式では小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。
- DOLLAR $w.d$ 出力形式は COMMA $w.d$ 出力形式とほぼ同じですが、COMMA $w.d$ 出力形式は先頭のドル記号を出力しません。

例

```
put @3 netpay dollar10.2;
```

netpay の値	結果
	----+----1----+
1254.71	\$1,254.71

関連項目:**出力形式:**

- “COMMA 形式” (105 ページ)
- “DOLLARX 出力形式” (119 ページ)

DOLLARX 出力形式

先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

DOLLARX*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 2-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

要件 *w* より小さい数にします。

詳細

DOLLARX*w.d* 出力形式は、先頭にドル(\$)記号を付け、3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。

ドル記号文字(\$)のコードの16進表現は、EBCDICのシステムでは5B、ASCIIのシステムでは24です。これらのコードが表す通貨記号は、他の国では異なる場合があります。しかし、DOLLARX*w.d* は、常にこれらのコードのどちらかを生成します。別の通貨記号が必要な場合、独自の出力形式をFORMATプロシジャを使用して定義します。詳細については、“[FORMAT Procedure](#)” ([SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide](#))を参照してください。

比較

- DOLLARX*w.d* 出力形式は DOLLAR*w.d* 出力形式とほぼ同じですが、DOLLARX*w.d* 出力形式では小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。
- DOLLARX*w.d* 出力形式は COMMAX*w.d* 出力形式とほぼ同じですが、COMMA*w.d* 出力形式は先頭のドル記号を出力しません。

例

```
put @3 netpay dollarx10.2;
```

netpay の値	結果
	---+---1---+
1254.71	\$1.254,71

関連項目:

出力形式:

- [“COMMAX 出力形式” \(106 ページ\)](#)
- [“DOLLAR 出力形式” \(118 ページ\)](#)

DOWNAME 出力形式

SAS 日付値から曜日名を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DOWNAME*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 1-32

ヒント *w* を省略すると、曜日名全体が出力されます。

詳細

必要に応じて、SAS により出力形式の幅に合うように曜日名が切り捨てられます。たとえば、DOWNAME2.出力形式を指定すると、曜日名の最初の 2 文字が出力されます。

例

例の表では、19137 を入力値として使用します。この値は 2012 年 5 月 24 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	---+---1
put date downname.;	Thursday

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKDAY 出力形式” \(287 ページ\)](#)

DTDATE 出力形式

入力として日時値が必要です。SAS 日付値を *ddmmyy* または *ddmmyyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DTDATE*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 5-9

ヒント 4桁の年を出力する場合は幅に9を指定します。

詳細

DTDATE*w*.出力形式は、SAS 日付値を *ddmmyy* または *ddmmyyyy* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

mmm

月名の最初の3文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す2桁または4桁の整数です。

比較

DTDATE*w*.出力形式は、DATE*w*.出力形式と同じ種類の出力を作成します。相違点は、DTDATE*w*.出力形式には日時値が必要なことです。

例

例の表では日時値の 16APR2012:10:00:00 を入力として使用し、DTDATEw.出力形式に対応した 2 桁の年と 4 桁の年を出力します。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put trip_date=dtdate.;	16APR12
put trip_date=dtdate9.;	16APR2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)

DTMONYY 出力形式

SAS 日時値を *mmmmyy* または *mmmmyyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DTMONYY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 5-7

詳細

DTMONYY*w*.出力形式は、SAS 日時値を *mmmmyy* または *mmmmyyyy* 形式で書き出します。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

比較

DTMONYYw. 出力形式と MONYYw.出力形式は、どちらも日付値を書き出すという点でほぼ同じです。相違点は、DTMONYYw.が 入力として日時値を必要とし、MONYYw.は SAS 日付値が必要であることです。

例

例の表では 1665986932 を入力値として使用します。この値は 2012 年 10 月 16 日、午前 06:08:52 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date dtmonyy;	OCT12
put date dtmonyy5;	OCT12
put date dtmonyy6;	OCT12
put date dtmonyy7;	OCT2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)
- [“MONYY 出力形式” \(172 ページ\)](#)

DTWKDATX 出力形式

SAS 日時値を *day-of-week, dd month-name yy* (または *yyyy*)形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

DTWKDATX*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 29

範囲 3-37

詳細

DTWKDATXw.出力形式は、SAS 日付値を *day-of-week*、*dd month-name*、*yy* または *yyyy* 形式で書き出します。

day-of-week

曜日名の最初の 3 文字か、曜日名全体です。

dd

月の日を表す整数です。

month-name

月名の最初の 3 文字か、月名全体です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

比較

DTWKDATXw.出力形式と WEEKDATXw.出力形式は、どちらも日付値を書き出すという点でほぼ同じです。相違点は、DTWKDATXw.が入力として日時値を必要とし、WEEKDATXw.は SAS 日付値が必要であることです。

例

例の表では 1665986932 を入力値として使用します。この値は 20012 年 10 月 16 日、午前 06:08:52 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+----2----+
put date dtwkdatx.;	Tuesday, 16 October 2012
put date dtwkdatx3.;	Tue
put date dtwkdatx8.;	Tue
put date dtwkdatx25.;	Tuesday, 16 Oct 2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)
- [“WEEKDATX 出力形式” \(285 ページ\)](#)

DTYEAR 出力形式

SAS 日時値を *yy* または *yyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

DTYEAR*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-4

詳細

DTYEAR*w*.出力形式と YEAR*w*.出力形式は、どちらも日付値を書き出すという点でほぼ同じです。相違点は、DTYEAR*w*.が 入力として日時値を必要とし、YEAR*w*.は SAS 日付値が必要であることです。

例

例の表では 1665986932 を入力値として使用します。この値は 2012 年 10 月 16 日、午前 06:08:52 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date dtyear.;	2012
put date dtyear2.;	12
put date dtyear3.;	12
put date year4.;	2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)
- [“YEAR 出力形式” \(297 ページ\)](#)

DTYYQC 出力形式

SAS 日時値から、年と四半期をコロン(:)で区切って書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS
配置: 右

構文

DTYYQC*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 4-6

詳細

DTYYQC*w*.出力形式は、SAS 日時値を *yy* または *yyyy* 形式の年にコロン(:)と四半期を示す数値を続けて書き出します。

例

例の表では 1665986932 を入力値として使用します。この値は 2012 年 10 月 16 日、午後 06:08:52 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date dtyyqc.;	12:4
put date dtyyqc4.;	12:4
put date dtyyqc5.;	12:4
put date dtyyqc6.;	2012:4

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)

E 出力形式

数値を指数表記で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

構文

Ew.

構文の説明

w

出力幅を指定します。出力フィールドには 14 桁までの有効桁数を表示できます。

デフォルト 12

範囲 7-32

詳細

値を指数表記でフォーマットする際に、E 出力形式は結果の最初のコラムをマイナス記号を書き込む場所として確保し、14 桁までの有効桁数にフォーマットします。

例

```
put @1 x e10.;
```

x の値	結果
	----+----1
1257	1.257E+03
-1257	-1.257E+03

E8601DA 出力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-dd* を使用して日付値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

別名: IS8601DAw.

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

E8601DA*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 10 である必要があります。

詳細

E8601DA 出力形式は、ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-dd* を使用して日付を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

```
put eda e8601da.;
```

eda の値	結果
19251	2012-09-15

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601DN 出力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-dd* を使用して、SAS 日時値から日付を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

別名: IS8601DN

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

E8601DN*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 入力幅は 10 である必要があります。

詳細

E8601DN 出力形式は、ISO 8601 規格の拡張日付表記 *yyyy-mm-dd* を使用して日付を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

```
put edn e8601dn.;
```

edn の値	結果
1663308532	2012-09-15

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601DT 出力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-ddThh:mm:ss.ffffff* を使用して日時値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

配置: 左

別名: IS8601DT*w.d*

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

E8601DT*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 19-26

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

E8601DT 出力形式は、ISO 8601 規格の拡張日付表記 *yyyy-mm-ddThh:mm:ss.ffffff* を使用して日時値を書き出します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

```
put edt e8601dt25.3;
```

edt の値	結果
1663343580.2	2012-09-15T15:53:00.234

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601DX 出力形式

協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+hh:mm` を使用して書き出されます。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
サポート:	ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

E8601DX*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 20-35

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく日付と時間を示します。SAS は、この出力形式を使用して、日時値を UTC 値に変換したり、TIMEZONE= システムオプションの値を使用することで、ユーザーローカルの日付と時間を決定したりします。TIMEZONE=オプションが設定されていない場合、ユーザーローカルの日付と時間は、ローカルの日付と時間に基づきます。E8601DX 出力形式は、SAS 日時値を次の ISO 8601 規格の基本日時表記を使用して書き出します。

- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+hh:mm`

yyyy
4 桁の年です。

mm
01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd
01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss
00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-hh:mm (つまり、+または-を伴う 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+02:00 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-06:00 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-hh はサポートされていません。

例

最初の例では、時間の決定にローカル時間を使用します。2 番目の例では、タイムゾーンを America/Adak に変更します。それはハワイ-アリューシャン標準時です。

ステートメント	結果
<pre>data _null_; t='01Feb2013T12:34:56'dt; put t e8601dx; run;</pre>	2013-02-01T07:34:56-05:00
<pre>options timezone='America/Adak'; data _null_; t='01Feb2013T12:34:56'dt; put t e8601dx; run;</pre>	2013-02-01T02:34:56-10:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601DZ 出力形式

ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+00:00` を使用して、基準子午線の協定世界時(UTC)の日時値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

配置: 左

別名: IS8601DZw.

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

E8601DZw.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 20-35

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。E8601DZ 出力形式は、SAS 日時値を次の ISO 8601 規格の拡張日時表記のいずれかを使用して書き出します。

- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+00:00`

注: この形式は、`w` の長さがこのタイムゾーン表記に十分な場合に使用します。

- `yyyy-mm-ddThh:mm:ssZ`

注: この形式は、`w` の長さが+00:00 タイムゾーン表記に十分でない場合に使用します。

`yyyy`

4 桁の年です。

`mm`

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

`dd`

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

`hh`

00 から 24 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

`mm`

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

`ss`

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

`+00:00`

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間であることを示します。

タイムゾーンオフセットが指定された ISO 8601 規格の時間値または日時値は、オフセットに示された時間数と分数によって調整され、基準子午線(イギリスのグリニッジ)の時間または日時として処理されます。E8601DZ 出力形式は、常に+00:00 の基準子午線オフセット値を使用して日時値を書き出します。+00:00 以外の UTC オフセットを使用して日時を書き出すには、[“E8601LZ 出力形式” \(136 ページ\)](#)を参照してください。

制約: 短い形式+00 はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+00:00 UTC 時間であることを示します。出力形式の幅が+00:00 表記に十分でない場合は、Z を使用します。

例

```
put edz e8601dz;
```

edz の値	結果
1663332780	2012-09-15T12:53:00+00:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601LX 出力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+|-hh:mm` を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	右
サポート:	ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4.2

構文

E8601LX*w*

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 20-35

詳細

E8601LX 出力形式は、ISO 8601 規格の基本日時表記を使用し、時間値を調整せずに書き出してローカル SAS セッションに対応した UTC タイムゾーンオフセットを追加します。

- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+hh:mm`

yyyy
4 桁の年です。

mm
01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd
01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-hh:mm (つまり、+または-を伴う 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+02:00 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-06:00 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-hh はサポートされていません。

例

この PUT ステートメントは東部タイムゾーンに対応した時間を書き出します。

```
blx='01Feb2013T12:34:56'dt;
put blx e8601lx.;
```

blx の値	結果
1675341296	2013-02-01T12:34:56-05:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601LZ 出力形式

ISO 8601 規格の拡張時間表記 *hh:mm:ss+|-hh:mm* を使用して、ローカル SAS セッションに対応した協定世界時(UTC)のオフセットを追加することにより、時間値をローカル時間として書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
別名:	IS8601LZw.
サポート:	ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

E8601LZw.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

詳細

E8601LZ 出力形式は、次の ISO 8601 規格の拡張時間表記のいずれかを使用して時間値を調整せずに書き出し、ローカル SAS セッションに対応した UTC タイムゾーンオフセットを追加します。

- *hh:mm:ss+|-hh:mm*

注: この形式は、*w* の長さがこの時間表記に十分である場合に使用します。

- *hh:mm:ssZ*

注: この形式は、*w* の長さが+|- *hh:mm* タイムゾーン表記に十分でない場合に使用します。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-*hhmm*

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは+|-*hh:mm* (つまり+または-に続く 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+02:00 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-06:00 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-*hh* はサポートされていません。

Z

基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+00:00 UTC 時間であることを示します。

SAS では、時間値を *hh:mm.ffffff* 形式を使用して書き出し、ローカル SAS セッションに対応した基準子午線とのタイムゾーンオフセットのタイムゾーンインジケータ+|-*hh:mm* または *Z* を追加します。*Z* タイムゾーンインジケータは、出力形式の長さの値が 14 未満の場合に使用されます。

両方のゾーンインジケータを使用して同じ時間を書き出す場合、UTC に基づく 2 つの異なる時間を示します。たとえば、ローカル SAS セッションでアメリカの東部標準時が使用され、その時間値が 45824 である場合、12:43:44-04:00 または 12:43:44Z が書き出されます。時間 12:43:44-04:00 は、基準子午線の時間の 16:43:44+00:00 です。*Z* は、その時間が基準子午線の時間である、つまり 12:43:44+00:00 であることを示します。

SAS では UTC 時間を E8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 00:00:00 と 24:00:00 の間になるように値を調整します。E8601LZ 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

例

この PUT ステートメントは東部タイムゾーンに対応した時間を書き出します。

```
put elz e8601lz;
```

elz の値	結果
46380	12:53:00-5:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601TM 出力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *hh:mm:ss.ffffff* を使用して時間値を書き出します。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 左
- 別名:** IS8601TM*w.d*
- 制限事項:** UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
- 操作:** DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。
- サポート:** ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation, and 5.3.1.3, representation of decimal fractions

構文

E8601TM*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 8-15

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

E8601TM 出力形式は、SAS 時間値を ISO 8601 規格の拡張時間表記 *hh:mm:ss.ffffff* を使用して書き出します。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

put etm e8601tm.;

etm の値	結果
57180	15:53:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601TX 出力形式

協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ローカルの時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 *hh:mm:ss+|-hh:mm* を使用して読み込まれます。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
- 配置:** 右
- サポート:** ISO 8601 Elements 5.3.3 and 5.3.4
-

構文

E8601TX*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間を示します。SAS は、この出力形式を使用して、時間値を UTC 値に変換したり、TIMEZONE=システムオプションの値を使用することで、ユーザーのローカル時間を決定したりします。TIMEZONE=オプションが設定されていない場合、ユーザーのローカル時

間は、ローカル時間に基づきます。E8601TX 出力形式は、SAS 日時値を次の ISO 8601 規格の基本時間表記を使用して書き出します。

- *hh:mm:ss+|-hh:mm*

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

+|-*hhmm*

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-*hhmm* (つまり、+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-*hh* はサポートされていません。

SAS では UTC 時間を E8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 000000 と 240000 の間になるように値を調整します。E8601TX 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

例

最初の例では、時間とタイムゾーンオフセットの決定にローカル時間を使用します。2 番目の例では、タイムゾーンを America/Adak に変更します。それはハワイ-アリューシャン標準時です。

ステートメント	結果
<pre>data _null_; t='12:34:56't; put t e8601tx.; run;</pre>	07:34:56-05:00
<pre>options timezone='America/Adak'; data _null_; t='12:34:56't; put t e8601tx.; run;</pre>	02:34:56-10:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

E8601TZ 出力形式

時間値を協定世界時(UTC)に調整し、時間値を ISO 8601 規格の拡張表記 *hh:mm:ss.<fff>+|-hh:mm* を使用して書き出します。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
別名:	IS8601TZw.d
操作:	DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“ DECIMALCONV= System Option ” (SAS Viya System Options: Reference)を参照してください。
サポート:	ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

E8601TZw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 時間値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。E8601TZ 出力形式は、時間値を次の ISO 8601 規格の拡張時間表記のいずれかを使用して書き出します。

- *hh:mm:ss<.fff>+|-hh:mm*

注 この形式は、w の長さがこのタイムゾーン表記に十分な場合に使用します。

- *hh:mm:ssZ*

注 この形式は、w の長さが+|-hh:mm タイムゾーン表記に十分でない場合に使用します。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

fff

オプションの秒の端数です。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-hh:mm (つまり、+または-を伴う 5 文字)である必要があります。

制約: 短い形式+|-hh はサポートされていません。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+02:00 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-06:00 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

Z

基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+00:00 UTC 時間であることを示します。

SAS では UTC 時間を E8601TZ 入力形式を使用して読み込む際に、オフセット調整後の時間が 24 時間を超えていたり 00 時間未満である場合、オフセット調整後の時間が 00:00:00 と 24:00:00 の間になるように値を調整します。E8601TZ 出力形式をこの時間範囲外の時間に適用する場合、時間はアスタリスクを使用してフォーマットされ、その値が範囲外であることが示されます。

比較

00:00:00 と 24:00:00 の間の時間値に対して、B8601TZ 出力形式は時間値を基準子午線の時間に調整し、調整後の値を国際規格の拡張時間表記で書き出します。B8601LZ 出力形式は時間を調整せず、ローカル SAS セッションの UTC タイムゾーンオフセットを使用して時間値を国際規格の拡張時間表記で書き出します。

例

```
put etz e8601tz.;
```

etz の値	結果
17024	04:43:44+00:00
85424	23:43:44+00:00

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の処理” \(14 ページ\)](#)

EURO 出力形式

先頭にユーロ(E)記号を付け、3桁ごとにカンマを入れ、小数部分との区切りにはピリオドを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

構文

EURO*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

ヒント 出力にユーロ記号を含める場合、適切な幅を選択していることを確認してください。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-31

要件 *w* より小さい数にします。

比較

- EURO*w.d* 出力形式は EUROX*w.d* 出力形式に似ていますが、EUROX*w.d* 出力形式は小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。
- EURO*w.d* 出力形式は DOLLAR*w.d* 出力形式に似ていますが、DOLLAR*w.d* 出力形式は先頭にユーロ記号のかわりにドル記号を付けます。

例

この例では、金額の値に 1254.71 を使用します。

ステートメント	結果
	----+----1----+----2----+----3
put amount euro10.2;	E1,254.71
put amount euro5.;	E1255
put amount euro9.2;	E1,254.71
put amount euro15.3;	E1,254.710

```

data _null_;
input x;
put x euro10.2;
put x euro5.;;
put x euro9.2;
put x euro15.3;
datalines;
1254.71
;

```

```

run;
SAS Log:
E1,254.71
E1255
E1,254.71
E1,254.710

/* This code determines the default length. */
data _null_;
  input x;
  put x euro.;
  datalines;
1
22
333
4444
55555
666666
7777777
88888888
999999999
1234561234
;run;
SAS Log:
  datalines;
  E1
  E22
  E333
  E4,444
  55,555
  666666
  7.78E6
  8.89E7
  1E9
  1.23E9
NOTE: At least one W.D format was too small for the number to be printed.
The decimal may be shifted by the "BEST" format.

/* This code determines the range. */
data _null_;
  input x;
  put x euro5.;
  put x euro6.;
  put x euro7.;
  put x euro8.;
  put x euro9.;
  put x euro9.2;
  put x euro10.;
  put x euro10.2;
  put x euro10.4;
  put x euro11.;
  put x euro11.3;
  put x euro12.;
  put x euro12.2;
  put x euro13.;
  put x euro13.2;
  datalines;

```

333
 4444
 55555
 666666
 7777777
 88888888
 999999999
 1234561234
 ;run;

関連項目:

出力形式:

- [“EUROX 出力形式” \(145 ページ\)](#)

入力形式:

- [“EURO 入力形式” \(420 ページ\)](#)
- [“EUROX 入力形式” \(422 ページ\)](#)

EUROX 出力形式

先頭にユーロ(E)記号を付け、3桁ごとにピリオドを入れ、小数部分との区切りにはカンマを使用して数値を出力します。

カテゴリ: 数値
 CAS
配置: 右

構文

EUROX $w.d$

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

ヒント

出力にユーロ記号を含める場合、適切な幅を選択していることを確認してください。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

比較

- EUROX $w.d$ 出力形式は EUROW d 出力形式に似ていますが、EUROW d 出力形式では、カンマと小数点の役割が逆になっています。この規則は英語圏の国で共通です。
- EUROX $w.d$ 出力形式は DOLLARX $w.d$ 出力形式に似ていますが、DOLLARX $w.d$ 出力形式は先頭にユーロ記号のかわりにドル記号を付けます。

例

この例では、金額の値に 1254.71 を使用します。

ステートメント	結果
	----+----1----+----2----+----3
put amount eurox10.2;	E1.254,71
put amount eurox5.;	E1255
put amount eurox9.2;	E1.254,71
put amount eurox15.3;	E1.254,710

```
data _null_;
  input x;
  put x eurox10.2;
  put x eurox5.;;
  put x eurox9.2;
  put x eurox15.3;
  datalines;
1254.71
; run;
SAS Log:
E1.254,71
E1255
E1.254,71
  E1.254,710

/* This code determines the default length. */
data _null_;
  input x;
  put x eurox.;;
  datalines;
1
22
333
4444
55555
666666
7777777
```

```

88888888
999999999
1234561234
;run;
SAS Log:
  E1
  E22
  E333
E4,444
55.555
666666
7.78E6
8.89E7
  1E9
1.23E9

```

注: 1 つ以上の W.D 出力形式において、数値を出力するには幅の長さが十分ではありませんでした。"BEST"出力形式が使用されて、10 進数のシフトが行われた可能性があります。

関連項目:

出力形式:

- ["EURO 出力形式" \(142 ページ\)](#)

入力形式:

- ["EURO 入力形式" \(420 ページ\)](#)
- ["EUROX 入力形式" \(422 ページ\)](#)

FLOAT 出力形式

数値に 10 の d 乗を掛けた、単精度のネイティブ浮動小数点値を書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

FLOAT $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

要件 幅は 4 である必要があります。

d

値を乗算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト	0
範囲	0-31

詳細

この出力形式は、浮動数値が倍精度の切り捨て値と異なる動作環境に使用します。FLOAT4.によって書き出される値は通常、使用している動作環境で実行される、単精度値を扱う他の外部プログラムによって読み込まれるための値です。

注: フォーマットされる値が欠損値、あるいは単精度のネイティブ浮動小数点の範囲外である場合、ゼロの単精度の値が生成されます。

IBM メインフレームシステム上では、4 バイトの浮動小数点数は 8 バイトに切り捨てられた浮動小数点数と同じです。ただし、IEEE 浮動小数点数規格の動作環境(IBM PC、LINUX など)では、4 バイトの浮動小数点数は倍精度の切り捨て値と異なります。つまり、RB4.出力形式は、FLOAT4.出力形式と同じ結果を生成しません。IEEE 以外の浮動小数点表現にもこの同じ特徴がみられます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語での浮動表記を比較したものです。

言語	浮動表記
SAS	FLOAT4
Fortran	REAL+4
C	float
IBM 370 ASM	E
PL/I	FLOAT BIN(21)

例

```
put x float4.;
```

x の値	結果 *
1	3F800000

* 結果は、IEEE 形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。

FRACT 出力形式

数値を分数に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

構文

FRACT*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 4-32

詳細

1 を 3 で割ると、値は 0.33333333 となります。この値を 1/3 として書き出すには、FRACT*w*. 出力形式を使用します。FRACT*w*. は、分数を約分して書き出します。50/100 は 1/2 となります。

例

```
put x fract8.;
```

x の値	結果
	----+----1
0.6666666667	2/3
0.2784	174/625

HEX 出力形式

バイナリ実数(浮動小数点)値を 16 進表現に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

HEX*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト	8
範囲	1-16
ヒント	$w < 16$ の場合、HEX w .出力形式はバイナリ実数を固定小数点数に変換してから 16 進表現に変換します。また、負数を 2 つの補数にして右揃えで書き出します。 w が 16 の場合、HEX w .は浮動小数点数値を 16 進表現で表示します。

詳細

HEX w .出力形式は、バイナリ実数(浮動小数点)値を 16 進表現に変換します。幅の値 1 から 15 を指定したときに、バイナリ実数は 16 進に変換される前は固定小数点整数に切り捨てられます。16 を幅と指定したときに、SAS は数字の浮動小数点値を書き込みますが、切り捨てはしません。

どの動作環境でも、HEX w .によって書き出される最下位バイトは右端のバイトになります。

注: 動作環境によって浮動小数点数の保存方法は異なります。しかし、HEX16.出力形式は、使用されている動作環境での保存方法と同じように、16 進表現の浮動小数点数を書き出します。

比較

HEX w . 数値出力形式と \$HEX w . 文字出力形式は、ともに値を 16 進表現に変換します。

例

```
put @8 x hex8.;
```

x の値	結果
	----+----1----+----2
35.4	00000023
88	00000058
2.33	00000002
-150	FFFFFF6A

HHMM 出力形式

SAS 時間値を時間および分として *hh:mm* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“DECIMALCONV= System Option” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

HHMM $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 2-20

d

分値の小数点以下の桁数を指定します。小数点以下の桁数は、分の端数を示します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-19

要件 w より小さい数にします。

詳細

HHMM $w.d$ 出力形式は、SAS 時間値を $hh:mm$ 形式で書き出します。

hh

整数です。

注: hh が 1 桁の場合、HHMM $w.d$ はその桁の前に先頭の空白を置きます。たとえば、HHMM $w.d$ 出力形式は、09:00 ではなく 9:00 と書き出します。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

時間と分は、SAS 時間値の秒値に基づき丸められます。

HHMM 出力形式では、アスタリスクを使用して、0-24 時間の時間範囲外の値(日時値など)をフォーマットします。

比較

HHMM $w.d$ 出力形式は TIME $w.d$ 出力形式とほぼ同じですが、HHMM $w.d$ 出力形式は秒を出力しません。

HHMM $w.d$ 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭に空白を書き出します。TOD $w.d$ 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭にゼロを書き出します。

例

例の表では、46796 を入力値として使用します。この値は、午後 12:59:56 に相当する SAS 時間値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put time hhmm.;	13:00
put time hhmm8.2;	12:59.93

最初の例では、SAS 時間値の秒値に基づき、時間値が 4 秒切り上げられます。2 番目の例では、出力形式に小数点以下の桁数として 2 を追加指定することにより、56 秒が 1 分の 93%として表示されています。

関連項目:

出力形式:

- [“HOUR 出力形式” \(152 ページ\)](#)
- [“MMSS 出力形式” \(165 ページ\)](#)
- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)
- [“TOD 出力形式” \(278 ページ\)](#)

関数:

- [“HMS Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“HOUR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MINUTE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“SECOND Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“TIME Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)

HOUR 出力形式

SAS 時間値を時間および時間の小数として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

HOUR $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 2

範囲 2-20

d

時間値の小数点以下の桁数を指定します。時間の小数が出力されます。この引数はオプションです。

範囲 0-19

要件 w より小さい数にします。

詳細

時間は、SAS 時間値の分値に基づき丸められます。

HOUR 出力形式では、アスタリスクを使用して、0-24 時間の時間範囲外の値(日時値など)をフォーマットします。

例

例の表では、41400 を入力値として使用します。この値は、午前 11:30 に相当する SAS 時間値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put time hour4.1;	11.5

関連項目:

出力形式:

- [“HHMM 出力形式” \(150 ページ\)](#)
- [“MMSS 出力形式” \(165 ページ\)](#)
- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)
- [“TOD 出力形式” \(278 ページ\)](#)

関数:

- [“HMS Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“HOUR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

- “MINUTE Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “SECOND Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “TIME Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))

入力形式:

- “TIME 入力形式” (478 ページ)

IB 出力形式

負の値を含む、ネイティブのバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

IB*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

IB*w.d* 出力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。IB*w.d* では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、バイナリ整数値を書き出します。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (8 ページ)を参照してください。

比較

IB*w.d* と PIB*w.d* 出力形式は、ネイティブな形式の整数を書き出すために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBR*w.d* と PIBR*w.d* 出力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,ib4.);
put y $hex8.;
```

x の値	ビッグエンディアンプラットフォームでの結果 *	リトルエンディアンプラットフォームでの結果 *
	----+----1	----+----1
128	00000080	80000000

* 結果は、4 バイトのバイナリ整数を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式:

- [“IBR 出力形式” \(155 ページ\)](#)

IBR 出力形式

Intel および DEC 形式のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

IBR*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

IBRw.d 出力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。IBRw.d は、Intel および DEC の動作環境で生成されるバイナリ整数値を書き出します。IBRw.d を使用して、Intel または DEC の環境のバイナリ整数データを他の動作環境に書き出します。SAS コードの IBRw.d 出力形式によって、動作環境に関係なくデータを書き出すためのポータブルな実装が用意されます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (8 ページ)を参照してください。

比較

- IBw.d と PIBw.d 出力形式は、ネイティブな形式の整数を書き出すために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)
- IBRw.d と PIBRw.d 出力形式は、書き出しを実行する動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を書き出すために使用されます。
- Intel および DEC の環境では、IBw.d と IBRw.d 出力形式は同じものです。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表示するには、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,ibr4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果*
	----+----1
128	80000000

* 結果は、4 バイトのバイナリ整数を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式:

- “[IB 出力形式](#)” (154 ページ)

IEEE 出力形式

数値を 10^d の d 乗し、IEEE 浮動小数点値を生成します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 左

注意: 値が大きい浮動小数点数値や有効桁数が必要な浮動小数点数値は、IEEE 出力形式を使用して IBM メインフレームに書き出し、IEEE 入力形式で読み込みなおす場合、元の SAS 値とは異なる場合があります。

構文

IEEE*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 3-8

ヒント w が 8 の場合、IEEE の倍精度浮動小数点数が書き出されます。 w が 5、6 または 7 の場合、相当するバイト数が切り捨てられたと仮定して、IEEE の倍精度浮動小数点数が書き出されます。 w が 4 の場合、IEEE の単精度浮動小数点数が書き出されます。 w が 3 の場合、1 バイトが切り捨てられたと仮定して、IEEE の単精度浮動小数点数が書き出されます。

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

この出力形式は、IEEE*w.d* が使用される浮動小数点数表現である動作環境で使用されます。また、IEEE*w.d* 出力形式を使用して、IEEE 浮動小数点数表現を使用する動作環境のプログラムによって使用されるファイルを作成することもできます。

通常プログラムは、単精度(4 バイト)または倍精度(8 バイト)で IEEE 値を生成します。プログラムは、出力ファイルのスペースを削減する場合にのみ切り捨てを実行します。機械語命令では、浮動小数点数が 4 バイトまたは 8 バイトのいずれかである必要があります。IEEE*w.d* 出力形式では、他の長さも処理できるため、スペースの削減のために切り捨てられたデータを含むファイルにデータを書き込めます。

例

```
test1=put(x,ieee4.);
put test1 $hex8.;
test2=put(x,ieee5.);
put test2 $hex10.;
```

x の値	結果*
1	3F800000
	3FF0000000

* 結果は、IEEE 形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。

JULDAY 出力形式

SAS 日付値からユリウス暦の日付部分を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 右

構文

JULDAY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 3

範囲 3-32

詳細

JULDAY*w*.出力形式では、SAS 日付値を *ddd* 形式で書き出します。

ddd

1 から 365 まで(うるう年の場合は 1 から 366 まで)の日数です。例の表では、18993 と 19068 を入力値として使用します。

例

18993 は 2012 年 1 月 1 日に、19068 は 2012 年 3 月 16 日にそれぞれ相当する SAS 日付値です。

入力値	SAS ステートメント	結果
		----+----1

入力値	SAS ステートメント	結果
18993	put date julday3.;	1
19068	put date julday3.;	76

JULIAN 出力形式

SAS 日付値を *yyddd* または *yyyyddd* 形式のユリウス日付として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

JULIAN*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 5-7

ヒント

w が 5 の場合、JULIAN*w*.出力形式では日付の年の部分を 2 桁で書き出します。*w* が 7 の場合、JULIAN*w*.出力形式では日付の年の部分を 4 桁で書き出します。

詳細

JULIAN*w*.出力形式では、SAS 日付値を *yyddd* または *yyyyddd* 形式で書き出します。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

ddd

1 から 365 まで(うるう年の場合は 1 から 366 まで)の年の日数です。

例

例の表では、19114 を入力値として使用します。この値は 2012 年 5 月 1 日(年の 122 日目)に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1

SAS ステートメント	結果
put date julian5.;	12122
put date julian7.;	2012122

関連項目:

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)

MDYAMPM 出力形式

SAS 日時値を *mm/dd/yy<yy> hh:mm AM|PM* 形式で書き出します。年は 2 桁または 4 桁で表示されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

注: デフォルトの時間は AM です。

構文

MDYAMPM*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 8-40

詳細

MDYAMPM*w.d* 出力形式は、SAS 日時値を次の形式で書き出します。

mm/dd/yy<yy> hh:mm<AM | PM>:

mm

月を表す 1 から 12 までの整数です。

dd

月の日を表す 1 から 31 の整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

hh

時間を表す 00 から 23 までの整数です。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

AM | PM

00:01–12:00 正午(AM)または 12:01–12:00 深夜(PM)のいずれかです。デフォルトは AM です。

日時の区切り文字

SAS で日付要素と時間要素を区切るために使用するスラッシュ(/)、コロン(:)、空白文字などの特殊文字のいずれか 1 つです。

比較

MDYAMP Mw. 出力形式は、日時値を区切り文字付きの *mm/dd/yy<yy> hh:mm* AM | PM 形式で書き出します。日付と時間の間にスペースが挿入されます。

DATETIME w.d 出力形式は、日時値を区切り文字付きの *ddmmyy<yy>:hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

例

例の表では、1663343580 を入力値として使用します。この値は 2012 年 9 月 15 日の午後 3:53:00 に相当する SAS 日時値です。

SAS ステートメント	結果
put dt mdyampm25.	9/15/2012 3:53 PM

関連項目:

出力形式:

- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)

入力形式:

- [“MDYAMP 入力形式” \(433 ページ\)](#)

MMDDYY 出力形式

SAS 日付値を *mmdd<yy>yy* または *mm/dd/<yy>yy* 形式で書き出します。スラッシュが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

MMDDYY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-10

操作 *w* の値が 2 から 5 までの場合、月と日が可能な範囲で出力されます。*w* が 7 の場合、年を 2 桁で表し、スラッシュを使わずに出力します。詳細については、次の例を参照してください。

詳細

MMDDYY*w*.出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

mmdd<*yy*>*yy*

mm/dd/<*yy*>*yy*:

ここで、

mm

月を表す整数です。

/

区切り文字です。

dd

月の日を表す整数です。

<*yy*>*yy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、19291 を入力値として使用します。この値は、2012 年 10 月 25 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put day mmdyy2.;	10
put day mmdyy3.;	10
put day mmdyy4.;	1025
put day mmdyy5.;	10/25

SAS ステートメント	結果
put day mmddyy6.;	102512
put day mmddyy7.;	102512
put day mmddyy8.;	10/25/12
put day mmddyy10.;	10/25/2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYYx 出力形式” \(163 ページ\)](#)
- [“YMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“YMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

MMDDYYx 出力形式

SAS 日付値を *mmdd<yy>yy* または *mm-dd-<yy>yy* 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、月、日、年を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

MMDDYY*xw*.

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字を日、月、年の間に挿入しないことを示します。x の値として、次の値が有効です。

B

空白で区切ります。

C

コロンの区切ります。

D

ハイフンで区切ります。

N

区切り文字なしを表します。

P

ピリオドで区切ります。

S

スラッシュで区切ります。

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-10

操作 w の値が 2 から 5 までの場合、月と日が可能な範囲で出力されます。w が 7 の場合、日付の年は 2 桁で、区切り文字を使用せずに表示されます。詳細については、次の例を参照してください。

x の値が N の場合、幅の範囲は 2-8 に変化します。

詳細

MMDDYYxw. 出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

mmdd<yy>yy

mmxddx<yy>yy

ここで、

mm

月を表す整数です。

x

指定された区切り文字です。

dd

月の日を表す整数です。

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、入力値として 19127 を使用します。この入力値は、2012 年 5 月 14 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put day mmddyyc5.;	05:14
put day mmddyid8.;	05-14-12
put day mmddyyp10.;	05.14.2012
put day mmddyyn7.;	051412
put day mmddyyn8.;	05142012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYYx 出力形式” \(116 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YMMDDx 出力形式” \(303 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)

MMSS 出力形式

SAS 時間値を午前 0 時から経過した分数および秒数として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

MMSS $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 2-20

ヒント 分数と秒数を表す値を書き出すには、 w に少なくとも 5 を指定します。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。このため、SAS 時間値には秒の端数が含まれます。この引数はオプションです。

範囲 0-19

制限事項 w より小さい数にします。

詳細

MMSS 出力形式では、アスタリスクを使用して、0-24 時間の時間範囲外の値(日時値など)をフォーマットします。

例

次の例では、入力値として 4530 を使用します。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put time mmss.;	75:30

関連項目:

出力形式:

- [“HHMM 出力形式” \(150 ページ\)](#)
- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)

関数:

- [“HMS Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MINUTE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“SECOND Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)

MMYY 出力形式

SAS 日付値を *mmM<yy>yy* 形式で書き出します。M は区切り文字を表し、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

MMYY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 5-32

操作 *w* の値が 5 または 6 の場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。*w* が 7 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

MMYY*w*.出力形式は、SAS 日付値を *mmM<yy>yy* 形式で書き出します。

mm

月を表す整数です。

M

区切り文字です。

<*yy*>*yy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、19291 を入力値として使用します。この値は、2012 年 10 月 25 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date mmyy5.;	10M12

SAS ステートメント	結果
put date mmyy6.;	10M12
put date mmyy.;	10M2012
put date mmyy7.;	10M2012
put date mmyy10.;	10M2012

関連項目:

出力形式:

- [“MMYYx 出力形式” \(168 ページ\)](#)
- [“YYMM 出力形式” \(299 ページ\)](#)

MMYYx 出力形式

SAS 日付値を *mm<yy>yy* または *mm-<yy>yy* 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、月と年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

MMYY*xw*.

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字が月と年の間に挿入しないことを示します。*x* の値として、次の値が有効です。

C

コロンで区切ります。

D

ハイフンで区切ります。

N

区切り文字なしを表します。

P

ピリオドで区切ります。

S

スラッシュで区切ります。

w

出力幅を指定します。

デフ 7
オル
ト

範囲 5-32

操作 x を N に設定すると、区切り文字なしを指定します。この場合の幅範囲は 4-32 になり、デフォルトは 6 に変化します。

x の値が C、D、P または S で、 w の値が 5 または 6 の場合、日付の年は下 2 桁のみ表示されます。 w が 7 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

x の値が N で、 w の値が 4 または 5 の場合、日付の年は下 2 桁のみ表示されます。 x の値が N で、 w が 6 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

MMYY xw .出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

$mm<yy>yy$

$mmx<yy>yy$

ここで、

mm

月を表す整数です。

x

指定された区切り文字です。

$<yy>yy$

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

例

次の例では、19127 を入力値として使用します。この値は、2012 年 5 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date mmyyc5.;	05:12
put date mmyyd.;	05-2012
put date mmyyn4.;	0512
put date mmyyp8.;	05.2012
put date mmyys10.;	05/2012

関連項目:**出力形式:**

- [“MMYY 出力形式” \(167 ページ\)](#)
- [“YYMMx 出力形式” \(305 ページ\)](#)

MONNAME 出力形式

SAS 日付値を月の名前として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

MONNAME*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 1-32

ヒント MONNAME3.を使用すると、月名の最初の 3 文字が出力されます。

詳細

必要に応じて、出力形式の幅に合うように月名が切り捨てられます。

例

例の表では、19057 を入力値として使用します。この値は 2012 年 3 月 5 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date monname1.;	M
put date monname3.;	Mar
put date monname5.;	March

関連項目:**出力形式:**

- [“MONTH 出力形式” \(171 ページ\)](#)

MONTH 出力形式

SAS 日付値を月として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

MONTH*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 2

範囲 1-32

ヒント MONTH1.を使用すると、16 進値が出力されます。

詳細

MONTH*w*.出力形式は、SAS 日付値から月(1 から 12 まで)を書き出します。月が 1 桁の場合、MONTH*w*.出力形式では、その桁の前に先頭の空白が置かれます。たとえば、MONTH*w*.出力形式は、04 ではなく 4 と書き出します。

例

例の表では、19127 を入力値として使用します。この値は 2012 年 5 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date month,;	5

関連項目:**出力形式:**

- [“MONNAME 出力形式” \(170 ページ\)](#)

MONYY 出力形式

SAS 日付値を月および年として *mmm*yy または *mmmyyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

MONYY*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 5-7

詳細

MONYY*w*.出力形式は、SAS 日付値を *mmm*yy または *mmmyyyy* 形式で書き出します。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

比較

MONYY*w*.出力形式と DTMONYY*w*.出力形式は、どちらも日付値を書き出すという点でほぼ同じです。相違点は、MONYY*w*.が 入力として SAS 日付値を必要とし、DTMONYY*w*.は日時値が必要であることです。

例

例の表では、19127 を入力値として使用します。この値は 2012 年 5 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date monyy5.;	MAY12
put date monyy7.;	MAY2012

関連項目:**出力形式:**

- “DDMMYY 出力形式” (115 ページ)
- “DTMONYY 出力形式” (123 ページ)
- “MMDDYY 出力形式” (161 ページ)
- “YMMDD 出力形式” (301 ページ)

関数:

- “MONTH Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “YEAR Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)

入力形式:

- “MONYY 入力形式” (436 ページ)

NEG-PAREN 出力形式

負の数値をカッコで囲んで書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“DECIMALCONV= System Option” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

NEG-PAREN*w.d*

構文の説明

w 出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d 数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NEGPARENw.d 出力形式は、出力値を右揃えにします。入力値が負の場合、NEGPARENw.d は、指定したフィールドの幅が十分な場合は値をカッコで囲って出力を表示します。フィールドの幅が十分でない場合は、負の値を表すためにマイナス符号が使用されます。入力値が負でない場合、NEGPARENw.d は、適切なカラム配置を確実にするために値を先頭および末尾の空白とともに表示します。値が正の場合でも、最後のカラムは右かっこ用に確保されます。

比較

NEGPARENw.d 出力形式と COMMAw.d 出力形式は、各値を 3 桁ごとにカンマで区切るという点では同じです。

例

```
put @1 sales negparen8.;
```

sales の値	結果
	---+---1---+
100	100
1000	1,000
-200	(200)
-2000	(2,000)

NENGO 出力形式

SAS 日付値を日本の日付として e.yyymmdd 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NENGOw.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 2-10

詳細

NENGOw.出力形式では、SAS 日付値を *e.yymmdd* 形式で書き出します

e
元号(明治、大正、昭和、平成)の先頭の文字(M、T、S、H)です。

yy
年を表す整数です。

mm
月を表す整数です。

dd
月の日を表す整数です。

幅が小さすぎる場合は、ピリオドが省略されます。

例

例の表では、15342 を入力値として使用します。この値は 2002 年 1 月 2 日に相当する SAS 日付値です。

```
data _null_;
  date=15342;
  put date nengo3;
  put date nengo6;
  put date nengo8;
  put date nengo9;
  put date nengo10;
run
```

ステートメント	結果
	----+----1
put date nengo3;	H14
put date nengo6;	H14/01
put date nengo8;	H.140102
put date nengo9;	H14/01/02
put date nengo10;	H.14/01/02

関連項目:

入力形式:

- [“NENGO Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLBEST 出力形式

ロケールに基づいて最適な数値表記を書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 右

構文

NLBEST*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 12
ト

範囲 1-32

ヒント 0 から.01 の数字(端点を除く)を出力する場合、過度に丸めないように 7 以上のフィールド幅を使用します。0 から-.01 の数字(端点を除く)を出力する場合は、8 以上のフィールド幅を使用します。

詳細

NLBEST 出力形式は、ロケールの小数点と記号の位置に基づいて、最も適切な数値を書き出します。NLBEST は BEST 出力形式に似ています。詳細については、*SAS Viya 出力形式と入力形式: リファレンス*の BEST 出力形式を参照してください。

例

次に、コードのロケールに基づいた結果を示します。

```
x=-1257000
put x nlbest6;
put x nlbest3;
put "=====";
x=-0.1
put x nlbest6;
put x nlbest3;
put "=====";
x=0.1
put x nlbest6;
put x nlbest3;
put "=====";
x=1257000
put x nlbest6;
```

```
put x nlbest3,;
```

ロケール	結果
locale=English_UnitedStates	-126E4 *** ===== -0.1 -.1 ===== 0.1 0.1 ===== 1.26E6 1E6
locale=German_Germany	-126E4 *** ===== -0,1 -,1 ===== 0,1 0,1 ===== 1,26E6 1E6
locale=ar_BH	126E4- *** ===== 0.1- .1- ===== 0,1 0,1 ===== 1.26E6 1E6

NLDATE 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

注: CAS サーバーでは WORDDATE 出力形式のかわりに NLDATE 出力形式を使用します。

構文

NLDATE*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

注: 指定の幅に基づいて、LONG、MEDIUM、SHORT などの出力形式パターンが使用されます。

デフォルト 20

範囲 10-200

比較

NLDATE*w*.は DATE*w*.および WORDDATE*w*.と似ていますが、NLDATE*w*.がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、15760 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日に相当する SAS 日付値です。

ステートメント	結果
	----+----1----+----2
options locale=English_UnitedStates; put day nldate.;	February 24, 2003
options locale=German_Germany; put day nldate.;	24. Februar 2003

関連項目:**出力形式:**

- “NLDATEMN 出力形式” (184 ページ)
- “NLDATEW 出力形式” (186 ページ)
- “NLDATEWN 出力形式” (187 ページ)

NLDATEL 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATEL*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 18

範囲 2-220

詳細

NLDATEL では、長い形式で月と週の名前を含むが出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATEL min=2 default=18 max=200 ---+
dt = datetime();	November 19, 2012
dy = date();	11/19/2012
put "+--- NLDATEL min=2 default=18	Nov 19, 2012
max=200 ---+";	November 19, 2012
put dy nldatel.;	November 19, 2012
put dy nldatel10.;	
put dy nldatel12.;	
put dy nldatel18.;	
put dy nldatel200.;	
run;	

NLDATEM 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEM*w*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 14

範囲 2-200

詳細

NLDATEM では、Nov 19, 2012 など、簡略形式で日付が出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATEM min=2 default=14 max=200 ---+"; put dy nldatem.; put dy nldatem8.; put dy nldatem14.; put dy nldatem200.; run;	+--- NLDATEM min=2 default=14 max=200 ---+ Nov 19, 2012 11/19/12 Nov 19, 2012 Nov 19, 2012

NLDATEMD 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMD*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 6-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
put 1 nldatmd;	January 02

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATEYM 出力形式” \(188 ページ\)](#)

NLDATMDL 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMDL*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 12

範囲 5-200

詳細

NLDATEMDL では、November 19 など、長い形式で月と日を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATEMDL min=5 default=12 max=200 ---+"; put dy nldatmdl; put dy nldatmdl5; put dy nldatmdl9; put dy nldatmdl12; put dy nldatmdl200; run;	+--- NLDATEMDL min=5 default=12 max=200 ---+ November 19 11/19 Nov 19 November 19 November 19

NLDATEMDM 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATEMDM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 9

範囲 5-200

詳細

NLDATEMDM では、Nov 19 など、短縮形を使用した簡略形式で月と日を含む日付が出力されます。月名が数字に短縮される場合は、区切り文字が使用されません。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATEMDM min=5 default=9 max=200 ---+
dt = datetime();	Nov 19
dy = date();	11/19
put "+--- NLDATEMDM min=5 default=9	Nov 19
max=200 ---+";	Nov 19
put dy nldatmdm;	
put dy nldatmdm5;	
put dy nldatmdm9;	
put dy nldatmdm200;	
run;	

NLDATEMDS 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEMDS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 5

範囲 5-200

詳細

NLDATEMDS では、MM/dd など、数字と区切り文字を使用した短い形式で月と日を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATEMDS min=5 default=5 max=200 ---+
dt = datetime();	11/19
dy = date();	11/19
put "+--- NLDATEMDS min=5 default=5	11/19
max=200 ---+";	11/19
put dy nldatemds.;	
put dy nldatemds5.;	
put dy nldatemds5.;	
put dy nldatemds200.;	
run;	

NLDATEMN 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から月の名前を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEMN*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように月名が短縮されます。

デフォルト 9

範囲 4-200

比較

NLDATEMN*w*.は MONNAME*w*.と似ていますが、NLDATEMN*w*.がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、15760 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日に相当する SAS 日付値です。

ステートメント	結果
	----+----1
options locale=English_UnitedStates; put month nldatemn.;	February
options locale=German_Germany; put month nldatemn.;	Februar

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATE 出力形式” \(178 ページ\)](#)
- [“NLDATEW 出力形式” \(186 ページ\)](#)
- [“NLDATEWN 出力形式” \(187 ページ\)](#)

NLDATES 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、日、月、年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATES*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 10

範囲 2-200

詳細

NLDATES では、mm/dd/yyyy など、数字と区切り文字のみ使用した短い形式で日付が出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATES min=2 default=10 max=200 ---+
dt = datetime();	11/19/2012
dy = date();	11/19/12
put "+--- NLDATES min=2 default=10	11/19/2012
max=200 ---+";	11/19/2012
put dy nldates.;	
put dy nldates8.;	
put dy nldates10.;	
put dy nldates200.;	
run;	

NLDATEW 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から日付と曜日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

注: CAS サーバーでは WEEKDATE 出力形式のかわりに NLDATEW 出力形式を使用します。

構文

NLDATEW*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付と曜日が短縮されます。

デフォルト 29

範囲 10-200

詳細

エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、デフォルトの幅を使用した NLDATEW 出力形式では正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。推奨される幅を使用するようにします。

比較

NLDATEW*w*は WEEKDATE*w*に似ていますが、NLDATEW*w*がロケール固有である点の違いがあります。

例

これらの例では、15760 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日に相当する SAS 日付値です。

ステートメント	結果
	----+----1-----2
options locale=English_UnitedStates;	Monday, February 24, 2003
date=15760;	Mon, Feb 24, 2003
x=put(date,nldatew.);	Monday, February 24, 2003
y=put(date,nldatew20.);	
z=put(date,nldatew200.);	
run;	
options locale=German_Germany;	Mo., 24. Feb 2003
date=15760;	
x=put(date,nldatew.);	Mo., 24. Feb 2003
y=put(date,nldatew20.);	
z=put(date,nldatew200.);	Montag, 24. Februar 2003
run;	

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATE 出力形式” \(178 ページ\)](#)
- [“NLDATEMN 出力形式” \(184 ページ\)](#)
- [“NLDATEWN 出力形式” \(187 ページ\)](#)

NLDATEWN 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その日付値から曜日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATEWN*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように曜日が短縮されます。

デフォルト 9

範囲 4-200

比較

NLDATEWN*w*.は DOWNAME*w*.と似ていますが、NLDATEWN*w*.がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、15760 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日に相当する SAS 日付値です。

ステートメント	結果
	----+----1
options locale=English_UnitedStates; put date nldatewn.;	Monday
options locale=German_Germany; put date nldatewn.;	Montag

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATE 出力形式” \(178 ページ\)](#)
- [“NLDATEMN 出力形式” \(184 ページ\)](#)
- [“NLDATEW 出力形式” \(186 ページ\)](#)

NLDATEYM 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEYM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 6-200

詳細

データが指定した幅の 6 より大きい場合、出力にはアスタリスクが含まれます。**d=*******. アスタリスクを削除するには PROC LOCALEDATA を使用します。次の例では PROC LOCALEDATA を使用してアスタリスクなしで日付を出力しています。

```
PROC LOCALEDATA;
  LOAD SASLOCALE;
  MODIFY key=DATE_YYMM_SHORT_FORMAT value='%b %y';
  SAVE REGISTRY / _ALL_syntax=SAS;
```

```
data _null_;
  format d nldateym6.;
  d = '17OCT14'd;
  put d=;
  run;
```

```
d=Oct 14
```

例

この例では、ロケールオプションとして spanish_Spain、日付として 2010 年 8 月を使用します。

ステートメント	結果
options locale=spanish_Spain;	
data _null_;	agosto de 2010
dy=today();	ago de 10
x=put(dy, nldateym.);	agosto de 2010
y=put(dy, nldateym12.);	
z=put(dy, nldateym200.);	
run;	

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATEMD 出力形式” \(180 ページ\)](#)

NLDATEYML 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEYML*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 14

範囲 5-200

詳細

NLDATEYML では、November 2012 など、長い形式で年と月を含む日付が出力されます。出力形式の幅に合わせて短縮形が使用されることもあります。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATEYML min=5 default=14 max=200 ---+"; put dy nldateyml; put dy nldateyml7; put dy nldateyml11; put dy nldateyml14; put dy nldateyml200; run;	+--- NLDATEYML min=5 default=14 max=200 ---+ November 2012 11/2012 Nov 2012 November 2012 November 2012

NLDATEYMM 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と年を日付値として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS
配置: 左

構文

NLDATYMM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 11

範囲 5-200

詳細

NLDATYMM では、Nov 2012 など、短縮形を使用した簡略形式で月と年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATYMM min=5 default=11 max=200 ---+"; put dy nldatymm; put dy nldatymm7; put dy nldatymm11; put dy nldatymm200; run;	+--- NLDATYMM min=5 default=11 max=200 ---+ Nov 2012 11/2012 Nov 2012 Nov 2012

NLDATYMS 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS
配置: 左

構文

NLDATEYMS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 7

範囲 5-200

詳細

NLDATEYMS では、mm/yyyy など、数字と区切り文字を使用した短い形式で年と月を含む日付が出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATEYMS min=5 default=7 max=200 ---+
dt = datetime();	11/2012
dy = date();	11/12
put "+--- NLDATEYMS min=5 default=7	11/2012
max=200 ---+";	11/2012
put dy nldateyms.;	
put dy nldateyms5.;	
put dy nldateyms7.;	
put dy nldateyms200.;	
run;	

NLDATEYQ 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEYQ*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト	16
範囲	4-200

詳細

エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、デフォルトの幅を使用した NLDATEYQ 出力形式では正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。推奨される幅を使用するようにします。

例

この例では、fr_FR ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null_;	+--- NLDATEYQ min=4 default=16
dy=today();	max=200 ---+
dt=datetime();	16 T3 08
put "+--- NLDATEYQ min=4 default=16	4 ****
max=200 ---+";	14 T3 08
put ' 16' +5 dy nldateyq.;	32 3e trimestre 2008
put ' 4' +5 dy nldateyq4.;	200
put ' 14' +5 dy nldateyq14.;	3e trimestre 2008
put ' 32' +5 dy nldateyq32.;	
put ' 200' +5 dy nldateyq200.;	
run;	

NLDATEYQL 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEYQLw.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 18

範囲 4-200

詳細

NLDATEYQL では、4th quarter 2012 など、長い形式で年と四半期を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATEYQL min=4 default=18 max=200 ---+"; put dy nldateyql; put dy nldateyql6.; put dy nldateyql7.; put dy nldateyql18.; put dy nldateyql200.; run;	+--- NLDATEYQL min=4 default=18 max=200 ---+ 4th quarter 2013 2013/4 Q4 2013 4th quarter 2013 4th quarter 2013

NLDATEYQM 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して年と四半期値(Q1-Q4)を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATEYQM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 7
 範囲 4-200

詳細

NLDATEYQM では、Q4 2012 など、短縮形を使用した簡略形式で年と四半期を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATEYQM min=4 default=7 max=200 ---+"; put dy nldateyqm.; put dy nldateyqm6.; put dy nldateyqm7.; put dy nldateyqm200.; run;	+--- NLDATEYQM min=4 default=7 max=200 ---+ Q4 2012 2012/4 Q4 2012 Q4 2012

NLDATEYQS 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して年と四半期値(1-4)を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATEYQS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 6
 範囲 4-200

詳細

NLDATEYQS では、2012/4 など、数字と区切り文字を使用した短い形式で年と四半期を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATEYQS min=4 default=6 max=200 ---+
dt = datetime();	2012/4
dy = date();	12/4
put "+--- NLDATEYQS min=4 default=6	2012/4
max=200 ---+";	2012/4
put dy nldateyqs;	
put dy nldateyqs4;	
put dy nldateyqs6;	
put dy nldateyqs200;	
run;	

NLDATEYR 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATEYR*w*.

説明

w 出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 2-200

例

この例では、fr_FR ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null_;	+--- NLDATYEW min=2 default=16
dy=today();	max=200 ---+
dt=datetime();	2008
put "+--- NLDATYEW min=2 default=16	08
max=200 ---+";	2008
put dy nldateyr.;	2008
put dy nldateyr2.;	
put dy nldateyr8.;	
put dy nldateyr200.;	
run;	

NLDATYEW 出力形式

SAS 日付値を、指定されたロケールの日付値に変換し、その値から年と週を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATYEW*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 5-200

例

この例では、fr_FR ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null_;	16 Week 33 2008
dy=today();	5 *****
dt=datetime();	8 W33 08
put "+--- NLDATM min=5 default=16 max=200 ---+";	32 Week 33 2008
put ' 16' +5 dy nldatm;	200
put ' 5' +5 dy nldatm5;	Week 33 2008
put ' 8' +5 dy nldatm8;	
put ' 32' +5 dy nldatm32;	
put ' 200' +5 dy nldatm200;	
run;	

NLDATM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から日時を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日時値が短縮されます。

デフォルト 30

範囲 10-200

比較

The NLDATM*w*.出力形式は DATETIME*w*.出力形式と似ていますが、NLDATM*w*.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、1361709583 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日の午後 12:39:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----+----1-----2----+----3
options locale=English_UnitedStates; put day nldatm.;	24Feb2003:12:39:43
options locale=German_Germany; put day nldatm.;	24. Februar 2003 12.39 Uhr

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATMAP 出力形式” \(199 ページ\)](#)
- [“NLDATMTM 出力形式” \(208 ページ\)](#)
- [“NLDATMW 出力形式” \(210 ページ\)](#)

NLDATMAP 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その日時値から午前または午後付きの日時を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMAP_w.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日時値が短縮されます。

デフォルト 32

範囲 16-200

比較

NLDATMAP_w.出力形式は DATEAMP_w.と似ていますが、NLDATMAP_w.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、1361709583 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日の午後 12:39:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----t----1-----2----t----3
options locale=English_UnitedStates; put event nldatmap.;	February 24, 2003 12:39:43 PM
options locale=Spanish_Mexico; put event nldatmap.;	24/02/2003 12:39:43 PM

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATM 出力形式” \(198 ページ\)](#)
- [“NLDATMTM 出力形式” \(208 ページ\)](#)
- [“NLDATMW 出力形式” \(210 ページ\)](#)

NLDATMDT 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前、月の日および年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMDT*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 18

範囲 10-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
<pre>options locale=en_US; data _null_; x=86400; put x nldatmdt.; run; options locale=en_US; data _null_; x=86400; put x dtdate.; run;</pre>	<pre>January 02, 1960 02JAN60</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATMMD 出力形式” \(202 ページ\)](#)

NLDATML 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時文字列に変換し、月、日、年、時間を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATML*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 30

範囲 9-200

詳細

NLDATML では、November 19, 2012 02:57:44 PM など、長い形式で月、日、年、時間を含む日付が出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
<pre>data _null_; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATML min=9 default=30 max=200 ---+"; put dt nldatml.; put dt nldatml19.; put dt nldatml24.; put dt nldatml30.; put dt nldatml200.; run;</pre>	<pre>+--- NLDATML min=9 default=30 max=200 ---+ November 19, 2012 02:57:44 PM 11/19/2012 14:57:44 Nov 19, 2012 02:57:44 PM November 19, 2012 02:57:44 PM November 19, 2012 02:57:44 PM</pre>

NLDATMM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月名と時間の短縮形を使用して月、日、年、時間を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 24

範囲 9-200

詳細

NLDATMM では、Nov 19, 2012 02:51:40 PM など、短縮形を使用した簡略形式で月、日、年、時間を含む日時が出力されます。

NLDATMMD 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前と月の日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMMD*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 6-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
<pre>options locale=en_US; data _null_ x=put(86400,nldatmmd.); put x=; run;</pre>	January 02

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATMYM 出力形式” \(213 ページ\)](#)

NLDATMMDL 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、長い形式で月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMMDL*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 12

範囲 5-200

詳細

NLDATMMDL では、November 19 など、長い形式で月と日を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATMMDL min=5 default=12 max=200 ---+
dt = datetime();	November 19
dy = date();	11/19
put "+--- NLDATMMDL min=5 default=12	Nov 19
max=200 ---+";	November 19
put dt nldatmmdl.;	November 19
put dt nldatmmdl5.;	
put dt nldatmmdl9.;	
put dt nldatmmdl12.;	
put dt nldatmmdl200.;	
run;	

NLDATMMDM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、短縮形を使用して月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMMDM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 9

範囲 5-200

詳細

NLDATMMDM では、Nov 19 など、短縮形を使用した簡略形式で月と日を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null;	+--- NLDATMMDM min=5 default=9 max=200 ---+
dt = datetime();	Nov 19
dy = date();	11/19
put "+--- NLDATMMDM min=5 default=9	Nov 19
max=200 ---+";	Nov 19
put dt nldatmmdm;	
put dt nldatmmdm5;	
put dt nldatmmdm9;	
put dt nldatmmdm200.;	
run;	

NLDATMMDS 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMMDS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 5

範囲 5-200

詳細

NLDATMMDS では、11/19 など、数字と区切り文字を使用した短い形式で月と日を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATMMDS min=5 default=5 max=200 ---+
dt = datetime();	11/19
dy = date();	11/19
put "+--- NLDATMMDS min=5 default=5	11/19
max=200 ---+";	11/19
put dt nldatmmds.;	
put dt nldatmmds5.;	
put dt nldatmmds5.;	
put dt nldatmmds200.;	
run;	

NLDATMMN 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から月の名前を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMMN*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 4-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	
dt = datetime();	+--- NLDATMMN min=4 default=10
dy = date();	max=200 ---+
put "+--- NLDATEMN min=4 default=10	October
max=200 ---+";	Oct
put dt nldatmmn.;	October
put dt nldatmmn4.;	October
put dt nldatmmn10.;	
put dt nldatmmn200.;	
run;	

NLDATMS 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、MM/dd/yyyy の形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 19

範囲 9-200

詳細

NLDATMS では、MM/dd/yyyy hh:mm:ss など、数字と区切り文字を使用した短い形式で月、日、年、時間を含む日付が出力されます。

例

この例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATMS min=9 default=19 max=200 ---+
dt = datetime();	11/19/2012 14:38:52
dy = date();	111912 14
put "+--- NLDATMS min=9 default=19	11/19/2012 14:38:52
max=200 ---+";	11/19/2012 14:38:52
put dt nldatms.;	
put dt nldatms10.;	
put dt nldatms19.;	
put dt nldatms200.;	
run;	

NLDATMTM 出力形式

SAS 日時値の時間部分を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMTM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 16-200

比較

NLDATMTM*w*.出力形式は TOD*w*.出力形式と似ていますが、NLDATMTM*w*.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、1361709583 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日の午後 12:39:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----t----1

ステートメント	結果
options locale=English_UnitedStates; put event nldatmtm.;	12:39:43
options locale=German_Germany; put event nldatmtm.;	12.39 Uhr

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATM 出力形式” \(198 ページ\)](#)
- [“NLDATMAP 出力形式” \(199 ページ\)](#)
- [“NLDATMW 出力形式” \(210 ページ\)](#)

NLDATMTZ 出力形式

ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMTZ*w*.

説明

w
出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 32

範囲 16-200

例

この例は現在の日時値を使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR; data test; x=datetime(); put x=nldatmtz.;; run;	x=10 h 40 -0400

NLDATMW 出力形式

SAS 日時値を、曜日および日時形式の、ロケール依存の日時文字列に変換します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMW*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように曜日と日時が短縮されます。

デフォルト 41

範囲 16-200

詳細

エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、デフォルトの幅を使用した NLDATMW 出力形式では正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。NLDATMW 出力形式の推奨される幅を使用するようにします。

比較

NLDATMW*w*.出力形式は TWMDY*w*.出力形式と似ていますが、NLDATMW*w*.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、1361709583 を入力値として使用します。この値は、2003 年 2 月 24 日の午後 12:39:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----+----1-----2-----+----3

ステートメント	結果
options locale=English_UnitedStates;	Mon, Feb 24, 2003 12:39:43 PM
data _null_;	Mon, Feb 24, 2003 12:39:43 PM
x=put(1361709583,nldatmw.);	Monday, February 24, 2003 12:39:43 PM
y=put(1361709583,nldatmw30.);	
z=put(1361709583,nldatmw200.);	
run;	
options locale=german_germany;	Mo, 24. Feb 2003 12.39 Uhr
data _null_;	Mo, 24. Feb 2003 12.39 Uhr
x=put(1361709583,nldatmw.);	Montag, 24. Februar 2003 12.39 Uhr
y=put(1361709583,nldatmw30.);	
z=put(1361709583,nldatmw200.);	
run;	

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATM 出力形式” \(198 ページ\)](#)
- [“NLDATMAP 出力形式” \(199 ページ\)](#)
- [“NLDATMTM 出力形式” \(208 ページ\)](#)

NLDATMWN 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から曜日を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMWN*w*.

説明

w 出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 4-200

例

SAS 日時値から曜日を書き出します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATMWN min=4 default=9 max=200 ---+"; put dt nldatmwn; put dt nldatmwn4; put dt nldatmwn9; put dt nldatmwn200; run;	+--- NLDATMWN min=4 default=9 max=200 ---+ Monday Mon Monday Monday

NLDATMWZ 出力形式

指定されたロケールの SAS 日時値を、曜日、日時、およびタイムゾーン値に変換します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMWZ*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように曜日と日時が短縮されます。

デフォルト 40

範囲 16-200

詳細

エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、デフォルトの幅を使用した NLDATMWZ 出力形式では正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。推奨される幅を使用するようにします。

例

この例は現在の日時値を使用します。

ステートメント	結果
<pre>options locale=fr_FR; data test; x=datetime(); put x=nldatmwz.; run;</pre>	<pre>x=vendredi 18 mars 2011 10 h 40 -0400</pre>

NLDATMYM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と月の名前を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMYM*w*.

説明

w
出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 6-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
<pre>options locale=en_US; data _null_; x=put(86400,nldatmym.); y=put(86400,nldatmym12.); put x=; put y=; run;</pre>	<pre>January 1960 January 1960</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“NLDATMMD 出力形式” \(202 ページ\)](#)

NLDATMYML 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMYML*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 14

範囲 5-200

詳細

NLDATMYML では、November 2012 など、長い形式で月と年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATMYML min=5 default=14 max=200 ---+"; put dt nldatmyml; put dt nldatmyml7; put dt nldatmyml11; put dt nldatmyml14; put dt nldatmyml200.;	+--- NLDATMYML min=5 default=14 max=200 ---+ November 2012 11/2012 Nov 2012 November 2012 November 2012
run;	

NLDATMYMM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、月と年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMYMM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 11

範囲 5-200

詳細

NLDATMYMM では、Nov 2012 など、簡略形式で月と年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATMYMM min=5 default=11 max=200 ---+"; put dt nldatmymm.; put dt nldatmymm7.; put dt nldatmymm11.; put dt nldatmymm200.; run;	+--- NLDATMYMM min=5 default=11 max=200 ---+ Nov 2012 11/2012 Nov 2012 Nov 2012

NLDATMYMS 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、数字と区切り文字を使用して月と年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS
配置: 左

構文

NLDATMYMS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 7

範囲 5-200

詳細

NLDATMYMS では、11/2012 など、数字と区切り文字を使用した短い形式で月と年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATMYMS min=5 default=7 max=200 ---+"; put dt nldatmyms; put dt nldatmyms5; put dt nldatmyms7; put dt nldatmyms200; run;	+--- NLDATMYMS min=5 default=7 max=200 ---+ 11/2012 11/12 11/2012 11/2012

NLDATMYQ 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と四半期を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS
配置: 左

構文

NLDATMYQ w .

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 4-200

詳細

エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、デフォルトの幅を使用した NLDATMYQ 出力形式では正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。推奨される幅を使用するようにします。

例

この例では、fr_FR ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null_;	+--- NLDATMYQ min=4 default=16
dy=today();	max=200 ---+
dt=datetime();	16 T3 08
put "+--- NLDATMYQ min=4 default=16	4 *****
max=200 ---+";	14 T3 08
put ' 16' +5 dt nldatmyq.;	32 3e trimestre 2008
put ' 4' +5 dt nldatmyq4.;	200 3e trimestre 2008
put ' 14' +5 dt nldatmyq14.;	
put ' 32' +5 dt nldatmyq32.;	
put ' 200' +5 dt nldatmyq200.;	
run;	

NLDATMYQL 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)値、年の順に書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMYQL*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 18

範囲 4-200

詳細

NLDATMYQL では、4th quarter 2012 など、長い形式で四半期、次に年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null; dt = datetime(); dy = date(); put "+--- NLDATMYQL min=4 default=18 max=200 ---+"; put dt nldatmyql; put dt nldatmyql6; put dt nldatmyql7; put dt nldatmyql18.; put dt nldatmyql200.; run;	+--- NLDATMYQL min=4 default=18 max=200 ---+ 4th quarter 2012 2012/4 Q4 2012 4th quarter 2012 4th quarter 2012

NLDATMYQM 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、四半期(1-4)、年の順に書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMYQM*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト 7

範囲 4-200

詳細

NLDATMYQM では、Q4 2012 など、簡略形式で四半期、次に年を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATMYQM min=4 default=7 max=200 ---+
dt = datetime();	Q4 2012
dy = date();	2012/4
put "+--- NLDATMYQM min=4 default=7	Q4 2012
max=200 ---+";	Q4 2012
put dt nldatmyqm;	
put dt nldatmyqm6.;	
put dt nldatmyqm7.;	
put dt nldatmyqm200.;	
run;	

NLDATMYQS 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日付文字列に変換し、年と四半期(1-4)を数字と区切り文字を使用して書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMYQS*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。必要に応じて、出力形式の幅に合うように日付が短縮されます。

デフォルト	6
範囲	4-200

詳細

NLDATMYQS では、2012/4 など、数字と区切り文字を使用した短い形式で年と四半期を含む日付が出力されます。

例

次の例では、日付として 2012 年 11 月 19 日を使用します。

ステートメント	結果
data _null_;	+--- NLDATMYQS min=4 default=6 max=200 ---+
dt = datetime();	2012/4
dy = date();	12/4
put "+--- NLDATMYQS min=4 default=6	2012/4
max=200 ---+";	2012/4
put dt nldatmyqs.;	
put dt nldatmyqs4.;	
put dt nldatmyqs6.;	
put dt nldatmyqs200.;	
run;	

NLDATMYR 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMYR*w*.

説明

w
出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト	16
範囲	2-200

例

この例では、en_US ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null_;	+--- NLDATMYR min=2 default=16
dy=today();	max=200 ---+
dt=datetime();	2008
put "+--- NLDATMYR min=2 default=16	08
max=200 ---+";	2008
put dt nldatmyr.;	2008
put dt nldatmyr2.;	
put dt nldatmyr32.;	
put dt nldatmyr200.;	
run;	

NLDATMYW 出力形式

SAS 日時値を、指定されたロケールの日時値に変換し、その値から年と週の名前を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLDATMYW*w*.

説明

w
出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 5-200

例

この例では、fr_FR ロケールオプションを使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR;	
data _null;	+--- NLDATMYW min=5 default=16
dy=today());	max=200 ---+
dt=datetime());	16 Week 33 2008
put "+--- NLDATMYW min=5 default=16	5 *****
max=200 ---+";	8 W33 08
put ' 16' +5 dt nldatmyw.;	32 Week 33 2008
put ' 5' +5 dt nldatmyw5.;	200
put ' 8' +5 dt nldatmyw8.;	Week 33 2008
put ' 32' +5 dt nldatmyw32.;	
put ' 200' +5 dt nldatmyw200.;	
run;	

NLDATMTZ 出力形式

ロケールの SAS 日時値の時間部分を、時刻とタイムゾーンに変換します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

NLDATMTZ*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 32

範囲 16-200

例

この例は現在の日時値を使用します。

ステートメント	結果
options locale=fr_FR; data test; x=datetime(); put x=nldatmtz.;; run;	x=10 h 40 -0400

NLMNY 出力形式

指定されたロケールで、ローカル通貨を使用してローカル表示形式で通貨データを書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLMNY*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 1-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NLMNY*w.d* 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。NLMNY*w.d* 出力形式では、そのロケールでの通貨記号、桁区切り文字および小数点区切り文字を使用して数値を書き出します。

注: NLMNY*w.d* 出力形式では、通貨データの変換は行われません。したがって、フォーマットされた数値は、現在のロケールの通貨が使用された値と等しくなります。

比較

NLMNY*w.d* 出力形式と NLMNYI*w.d* 出力形式では、ロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して通貨データを書き出します。ただし、NLMNYI*w.d* 出力形式では USD などの 3 文字の国際通貨コードを使用するのに対し、NLMNY*w.d* 出力形式では \$ などのローカル通貨記号を使用します。

NLMNYw.d 出力形式は DOLLARw.d 出力形式と似ていますが、NLMNYw.d 出力形式がロケール固有である点が違います。

例

次の例では、LOCALE=システムオプションが English_UnitedStates に設定されています。

```
x=put(-1234.56789,nlmny32.2);
y=put(-1234.56789,dollar32.2);
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
put x=;	(\$1,234.57)
put y=;	\$-1,234.57

関連項目:

出力形式:

- [“NLMNYI 出力形式” \(224 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLMNY Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLMNYI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLMNYI 出力形式

指定されたロケールで、通貨データを国際表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS
配置: 左

構文

NLMNYIw.d

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 1-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NLMNYIw.d 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。NLMNYIw.d 出力形式では、国際通貨コード、およびロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して数値を書き出します。国際通貨コードの位置もロケールに応じて決まります。

注: NLMNYIw.d 出力形式では、通貨データの変換は行われません。したがって、フォーマットされた数値は、現在のロケールの通貨が使用された値と等しくなります。

比較

NLMNYw.d 出力形式と NLMNYIw.d 出力形式では、ロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して通貨データを書き出します。ただし、NLMNYIw.d 出力形式では USD などの 3 文字の国際通貨コードを使用するのに対し、NLMNYw.d 出力形式では \$ などのローカル通貨記号を使用します。

例

次の例では、LOCALE=システムオプションが English_UnitedStates に設定されています。

```
x=put(-1234.56789,nlmnyi32.2);
y=put(-1234.56789,nlmny32.2);
z=put(-1234.56789,dollar32.2);
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
put x=;	(USD1,234.57)
put y=;	(\$1,234.57)
put z=;	\$-1,234.57

関連項目:

出力形式:

- [“NLMNY 出力形式” \(223 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLMNY Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLMNYI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLNUM 出力形式

指定されたロケールで、数値をローカル表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 左

構文

NLNUM*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d

10^d で除算するかどうかを指定します。データに小数点区切り文字が含まれる場合、*d* 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NLNUM*w.d* 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。NLNUM*w.d* 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

比較

NLNUM*w.d* 出力形式では、ロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して数値を書き出します。NLNUM*iw.d* 出力形式では、桁区切り文字としてカンマ(,)を、小数点区切り文字としてピリオド(.)を使用して数値を書き出します。

w 値または *d* 値が、フォーマットされた数値を生成するほど十分に大きくない場合、NLNUM*w.d* 出力形式では、小数精度が若干失われるとしても、可能な限り桁区切り文字を出力するアルゴリズムを使用します。

例

```
x=put(-1234356.7891,nlnum32.2);
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
options LOCALE=English_UnitedStates; put x=;	-1,234,356.79
options LOCALE=German_Germany; put x=;	-1.234.356,79

関連項目:

出力形式:

- [“NLNUMI 出力形式” \(227 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLNUM Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLNUMI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLNUMI 出力形式

指定されたロケールで、数値を国際表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLNUMI*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d

10^d で除算するかどうかを指定します。データに小数点が含まれる場合、*d* 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NLNUMIw.d 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。NLNUMIw.d 出力形式では、すべてのロケールに対し、桁区切り文字としてカンマ(,)を、また小数点区切り文字としてピリオド(.)を使用して数値を書き出します。

比較

NLNUMIw.d 出力形式では、指定されたロケールで、数値データを国際表示形式で書き出します。NLNUMIw.d 出力形式では、桁区切り文字としてカンマ(,)を、小数点区切り文字としてピリオド(.)を使用して数値を書き出します。

w 値または d 値が、フォーマットされた数値を生成するほど十分に大きくない場合、NLNUMw.d 出力形式では、小数精度が若干失われるとしても、可能な限り桁区切り文字を出力するアルゴリズムを使用します。

例

```
x=put(-1234356.7891,nlnumi32.2);
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
options LOCALE=English_UnitedStates; put x=;	-1,234,356.79
options LOCALE=German_Germany; put x=;	-1,234,356.79

関連項目:

出力形式:

- [“NLNUM 出力形式” \(226 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLNUM Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLNUMI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLPCT 出力形式

指定されたロケールで、百分率のデータをローカル表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLPCT*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

d

10^d で除算するかどうかを指定します。データに小数点区切り文字が含まれる場合、*d* 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

比較

NLPCT*w.d* 出力形式では、指定されたロケールで、百分率のデータをローカル表示形式で書き出します。NLPCT*w.d* 出力形式では、ロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して百分率値を書き出します。NLPCTI*w.d* 出力形式では、桁区切り文字としてカンマ(,)を、小数点区切り文字としてピリオド(.)を使用して百分率値を書き出します。

NLPCT*w.d* 出力形式は PERCENT*w.d* 出力形式と似ていますが、NLPCT*w.d* 出力形式がロケール固有である点が違います。

例

```
x=put(-12.3456789,nlpct32.2);
y=put(-12.3456789,nlpcti32.2);
z=put(-12.3456789,percent32.2);
```

ステートメント	結果
	----+-----1
options LOCALE=English_UnitedStates;	-1,234.57%
put x=;	-1,234.57%
put y=;	(1234.57%)
put z=;	
options LOCALE=German_Germany;	-1.234,57%
put x=;	-1,234.57%
put y=;	(1234.57%)
put z=;	

関連項目:**出力形式:**

- [“NLPCTI 出力形式” \(230 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLPCT Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLPCTI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLPCTI 出力形式

指定されたロケールで、百分率のデータを国際表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLPCTI*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

d

10^d で除算するかどうかを指定します。データに小数点区切り文字が含まれる場合、*d* 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

比較

NLPCTI*w.d* 出力形式では、指定されたロケールで、百分率のデータを国際表示形式で書き出します。NLPCT*w.d* 出力形式では、ロケールに依存する桁区切り文字と小数点区切り文字を使用して百分率値を書き出します。NLPCTI*w.d* 出力形式では、桁区切り文字としてカンマ(,)を、小数点区切り文字としてピリオド(.)を使用して百分率値を書き出します。

NLPCT*w.d* 出力形式は PERCENT*w.d* 出力形式と似ていますが、NLPCT*w.d* 出力形式がロケール固有である点が違います。

例

次の例では、LOCALE=システムオプションが English_UnitedStates に設定されています。

```
x=put(-12.3456789,nlpcti32.2);
y=put(-12.3456789,percent32.2);
```

ステートメント	結果
	----+-----1
put x=;	-1,234.57%
put y=;	(1234.57)

関連項目:

出力形式:

- [“NLPCT 出力形式” \(228 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NLPCT Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)
- [“NLPCTI Informat” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

NLPCTN 出力形式

百分率を書き出します。負の値にはマイナス記号を使用します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

構文

NLPCTN*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

ヒント

出力フィールドの幅数には、数値が負か正かにかかわらず、マイナス記号(-)、パーセント記号(%)、末尾の空白分を含める必要があります。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

詳細

NLPCTN $w.d$ 出力形式は、100 を乗算した負の値の先頭にマイナス記号を追加し、フォーマットした値の最後にパーセント記号(%)を追加します。

例

x=-0.02;

ステートメント	結果
put x nlpctn6.;	x=-2%
put x percentn6.;	x=-2%

NLPCTP 出力形式

ロケール固有の数値を百分率として書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 右

構文

NLPCTP $w.d$

説明**w**

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

ヒント 出力フィールドの幅数には、パーセント記号(%)分を含める必要があります。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

NLPCTP 出力形式の桁区切り文字と小数点の記号は、ロケールに固有です。

デフォルト	0
範囲	0-31
要件	w より小さい数にします。

詳細

NLPCTP $w.d$ 出力形式は、100 を乗算してフォーマットした値の最後にパーセント記号(%)を追加します。NLPCTP $w.d$ 出力形式は PERCENT $w.d$ 出力形式に似ていますが、NLPCTP $w.d$ 出力形式の桁区切り文字と小数点の記号がロケール固有である点が違います。

例

x=-0.02;

ステートメント	結果
put x nlpctp6.;	-2%
put x percent6.;	(2%)

NLPVALUE 出力形式

指定されたロケールで、 p 値をローカル表示形式で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLPVALUE $w.d$

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 3-32

d

10^d で除算するかどうかを指定します。データに小数点区切り文字が含まれる場合、 d 値は無視されます。

デフォルト 4

範囲 1-30

例

この例では、german_Germany ロケールオプションを使用します。

ステートメント:

```
options locale=german_germany;
data _null_;
  put "+--- nlpvalue min=3 default=6 max=32 ---+";
  x=0.1248;
  put x= +5 x pvalue. +5 x nlpvalue.;
  put x= +5 x pvalue3.1 +5 x nlpvalue3.1;
  put x= +5 x pvalue20.2 +5 x nlpvalue20.2;
  put x= +5 x pvalue32.3 +5 x nlpvalue32.3;
run;
```

結果:

```
+--- nlpvalue min=3 default=6 max=32 ---+
x=0.1248 0.1248 0,1248
x=0.1248 0.1 0,1
x=0.1248 0.12 0,12
x=0.1248 0.125 0,125
```

関連項目:

出力形式:

- [“PVALUE 出力形式” \(253 ページ\)](#)

NLSTRMON 出力形式

指定されたロケールの月名を書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 左

構文

NLSTRMON*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 20

範囲 1-200

d

次の項目を指定します。

- 00000001:短縮形式で書き出します。
- 00000010:大文字形式で書き出します。

デフォルト	0
範囲	0-3

詳細

NLSTRMONw.d 出力形式では、指定されたロケールの月名として 1 から 12 の SAS 値を書き出します。次の例では、English_UnitedStates ロケールを使用します。

- 1 =第 1 月(January)
- 2 =第 2 月(February)
- 3 =第 3 月(March)
- 4 =第 4 月(April)
- 5 =第 5 月(May)
- 6 =第 6 月(June)
- 7 =第 7 月(July)
- 8 =第 8 月(August)
- 9 =第 9 月(September)
- 10 =第 10 月(October)
- 11 =第 11 月(November)
- 12 =第 12 月(December)

例

この例では、English_UnitedSates セッションエンコーディングを使用します。

ステートメント	結果
Data _null_;	
monnum = 1 ; /* January=1,	January
December=12 */	Jan
put monnum NLSTRMON20.;	JANUARY
put monnum NLSTRMON20.1; /*	JAN
decimal .1 specified use abbreviation.*/	
put monnum NLSTRMON20.2;	
put monnum NLSTRMON20.3;	
run;	

NLSTRQTR 出力形式

指定されたロケールの四半期の形式で数値を書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 左

構文

NLSTRQTR*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 20

範囲 1-200

d

次の項目を指定します。

- 00000001:短縮形式で書き出します。
- 00000010:大文字形式で書き出します。

デフォルト 0

範囲 0-3

詳細

NLSTRQTR*w.d* 出力形式では、指定されたロケールの四半期名として 1 から 4 の SAS 値を書き出します。次の例では、English_UnitedStates ロケールを使用します。

- 1 = 1st quarter
- 2 = 2nd quarter
- 3 = 3rd quarter
- 4 = 4th quarter

例

この例では、English_UnitedSates セッションエンコーディングを使用します。

ステートメント	結果
Data _null_;	
qtrnum = 1 ; /* January=1, December=12 */	1st quarter Q1
put qtrnum NLSTRQTR20.;	1ST QUARTER
put qtrnum NLSTRQTR20.1; /* decimal . 1 specified use abbreviation.*/	Q1
put qtrnum NLSTRQTR20.2;	
put qtrnum NLSTRQTR20.3; run;	

NLSTRWK 出力形式

指定されたロケールの曜日の形式で数値を書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

NLSTRWK*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 20

範囲 1-200

d

次の項目を指定します。

- 00000001:短縮形式で書き出します。
- 00000010:大文字形式で書き出します。

デフォルト 0

範囲 0-3

詳細

NLSTRWK*w.d* 出力形式では、指定されたロケールの曜日名として 1 から 7 までの SAS 値を書き出します。次の例では、English_UnitedStates ロケールを使用します。

- 1 = 週の 1 日目 (Monday)

- 2 =週の 2 日目(Tuesday)
- 3 =週の 3 日目(Wednesday)
- 4 =週の 4 日目(Thursday)
- 5 =週の 5 日目(Friday)
- 6 =週の 6 日目(Saturday)
- 7 =週の 7 日目(Sunday)

例

この例では、English_UnitedSates セッションエンコーディングを使用します。

ステートメント	結果
Data _null_;	
wknum = 1 ; /* Sunday=1, Saturday=7	Sunday
*/	Sun
put wknum NLSTRWK20.;	SUNDAY
put wknum NLSTRWK20.1; /* decimal .1	SUN
specified use abbreviation.*/	
put wknum NLSTRWK20.2;	
put wknum NLSTRWK20.3;	
run;	

NLTIMAP 出力形式

SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から午前または午後付きの時間値を書き出します。NLTIMAP は、SAS 日時値も変換します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLTIMAP*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 4-200

詳細

デフォルトの幅を使用した NLTIMAP 出力形式では、エンコーディングとロケールの組み合わせによっては日時名が長くなるため、正確でない地域化された出力が生成される場合があります。ロケールとエンコーディングの組み合わせに対する推奨される幅については、[日付と時間のデフォルト幅の例外](#)を参照してください。推奨される幅を使用するようにします。

比較

NLTIMAPw.出力形式は TIMEAMPw.出力形式と似ていますが、NLTIMAPw.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、59083 を入力値として使用します。この値は、午後 04:24:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----+----1----+
options locale=English_UnitedStates; put time nltimap.;	4:24:43 PM
options locale=German_Germany; put time nltimap14.;	4:24:43 nachm

関連項目:

出力形式:

- [“NLTIME 出力形式” \(239 ページ\)](#)

NLTIME 出力形式

SAS 時間値を、指定されたロケールの時間値に変換し、その時間値から時刻を書き出します。NLTIME は、SAS 日時値も変換します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

NLTIMEw.

説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 20

範囲 10-200

比較

NLTIMEw.出力形式は TIMEw.出力形式と似ていますが、NLTIMEw.出力形式がロケール固有である点が違います。

例

これらの例では、59083 を入力値として使用します。この値は、午後 04:24:43 に相当する SAS 日時値です。

ステートメント	結果
	----+----1----+
options locale=English_UnitedStates; put time ntime.;	4:24:43
options locale=German_Germany; put time ntime.;	16.24

関連項目:

出力形式:

- [“NLTIMAP 出力形式” \(238 ページ\)](#)

NUMX 出力形式

小数点をカンマにして数値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

NUMXw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

d

数値の小数点(カンマ)以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

NUMXw.d 出力形式は、小数点をカンマにして数値を書き出します。

比較

NUMXw.d 出力形式は、w.d 出力形式とほぼ同じですが、NUMXw.d では小数点をカンマにして数値を書き出します。

例: 例

```
put x numx10.2;
```

x の値	結果
----+----1----+	
896.48	896,48
64.89	64,89
3064.10	3064,10

関連項目:

出力形式:

- [“w 出力形式” \(283 ページ\)](#)

入力形式:

- [“NUMX 入力形式” \(439 ページ\)](#)

OCTAL 出力形式

数値を 8 進表現に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS
配置: 左

構文

OCTAL*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 3

範囲 1-24

詳細

必要に応じて、OCTAL*w*.出力形式は数値を整数に変換してから 8 進表現で表示します。

比較

OCTAL*w*. は、数値を 8 進表現に変換します。\$OCTAL*w*.出力形式は、文字値を 8 進表現に変換します。

例

```
put x octal6.;
```

x の値	結果
	----+----1
3592	007010

PD 出力形式

パック 10 進形式のデータを書き出します。

カテゴリ: 数値
配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“DECIMALCONV= System Option” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

PD*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。w 値は、桁数ではなくバイト数を指定します。(パック 10 進データは、1 バイトに 2 桁を含みます。)

デフォルト 1

範囲 1-16

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

動作環境によってパック 10 進値の保存方法は異なります。ただし、PD*w.d* では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、パック 10 進値を書き出します。

PD*w.d* 出力形式は、欠損数値データを-0 として書き出します。PD*w.d* 入力形式で-0 が読み出されると、0 として保存されます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのパック 10 進表記を比較したものです。

言語	表記
SAS	PD4.
COBOL	COMP-3 PIC S9(7)
IBM 370 アセンブラ	PL4
PL/I	FIXED DEC

例

```
y=put(x,pd4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
	----+----1

x の値	結果 *
128	00000128

* 結果は、パック 10 進形式で書かれたバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

PDJULG 出力形式

パックユリウス日付値を、IBM で使用する 16 進の *yyydddF* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

構文

PDJULG*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 3-16

詳細

PDJULG*w*.出力形式では、SAS 日付値を *yyydddF* 形式で書き出します。

yyyy

4 桁のグレゴリオ暦の年を 2 バイトで表したものです。

ddd

ユリウス日 1-365 (うるう年の場合は 1-366) に対応する 3 桁の整数を 1.5 バイトで表したものです。

F

2 進表現の 1 のみで構成される、値を正とする 0.5 バイトです。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

SAS ステートメント	結果
	----+----1
date = '17mar2012'd; juldate = put(date,pdjulg4.); put juldate \$hex8.;	2012077F

関連項目:**出力形式:**

- [“JULDAY 出力形式” \(158 ページ\)](#)
- [“JULIAN 出力形式” \(159 ページ\)](#)
- [“PDJULI 出力形式” \(245 ページ\)](#)

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“PDJULG 入力形式” \(442 ページ\)](#)
- [“PDJULI 入力形式” \(444 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

PDJULI 出力形式

パック表現のユリウス日付値を、IBM で使用する 16 進の *ccyydddF* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

構文

PDJULI*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 3-16

詳細

PDJULI*w*.出力形式では、SAS 日付値を *ccyydddF* 形式で書き出します。

cc

世紀を表す 2 桁の整数を 1 バイトで表したものです。

yy

年を表す 2 桁の整数を 1 バイトで表したものです。PDJULI*w*.出力形式は、正しいパック 10 進 *ccyy* 表現を生成するために 4 桁のグレゴリオ暦の年から

1900 を減算して、世紀バイトの調整を行います。年値 1998 は `ccyy` で 0098 として保存され、年値 2011 は 0111 として保存されます。

ddd

ユリウス日 1-365 (うるう年の場合は 1-366) に対応する 3 桁の整数を 1.5 バイトで表したものです。

F

2 進表現の 1 のみで構成される、値を正とする 0.5 バイトです。

注: SAS では、2 桁の年は `YEARCUTOFF`=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

SAS ステートメント	結果
	----t----1
<pre>date = '17mar2012'd; juldate = put(date,pdjuli4.); put juldate \$hex8.;</pre>	0112077F
<pre>date = '31dec2013'd; juldate = put(date,pdjuli4.); put juldate \$hex8.;</pre>	0113365F

関連項目:

出力形式:

- [“JULDAY 出力形式” \(158 ページ\)](#)
- [“JULIAN 出力形式” \(159 ページ\)](#)
- [“PDJULG 出力形式” \(244 ページ\)](#)

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“PDJULG 入力形式” \(442 ページ\)](#)
- [“PDJULI 入力形式” \(444 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

PERCENT 出力形式

数値を百分率として書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

PERCENT $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

ヒント 出力幅数には、数字が正か負にかかわらず、パーセント記号(%)と負の数字のためのかっこを含める必要があります。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

詳細

PERCENT $w.d$ 出力形式は、値を 100 で乗算した後に BEST $w.d$ 出力形式を適用し、適用後の値の末尾にパーセント記号(%)を追加します。負の値はかっこで囲まれます。

例

```
put @10 gain percent10.;
```

x の値	結果
	----+----1----+----2
0.1	10%

x の値	結果
1.2	120%
-0.05	(5%)

関連項目:**出力形式:**

- [“PERCENTN 出力形式” \(248 ページ\)](#)

PERCENTN 出力形式

百分率を書き出します。負の値にはマイナス符号を使用します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

PERCENTN*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

ヒント 出力幅数には、数値が負か正かにかかわらず、マイナス記号(-)、パーセント記号(%)、末尾の空白分を含める必要があります。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

要件 *w* より小さい数にします。

詳細

PERCENT*w.d* 出力形式は、負の値に 100 を乗算し、BEST*w.d* 出力形式を適用し、適用後の値の先頭と末尾にマイナス記号とパーセント記号(%)をそれぞれ追加します。

比較

PERCENT*w.d* 出力形式は、負の値にかっこではなくマイナス記号を使用して、百分率を生成します。PERCENT*w.d* 出力形式は、負の値にかっこを使用して、百分率を生成します。

例

```
put x percentn10.;
```

x の値	結果
-0.1	-10%
.2	20%
.8	80%
-0.05	-5%
-6.3	-630%

関連項目:

出力形式:

- [“PERCENT 出力形式” \(247 ページ\)](#)

PIB 出力形式

正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

PIB*w.d*

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト	1
範囲	1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト	0
範囲	0-10

詳細

すべての値は、正として処理されます。PIBw.d では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、正のバイナリ整数値を書き出します。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダリングといいます。バイトオーダリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダリング](#)” (8 ページ)を参照してください。

比較

- 正のバイナリ整数値は、符号ビットが値の一部である点を除きバイナリ整数値と同じであり、常に正の整数になります。PIBw.d 出力形式はすべての値を正として処理し、値の一部として符号ビットを含めます。
- PIBw.d 出力形式は、幅が 1 の場合、1 バイトのコンテンツを 2 進表現した値を出力します。1 バイトのコンテンツを 2 進表現する値は、データに 16 進数の 80 と 16 進数の FF の間の値が含まれる、高位ビットが負の符号として誤って解釈される可能性がある場合に使用します。
- PIBw.d 出力形式は IBw.d 形式と同じですが、PIBw.d はすべての値を正の値として処理します。
- IBw.d と PIBw.d 出力形式は、ネイティブな形式の整数を書き出すために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 出力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,pib1.);
put y $hex2.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
12	0C

* 結果は、正のバイナリ整数形式で書かれた 1 バイトのバイナリ値を 16 表現で表したものです。出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式:

- [“PIBR 出力形式” \(251 ページ\)](#)

PIBR 出力形式

Intel 形式と DEC 形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

構文

`PIBR w . d`

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

すべての値は、正として処理されます。PIBR w . d は、Intel および DEC の動作環境で生成される正のバイナリ整数値を書き出します。PIBR w . d を使用して、Intel または DEC の環境の正のバイナリ整数データを他の動作環境に書き出します。PIBR w . d 出力形式によって、動作環境に関係なくデータを書き出すためのポータブルな実装が用意されます。

注: 動作環境によって正のバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング” (8 ページ) を参照してください。

比較

- 正のバイナリ整数値は、符号ビットが値の一部である点を除きバイナリ整数値と同じであり、常に正の整数になります。PIBRw.d 出力形式はすべての値を正として処理し、値の一部として符号ビットを含めます。
- PIBRw.d 出力形式は、幅が 1 の場合、1 バイトのコンテンツを 2 進表現した値を出力します。1 バイトのコンテンツを 2 進表現する値は、データに 16 進数の 80 と 16 進数の FF の間の値が含まれる、高位ビットが負の符号として誤って解釈される可能性がある場合に使用します。
- Intel および DEC の動作環境では、PIBw.d と PIBRw.d 出力形式は同じものです。
- IBw.d と PIBw.d 出力形式は、ネイティブな形式の整数を書き出すために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 出力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)”(8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)”(9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,pibr2.);
put y $hex4.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
128	8000

* 結果は、正のバイナリ整数形式で書かれた 2 バイトのバイナリ値を 16 表現で表したものです。出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

入力形式:

- “[PIB 入力形式](#)”(447 ページ)

PK 出力形式

符号なしパック 10 進形式のデータを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細につ

いては、“DECIMALCONV= System Option” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

PKw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

要件 w より小さい数にします。

詳細

符号なしのパック 10 進データは、1 バイトに 2 桁を含みます。

比較

PKw.d 出力形式は PDw.d 出力形式と同じですが、PKw.d は下位バイトに符号を書き出しません。

例

```
y=put(x,pk4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
128	00000128

* 結果は、パック 10 進形式で書かれた 4 バイトの数値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

PVALUE 出力形式

p 値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“DECIMALCONV= System Option” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

PVALUE $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 3-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 最小 4 および $w-2$

範囲 1-30

制限事項 w より小さい数にします。

比較

PVALUE $w.d$ 出力形式は、次の場合を除いて $w.d$ 出力形式の規則に従います。

- 値 x が $0 \leq x < 10^{-d}$ の場合、 x は $d-1$ 個のゼロを付けて“<.0...01”と出力される。
- 欠損値は、“.”として出力される。(MISSING=システムオプションを使用して別の文字を指定する場合を除く)

例

```
put x pvalue6.4;
```

x の値	結果
	----+----1
.05	0.0500
0.000001	<.0001
0	<.0001
.0123456	0.0123

QTR 出力形式

SAS 日付値を年の四半期として書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

QTR*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

例

例の表では、19057 を入力値として使用します。この値は 2012 年 3 月 5 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	---+---1
put date qtr.;	1

関連項目:

出力形式:

- [“QTRR 出力形式” \(255 ページ\)](#)

QTRR 出力形式

SAS 日付値を年の四半期としてローマ数字で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

QTRR w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 3

範囲 3-32

例

例の表では、19251 を入力値として使用します。この値は 2012 年 9 月 15 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date qtrr.;	III

関連項目:

出力形式:

- [“QTR 出力形式” \(255 ページ\)](#)

RB 出力形式

バイナリ実数データ(浮動小数点)をバイナリ実数形式で書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

RB $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

RBw.d 出力形式は、SAS での数値データの保存形式と同じ形式で書き出します。データ変換が不要なため、RBw.d はデータを SAS で書き出すための最も効率的な方法です。

注: 動作環境によってバイナリ実数値の保存方法は異なります。ただし、RBw.d は、SAS の実行に使用する動作環境に合ったバイナリ実数値を書き出します。

注意:

IEEE の標準基準に準拠した環境へのバイナリ実数データの書き出しに RB4. を使用すると、浮動小数点数は実際の 4 バイト(単精度)の浮動小数点数ではなく、8 バイト(倍精度)の数字に切り捨てられます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのバイナリ実数表記名を比較したものです。

言語	4 バイト	8 バイト
SAS	RB4.	RB8.
Fortran	REAL*4	REAL*8
C	float	double
COBOL	COMP-1	COMP-2
IBM 370 アセンブラ	E	D

例

```
y=put(x,rb8.);
put y $hex16.;
```

x の値	結果 *
	----+---1----+----2
128	4280000000000000

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、8 バイトのバイナリ実数を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

ROMAN 出力形式

数値をローマ数字で書き出します。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 左

構文

ROMAN w .

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 2-32

詳細

ROMAN w .出力形式は、浮動小数点数を整数に切り捨ててから値を書き出します。

例

```
put @5 year roman10.;
```

year の値	結果
2012	MMXII

S370FF 出力形式

IBM メインフレーム形式の標準数値データを書き出します。

カテゴリ: 数値

構文

S370FF $w.d$

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 12
 範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

S370FFw.d 出力形式は、IBM メインフレーム形式(EBCDIC)の数値データを書き出します。EBCDIC 数値は、1 桁 1 バイトで表されます。EBCDIC がネイティブな形式の場合、S370FFw.d は変換を実行しません。

値が負の場合、EBCDIC マイナス記号が値の前に置かれます。欠損値は、1 つの EBCDIC ピリオドで表されます。

比較

- EBCDIC システムでは、S370FFw.d は w.d 出力形式と同じ結果になります。
- それ以外のシステムでは、S370FFw.d が、文字データに対する \$EBCDICw. 出力形式の処理と同じ処理を数値データに実行します。

例

```
y=put(x,s370ff5.);
put y $hex10.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
12345	F1F2F3F4F5

* 結果は、整数を 16 進表現で表したものです。

関連項目:

出力形式:

- ["\\$EBCDIC 出力形式" \(66 ページ\)](#)
- ["w 出力形式" \(283 ページ\)](#)

S370FIB 出力形式

IBM メインフレーム形式の負の値を含むバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

S370FIBw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

S370FIBw.d 出力形式は、2 の補数で表される負の値を含む、IBM フレームワーク形式で保存されるバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。S370FIBw.d では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、バイナリ整数値を書き出します。

S370FIBw.d を使用して、IBM メインフレーム形式のバイナリ整数データを他の動作環境で作成されたデータから書き出します。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダリングといいます。バイトオーダリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダリング](#)” (8 ページ)を参照してください。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FIBw.d と IBw.d は同じものです。
- S370FPIBw.d、S370FIBUw.d および S370FIBw.d は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,s370fib4.);
put y $hex8.;
```


x の値	結果 *
	----+----1
128	00000080

* 結果は、4 バイトのバイナリ整数を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式:

- “S370FIBU 出力形式” (261 ページ)
- “S370FPIB 出力形式” (265 ページ)

S370FIBU 出力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

S370FIBU*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

S370FIBU*w.d* 出力形式は、2 の補数で表される負の値を含む、IBM フレームワーク形式で保存される符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。符号なしバイナリ整数値はバイナリ整数値と同じですが、すべての値が正として処理される点が異なります。S370FIBU*w.d* では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、バイナリ整数値を書き出します。

S370FIBU*w.d* を使用して、IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数データを他の動作環境で作成されたデータから書き出します。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (8 ページ)を参照してください。

比較

- S370FIBUw.d 出力形式は、COBOL の表記 PIC 9 (n) BINARY と同じです。n は桁数です。
- S370FIBUw.d 出力形式は S370FIBw.d 出力形式と同じですが、S370FIBUw.d 出力形式は符号の付いた値ではなく絶対値を常に使用します。
- S370FPIBw.d 出力形式はすべての負の数を FF として書き出し、S370FIBUw.d 出力形式は絶対値を書き出します。
- S370FPIBw.d、S370FIBUw.d および S370FIBw.d は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し](#)” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,s370fibu1.);
put y $hex2.;
```

x の値	結果 *
245	F5
-245	F5

* 結果は、1 バイトのバイナリ整数を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式

- “[S370FIB 出力形式](#)” (259 ページ)
- “[S370FPIB 出力形式](#)” (265 ページ)

S370FPD 出力形式

IBM メインフレーム形式のパック 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“DECIMALCONV= System Option” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

S370FPD $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

10 d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FPD $w.d$ は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式でパック 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのパック 10 進形式の表記を示したものです。

言語	パック 10 進表記
SAS	S370FPD4.
PL/I	FIXED DEC(7,0)
COBOL	COMP-3 PIC S9(7)
IBM 370 アセンブラ	PL4

例

```
y=put(x,s370fpd4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
128	0000128C

* 結果は、パック 10 進形式で書かれたバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

S370FPDU 出力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしパック 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

S370FPDU*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

10^{*d*} で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FPDU*w.d* は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で符号なしパック 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

- S370FPDU*w.d* 出力形式は S370FPD*w.d* 出力形式とほぼ同じですが、S370FPD*w.d* 出力形式は符号の付いた値ではなく絶対値を常に使用します。
- S370FPDU*w.d* 出力形式は、COBOL の表記 PIC 9 (*n*) PACKED-DECIMAL と同じです。*n* 値は桁数です。

例

```
y=put(x,s370fpdu2.);
put y $hex4.;
```

x の値	結果 *
123	123F
-123	123F

* 結果は、バック 10 進形式で書かれたバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FPIB 出力形式

IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

S370FPIB*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

正のバイナリ整数値はバイナリ整数値と同じですが、すべての値が正として処理される点が異なります。S370FPIB*w.d* では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、バイナリ整数値を書き出します。

S370FPIB*w.d* を使用して、IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数データを他の動作環境で作成されたデータから書き出します。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダリングといいます。バイトオーダリングの詳細については、「ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上

でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング” (8 ページ)を参照してください。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FPIBw.d と PIBw.d は同じものです。
- S370FPIBw.d 出力形式は S370FIBw.d 出力形式と同じですが、S370FPIBw.d 出力形式はすべての値を正の値として処理します。
- S370FPIBw.d、S370FIBUw.d および S370FIBw.d は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を書き出すために使用されます。

ビッグエンディアン整数とリトルエンディアン整数に関連して使用する出力形式の種類を表については、“ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの書き出し” (8 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“バイナリ整数表記と各種プログラミング言語” (9 ページ)を参照してください。

例

```
y=put(x,s370fpib1.);
put y $hex2.;
```

x の値	結果 *
	----+----1
12	0C

* *結果は、正のバイナリ整数形式で書かれた 1 バイトのバイナリ値を 16 表現で表したものです。出力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

出力形式:

- “S370FIB 出力形式” (259 ページ)
- “S370FIBU 出力形式” (261 ページ)

S370FRB 出力形式

IBM メインフレーム形式のバイナリ実数(浮動小数点)を書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

S370FRBw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-8

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

浮動小数点値は、値を表す仮数部と値の大きさを表す指数部から成ります。

S370FRB*w.d* は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で浮動小数点数バイナリデータを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

次の表は、各種プログラミング言語での浮動小数点数進形式の表記を示したものです。

言語	4 バイト	8 バイト
SAS	S370FRB4.	S370FRB8.
PL/I	FLOAT BIN(21)	FLOAT BIN(53)
Fortran	REAL*4	REAL*8
COBOL	COMP-1	COMP-2
IBM 370 アセンブラ	E	D
C	float	double

例

```
y=put(x,s370frb6.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
128	42800000

x の値	結果 *
-123	C2800000

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZD 出力形式

IBM メインフレーム形式のゾーン 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

S370FZD*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZD*w.d* は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式でゾーン 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのゾーン 10 進形式の表記を示したものです。

言語	ゾーン 10 進表記
SAS	S370FZD3.

言語	ゾーン 10 進表記
PL/I	PICTURE'99T'
COBOL	PIC S9(3) DISPLAY
アセンブラ	ZL3

例

```
y=put(x,s370fzd3.);
put y $hex6.;
```

x の値	結果 *
123	F1F2C3
-123	F1F2D3

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDL 出力形式

IBM メインフレーム形式の前符号付きゾーン 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、「[DECIMALCONV= System Option](#)」([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

S370FZDL*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0
 範囲 0-31

詳細

S370FZDLw.d は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で前符号付きゾーン 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

- S370FZDLw.d 出力形式は S370FZDw.d 出力形式と同じですが、S370FZDLw.d 出力形式は出力形式が適用された出力の最初のバイトに数値の符号を表示します。
- S370FZDLw.d 出力形式は、COBOL の表記 PIC S9 (n) DISPLAY SIGN LEADING と同じです。n 値は桁数です。

例

```
y=put(x,s370fzdl3.);
put y $hex6.;
```

x の値	結果 *
123	C1F2F3
-123	D1F2F3

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDS 出力形式

IBM メインフレーム形式の分離した前符号付きゾーン 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

S370FZDSw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8
 範囲 2-32

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDSw.d は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で分離した前符号付きゾーン 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

- S370FZDSw.d 出力形式は、S370FZDLw.d 出力形式と同じですが、S370FZDSw.d 出力形式は数値の符号をゾーン出力に埋め込みません。
- S370FZDSw.d 出力形式は、COBOL の表記 PIC S9(n)DISPLAY SIGN TRAILING SEPARATE と同じです。n 値は桁数です。

例

```
y=put (x,s370fzds4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
123	4EF1F2F3
-123	60F1F2F3

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDT 出力形式

IBM メインフレーム形式の分離した後符号付きゾーン 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

S370FZDTw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-32

d10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDTw.d は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で分離した後符号付きゾーン 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

- S370FZDTw.d 出力形式は S370FZDSw.d 出力形式と同じですが、S370FZDTw.d 出力形式は、出力形式が適用された出力の最後に数値の符号を表示します。
- S370FZDTw.d 出力形式は、COBOL の表記 PIC S9 (n) DISPLAY SIGN TRAILING SEPARATE と同じです。n 値は桁数です。

例

```
y=put (x,s370fzdt4.); ;
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
123	F1F2F34E
-123	F1F2F360

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDU 出力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしゾーン 10 進データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細につ

いては、“DECIMALCONV= System Option” (SAS Viya System Options: Reference)を参照してください。

構文

S370FZDU*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDU*w.d* は、IBM メインフレームコンピュータと同じ形式で符号なしゾーン 10 進データを書き出すために他の動作環境にて使用します。

比較

- S370FZDU*w.d* 出力形式は S370FZD*w.d* 出力形式と同じですが、S370FZDU*w.d* 出力形式は数値の絶対値を常に使用します。
- S370FZDU*w.d* 出力形式は、COBOL の表記 PIC 9 (n) DISPLAY と同じです。n 値は桁数です。

例

```
y=put (x,s370fzdu3.);
put y $hex6.;
```

x の値	結果 *
123	F1F2F3
-123	F1F2F3

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数のペア(F1 など)がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムに対応します。

SSN 出力形式

アメリカの社会保障番号形式で書き出します。

カテゴリ: 数値

構文

SSN*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 11

制限事項 *w* は 11 である必要があります。

詳細

欠損値は 9 つのシングルピリオドとして書き出され、3 つ目のピリオドと 4 つ目のピリオドの間、5 つ目のピリオドと 6 つ目のピリオドの間にそれぞれハイフンが置かれます。値が 9 桁に満たない場合は値を右揃えにし、左側にゼロを挿入します。値が 9 桁を超える場合は欠損値として書き出します。

例

put id ssn.;

id の値	結果
	----+----1----+
263878439	263-87-8439

TIME 出力形式

SAS 時間値を *hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

TIME*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-20

ヒント *w* には、必要な結果を生成するために十分な大きさを指定します。小数点以下 3 桁までをすべて含む時間値を取得するには、少なくとも 12 スペース(小数点の左側に 8 スペース、小数点自体に 1 スペース、秒の小数部分に 3 スペース)を指定する必要があります。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-19

要件 *w* より小さい数にします。

詳細

TIME*w.d* 出力形式は、SAS 時間値を *hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

hh

整数です。

注: *hh* が 1 桁の場合、TIME*w.d* はその桁の前に先頭の空白を置きます。たとえば、TIME*w.d* 出力形式は、09:00 ではなく 9:00 と書き出します。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

ss.ss

小数点以下の秒の端数を含む、00 から 59 の範囲の秒数です。

比較

TIME*w.d* 出力形式は HHMM*w.d* 出力形式と同じですが、TIME*w.d* は秒を含めません。

TIME*w.d* 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭に空白を書き出します。TOD*w.d* 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭にゼロを書き出します。

例

例 1

この例では、59083 を入力値として使用します。この値は、午後 4:24:43 に相当する SAS 時間です。

SAS ステートメント	結果
	---+----1
put begin time.;	16:24:43

例 2

この例では、32083 を入力値として使用します。この値は、午前 8:54:43 に相当する SAS 時間値です。

SAS ステートメント	結果
	---+----1
put begin time.;	8:54:43

関連項目:**出力形式:**

- “HHMM 出力形式” (150 ページ)
- “HOUR 出力形式” (152 ページ)
- “MMSS 出力形式” (165 ページ)
- “TOD 出力形式” (278 ページ)

関数:

- “HOUR Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “MINUTE Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “SECOND Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))
- “TIME Function” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))

入力形式:

- “TIME 入力形式” (478 ページ)

TIMEAMPM 出力形式

SAS 時間値と SAS 日時値を AM または PM を使用して *hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

TIMEAMPM $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 2-20

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-19

要件 w より小さい数にします。

詳細

TIMEAMPM $w.d$ 出力形式は、SAS 時間値と SAS 日付値を AM または PM を使用して $hh:mm:ss.ss$ 形式で書き出します。

hh

時間を表す整数です。

mm

分を表す整数です。

$ss.ss$

小数点以下 2 桁の秒数です。

23:59:59 PM を超える時間は、次の日として表示されます。

w には、必要な結果を生成するために十分な大きさを指定します。小数点以下 3 桁と AM または PM をすべて含む時間値を取得するには、少なくとも 11 スペース($hh:mm:ss PM$)を指定する必要があります。 w が 5 未満の場合、AM または PM だけが書き出されます。

比較

- TIMEAMPMM $w.d$ 出力形式は TIMEM $w.d$ 出力形式と同じですが、TIMEAMPMM $w.d$ は時間の最後に AM または PM を出力します。
- TIME $w.d$ は 23:59:59 PM を超える時間を書き出しますが、TIMEAMPM $w.d$ は書き出しません。

例

例の表では、59083 を入力値として使用します。この値は、午後 4:24:43 に相当する SAS 時間値です。

SAS ステートメント	結果
	---+----1----+
put begin timeampm3.;	PM
put begin timeampm5.;	4 PM
put begin timeampm7.;	4:24 PM
put begin timeampm11.;	4:24:43 PM

関連項目:

出力形式:

- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)

TOD 出力形式

SAS 時間値と、SAS 日時値の時間部分を *hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

構文

TOD $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-20

ヒント 指定した幅が十分な場合は、ゼロ時間に対しゼロが書き出されません。たとえば、02:30 や 00:30 では時間の桁にゼロがあります。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲	0-19
要件	<i>w</i> より小さい数にします。

詳細

TOD*w.d* 出力形式は、SAS 時間値および SAS 日時値を *hh:mm:ss.ss* 形式で書き出します。

hh

時間を表す整数です。

mm

分を表す整数です。

ss.ss

小数点以下 2 桁の秒数です。

比較

TOD*w.d* 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭にゼロを書き出します。TIME*w.d* 出力形式と HHMM*w.d* 出力形式は、1 桁の時間にはその先頭にゼロを書き出します。

例

例 1

この例では、SAS 日時値 1661437223 は 2012 年 8 月 24 日の午後 2:20:23 に相当します。

SAS ステートメント	結果
	----t----1
begin = '1:30t'; put begin tod5.;	01:30
begin = 1661437223; put begin tod9.;	14:20:23

例 2

この例では、SAS 時間値 32083 は午前 8:54:43 に相当します。

SAS ステートメント	結果
	----t----1
begin = 32083; put begin tod9.;	08:54:43

関連項目:**出力形式:**

- “HHMM 出力形式” (150 ページ)
- “TIME 出力形式” (274 ページ)
- “TIMEAMPM 出力形式” (276 ページ)

関数:

- “TIMEPART Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)

入力形式:

- “TIME 入力形式” (478 ページ)

VAXRB 出力形式

VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)を書き出します。

カテゴリ: CAS
CAS
配置: 右

構文

VAXRB*w.d*

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

VAXRB*w.d* 出力形式を使用して、ネイティブ VAX 浮動小数点数表記または VMS 浮動小数点数表記のデータを書き出します。

比較

VAX または VMS で実行している SAS を使用する場合、VAXRB*w.d* と RB*w.d* 出力形式は同じものです。

例

```
x=1;
y=put(x,vaxrb8.);
put y=$hex16.;
```

x の値	結果 *
----+----1	
1	8040000000000000

* 結果は、整数を 16 進表現で表したものです。

VMSZN 出力形式

VMS および MicroFocus COBOL ゾーン数値データを生成します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

構文

VMSZN $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

詳細

VMSZN $w.d$ 出力形式は ZD $w.d$ 出力形式で使用する特殊文字を示します。どちらの出力形式も桁を ASCII で表現した文字列を生成します。最後の桁は、値の最後の桁の大きさと値の符号を示す特殊文字になります。相違点は、最後の桁に使用される特殊文字が異なります。次の表は、VMSZN $w.d$ 出力形式で使用する特殊文字を示します。

表現する 桁	特殊 文字	表現する 桁	特殊 文字
0	0	-0	p
1	1	-1	q

表現する桁	特殊文字	表現する桁	特殊文字
2	2	-2	r
3	3	-3	s
4	4	-4	t
5	5	-5	u
6	6	-6	v
7	7	-7	w
8	8	-8	x
9	9	-9	y

フィールドの指定幅に対して出力形式の適用後の値が長いすぎる場合、VMSZNw.d 出力形式は次の調整を行います。

- 正の値の場合、出力を指定幅におさまる最大の正の値に設定します。
- 負の値の場合、出力を指定幅におさまる最大の大きさの負の数に設定します。

例

SAS ステートメント	結果
	----+----1
x=1234; put x vmszn4.;	1234
x=1234; put x vmszn5.1;	12340
x=1234; put x vmszn6.2;	123400
x=-1234; put x vmszn5.;	0123t

関連項目:

出力形式:

- [“ZD 出力形式” \(320 ページ\)](#)

入力形式:

- [“VMSZN 入力形式” \(483 ページ\)](#)

w 出力形式

標準数値でデータを書き出します(1 バイト 1 桁)。

カテゴリ: 数値
CAS

配置: 右

別名: Fw.d

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

w.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

範囲 1-32

ヒント 必要に応じて、値、小数点、マイナス記号を書き出せる十分なスペースを指定します。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

要件 w より小さい数にします。

ヒント d が 0、または d を指定しない場合、w.d は値を小数点なしで書き出します。

詳細

w.d 出力形式は、出力フィールドにおさまる近傍値になるように値を丸めます。w.d が小さすぎる場合、小数点揃えを BESTw.出力形式に合わせます。w.d 出力形式は、負の数には先頭のマイナス記号を付けて書き出します。また、w.d は、出力を右揃えにしてから書き出し、先頭に空白を挿入します。

比較

Zw.d 出力形式は、w.d 出力形式とほぼ同じですが、Zw.d は右揃えにした出力に空白ではなく 0 を挿入します。

例

```
put @7 x 6.3;
```

x の値	結果
	----+----1----+
23.45	23.450

WEEKDATE 出力形式

SAS 日付値を *day-of-week, month-name dd, yy* (または *yyyy*)形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 右

制限事項: CAS サーバーでは WEEKDATE 出力形式でなく NLDATEW 出力形式を使ってください。

構文

WEEKDATE*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 29

範囲 3-37

詳細

WEEKDATE*w*.出力形式は、SAS 日付値を *day-of-week, month-name dd, yy* (または *yyyy*)形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

w が小さすぎて曜日と月の名前を完全な形で書き出すことができない場合、必要に応じて短縮形で書き出します。

比較

WEEKDATE*w*.出力形式は WEEKDATX*w*.出力形式とほぼ同じですが、WEEKDATX*w*. は月名の前に *dd* を出力します。

例

次の例では、入力値として 19158 を使用します。この入力値は、2012 年 6 月 14 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1-----2
put date weekdate3.;	Thu
put date weekdate9.;	Thursday
put date weekdate15.;	Thu, Jun 14, 12
put date weekdate17.;	Thu, Jun 14, 2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“TOD 出力形式” \(278 ページ\)](#)
- [“WEEKDATX 出力形式” \(285 ページ\)](#)
- [“YMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“WEEKDAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“YMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

WEEKDATX 出力形式

SAS 日付値を *day-of-week, dd month-name yy* (または *yyyy*)形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

WEEKDATX*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 29

範囲 3-37

詳細

WEEKDATX*w*.出力形式は、SAS 日付値を *day-of-week, dd month-name, yy* (または *yyyy*)形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

w が小さすぎて曜日と月の名前を完全な形で書き出すことができない場合、必要に応じて短縮形で書き出します。

比較

WEEKDATE*w*.出力形式は WEEKDATX*w*.出力形式とほぼ同じですが、WEEKDATE*w*. は月名の後に *dd* を出力します。

WEEKDATX*w*.出力形式は DTWKDATX*w*.出力形式とほぼ同じですが、DTWKDATX*w*. は入力として日時値が必要です。

例

例の表では、19046 を入力値として使用します。この値は 2012 年 2 月 23 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----1----2----3
put date weekdatx.;	Thursday, 23 February 2012

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)

- “DTWKDATX 出力形式” (124 ページ)
- “MMDDYY 出力形式” (161 ページ)
- “TOD 出力形式” (278 ページ)
- “WEEKDATE 出力形式” (284 ページ)
- “YMMDD 出力形式” (301 ページ)

関数:

- “JULDATE Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “MDY Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “WEEKDAY Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)

入力形式:

- “DATE 入力形式” (404 ページ)
- “DDMMYY 入力形式” (408 ページ)
- “MMDDYY 入力形式” (435 ページ)
- “YMMDD 入力形式” (493 ページ)

WEEKDAY 出力形式

SAS 日付値から曜日の値を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

WEEKDAY*w*.

構文の説明

w
出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

詳細

WEEKDAY*w*.出力形式は、SAS 日付値を曜日の値(1=日曜日、2=月曜日など)として書き出します。

例

例の表では、19025 を入力値として使用します。この値は 2012 年 2 月 2 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date weekday;	5

関連項目:

出力形式:

- [“DOWNNAME 出力形式” \(121 ページ\)](#)

WEEKU 出力形式

U アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 左

構文

WEEKU*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 3-200

詳細

WEEKU*w*. 出力形式では、週番号形式で書き出します。WEEKU*w*. 出力形式では、指定した幅に応じてさまざまな形式を書き出します。U アルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します(日曜日を週の最初の日と見なします)。週番号値は、先頭に 0 を付けた 0 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値は 53 になります。たとえば、年の 5 週目は 05 として表されます。

幅、出力形式および例については、次の表を参照してください。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	12W01

幅	出力形式	例
7-8	yyWwwdd	12W0101
9-10	yyyyWwwdd	2012W0101
11-200	yyyy-Www-dd	2012-W01-01

比較

WEEKVw.出力形式では、01 から 53 の範囲の 10 進数として週番号を書き出します。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週には 1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方が含まれます。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。WEEKWw.出力形式では、00 から 53 の範囲の 10 進数として年の週番号を書き出します。第 1 週の最初の日が月曜日になります。WEEKUw.出力形式では、0 から 53 の範囲の 10 進数として、先頭に 0 を付けて年の週番号を書き出します(日曜日が週の最初の日です)。

例

```
sasdate = '31JAN2012'd;
```

ステートメント	結果
	----+----1-----+
<pre>v=put(sasdate,weeku3.); w=put(sasdate,weeku5.); x=put(sasdate,weeku7.); y=put(sasdate,weeku9.); z=put(sasdate,weeku11.); put v; put w; put x; put y; put z;</pre>	<pre>W05 12W05 12W0503 2012W0503 2012-W05-03</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKV 出力形式” \(290 ページ\)](#)
- [“WEEKW 出力形式” \(291 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Vija Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKU 入力形式” \(486 ページ\)](#)

- “WEEKV 入力形式” (487 ページ)
- “WEEKW 入力形式” (489 ページ)

WEEKV 出力形式

V アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 左

構文

WEEKV w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 3-200

詳細

WEEKV w .出力形式では、指定した幅に応じてさまざまな形式を書き出します。V アルゴリズムでは、先頭に 0 を付けた 01 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値が 53 になる週番号値を使用して、SAS 日付値を計算します。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週は 1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方を含む週です。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。たとえば、年の 5 週目は 06 として表されません。

幅、出力形式および例については、次の表を参照してください。

幅	出力形式	例
3-4	W w w	w01
5-6	yyW w w	12W01
7-8	yyW w w dd	12W0101
9-10	yyyyW w w dd	2012W0101
11-200	yyyy-W w w -dd	2012-W01-01

比較

WEEKV w .出力形式では、01 から 53 の範囲の 10 進数として週番号を書き出します。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週には 1 月 4 日と年の最初の木曜日の

両方が含まれます。1月の最初の月曜日が2日、3日または4日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。WEEKWw.出力形式では、00から53の範囲の10進数として年の週番号を書き出します。第1週の最初の日は月曜日になります。WEEKUw.出力形式では、0から53の範囲の10進数として、先頭に0を付けて年の週番号を書き出します(日曜日が週の最初の日です)。

例

```
sasdate='31JAN2012'd;
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
v=put(sasdate,weekv3.); w=put(sasdate,weekv5.); x=put(sasdate,weekv7.); y=put(sasdate,weekv9.); z=put(sasdate,weekv11.); put v; put w; put x; put y; put z;	W05 12W01 12W0502 2012W0502 2012-W05-02

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU 出力形式” \(288 ページ\)](#)
- [“WEEKW 出力形式” \(291 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKU 入力形式” \(486 ページ\)](#)
- [“WEEKV 入力形式” \(487 ページ\)](#)
- [“WEEKW 入力形式” \(489 ページ\)](#)

WEEKW 出力形式

W アルゴリズムを使用して、10進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 左

構文

WEEKW*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 3-200

詳細

WEEKW*w*.出力形式では、指定した幅に応じてさまざまな形式を書き出します。W アルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します(月曜日を週の最初の日と見なします)。週番号値は、先頭に 0 を付けた 0 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値は 53 になります。たとえば、年の 5 週目は 05 として表されます。

ここに、幅、出力形式と例を示します。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	12W01
7-8	yyWwwdd	12W0101
9-10	yyyyWwwdd	2012W0101
11-200	yyyy-Www-dd	2012-W01-01

比較

WEEKV*w*.出力形式では、01 から 53 の範囲の 10 進数として週番号を書き出します。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週には 1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方が含まれます。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。WEEKW*w*.出力形式では、00 から 53 の範囲の 10 進数として年の週番号を書き出します。第 1 週の最初の日が月曜日になります。WEEKU*w*.出力形式では、0 から 53 の範囲の 10 進数として、先頭に 0 を付けて年の週番号を書き出します(日曜日が週の最初の日です)。

例

```
sasdate = '31JAN2012'd;
```

ステートメント	結果
	----+----1----+

ステートメント	結果
<pre>v=put(sasdate,weekw3.); w=put(sasdate,weekw5.); x=put(sasdate,weekw7.); y=put(sasdate,weekw9.); z=put(sasdate,weekw11.); put v; put w; put x; put y; put z;</pre>	<pre>W05 12W05 12W0502 2012W0502 2012-W05-02</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU 出力形式” \(288 ページ\)](#)
- [“WEEKV 出力形式” \(290 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKU 入力形式” \(486 ページ\)](#)
- [“WEEKV 入力形式” \(487 ページ\)](#)
- [“WEEKW 入力形式” \(489 ページ\)](#)

WORDDATE 出力形式

SAS 日付値を *month-name dd, yyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 右

制限事項: WORDDATE 出力形式は CAS Server では有効ではありません。CAS サーバーでは WORDDATE 出力形式でなく NLDATEW 出力形式を使ってください。

構文

WORDDATE*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 18

範囲 3-32

詳細

WORDDATEw.出力形式は、SAS 日付値を *month-name dd, yyyy* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。

yyyy

年を表す 4 桁の整数です。

幅が小さすぎて月の名前を完全な形で書き出すことができない場合、必要に応じて短縮形で書き出します。

比較

WORDDATEw.出力形式は、WORDDATXw.出力形式とほぼ同じですが、WORDDATXw. は月名の前に *dd* を出力します。

例

次の例では、入力値として 19158 を使用します。この入力値は、2012 年 6 月 14 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
put term worddate3.;	Jun
put term worddate9.;	---+---1---+---2 June
put term worddate12.;	Jun 14, 2012
put term worddate20.;	---+---1---+---2 June 14, 2012

関連項目:

出力形式:

- [“WORDDATX 出力形式” \(294 ページ\)](#)

WORDDATX 出力形式

SAS 日付値を *dd month-name yyyy* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 右

構文

WORDDATX w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 18

範囲 3-32

詳細

WORDDATX w .出力形式は、SAS 日付値を *dd month-name, yyyy* 形式で書き出します。

dd

月の日を表す整数です。1-9 日では、十の位の 0 は表示されません。

yyyy

年を表す 4 桁の整数です。

幅が小さすぎて月の名前を完全な形で書き出すことができない場合、必要に応じて短縮形で書き出します。

比較

WORDDATX w .出力形式は、WORDDATE w .出力形式とほぼ同じですが、WORDDATE w . は月名の後に *dd* を出力します。

例

例の表では、19057 を入力値として使用します。この値は 2012 年 3 月 5 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+----2
put term worddatx.;	5 March 2012

関連項目:

出力形式:

- [“WORDDATE 出力形式” \(293 ページ\)](#)

WORDF 出力形式

数値を英語表現で書き出します。分数は数値で表示します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

制限事項: WORDFw 出力形式は CAS Server では有効ではありません。

構文

WORDFw.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 5-32767

詳細

WORDFw.出力形式は、数値を分数付きの英語表現に変換します。たとえば、8.2 は eight and 20/100 と出力されます。

負数には、minus という英語表現が値の前に付きます。英語表現に相当する値は指定したフィールドに表示しきれない場合、右側が切り捨てられ、最後の文字がアスタリスクとして出力されます。

比較

WORDSw.出力形式は、WORDFw.出力形式とほぼ同じですが、WORDSw. は分数を数値でなく英語表現として出力します。

例

```
put price wordf15.;
```

price の値	結果
	----+----1----+
2.5	two and 50/100

関連項目:

出力形式:

- [“WORDS 出力形式” \(296 ページ\)](#)

WORDS 出力形式

数値を英語表現で書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左
制限事項: WORDS 出力形式は CAS Server では有効ではありません。

構文

WORDS w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 5-32767

詳細

WORDS w .出力形式を使用して、受取人行の下に金額が書かれた小切手を出力できます。

負数には、minus という英語表現が値の前に付きます。数値が整数でない場合、小数部分は hundredths と表現されます。たとえば、5.3 は five and thirty hundredths と出力されます。英語表現に相当する値は指定したフィールドに表示しきれない場合、右側が切り捨てられ、最後の文字がアスタリスクとして出力されます。

比較

WORDS w .出力形式は、WORDF w .出力形式とほぼ同じですが、WORDS w .は分数を数値でなく英語表現として出力します。

例

```
put price words23.;
```

price の値	結果
	----+----1-----2----+
2.1	two and ten hundredths

関連項目:

出力形式:

- [“WORDF 出力形式” \(295 ページ\)](#)

YEAR 出力形式

SAS 日付値から年部分を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

YEAR*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-32

ヒント

w が 4 より小さい場合、年の最後の 2 桁が出力されます。4 より大きい場合は、年値は 4 桁で出力されます。

詳細

YEAR*w*.出力形式と DTYEAR*w*.出力形式は、どちらも日付値を書き出すという点でほぼ同じです。相違点は、YEAR*w*.が入力として SAS 日付値を必要とし、DTYEAR*w*.は日時値が必要であることです。

例

例の表では、19158 を入力値として使用します。この値は 2012 年 6 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1
put date year2.;	12
put date year4.;	2012

関連項目:

出力形式:

- [“DTYEAR 出力形式” \(125 ページ\)](#)

YEN 出力形式

円記号、桁区切り、小数点付きの数値を出力します。

カテゴリ: 数値

CAS
配置: 右

構文

YEN*w.d*

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

YEN*w.d* 出力形式は、先頭に円記号を付け、各値を 3 桁ごとにカンマで区切って数値を書き出します。

円記号文字のコードの 16 進表現は、EBCDIC のシステムでは 5B、ASCII のシステムでは 5C です。これらのコードが表す通貨記号は、他の国では異なる場合があります。

例

```
put cost yen10.2;

data _null_;
  value=1254.71;
  put value yen10.2;
run;
```

Cost	結果
	----+----1
1254.71	¥1,254.71

YYMM 出力形式

SAS 日付値を <yy>yyMmm 形式で書き出します。M は月番号が M の後続くことを示す区切り文字で、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

YYMM w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 5-32

操作 w の値が 5 または 6 の場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。 w が 7 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

YYMM w .出力形式は、SAS 日付値を<yy>yyMmm 形式で書き出します。

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

M

月の番号が後に続くことを示す区切り文字です。

mm

月を表す整数です。

例

次の例では、19291 を入力値として使用します。この値は、2012 年 10 月 25 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yymm5.;	12M10
put date yymm6.;	12M10
put date yymm.;	2012M10
put date yymm7.;	2012M10
put date yymm10.;	----+----1----+ 2012M10

関連項目:

出力形式:

- [“MMYY 出力形式” \(167 ページ\)](#)
- [“YYMMx 出力形式” \(305 ページ\)](#)

YYMMDD 出力形式

SAS 日付値を *yymmdd* または *<yy>yy-mm-dd* 形式で書き出します。ハイフンが区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

YYMMDD*w*.

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-10

操作 *w* の値が 2 から 5 までの場合、日付は可能な限りで年と月だけを表示されます。*w* が 7 の場合、日付は 2 桁の年としてハイフンなしで表示されます。詳細については、次の例を参照してください。

詳細

YYMMDD*w*.出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

yymmdd

<yy>yy-mm-dd

ここで、

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

-

区切り文字です。

mm

月を表す整数です。

dd

月の日を表す整数です。

4桁の年表示で区切り文字のない日付を出力するには、YYMMDDx.出力形式を使用します。

例

次の例では、入力値として 19086 を使用します。入力値は、2012 年 4 月 3 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put day yymmdd2.;	12
put day yymmdd3.;	12
put day yymmdd4.;	1204
put day yymmdd5.;	12-04
put day yymmdd6.;	120403
put day yymmdd7.;	120403
put day yymmdd8.;	12-04-03
put day yymmdd10.;	2012-04-03

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YYMMDDx 出力形式” \(303 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)

YYMMDDx 出力形式

SAS 日付値を *yymmdd* または *<yy>yy-mm-dd* 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、年、月、日を区切る特殊文字を表す文字です。特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

YYMMDD*xw*.

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字を年、月、日の間に挿入しないことを示します。x の値として、次の値が有効です。

B

空白で区切ります。

C

コロンで区切ります。

D

ハイフンで区切ります。

N

区切り文字なしを表します。

P

ピリオドで区切ります。

S

スラッシュで区切ります。

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-10

操作 *w* の値が 2 から 5 までの場合、日付は可能な最大桁数の年と月で表示されます。*w* が 7 の場合、日付の年は 2 桁で、区切り文字を使用せずに表示されます。詳細については、次の例を参照してください。

x の値が N の場合、幅の範囲は 2-8 に変化します。

詳細

YYMMDD*xw*.出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

yyymmdd

<yy>yyxmmxddd

ここで、

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

x

指定された区切り文字です。

mm

月を表す整数です。

dd

月の日を表す整数です。

例

次の例では、入力値として 19127 を使用します。この入力値は、2012 年 5 月 14 日に対応する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put day yymmddc5.;	12:05
put day yymmddd8.;	12-05-14
put day yymmddp10.;	2012.05.14
put day yymmddn8.;	20120514

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYYx 出力形式” \(116 ページ\)](#)
- [“MMDDYYx 出力形式” \(163 ページ\)](#)
- [“YMMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“YMMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

YYMMx 出力形式

SAS 日付値を <yy>yy x mm または <yy>yy- x mm 形式で書き出します。出力形式名の x は、年と月を区切る特殊文字を表します。この特殊文字は、ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)、コロン(:)または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁で表示されます。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

YYMM x w .

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字を年と月の間に挿入しないことを示します。 x の値として、次の値が有効です。

C

コロンで区切ります。

D

ハイフンで区切ります。

N

区切り文字なしを表します。

P

ピリオドで区切ります。

S

スラッシュで区切ります。

w

出力幅を指定します。

デフ 7

ォル

ト

範囲 5-32

操作 x を N に設定すると、区切り文字なしを指定します。この場合の幅範囲は 4-32 になり、デフォルトは 6 に変化します。

x の値が C、D、P または S で、 w の値が 5 または 6 の場合、日付の年は下 2 桁のみ表示されます。 w が 7 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

x の値が N で、 w の値が 4 または 5 の場合、日付の年は下 2 桁のみ表示されます。 x の値が N で、 w が 6 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

YYMMxw.出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

<yy>yymm

<yy>yyXmm

ここで、

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

x

指定された区切り文字です。

mm

月を表す整数です。

例

次の例では、19127 を入力値として使用します。この値は、2012 年 5 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yymmc5.;	12:05
put date yymmd.;	2012-05
put date yymmn4.;	1205
put date yymmp8.;	2012.05
put date yymms10.;	2012/05

関連項目:

出力形式:

- [“MMYYx 出力形式” \(168 ページ\)](#)
- [“YYMM 出力形式” \(299 ページ\)](#)

YYMON 出力形式

SAS 日付値を *yymmm* または *yyyymmm* 形式で書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
数値
CAS

配置: 右

構文

YYMON w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。出力形式の幅が小さすぎて 4 桁の年を出力できない場合、年の下 2 桁だけが出力されます。

デフォルト 7

範囲 5-32

詳細

YYMON w .出力形式は、SAS 日付値を<yy>yymmm 形式で書き出します。

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

mmm

3 文字に省略された月名です。

例

例の表では、19158 を入力値として使用します。この値は 2012 年 6 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----t----1
put date yymon6.;	02JUN
put date yymon7.;	2012JUN

関連項目:

出力形式:

- [“MMYY 出力形式” \(167 ページ\)](#)

YYQ 出力形式

SAS 日付値を<yy>yyQq 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また、q は四半期を表します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

YYQ w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 4-32

操作

w の値が 4 または 5 の場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。 w が 6 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

YYQ w .出力形式は、SAS 日付値を <yy>yyQ q 形式で書き出します。

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

Q

区切り文字です。

q

四半期を表す整数(1、2、3、4 のいずれか)です。

例

次の例では、19158 を入力値として使用します。この値は、2012 年 6 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yyq4.;	12Q2
put date yyq5.;	12Q2
put date yyq.;	2012Q2
put date yyq6.;	2012Q2
put date yyq10.;	2012Q2

関連項目:

出力形式:

- “YYQx 出力形式” (309 ページ)

- “YYQR 出力形式” (310 ページ)

YYQx 出力形式

SAS 日付値を <yy>yyq または <yy>yy-q 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、年と四半期または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 右

構文

YYQ_{*xw*}.

構文の説明

x

区切り文字を示します。または、区切り文字を年と四半期の間に挿入しないことを示します。x の値として、次の値が有効です。

C

コロンで区切ります。

D

ハイフンで区切ります。

N

区切り文字なしを表します。

P

ピリオドで区切ります。

S

スラッシュで区切ります。

w

出力幅を指定します。

デフ 6
ォル
ト

範囲 4-32

操作 *x* を *N* に設定すると、区切り文字なしを指定します。この場合の幅範囲は 3-32 になり、デフォルトは 5 に変化します。

w の値が 4 または 5 の場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。*w* が 6 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

x の値が *N* で、*w* の値が 3 または 4 の場合、日付の年は下 2 桁のみ表示されます。*x* の値が *N* で、*w* が 5 以上の場合、日付の年は 4 桁で表示されます。

詳細

YYQxw.出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

<yy>yyq

<yy>yyxq

ここで、

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

x

指定された区切り文字です。

q

四半期を表す整数(1、2、3、4 のいずれか)です。

例

次の例では、19188 を入力値として使用します。この値は、2012 年 7 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yyqc4.;	12:3
put date yyqd.;	2012-3
put date yyqn3.;	123
put date yyqp6.;	2012.3
put date yyqs8.;	2012/3

関連項目:

出力形式:

- [“YYQ 出力形式” \(307 ページ\)](#)
- [“YYQRx 出力形式” \(312 ページ\)](#)

YYQR 出力形式

SAS 日付値を<yy>yyQqr 形式で書き出します。Q は区切り文字として使用され、年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます。また qr はローマ数字表現の四半期を表します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 右

構文

YYQR w .

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 6-32

操作 w の値が小さすぎて 4 桁の年を書き出せない場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。

詳細

YYQR w . 出力形式は、SAS 日付値を $\langle yy \rangle yyQqr$ 形式で書き出します。

$\langle yy \rangle yy$

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

Q

区切り文字です。

qr

四半期を表すローマ数字表現(I、II、III、IV のいずれか)です。

例

次の例では、19158 を入力値として使用します。この値は、2012 年 6 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yyqr6.;	12QII
put date yyqr7.;	2012QII
put date yyqr.;	2012QII
put date yyqr8.;	2012QII
put date yyqr10.;	2012QII

関連項目:

出力形式:

- “YYQ 出力形式” (307 ページ)
- “YYQRx 出力形式” (312 ページ)

YYQRx 出力形式

SAS 日付値を <yy>yyqr または <yy>yy-qr 形式で書き出します。出力形式名の *x* は、年と四半期、または年を区切る特殊文字を表す文字で、ハイフン(-)、ピリオド(.)、空白文字、スラッシュ(/)、コロン(:)、または区切り文字なしになります。年は 2 桁または 4 桁の数字で書き出されます、また *qr* は、ローマ数字表現の四半期です。

カテゴリ: 日付と時間
数値
CAS

配置: 右

構文

YYQR*xw*.

構文の説明

x
区切り文字を示します。または、区切り文字を年と四半期の間に挿入しないことを示します。*x* の値として、次の値が有効です。

C
コロンで区切ります。

D
ハイフンで区切ります。

N
区切り文字なしを表します。

P
ピリオドで区切ります。

S
スラッシュで区切ります。

w
出力幅を指定します。

デフォルト 8
ト

範囲 6-32

操作 *x* を *N* に設定すると、区切り文字なしを指定します。幅範囲は 5-32 になり、デフォルトは 7 に変化します。

w の値が小さすぎて 4 桁の年を書き出せない場合、日付の年は下 2 桁でのみ表示されます。

詳細

YYQR*xw*. 出力形式は、SAS 日付値を次の形式のいずれかで書き出します。

<yy>yyqr

<yy>yyxqr

ここで、

<yy>yy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

x

指定された区切り文字です。

qr

四半期を表すローマ数字表現(I、II、III、IV のいずれか)です。

例

次の例では、19127 を入力値として使用します。この値は、2012 年 5 月 14 日に相当する SAS 日付値です。

SAS ステートメント	結果
	----+----1----+
put date yyqrc6.;	12:II
put date yyqrd.;	2012-II
put date yyqrn5.;	12II
put date yyqrp8.;	2012.II
put date yyqrs10.;	2012/II

関連項目:

出力形式:

- [“YYQx 出力形式” \(309 ページ\)](#)
- [“YYQR 出力形式” \(310 ページ\)](#)

YYQZ Format

Writes SAS date values in the form <yy><qq>, where the year appears as 2 or 4 digits, and qq is the quarter of the year.

Categories: Date and Time
CAS

Alignment: Right

Syntax

YYQZw.

Arguments

Z

specifies that no separator appear between the year and the quarter.

W

specifies the width of the output field.

Default 4**Range** 4–6

Details

The YYQZW. format writes SAS date values in the form <yy> <qq>. Here is an explanation of the syntax:

<yy>

is a two-digit or four-digit integer that represents the year.

Z

specifies that there is no separator.

<qq>

is an integer (01, 02, 03, or 04) that represents the quarter of the year.

Example

The following examples use the input value of 18822, which is the SAS date value that corresponds to July 14, 2011.

Statements	Results
	----+----1----+
a=put (18822,yyqz6.);	201103
a=put (18822,yyqz4.);	1103

See Also

- [“Dates and Times in DS2” in SAS Viya: DS2 Programmer’s Guide](#)

Formats:

- [“YYQ Format” in SAS Viya: DS2 Language Reference](#)
- [“YYQx Format” in SAS Viya: DS2 Language Reference](#)
- [“YYQR Format” in SAS Viya: DS2 Language Reference](#)
- [“YYQRx Format” in SAS Viya: DS2 Language Reference](#)

YYWEEKU 出力形式

曜日情報を除外し、U アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

YYWEEKU*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 2-8

詳細

YYWEEKU*w*.出力形式では、週番号形式で書き出します。YYWEEKU*w*.出力形式では、指定された幅に応じてさまざまな形式で書き出します。Uアルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します(日曜日を週の最初の日と見なします)。

幅、出力形式および例の詳細については、次の表を参照してください。

幅	出力形式	例
3-4	Www	W01
5-6	yyWww	07W01
7	yyyyWww	2007W01
8	yyyy-Www	2007-W01
9-above	無効	無効

比較

YYWEEKU*w*.出力形式は WEEKU*w*.出力形式と似ていますが、YYWEEKU*w*.出力形式では曜日情報を示しません。また、YYWEEKU*w*.出力形式では、8 より大きい幅は受け付けません。

例

```
sasdate = '01JAN2007'd;
```

ステートメント	結果
	----+----1----+

ステートメント	結果
u=put(sasdate,yyweeku3.);	W00
v=put(sasdate,yyweeku4.);	W00
w=put(sasdate,yyweeku5.);	07W00
x=put(sasdate,yyweeku6.);	07W00
y=put(sasdate,yyweeku7.);	2007W00
z=put(sasdate,yyweeku8.);	2007-W00
put u;	
put v;	
put w;	
put x;	
put y;	
put z;	

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU Format” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

YYWEEKV 出力形式

曜日情報を除外し、V アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

配置: 左

構文

YYWEEKV*w*.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 2-8

詳細

YYWEEKV*w*.出力形式では、指定された幅に応じてさまざまな形式で書き出します。V アルゴリズムでは、SAS 日付値を計算します。週番号値は、先頭に 0 を付けた 01 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値が 53 になります。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週は 1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方を含む週です。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。たとえば、年の 5 週目は 06 として表されません。

幅、出力形式および例の詳細については、次の表を参照してください。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	07W01
7	yyyyWww	2007W01
8	yyyy-Www	2007-W01
9-above	無効	無効

比較

YYWEEKVw.出力形式は WEEKVw.出力形式と似ていますが、YYWEEKVw.出力形式では曜日情報を示しません。また、YYWEEKVw.出力形式では、8 より大きい幅は受け付けません。

例

```
sasdate = '01JAN2007'd;
```

ステートメント	結果
	----+----1----+
u=put(sasdate,yyweekv3.);	W01
v=put(sasdate,yyweekv4.);	W01
w=put(sasdate,yyweekv5.);	07W01
x=put(sasdate,yyweekv6.);	07W01
y=put(sasdate,yyweekv7.);	2007W01
z=put(sasdate,yyweekv8.);	2007-W01
put u;	
put v;	
put w;	
put x;	
put y;	
put z;	

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKV Format” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

YYWEEKW 出力形式

曜日情報を除外し、W アルゴリズムを使用して、10 進数の週番号を書き出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

配置: 左

構文

YYWEEKW_w.

説明

w

出力フィールドの幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 2-8

詳細

YYWEEKW_w.出力形式では、指定された幅に応じてさまざまな形式で書き出します。W アルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します。

幅、出力形式および例の詳細については、次の表を参照してください。

幅	出力形式	例
3-4	W _{www}	W01
5-6	yyW _{www}	07W01
7	yyyyW _{www}	2007W01
8	yyyy-W _{www}	2007-W01
9-above	無効	無効

比較

YYWEEKW_w.出力形式は WEEKW_w.出力形式と似ていますが、YYWEEKW_w.出力形式では曜日情報を示しません。また、YYWEEKW_w.出力形式では、8 より大きい幅は受け付けません。

例

sasdate = '01JAN2007'd

ステートメント

結果

----1----

ステートメント	結果
u=put(sasdate,yyweekw3.);	W01
v=put(sasdate,yyweekw4.);	W01
w=put(sasdate,yyweekw5.);	07W01
x=put(sasdate,yyweekw6.);	07W01
y=put(sasdate,yyweekw7.);	2007W01
z=put(sasdate,yyweekw8.);	2007-W01
put u;	
put v;	
put w;	
put x;	
put y;	
put z;	

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKW Format” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)

Z 出力形式

先頭に 0 を含む標準数値データを書き出します。

カテゴリ: 数値

CAS

配置: 右

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、[“DECIMALCONV= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)を参照してください。

構文

Zw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

ヒント

必要に応じて、値、小数点、マイナス記号を書き出せる十分なスペースを指定します。

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト	0
範囲	0-31
ヒント	d が 0 の場合、または d の指定を省略する場合、 $Zw.d$ は値を小数点なしで書き出します。

詳細

$Zw.d$ 出力形式は、標準数値(1 バイト 1 桁)を書き出し、データ値の左側に 0 を入力します。

$w.d$ 出力形式は、出力フィールドにおさまる近傍値になるように値を丸めます。 $w.d$ が大きすぎておさまらない場合、小数点揃えを $BESTw.$ 出力形式に合わせます。 $Zw.d$ 出力形式は、負の数には先頭のマイナス記号を付けて書き出します。また、出力を右揃えしてから書き出し、先頭にゼロを挿入します。

比較

$Zw.d$ 出力形式は $w.d$ 出力形式とほぼ同じですが、 $Zw.d$ は右揃えにした出力に空白ではなく 0 を挿入します。

例

```
put @5 seqnum z8.;
```

seqnum の値	結果
	----t----1
1350	00001350

ZD 出力形式

ゾーン 10 進形式の数値データを書き出します。

カテゴリ: 数値

配置: 左

操作: DECIMALCONV=システムオプションを STDIEEE に設定した場合、この出力形式を使用して書き出される出力が前のリリースと多少異なる可能性があります。詳細については、“[DECIMALCONV= System Option](#)” ([SAS Viya System Options: Reference](#))を参照してください。

構文

$ZDw.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

10^d で数値を乗算するよう指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

ゾーン 10 進出力形式は、標準数値形式と同じよう 1 桁には 1 バイトが必要です。ただし、値の符号は最後の桁とともに最下位バイトに示されます。

注: 動作環境によってゾーン 10 進値の保存方法は異なります。ただし、ZDw.d 出力形式では、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成された場合と同じように、ゾーン 10 進値を書き出します。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのゾーン 10 進形式の表記を比較したものです。

言語	ゾーン 10 進表記
SAS	ZD3.
PL/I	PICTURE'99T'
COBOL	DISPLAY PIC S 999
IBM 370 アセンブラ	ZL3

例

```
y=put(x,zd4.);
put y $hex8.;
```

x の値	結果 *
120	F0F1F2C0

* 結果は、IBM メインフレームで見られる、ゾーン 10 進形式のバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、出力フィールドの 1 カラムを使用します。

2 部

SAS 入力形式

4 章	SAS 入力形式について	325
5 章	他のドキュメントで説明されている SAS 入力形式	343
6 章	SAS 入力形式のディクショナリ	345

4 章

SAS 入力形式について

入力形式について	325
構文	326
入力形式の使用	327
入力形式の指定方法	327
恒久的な関連付けと一時的な関連付け	329
ユーザー定義の入力形式	329
ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディア ンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング	330
定義	330
バイトオーダーリングについて	330
ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラット フォームで生成されたデータの読み込み	330
各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記	331
パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理	332
定義	332
データの種類	332
パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートす るプラットフォーム	333
パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートする言語	333
パック 10 進とゾーン 10 進の出力形式と入力形式の概要	334
ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み	336
ISO 8601 規格のフォーマットシンボル	336
ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値の読み込み	337
ISO 8601 規格の期間値、間隔値、日時値の読み込み	339

入力形式について

入力形式は、入力として読み込まれるデータ値へのパターンの適用や命令の実行を行う SAS 言語要素です。入力形式の種類は、データの種類(数値、文字、日付、時間、タイムスタンプ)に対応します。ユーザー定義の入力形式を作成することもできます。SAS 入力形式の例として、BINARY、DATE、COMMA などがあります。たとえば次の値にはドル記号(\$)やカンマ(,)が含まれます。

\$1,000,000

数値 1000000 を変数に保存する前にドル記号とカンマを削除するには、この値を COMMA11. 入力形式で読み込みます。

最初に変数を明示的に定義しない限り、SAS では入力形式を使用して、変数が数値または文字かどうか特定されます。入力形式は、文字変数の長さを特定するためにも使用されます。

構文

SAS 入力形式の形式は次のようになります。

```
<$>informat<w>.<d>
```

\$

文字出力形式であることを表します。数値出力形式には使用されません。

informat

入力形式名です。入力形式には、SAS 入力形式、PROC FORMAT の INVALUE ステートメントを使用して定義されたユーザー定義の入力形式があります。["FORMAT Procedure" \(SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide\)](#).

w

入力形式の幅です。大部分の入力形式では、入力データの列数となります。

d

オプションの小数点以下の桁数です(数値入力形式)。入力データを 10 の *d* 乗で除算します。

注: 32 桁まで読み込めるように数値入力形式を指定している場合でも、多くのコンピュータで使用されている 8 バイトの浮動小数点数表記の制限により、有効桁数が 15 桁を超える数字では精度が失われることがあります。

入力形式は、名前の一部として必ずピリオド(.)を含みます。入力形式の *w* 値と *d* 値を省略すると、デフォルト値が使用されます。データに小数点が含まれる場合、*d* 値は無視され、実際に入力データにある小数点以下桁数が読み込まれます。

入力形式の幅が入力データのすべての列を読み込むには狭すぎる場合、予期しない結果が発生することがあります。日付入力形式と時間入力形式では、この問題は頻繁に発生します。日、月、年、または時間の間に空白または特殊文字を含めるように入力形式の幅を調整する必要があります。

入力形式に関する問題が発生した場合、SAS ログに記述され、欠損値が変数に割り当てられます。問題が発生するのは、文字データの読み込みに数値入力形式を使用するなど、互換性のない入力形式を使用した場合、または最後の列の特殊文字が読み込まれる日時入力形式の幅を指定した場合です。

入力形式の使用

入力形式の指定方法

入力形式指定の概要

入力形式を次の方法で指定できます。

- INPUT ステートメントで使用する
- 関数 INPUT、INPUTC、INPUTN と使用する
- DATA ステップまたは PROC ステップの INFORMAT ステートメントで使用する
- DATA ステップまたは PROC ステップの ATTRIB ステートメントで使用する

INPUT ステートメント

値を変数に読み込む最も簡単な方法は、INPUT ステートメントで変数名の後に入力形式を使用する方法です。たとえば、次の INPUT ステートメントでは、2つの入力形式が使用されます。

```
input @15 style $3. @21 price 5.2;
```

\$w.文字入力形式は、値を変数 STYLE に読み込みます。w.d 数値入力形式は、値を変数 PRICE に読み込みます。

INPUT ステートメントの詳細については、“[INPUT Statement](#)” ([SAS Viya Statements: Reference](#))を参照してください。

INPUT 関数

INPUT 関数は、指定された入力形式を使用して、SAS 文字式を変換します。この入力形式によって、結果の値が数値か文字かどうか特定されます。そのため、データの変換に INPUT 関数を使用します。例を示します。

```
TempCharacter='98.6';  
TemperatureNumber=input(TempCharacter,4.);
```

INPUT 関数を w.d 入力形式と組み合わせて、TempCharacter の文字値を数値に変換し、数値 98.6 を TemperatureNumber に割り当てます。

ヒント INPUT 関数の最初の引数が文字式で、変数ではない場合、文字式に引用符を含める必要があります。

PUT 関数を SAS 出力形式と使用して、数値を文字値に変換します。数値から文字への変換の例については、“[PUT Function](#)” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))を参照してください。INPUT 関数の詳細については、“[INPUT Function](#)” ([SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference](#))を参照してください。

INFORMAT ステートメント

INFORMAT ステートメントは入力形式を変数と関連付けます。SAS では、入力形式を後続の INPUT ステートメントで使用して、値を変数に読み込みます。たとえば次のステートメントでは、INFORMAT ステートメントが DATEw.入力形式を変数 Birthdate および Interview と関連付けています。

```
informat Birthdate Interview date9.;
input @63 Birthdate Interview;
```

INFORMAT ステートメントと関連付けられた入力形式は、INPUT ステートメントでコロン(:)フォーマット修飾子も一緒に指定された入力形式と同じ結果をもたらします。コロン(:)修飾子の使用に関する詳細については、“[INPUT Statement, List](#)” ([SAS Viya Statements: Reference](#))を参照してください。したがって SAS は、次のようになるよう、修正リスト入力を使って変数を読み込みます。

- 入力形式の *w* 値によって、外部ファイルのカラム位置、入力フィールド幅が特定されない
- 入力データに埋め込まれている空白は、INFILE ステートメントの DLM=オプションまたは DLMSTR=オプションを変更しない限り、区切り文字として処理される
- 文字入力形式の場合、入力形式の *w* 値が文字変数の長さを指定する
- 数値入力形式の場合、*w* 値が無視される
- 数値入力形式の場合、入力形式の *d* 値の機能は通常と変わらない

フォーマット入力やカラム入力などの別の入力スタイルを使用するように INPUT ステートメントをコード化した場合、INFORMAT ステートメントの使用時にはその入力スタイルは使用されません。

データの読み込みに修飾リスト入力を使用する方法の詳細については、“[INPUT Statement, List](#)” ([SAS Viya Statements: Reference](#))を参照してください。

注: テキストファイルがローカルエンコーディング環境以外で作成されている場合は、常に ENCODING=オプションに ASCII または EBCDIC 環境を指定する必要があります。たとえば、EBCDIC テキストファイルを ASCII プラットフォームで読み込む場合、FILENAME ステートメントまたは INFILE ステートメントの ENCODING=オプションを指定することをお勧めします。ただし、DSD を使用し、FILENAME ステートメントまたは INFILE ステートメントの DLM=オプションまたは DLMSTR=オプションを使用する場合、ENCODING=オプションが必要条件となります。これらのオプションは、セッションエンコーディングで示された特定の文字(引用符、カンマ、空白など)が必要なためです。エンコーディング固有の入力形式は、バイナリファイルに使用するためのものです。つまり、文字フィールドと非文字フィールドの両方が含まれます。

ATTRIB ステートメント

ATTRIB ステートメントは、他の属性と同様に、入力形式を 1 つ以上の変数と関連付けることができます。たとえば次のステートメントでは、ATTRIB ステートメントが DATE*w*. 入力形式を変数 Birthdate および Interview と関連付けています。

```
attrib Birthdate Interview informat=date9.;
input @63 Birthdate Interview;
```

ATTRIB ステートメントで INFORMAT=オプションを使用して関連付けられた入力形式は、INPUT ステートメントでコロン(:)フォーマット修飾子を一緒に指定した入力形式と同じ結果をもたらします。コロン(:)修飾子の使用に関する詳細については、“[INPUT Statement, List](#)” ([SAS Viya Statements: Reference](#))を参照してください。そのため、SAS では、INFORMAT ステートメントの場合と同じように、修飾リスト入力を使用して変数を読み込みます。

詳細については、“[ATTRIB Statement](#)” ([SAS Viya Statements: Reference](#))を参照してください。

恒久的な関連付けと一時的な関連付け

INPUT ステートメントに入力形式を指定した場合、DATA ステップにおける入力データ値の読み込みにこの入力形式が使用されます。ただし、入力形式は恒久的には変数と関連付けられません。入力形式を恒久的に変数と関連付けるには、INFORMAT ステートメントまたは ATTRIB ステートメントを使用します。SAS では、SAS データセットのディスクリプタ情報を変更することにより、入力形式と変数を恒久的に関連付けます。

ユーザー定義の入力形式

Base SAS が提供する入力形式に加えて、独自の入力形式を作成できます。Base SAS では、PROC FORMAT を使用して、文字変数と数値変数の両方に対し独自の入力形式と出力形式を作成できます。ユーザー定義の入力形式の詳細については、“[FORMAT Procedure](#)” (*SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide*)を参照してください。

ユーザー定義の入力形式を使用する SAS プログラムの実行時に、これらの入力形式が使用できる必要があります。これらの入力形式を使用可能にするには 2 つの方法があります。

- 一時的でなく、恒久的な入力形式を PROC FORMAT で作成する
- 入力形式を作成する(PROC FORMAT ステップ)ソースコードを、それを使用する SAS プログラムと一緒に保存する

ユーザー定義の入力形式を見つけれないプログラムを実行する場合、結果は FMterr=システムオプションの設定によって異なります。ユーザー定義の入力形式が見つからない場合、次のシステムオプションの結果は次のようになります。

システムオプション	結果
FMterr	現在の DATA ステップまたは PROC ステップを停止するエラーを発生します。
NOFMterr	処理は続行され、デフォルトの入力形式を置き換えます。

NOFMterr を使用すると変数を処理できますが、ユーザー定義の入力形式によって提供される情報は失われます。このオプションにより DATA ステップでデータが誤って読み込まれ、結果が正しくない可能性があります。詳細については、“[FMterr System Option](#)” (*SAS Viya System Options: Reference*)を参照してください。

問題を避けるために、使用されるすべてのユーザー定義の入力形式にプログラムのユーザーがアクセスできるかを確認します。

ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング

定義

バイナリ整数データの整数値は、通常、1バイト、2バイト、4バイトの3つのサイズのいずれかで保存されます。整数のバイトオーダーリングは、整数が生成されるプラットフォーム(動作環境)によって異なります。

バイトオーダーリングは、“ビッグエンディアン”プラットフォームと“リトルエンディアン”プラットフォームとで異なります。これらの俗称は、IBM メインフレーム(ビッグエンディアン)と Intel 基準のプラットフォーム(リトルエンディアン)のバイトオーダーリングを表すために使用されます。SAS システムでは、HP-UX、AIX、Solaris on SPARC、Macintosh のプラットフォームをビッグエンディアンとします。一方、Intel ABI、Linux、OpenVMS、OpenVMS Integrity のプラットフォームはリトルエンディアンとします。

バイトオーダーリングについて

ビッグエンディアンプラットフォームでは、値 1 はバイナリで保存され、16 進表記で表されます。1 バイトは 01、2 バイトは 00 01、4 バイトは 00 00 00 01 としてそれぞれ保存されます。リトルエンディアンプラットフォームでは、値 1 は 1 バイトで 01 (ビッグエンディアンと同じ)、2 バイトで 01 00、4 バイトで 01 00 00 00 としてそれぞれ保存されます。

負の整数には、“2 の補数”表現が使用されます。整数の最大有効バイトの高位ビットに設定されます。たとえば-2 は、ビッグエンディアンプラットフォームでは、1 バイト、2 バイト、4 バイトの場合それぞれ FE、FF FE、FF FF FF FE として表されます。リトルエンディアンプラットフォームでは、それぞれ FE、FE FF、FE FF FF FF として表されます。これらは、16 進表現のバイナリ整数値-2 の出力結果です。

ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み

SAS では、符号付き整数または符号なし整数をビッグエンディアンシステムまたはリトルエンディアンシステムで生成されていても読み込むことができます。同様に、ビッグエンディアン形式とリトルエンディアン形式の符号付き整数および符号なし整数を書き出すことができます。これらの整数の長さは、最大で 8 バイトまで可能です。

次の表は、プラットフォームのさまざまな組み合わせに使用する入力形式を示したものです。符号付き整数列の“いいえ”は、符号なしで、負でない数字を示します。“はい”は、数字が負または正のいずれかであることを示します。

データが作成されたプラットフォーム	データが読み込まれるプラットフォーム	符号付き整数	入力形式
ビッグエンディアン	ビッグエンディアン	はい	IB または S370FIB

データが作成されたプラットフォーム	データが読み込まれるプラットフォーム	符号付き整数	入力形式
ビッグエンディアン	ビッグエンディアン	いいえ	PIB、S370FPIB、S370FIBU
ビッグエンディアン	リトルエンディアン	はい	IBR
ビッグエンディアン	リトルエンディアン	いいえ	PIBR
リトルエンディアン	ビッグエンディアン	はい	IBR
リトルエンディアン	ビッグエンディアン	いいえ	PIBR
リトルエンディアン	リトルエンディアン	はい	IB または IBR
リトルエンディアン	リトルエンディアン	いいえ	PIB または PIBR
ビッグエンディアン	いずれか	はい	S370FIB
ビッグエンディアン	いずれか	いいえ	S370FPIB
リトルエンディアン	いずれか	はい	IBR
リトルエンディアン	いずれか	いいえ	PIBR

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記

次の表は、プログラミング言語別のバイナリ整数表記を比較したものです。

言語	2 バイトまたは 8 ビットシステム	4 バイトまたは 16 ビットシステム	8 バイトまたは 64 ビットシステム
SAS	IB2.、IBR2.、PIB2、PIBR2.、S370FIB2.、S370FIBU2.、S370FPIB2.	IB4.、IBR4.、PIB4.、PIBR4.、S370FIB4.、S370FIBU4.、S370FPIB4.	IB8.、IBR8.、PIB8.、PIBR8.、S370FIB8.、S370FIBU8.、S370FPIB8.
C	short	int	long *
Java	short	int	long *
Visual Basic 6.0	short	long*	なし
Visual Basic.NET	short	integer	long *
PL/I	FIXED BIN(15)	FIXED BIN(31)	FIXED BIN (63)
Fortran	INTEGER*2	INTEGER*4	INTEGER*8

言語	2 バイトまたは 8 ビットシステム	4 バイトまたは 16 ビ ットシステム	8 バイトまたは 64 ビ ットシステム
COBOL	COMP PIC 9(4)	COMP PIC 9(8)	COMP PIC 9(16)
IBM アセンブラ	H	F	FD

* long として宣言された整数のサイズは、動作環境によって異なります。

パック 10 進データとゾーン 10 進データの処理

定義

パック 10 進

10 進数の 2 桁を 1 バイトで表現する、10 進数のエンコード方法です。パック 10 進表現は、正確な精度で 10 進データを保存します。数字の小数部分は、別に仮数や指数がないため、入力形式または出力形式によって設定されます。

パック 10 進データを使用する利点は、正確な精度を維持できることです。ただし、10 進データを含む計算はネイティブ命令を欠く場合は不正確になることがあります。

ゾーン 10 進

1 桁がストレージの 1 バイトを使用する 10 進数のエンコード方法です。最終バイトには、最終桁と数字の符号が含まれます。ゾーン 10 進データは、出力可能な表現を生成します。

ニブル

0.5 バイトです。

データの種類

パック 10 進データ

パック 10 進表現は、10 進数の桁をバイトの"ニブル"に保存します。各バイトは 2 つのニブルを含み、ニブルは 1 桁の 16 進数によって示されます。たとえば値 15 は、16 進数の 1 と 5 を使用して 2 つのニブルに保存されます。

符号の表示は動作環境によって異なります。IBM メインフレームでは、符号は最後のニブルによって示されます。出力形式の使用時、C は正の値、D は負の値を示します。入力形式の使用時は、A、C、E および F は正の値、B と D は負の値を示します。他のニブルは、符号付きパック 10 進データに使用できません。他のすべての動作環境では、符号はその独自のバイトで示されます。高位ビットが 1 の場合、数字は負になります。その他の場合、数字は正になります。

次の事柄がパック 10 進データ表現に当てはまります。

- すべてのプラットフォーム上で S370FPD 出力形式を使用して、IBM メインフレーム形式の 10 進データを取得できます。
- 符号インジケータのない符号なしパックデータを使用できます。パック 10 進の出力形式および入力形式により、パック 10 進データ表現が処理されます。ASCII プラットフォームでも、EBCDIC プラットフォームでも同じです。

- S370FPDU の出力形式および入力形式では最後のニブルに F が 1 つ必要ですが、パック 10 進では符号のニブルは必要ありません。

ゾーン 10 進データ

次の事柄がゾーン 10 進データ表現に当てはまります。

- ゾーン 10 進表現は、10 進数の桁をバイトの下位ニブルに保存します。符号を含まないバイトのすべてにおいて、上位ニブルは数値ゾーンニブル (EBCDIC では F、ASCII では 3) になります。
- 符号はその表現によって、桁を含むバイトに結合することも、切り離すことも可能です。ただし、標準ゾーン 10 進の出力形式および入力形式では、符号が最後のバイトに結合されます。
- EBCDIC および ASCII のゾーン 10 進出力形式は、同じ出力可能な表現で数字を生成します。バイトは 2 つのニブルを含み、それぞれが 1 桁の 16 進数によって示されます。たとえば、値 15 は 2 バイトで保存されます。1 番目のバイトには 16 進値の F1 が、2 番目のバイトには 16 進値の C5 がそれぞれ含まれます。

パックユリウス暦の日付

次の事柄がパックユリウス暦の日付に当てはまります。

- パック 10 進表現のユリウス暦の日付を処理する 2 つの出力形式と入力形式は、PDJULI と PDJULG です。PDJULI は IBM メインフレームの年計算を使用し、PDJULG はグレゴリオ暦の計算を使用します。
- IBM メインフレームの計算では、1900 を基準年とし、データの年値は 1900 からのオフセットを示します。たとえば、98 は 1998、100 は 2000、102 は 2002 をそれぞれ表します。また、1998 は 3898 を表します。
- グレゴリオ暦の計算では、2 桁または 4 桁の年を利用できます。2 桁の年を使用する場合、YEARCUTOFF=システムオプションの設定を使用して実際の年を決定します。

パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートするプラットフォーム

プラットフォームによって、パック 10 進データおよびゾーン 10 進データのネイティブ命令がサポートされている場合も、計算をエミュレートするソフトウェアを使用する必要がある場合もあります。たとえば、IBM メインフレームにはパック 10 進データを追加するためのパック追加命令が含まれていますが、Intel 基準のプラットフォームにはそのような命令は含まれていないため、10 進データを他の形式に変換する必要があります。

パック 10 進データとゾーン 10 進データをサポートする言語

複数の言語で、パック 10 進データとゾーン 10 進データがサポートされています。次の表は、COBOL の picture 句に対応する SAS 出力形式および入力形式を示したものです。

IBM VS COBOL II 句	対応する S370Fxxx 出力形式および入力形式
PIC S9(X) PACKED-DECIMAL	S370FPDw.

IBM VS COBOL II 句	対応する S370Fxxx 出力形式および入力形式
PIC 9(X) PACKED-DECIMAL	S370FPDUw.
PIC S9(W) DISPLAY	S370FZDw.
PIC 9(W) DISPLAY	S370FZDUw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN LEADING	S370FZDLw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE	S370FZDSw.
PIC S9(W) DISPLAY SIGN TRAILING SEPARATE	S370FZDTw.

表内のパック 10 進表現では、X は表す桁数、W はバイト数を表します。PIC S9(X)PACKED-DECIMAL では、W は $\text{ceil}((x+1)/2)$ になります。PIC 9(X)PACKED-DECIMAL では、W は $\text{ceil}(x/2)$ になります。たとえば、PIC S9(5) PACKED-DECIMAL は 5 桁を表します。符号が含まれる場合、6 つのニブルが必要です。 $\text{ceil}((5+1)/2)$ の長さは 3 バイトであり、W の値は 3 になります。

PACKED-DECIMAL の代わりに COMP-3 を使用できます。

IBM アセンブリ言語では、P ディレクティブはパック 10 進を、Z ディレクティブはゾーン 10 進をそれぞれ示します。次はアセンブリ言語リストの抜粋であり、オフセット、値、DC ステートメントが示されています。

```
offset value (in hex) inst label directive
+000000 00001C      2 PEX1   DC PL3'1'
+000003 00001D      3 PEX2   DC PL3'-1'
+000006 F0F0C1      4 ZEX1   DC ZL3'1'
+000009 F0F0D1      5 ZEX2   DC ZL3'1'
```

PL/I では、FIXED DECIMAL 属性はパック 10 進データとともに使用されます。ゾーン 10 進データを表すには、PICTURE 指定を使用する必要があります。Fortran または C 言語では、10 進データの統一した表現はありません。

パック 10 進とゾーン 10 進の出力形式と入力形式の概要

SAS では、パック 10 進データとゾーン 10 進データを処理するために、一連の出力形式および入力形式を使用します。次の表は、これらの出力形式および入力形式のデータ表現の種類を示したものです。S370 で始まる出力形式および入力形式は、IBM メインフレーム表現を示します。

出力形式	データ表現の種類	対応する入力形式	コメント
PD	パック 10 進	PD	ローカル符号付きパック 10 進
PK	パック 10 進	PK	符号なしパック 10 進; 動作環境に固有でない
ZD	ゾーン 10 進	ZD	ローカルゾーン 10 進

出力形式	データ表現の種類	対応する入力形式	コメント
なし	ゾーン 10 進	ZDB	EBCDIC の空白(x'40')を EBCDIC のゼロ(x'F0')に変換してから、ゾーン 10 進の入力形式に相当
なし	ゾーン 10 進	ZDV	IBM 以外のゾーン 10 進表現
S370FPD	パック 10 進	S370FPD	最後のニブルが C (正)または D (負)
S370FPDU	パック 10 進	S370FPDU	最後のニブルは常に F (正)
S370FZD	ゾーン 10 進	S370FZD	最終バイトの上位ニブルに符号が含まれる: C(正)または D(負)
S370FZDU	ゾーン 10 進	S370FZDU	符号なし; 符号ニブルは常に F
S370FZDL	ゾーン 10 進	S370FZDL	先頭バイトに符号ニブルが含まれる(入力形式); 先頭に x'CO' (正)または x'D0' (負)を含む符号バイトが個別にある(出力形式)
S370FZDS	ゾーン 10 進	S370FZDS	先頭に符号- (x'60')または + (x'4E')あり
S370FZDT	ゾーン 10 進	S370FZDT	末尾に符号- (x'60')または + (x'4E')あり
PDJULI	パック 10 進	PDJULI	パック表現のユリウス暦の日付 - IBM 計算
PDJULG	パック 10 進	PDJULG	パック表現のユリウス暦の日付 - グレゴリオ暦計算
なし	パック 10 進	RMFDUR	入力レイアウト: <i>mmssttF</i>
なし	パック 10 進	SHRSTAMP	入力レイアウト: <i>yyyydddFhhmmssth</i> 。 <i>yyyydddF</i> はパックユリウス暦の日付、 <i>yyyy</i> は 1900 を基準年とする年。

出力形式	データ表現の種類	対応する入力形式	コメント
なし	パック 10 進	SMFSTAMP	入力レイアウト: xxxxxxxxxyyydddF。 yyyydddF はパックユリウス暦の日付、yyyy は 1900 を基準年とする年。
なし	パック 10 進	PDTIME	入力レイアウト: 0hhmmssF
なし	パック 10 進	RMFSTAMP	入力レイアウト: 0hhmmssFyyydddF。 yyyydddF はパックユリウス暦の日付、yyyy は 1900 を基準年とする年。

ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み

ISO 8601 規格のフォーマットシンボル

次のリストは、ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値、期間値、間隔値の表記に使用されるフォーマットシンボルについて説明したものです。

n

年数、月数、日数を表す数字です。

P

年数、月数、日数、時間数、分数、秒数で示される期間が続くことを示します。

T

時間値が続くことを示します。時間を含む値は T で始まる必要があります。

要件 文字 E8601 で始まる拡張表記入力形式から読み込む時間値には、大文字の T を使用する必要があります。

W

期間が週数で示されることを示します。

Z

時間値がイギリスのグリニッジに対応した時間、つまり UTC 時間であることを示します。

+|-

+ は、イギリスのグリニッジの東部タイムゾーンのオフセットを示します。- は、イギリスのグリニッジの西部タイムゾーンのオフセットを示します。

yyyy

4 桁の年を示します。

mm

日付の一部。2 桁の月、01-12 を示します。

- dd**
2桁の日、01-31を示します。
- hh**
2桁の時間、00-24を示します。
- mm**
時間の一部。2桁の時間、00-59を示します。
- ss**
2桁の秒、00-59を示します。
- fff | fffff**
秒の端数 0-9 を示します(オプション)。
- fff** \$N8601B 入力形式と\$N8601E 入力形式では、小数点以下の桁数が 1 - 3 桁の値を読み込みます
- ffffff** \$N8601B 入力形式および\$N8601E 入力形式以外の入力形式では、小数点以下の桁数が 1 - 6 桁の値を読み込みます
- Y**
期間のこの値の前に年数値が配置されることを示します。
- M**
日付の一部。期間のこの値の前に月数値が配置されることを示します。
- D**
期間のこの値の前に日数値が配置されることを示します。
- H**
期間のこの値の前に時間値が配置されることを示します。
- M**
時間の一部。期間のこの値の前に分数値が配置されることを示します。
- S**
期間のこの値の前に秒数値が配置されることを示します。

ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値の読み込み

さまざまな入力形式を使用して ISO 8601 日付、時間、日時を読み込み、SAS 日付値、時間値、または日時値を生成します。次の表は、各種の日付、時間、日時の形式と、それらの読み込みに使用する入力形式を示したものです。

日付、時間、日時	ISO 8601 表記	例	入力形式
基本表記			
日付	YYYYMMDD	20130915	B8601DAw.
タイムゾーンオフ セットなしの時間	hhmmssnnnnnn	155300322348	B8601TMw.d
タイムゾーンオフ セット付き時間	hhmmss+ -hhmm	155300-0500	B8601TZw.d
	hhmmssZ	155300Z	B8601TZw.d

日付、時間、日時	ISO 8601 表記	例	入力形式
タイムゾーンオフ セット付きローカ ル時間への変換	<i>hhmmss+ -hhmm</i>	155300+0500	B8601TZw.d
タイムゾーンオフ セットなしの日時	<i>yyyymmddThhmmssnn nnnn</i>	20130915T155300	B8601DTw.d
タイムゾーンオフ セット付き日時	<i>yyyymmddThhmmss+ - hhmm</i>	20130915T155300 +0500	B8601DZw.d
	<i>yyyymmddThhmmssZ</i>	20130915T155300 Z	B8601DZw.d
日時からの日付で、 タイムゾーンオフ セットなし	<i>yyyymmdd</i>	20130915	B8601DNw.
拡張表記			
日付	<i>yyy-mm-dd</i>	2013/09/15	E8601DAw.
タイムゾーンオフ セットなしの時間	<i>hh:mm:ss.nnnnnn</i>	15:53:00.322348	E8601TMw.d
タイムゾーンオフ セット付き時間	<i>hh:mm:ss.nnnnnn+ - hh:mm</i>	15:53:00+05:00	E8601TZw.d
タイムゾーンオフ セット付きローカ ル時間への変換	<i>hh:mm:ss.nnnnnn+ - hh:mm</i>	15:53:00+05:00	E8601LZw.d
タイムゾーンオフ セットなしの日時	<i>yyy-mm- ddThh:mm:ss.nnnnnn</i>	2013-09-15T15:53: 00	E8601DTw.d
タイムゾーンオフ セット付き日時	<i>yyy-mm- ddThh:mm:ss.nnnnnn + -hh:mm</i>	2013-09-15T15:53: 00+05:00	E8601DZw.d
日時からの日付で、 タイムゾーンオフ セットなし	<i>yyy-mm-dd</i>	2013/09/15	E8601DNw.

タイムゾーンオフセット(+|-hh:mm または+|-hhmm)が指定された ISO 8601 値が読み込まれると、時間値または日時値がオフセットに従って調整されます。タイムゾーンオフセット付きの ISO 8601 値に対応する SAS 時間値または日時値は、基準子午線(イギリスのグリニッジ)の時間または日時になります。たとえば、日時 2013-09-15T15:53:00+05:00 が E8601DZ 入力形式を使用して読み込まれた場合、日時値は 5 時間のタイムゾーンの差が調整されて 1694861580 になります。この日時値は基準子午線の日時値です。この値を E8601DZ 出力形式を使用して書き出した場合、値は 2013-09-15T10:53:00+00:00 です。T の後には、5 時間の調整が行われた時間値が表示されます。

ISO 8601 規格の日付、時間および日時の読み込みの例については、“基本および拡張 ISO 8601 規格の日付値、時間値、日時値の読み込みと書き出しの例” (20 ページ)を参照してください。

ISO 8601 規格の期間値、間隔値、日時値の読み込み

期間値、間隔値、日時値を読み込む入力形式

SAS では、ISO 規格の日時値、期間値、間隔値を読み込む 2 つの入力形式を使用します。

\$N8601B 入力形式

基本表記、拡張表記のいずれかで指定される期間値、間隔値、日時値を読み込みます。

\$N8601E 入力形式

拡張表記でのみ指定される期間値、間隔値、日時値を読み込みます。

拡張表記の準拠を確保したい場合は、\$N8601E 入力形式を使用します。

これらの入力形式によって読み込まれる日時値は、SAS 文字表現になります。日時値を数値として読み込む場合は、B8601DT 入力形式、B8601DZ 入力形式、E8601DT 入力形式、または E8601DZ 入力形式を使用します。

省略されていない期間、日時、間隔の表記

次の表は、要素が省略されていない形式で読み込み可能な期間値、日時値、間隔値の形式を示したものです。

時間要素	ISO 8601 表記	例
期間 - 基本表記	PYYYYMMDDThhmmss	P20120915T155300
	-YYYYMMDDThhmmss	-P20080915T155300
期間 - 拡張表記	PYYYY-MM-DDThh:mm:ss	P2012-09-15T15:53:00
	-YYYY-MM-DDThh:mm:ss	-P2012-09-15T15:53:00
期間 - 基本表記と拡張表記	PnYnMnDTnHnMnS	P2y10m14dT20h13m45s
	-PnYnMnDTnHnMnS	-P2n10m14dT20h13m45s
	PnW (週)	P6w
間隔 - 基本表記	YYYYMMDDThhmmss/ YYYYMMDDThhmmss	20120915T155300/2014113T000000
	PnYnMnDTnHnMnS/ YYYYMMDDThhmmss	P2y10M14dT20h13m45s/ 20120915T155300
	YYYYMMDDThhmmss/ PnYnMnDTnHnMnS	20120915T155300/ P2y10M14dT20h13m45s

時間要素	ISO 8601 表記	例
間隔 - 拡張表記	YYYY-MM-DDThh:mm:ss/ YYYY-MM-DDThh:mm:ss	2012-09-15T15:53:00/2014-11-13T00:00:00
	PnYnMnDTnHnMnS/ YYYY-MM-DDThh:mm:ss	P2y10M14dT20h13m45s/ 2012-09-15T15:53:00
	YYYY-MM-DDThh:mm:ss/ PnYnMnDTnHnMnS	2012-09-15T15:53:00/ P2y10M14dT20h13m45s
日時 - 基本表記	YYYYMMDDThhmmss.fff + -hhmm	20120915T155300
	(すべて空白)	
日時 - 拡張表記	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.fff+ - hhmm	2012-09-15T15:53:00 +04:30
	(すべて空白)	

省略要素の読み込み

1 つ以上の日付要素または時間要素を、Pyppyyymmdd 形式の日時値または期間値から省略できます。省略要素は\$N8601B 入力形式または\$N8601E 入力形式を使用して読み込みます。また、省略要素は、ハイフン(-)で表す必要があります。

次は、省略要素を含む期間値、日時値、間隔値の例です。

p0003-02--T10:31:33

省略要素は日数です。

-p0003-02-02T-:31:33

省略要素は時間数です。

x-09-15T15:x:x

省略要素は、年数、分数、秒数です。

2012-09-15T15:x:00/2010-09-15T15:x:00

省略要素は分です。

タイムゾーンオフセットを含む値を読み込む場合、省略要素は許可されません。省略要素の代わりに 00 を使用します。

切り捨て値

SAS では、値が 0 または有効でないため 1 つ以上の下位要素が切り捨てられた、切り捨て期間値、日時値、間隔値を読み込みます。

次のリストは、切り捨て値の例を表したものです。

- p00030202T1031
- 2012-09-15T15/2014-09-15T15:53
- -p0003-03-03T-:-:-
- P2y3m4dT5h6m
- 2012-09-xTx:x:x

- **2012**

タイムゾーンオフセットを含む値を読み込む場合、切り捨ては許可されません。切り捨て値の代わりに 00 を使用します。

期間構成要素の標準化

期間構成要素の値が構成要素の最大標準値を超えると、構成要素はその期間構成要素が単一の構成要素である場合を除いて標準化されます。次の表は、標準化された期間構成要素の例を示したものです。

期間	標準化された期間(拡張表記)
p3y13m	p0004-01
pt24h24m65s	P----01T:25:05
p3y13mT24h61m	P0004-01-01T01:01
p0004-13	p0005-01
p0003-02-61T15:61:61	P0003-04-01T16:02:01
p13m	P13M

構成要素に最大値(分や秒の場合は 60)が含まれている場合、その値は標準化され、ハイフンと置き換えられます。たとえば **pT12:60:13** は **PT13:-:13** になります。

30 日で月が標準化されます。

日時値の日付と時間が構成要素の標準値を超える場合は、標準化されません。この場合、エラーが発生します。

期間値、日時値、間隔値の端数

終わりの構成要素には、1 つのピリオドまたはカンマとそれに続く 1 桁から 3 桁までの小数点以下の桁数からなる端数を含めることができます。次の例は、期間値、日付値、間隔値での端数の使用を表したものです。

- **201209.5**
- **P2012-09-15T10.33**
- **2012-09-15/P0003-03-03.333**

5 章

他のドキュメントで説明されている SAS 入力形式

その他の入力形式のドキュメント 343

その他の入力形式のドキュメント

その他の入力形式の詳細については、[“Dictionary of Informats for NLS” \(SAS Viya National Language Support: Reference Guide\)](#)を参照してください。

6 章

SAS 入力形式のディクショナリ

カテゴリ別の入力形式	347
ディクショナリ	358
\$ASCII 入力形式	358
\$BASE64X 入力形式	359
\$BINARY 入力形式	361
\$CB 入力形式	362
\$CHAR 入力形式	363
\$CHARZB 入力形式	364
\$EBCDIC 入力形式	365
\$HEX 入力形式	366
\$N8601B 入力形式	367
\$N8601E 入力形式	369
\$OCTAL 入力形式	371
\$PHEX 入力形式	372
\$QUOTE 入力形式	373
\$UPCASE 入力形式	374
\$VARYING 入力形式	375
\$w 入力形式	377
ANYDTDTE 入力形式	378
ANYDTDTM 入力形式	380
ANYDTTME 入力形式	384
B8601CI 入力形式	386
B8601DA 入力形式	388
B8601DJ 入力形式	389
B8601DN 入力形式	390
B8601DT 入力形式	391
B8601DX 入力形式	393
B8601DZ 入力形式	393
B8601LX 入力形式	395
B8601TM 入力形式	395
B8601TX 入力形式	396
B8601TZ 入力形式	396
BINARY 入力形式	398
BITS 入力形式	399
BZ 入力形式	400
CB 入力形式	401
COMMA 入力形式	402
COMMAX 入力形式	403
DATE 入力形式	404
DATETIME 入力形式	406
DDMMYY 入力形式	408

E8601DA 入力形式	409
E8601DN 入力形式	410
E8601DT 入力形式	411
E8601DX 入力形式	413
E8601DZ 入力形式	413
E8601LX 入力形式	415
E8601LZ 入力形式	415
E8601TM 入力形式	417
E8601TX 入力形式	418
E8601TZ 入力形式	418
EURO 入力形式	420
EUROX 入力形式	422
FLOAT 入力形式	424
HEX 入力形式	425
HHMMSS 入力形式	426
IB 入力形式	428
IBR 入力形式	429
IEEE 入力形式	431
JULIAN 入力形式	432
MDYAMPM 入力形式	433
MMDDYY 入力形式	435
MONYY 入力形式	436
MSEC 入力形式	438
NUMX 入力形式	439
OCTAL 入力形式	440
PD 入力形式	441
PDJULG 入力形式	442
PDJULI 入力形式	444
PDTIME 入力形式	445
PERCENT 入力形式	446
PIB 入力形式	447
PIBR 入力形式	449
PK 入力形式	450
PUNCH 入力形式	451
RB 入力形式	452
RMFDUR 入力形式	454
RMFSTAMP 入力形式	455
ROW 入力形式	457
S370FF 入力形式	458
S370FIB 入力形式	459
S370FIBU 入力形式	461
S370FPD 入力形式	462
S370FPDU 入力形式	463
S370FPIB 入力形式	465
S370FRB 入力形式	466
S370FZD 入力形式	467
S370FZDB 入力形式	469
S370FZDL 入力形式	470
S370FZDS 入力形式	471
S370FZDT 入力形式	472
S370FZDU 入力形式	473
SHRSTAMP 入力形式	474
SMFSTAMP 入力形式	476
STIMER 入力形式	477
TIME 入力形式	478
TODSTAMP 入力形式	479

TRAILSGN 入力形式	480
TU 入力形式	481
VAXRB 入力形式	482
VMSZN 入力形式	483
w 入力形式	484
WEEKU 入力形式	486
WEEKV 入力形式	487
WEEKW 入力形式	489
YMDDTTM 入力形式	491
YYMMDD 入力形式	493
YYMMN 入力形式	495
YYQ 入力形式	496
ZD 入力形式	497
ZDB 入力形式	499
ZDV 入力形式	500

カテゴリ別の入力形式

次の 5 つのカテゴリの入力形式があります。

カテゴリ	説明
文字	文字変数に文字データ値を読み込むように指示します。
カラムバイナリ	文字変数または数値変数にカラムバイナリ形式またはマルチパンチ形式で保存されているデータを読み込むように指示します。
日付と時間	日付、時間および日時を表す変数に日付値を読み込むように指示します。
ISO 8601	数値変数または文字変数に ISO 8601 規格で書かれた日付値、時間値、日時値を読み込むように指示します。
数値	数値変数に数値データ値を読み込むように指示します。

CAS では、PROC FORMAT で作成された入力形式がサポートされます。ユーザー定義の入力形式作成の詳細については、“[FORMAT Procedure](#)” (*SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide*)を参照してください。

次の表に、SAS 入力形式の概要を示します。詳細については、各入力形式のディクショナリエントリを参照してください。

カテゴリ	言語要素	説明
CAS	\$ASCII 入力形式 (p. 358)	ASCII 文字データをネイティブな形式に変換します。
	\$BASE64X 入力形式 (p. 359)	Base 64 エンコーディングを使用して、ASCII テキストを文字データに変換します。
	\$BINARY 入力形式 (p. 361)	バイナリデータを文字データに変換します。

カテゴリ	言語要素	説明
	\$CB 入力形式 (p. 362)	カラムバイナリファイルから標準文字データを読み込みます。
	\$CHAR 入力形式 (p. 363)	空白を含む文字データを読み込みます。
	\$CHARZB 入力形式 (p. 364)	2進ゼロを空白に変換します。
	\$EBCDIC 入力形式 (p. 365)	EBCDIC 文字データをネイティブな形式に変換します。
	\$HEX 入力形式 (p. 366)	16進データを文字データに変換します。
	\$N8601B 入力形式 (p. 367)	基本表記または拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の完全形式、切り捨て形式、省略形式を読み込みます。
	\$N8601E 入力形式 (p. 369)	拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を読み込みます。
	\$OCTAL 入力形式 (p. 371)	8進データを文字データに変換します。
	\$PHEX 入力形式 (p. 372)	パック 16進データを文字データに変換します。
	\$QUOTE 入力形式 (p. 373)	対になっている引用符を文字データから削除します。
	\$UPCASE 入力形式 (p. 374)	文字データを大文字に変換します。
	\$VARYING 入力形式 (p. 375)	可変長の文字データを読み込みます。
	\$w 入力形式 (p. 377)	標準文字データを読み込みます。
	ANYDTDTE 入力形式 (p. 378)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日付値を読み込み、抽出します。
	ANYDTCM 入力形式 (p. 380)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日時値を読み込み、抽出します。
	ANYDTTME 入力形式 (p. 384)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から時間値を読み込み、抽出します。
	BINARY 入力形式 (p. 398)	正のバイナリ値を整数に変換します。
	BITS 入力形式 (p. 399)	ビットを抽出します。
	BZ 入力形式 (p. 400)	空白をゼロに変換します。
	CB 入力形式 (p. 401)	カラムバイナリファイルから標準数値を読み込みます。
	COMMA 入力形式 (p. 402)	埋め込み文字を取り除きます。
	COMMAX 入力形式 (p. 403)	埋め込まれているピリオド、空白、ドル記号、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから取り除きます。フィールドの先頭にある開きかっこはマイナス記号に変換

カテゴリ	言語要素	説明
		されます。COMMAX 入力形式では、小数点とカンマの役割が逆になっています。
	DATE 入力形式 (p. 404)	ddmmyy または ddmmyyyy 形式の日付値を読み込みます。
	DATETIME 入力形式 (p. 406)	ddmmyy hh:mm:ss.ss または ddmmyyyy hh:mm:ss.ss 形式の日時値を読み込みます。
	DDMMYY 入力形式 (p. 408)	ddmmyy<yy>または dd-mm-yy<yy>形式の日付値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)などの特殊文字で日、月、年を区切ります。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	E8601DA 入力形式 (p. 409)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して示される日付値を読み込みます。
	E8601DN 入力形式 (p. 410)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。
	E8601DT 入力形式 (p. 411)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>を使用して示される日時値を読み込みます。
	E8601DX 入力形式 (p. 413)	協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm を使用して読み込まれます。
	E8601DZ 入力形式 (p. 413)	ISO 8601 規格の日時拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm.<ffffff>または yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>Z を使用して示される、協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。
	E8601TM 入力形式 (p. 417)	ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss.<ffffff>を使用して示される時間値を読み込みます。
	E8601TZ 入力形式 (p. 418)	ISO 8601 規格の拡張時間表記 hh:mm:ss+ -hh:mm.<ffffff>または hh:mm:ssZ を使用して示される時間値を読み込みます。
	FLOAT 入力形式 (p. 424)	正の単精度浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。
	HEX 入力形式 (p. 425)	16 進の正のバイナリ値を整数(固定小数点)または実数(浮動小数点)のバイナリ値に変換します。
	HHMMSS 入力形式 (p. 426)	形式 hh:mm:ss または hhmmss.の時、分、秒を読み取ります。
	IB 入力形式 (p. 428)	負の値を含む、ネイティブのバイナリ 整数(固定小数点)値を読み込みます。
	IBR 入力形式 (p. 429)	Intel および DEC 形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	IEEE 入力形式 (p. 431)	IEEE 形式の浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。
	JULIAN 入力形式 (p. 432)	yyddd または yyyyddd 形式のユリウス日付を読み込みます。
	MDYAMPM 入力形式 (p. 433)	mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM PM 形式の日時値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)またはコロン(:)などの特殊文字で月、日、年は区切られます。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	MMDDYY 入力形式 (p. 435)	mmddy または mmdyyy 形式の日付値を読み込みます。
	MONYY 入力形式 (p. 436)	mmmy または mmyyyy 形式の年月を読み込みます。
	MSEC 入力形式 (p. 438)	TIME MIC の値を読み込みます。
	NUMX 入力形式 (p. 439)	小数点をカンマとして数値を読み込みます。
	PD 入力形式 (p. 441)	IBM のパック 10 進形式で保存されているデータを読み込みます。
	PDTIME 入力形式 (p. 445)	SMF レコードと RMF レコードのパック 10 進の時間を読み込みます。
	PERCENT 入力形式 (p. 446)	百分率を数値として読み込みます。
	PIB 入力形式 (p. 447)	正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	PIBR 入力形式 (p. 449)	Intel 形式と DEC 形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	PK 入力形式 (p. 450)	符号なしパック 10 進データを読み込みます。
	PUNCH 入力形式 (p. 451)	カラムバイナリデータ行のパンチの有無を読み込みます。
	RB 入力形式 (p. 452)	バイナリ実数(浮動小数点)表記で格納されている数値データを読み込みます。
	RMFDUR 入力形式 (p. 454)	RMF レコードの継続間隔を読み込みます。
	RMFSTAMP 入力形式 (p. 455)	RMF レコードの日付フィールドと時間フィールドを読み込みます。
	S370FF 入力形式 (p. 458)	EBCDIC 形式の数値データを読み込みます。
	S370FIB 入力形式 (p. 459)	負の値を含む、IBM メインフレーム形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	S370FIBU 入力形式 (p. 461)	IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	S370FPD 入力形式 (p. 462)	IBM メインフレーム形式のパック 10 進データを読み込みます。
	S370FPDU 入力形式 (p. 463)	IBM メインフレーム形式の符号なしパック 10 進データを読み込みます。
	S370FPIB 入力形式 (p. 465)	IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	S370FRB 入力形式 (p. 466)	IBM メインフレーム形式のバイナリ実数(浮動小数点)を読み込みます。
	S370FZD 入力形式 (p. 467)	IBM メインフレーム形式のゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDB 入力形式 (p. 469)	空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDL 入力形式 (p. 470)	IBM メインフレーム形式の前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDS 入力形式 (p. 471)	IBM メインフレーム形式の分離した前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDT 入力形式 (p. 472)	IBM メインフレーム形式の分離した後符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDU 入力形式 (p. 473)	IBM メインフレーム形式の符号なしゾーン 10 進データを読み込みます。
	SHRSTAMP 入力形式 (p. 474)	SHR レコードの日付値と時間値を読み込みます。
	SMFSTAMP 入力形式 (p. 476)	SMF レコードの日時値を読み込みます。
	TIME 入力形式 (p. 478)	hh:mm:ss.ss 形式の時、分、秒を読み込みます。コロン(:)やピリオド(.)などの特殊文字が時、分、秒を区切るために使用されます。
	TODSTAMP 入力形式 (p. 479)	8 バイトの TOD スタンプを読み込みます。
	TRAILSGN 入力形式 (p. 480)	後置のプラス符号(+)とマイナス符号(-)を読み込みます。
	TU 入力形式 (p. 481)	タイマーユニットを読み込みます。
	VAXRB 入力形式 (p. 482)	VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)データを読み込みます。
	VMSZN 入力形式 (p. 483)	VMS および MicroFocus COBOL ゾーン数値データを読み込みます。
	w 入力形式 (p. 484)	標準数値データを読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	YMMDD 入力形式 (p. 493)	yymmdd または yyyyymmdd 形式の日付値を読み込みます。
	YMMN 入力形式 (p. 495)	yyyymm または yymm 形式の日付値を読み込みます。
	YYQ 入力形式 (p. 496)	yyQq または yyyyQq 形式の年の四半期を読み込みます。
	ZD 入力形式 (p. 497)	ゾーン 10 進データを読み込みます。
	ZDB 入力形式 (p. 499)	空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。
	ZDV 入力形式 (p. 500)	ゾーン 10 進データを読み込んで検証します。
ISO 8601	\$N8601B 入力形式 (p. 367)	基本表記または拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の完全形式、切り捨て形式、省略形式を読み込みます。
	\$N8601E 入力形式 (p. 369)	拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を読み込みます。
	B8601CI 入力形式 (p. 386)	世紀マーカを含む、cyymmddhhmmss<ffff>形式の IBM 日時値を読み込みます。
	B8601DA 入力形式 (p. 388)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyyymmdd を使用して示される日付値を読み込みます。
	B8601DJ 入力形式 (p. 389)	yyyyymmddhhmmss<ffffff>形式の Java 日時値を読み込みます。
	B8601DN 入力形式 (p. 390)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyyymmdd を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。
	B8601DT 入力形式 (p. 391)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyyymmddThhmmss<ffffff>を使用して示される日時値を読み込みます。
	B8601DZ 入力形式 (p. 393)	ISO 8601 規格の日時基本表記 yyyyymmddThhmmss+ -hhmm または yyyyymmddThhmmss<ffffff>Z を使用して示される協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。
	B8601TM 入力形式 (p. 395)	ISO 8601 規格の基本表記 hhmmss<ffffff>を使用して示される時間値を読み込みます。
	B8601TZ 入力形式 (p. 396)	ISO 8601 規格の基本時間表記 hhmmss<ffff>+ -hhmm または hhmmss<ffffff>Z で示される時間値を読み込みます。
	E8601DA 入力形式 (p. 409)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して示される日付値を読み込みます。
	E8601DN 入力形式 (p. 410)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-dd を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。
	E8601DT 入力形式 (p. 411)	ISO 8601 規格の拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>を使用して示される日時値を読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	E8601DZ 入力形式 (p. 413)	ISO 8601 規格の日時拡張表記 yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff>または yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<fffff>Z を使用して示される、協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。
	E8601LZ 入力形式 (p. 415)	ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff>または hh:mm:ss.<fffff>Z を使用して示される協定世界時(UTC)値を読み込み、ローカル時間に変換します。
	E8601TM 入力形式 (p. 417)	ISO 8601 規格の拡張表記 hh:mm:ss.<fffff>を使用して示される時間値を読み込みます。
	E8601TZ 入力形式 (p. 418)	ISO 8601 規格の拡張時間表記 hh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff>または hh:mm:ssZ を使用して示される時間値を読み込みます。
カラムバイナリ	\$CB 入力形式 (p. 362)	カラムバイナリファイルから標準文字データを読み込みます。
	CB 入力形式 (p. 401)	カラムバイナリファイルから標準数値を読み込みます。
	PUNCH 入力形式 (p. 451)	カラムバイナリデータ行のパンチの有無を読み込みます。
	ROW 入力形式 (p. 457)	カードカラムに記録されているカラムバイナリフィールドを読み込みます。
数値	BINARY 入力形式 (p. 398)	正のバイナリ値を整数に変換します。
	BITS 入力形式 (p. 399)	ビットを抽出します。
	BZ 入力形式 (p. 400)	空白をゼロに変換します。
	COMMA 入力形式 (p. 402)	埋め込み文字を取り除きます。
	COMMAX 入力形式 (p. 403)	埋め込まれているピリオド、空白、ドル記号、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから取り除きます。フィールドの先頭にある開きかっこはマイナス記号に変換されます。COMMAX 入力形式では、小数点とカンマの役割が逆になっています。
	EURO 入力形式 (p. 420)	数値を読み込み、ヨーロッパ通貨の埋め込み文字を取り除いて、カンマと小数点を逆にします。
	EUROX 入力形式 (p. 422)	数値を読み込み、ヨーロッパ通貨の埋め込み文字を削除します。
	FLOAT 入力形式 (p. 424)	正の単精度浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。
	HEX 入力形式 (p. 425)	16 進の正のバイナリ値を整数(固定小数点)または実数(浮動小数点)のバイナリ値に変換します。
	IB 入力形式 (p. 428)	負の値を含む、ネイティブのバイナリ 整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	IBR 入力形式 (p. 429)	Intel および DEC 形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	IEEE 入力形式 (p. 431)	IEEE 形式の浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。
	NUMX 入力形式 (p. 439)	小数点をカンマとして数値を読み込みます。
	OCTAL 入力形式 (p. 440)	正の 8 進値を整数に変換します。
	PD 入力形式 (p. 441)	IBM のパック 10 進形式で保存されているデータを読み込みます。
	PERCENT 入力形式 (p. 446)	百分率を数値として読み込みます。
	PIB 入力形式 (p. 447)	正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	PIBR 入力形式 (p. 449)	Intel 形式と DEC 形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	PK 入力形式 (p. 450)	符号なしパック 10 進データを読み込みます。
	RB 入力形式 (p. 452)	バイナリ実数(浮動小数点)表記で格納されている数値データを読み込みます。
	S370FF 入力形式 (p. 458)	EBCDIC 形式の数値データを読み込みます。
	S370FIB 入力形式 (p. 459)	負の値を含む、IBM メインフレーム形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	S370FIBU 入力形式 (p. 461)	IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	S370FPD 入力形式 (p. 462)	IBM メインフレーム形式のパック 10 進データを読み込みます。
	S370FPDU 入力形式 (p. 463)	IBM メインフレーム形式の符号なしパック 10 進データを読み込みます。
	S370FPIB 入力形式 (p. 465)	IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。
	S370FRB 入力形式 (p. 466)	IBM メインフレーム形式のバイナリ実数(浮動小数点)を読み込みます。
	S370FZD 入力形式 (p. 467)	IBM メインフレーム形式のゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDB 入力形式 (p. 469)	空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDL 入力形式 (p. 470)	IBM メインフレーム形式の前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	S370FZDS 入力形式 (p. 471)	IBM メインフレーム形式の分離した前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDT 入力形式 (p. 472)	IBM メインフレーム形式の分離した後符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。
	S370FZDU 入力形式 (p. 473)	IBM メインフレーム形式の符号なしゾーン 10 進データを読み込みます。
	TRAILSGN 入力形式 (p. 480)	後置のプラス符号(+)とマイナス符号(-)を読み込みます。
	VAXRB 入力形式 (p. 482)	VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)データを読み込みます。
	VMSZN 入力形式 (p. 483)	VMS および MicroFocus COBOL ゾーン数値データを読み込みます。
	w 入力形式 (p. 484)	標準数値データを読み込みます。
	ZD 入力形式 (p. 497)	ゾーン 10 進データを読み込みます。
	ZDB 入力形式 (p. 499)	空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。
	ZDV 入力形式 (p. 500)	ゾーン 10 進データを読み込んで検証します。
日付と時間	\$N8601B 入力形式 (p. 367)	基本表記または拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の完全形式、切り捨て形式、省略形式を読み込みます。
	\$N8601E 入力形式 (p. 369)	拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を読み込みます。
	ANYDTDTE 入力形式 (p. 378)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日付値を読み込み、抽出します。
	ANYDTDTM 入力形式 (p. 380)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日時値を読み込み、抽出します。
	ANYDTTME 入力形式 (p. 384)	さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から時間値を読み込み、抽出します。
	B8601CI 入力形式 (p. 386)	世紀マーカを含む、cyymmddhhmmss<fff>形式の IBM 日時値を読み込みます。
	B8601DA 入力形式 (p. 388)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyymmdd を使用して示される日付値を読み込みます。
	B8601DJ 入力形式 (p. 389)	yyymmddhhmmss<ffffff>形式の Java 日時値を読み込みます。
	B8601DN 入力形式 (p. 390)	ISO 8601 規格の基本表記 yyyymmdd を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。

カテゴリ	言語要素	説明
	B8601DT 入力形式 (p. 391)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>yyyymmddThhmmss<ffffff></code> を使用して示される日時値を読み込みます。
	B8601DZ 入力形式 (p. 393)	ISO 8601 規格の日時基本表記 <code>yyyymmddThhmmss+ -hhmm</code> または <code>yyyymmddThhmmss<ffffff>Z</code> を使用して示される協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。
	B8601TM 入力形式 (p. 395)	ISO 8601 規格の基本表記 <code>hhmmss<ffffff></code> を使用して示される時間値を読み込みます。
	B8601TZ 入力形式 (p. 396)	ISO 8601 規格の基本時間表記 <code>hhmmss<ffff>+ -hhmm</code> または <code>hhmmss<ffffff>Z</code> で示される時間値を読み込みます。
	DATE 入力形式 (p. 404)	<code>ddmmyy</code> または <code>ddmmyyyy</code> 形式の日付値を読み込みます。
	DATETIME 入力形式 (p. 406)	<code>ddmmyy hh:mm:ss.ss</code> または <code>ddmmyyyy hh:mm:ss.ss</code> 形式の日時値を読み込みます。
	DDMMYY 入力形式 (p. 408)	<code>ddmmyy<yy></code> または <code>dd-mm-yy<yy></code> 形式の日付値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)などの特殊文字で日、月、年を区切ります。年は2桁または4桁のいずれかになります。
	E8601DA 入力形式 (p. 409)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-dd</code> を使用して示される日付値を読み込みます。
	E8601DN 入力形式 (p. 410)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-dd</code> を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。
	E8601DT 入力形式 (p. 411)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff></code> を使用して示される日時値を読み込みます。
	E8601DZ 入力形式 (p. 413)	ISO 8601 規格の日時拡張表記 <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff></code> または <code>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<fffff>Z</code> を使用して示される、協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。
	E8601LZ 入力形式 (p. 415)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>hh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff></code> または <code>hh:mm:ss.<fffff>Z</code> を使用して示される協定世界時(UTC)値を読み込み、ローカル時間に変換します。
	E8601TM 入力形式 (p. 417)	ISO 8601 規格の拡張表記 <code>hh:mm:ss.<ffffff></code> を使用して示される時間値を読み込みます。
	E8601TZ 入力形式 (p. 418)	ISO 8601 規格の拡張時間表記 <code>hh:mm:ss+ -hh:mm.<fffff></code> または <code>hh:mm:ssZ</code> を使用して示される時間値を読み込みます。
	HHMMSS 入力形式 (p. 426)	形式 <code>hh:mm:ss</code> または <code>hhmmss</code> の時、分、秒を読み取ります。
	JULIAN 入力形式 (p. 432)	<code>yyddd</code> または <code>yyyyddd</code> 形式のユリウス日付を読み込みます。

カテゴリ	言語要素	説明
	MDYAMPM 入力形式 (p. 433)	mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM PM 形式の日時値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)またはコロン(:)などの特殊文字で月、日、年は区切られます。年は2桁または4桁のいずれかになります。
	MMDDYY 入力形式 (p. 435)	mmddy または mmdyyy 形式の日付値を読み込みます。
	MONYY 入力形式 (p. 436)	mmmy または mmyyyy 形式の年月を読み込みます。
	MSEC 入力形式 (p. 438)	TIME MIC の値を読み込みます。
	PDJULG 入力形式 (p. 442)	IBM で使用する 16 進の yyyydddF 形式のパックユリウス日付値を読み込みます。
	PDJULI 入力形式 (p. 444)	IBM で使用する 16 進の ccyyddF 形式のパックユリウス日付を読み込みます。
	PDTIME 入力形式 (p. 445)	SMF レコードと RMF レコードのパック 10 進の時間を読み込みます。
	RMFDUR 入力形式 (p. 454)	RMF レコードの継続間隔を読み込みます。
	RMFSTAMP 入力形式 (p. 455)	RMF レコードの日付フィールドと時間フィールドを読み込みます。
	SHRSTAMP 入力形式 (p. 474)	SHR レコードの日付値と時間値を読み込みます。
	SMFSTAMP 入力形式 (p. 476)	SMF レコードの日時値を読み込みます。
	STIMER 入力形式 (p. 477)	時間値を読み込み、読み込んだ値が時間、分、秒であるかを識別します。STIMER システムオプションの出力を読み込みます。
	TIME 入力形式 (p. 478)	hh:mm:ss.ss 形式の時、分、秒を読み込みます。コロン(:)やピリオド(.)などの特殊文字が時、分、秒を区切るために使用されます。
	TODSTAMP 入力形式 (p. 479)	8 バイトの TOD スタンプを読み込みます。
	TU 入力形式 (p. 481)	タイマーユニットを読み込みます。
	WEEKU 入力形式 (p. 486)	週番号が使用される形式の値を読み込み、U アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。
	WEEKV 入力形式 (p. 487)	週番号が使用される形式の値を読み込み、V アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。
	WEEKW 入力形式 (p. 489)	週番号が使用される形式の値を読み込み、W アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。

カテゴリ	言語要素	説明
	YMDDTTM 入力形式 (p. 491)	<yy>yy-mm-dd hh:mm:ss.ss 形式の日時値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)またはコロン(:)などの特殊文字で年、月、日、時間、分、秒が区切られます。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。
	YMMDD 入力形式 (p. 493)	yymmdd または yyyymmdd 形式の日付値を読み込みます。
	YMMN 入力形式 (p. 495)	yyymm または yymm 形式の日付値を読み込みます。
	YYQ 入力形式 (p. 496)	yyQq または yyyyQq 形式の年の四半期を読み込みます。
文字	\$ASCII 入力形式 (p. 358)	ASCII 文字データをネイティブな形式に変換します。
	\$BASE64X 入力形式 (p. 359)	Base 64 エンコーディングを使用して、ASCII テキストを文字データに変換します。
	\$BINARY 入力形式 (p. 361)	バイナリデータを文字データに変換します。
	\$CHAR 入力形式 (p. 363)	空白を含む文字データを読み込みます。
	\$CHARZB 入力形式 (p. 364)	2 進ゼロを空白に変換します。
	\$EBCDIC 入力形式 (p. 365)	EBCDIC 文字データをネイティブな形式に変換します。
	\$HEX 入力形式 (p. 366)	16 進データを文字データに変換します。
	\$OCTAL 入力形式 (p. 371)	8 進データを文字データに変換します。
	\$PHEX 入力形式 (p. 372)	パック 16 進データを文字データに変換します。
	\$QUOTE 入力形式 (p. 373)	対になっている引用符を文字データから削除します。
	\$UPCASE 入力形式 (p. 374)	文字データを大文字に変換します。
	\$VARYING 入力形式 (p. 375)	可変長の文字データを読み込みます。
	\$w 入力形式 (p. 377)	標準文字データを読み込みます。

ディクショナリ

\$ASCII 入力形式

ASCII 文字データをネイティブな形式に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$ASCII*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 1。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

ASCII がネイティブな形式の場合、変換は実行されません。

比較

- IBM メインフレームシステムの場合、\$ASCII*w*. は ASCII 文字データを EBCDIC に変換します。
- その他のすべてのシステムでは、\$ASCII*w*. は \$CHAR*w*. 入力形式と同じ結果になります(デフォルト長が異なる場合を除く)。

例

```
input @1 name $ascii3.;
```

データ行	結果 *	
----+----1	EBCDIC	ASCII
abc	818283	616263
ABC	C1C2C3	414243
();	4D5D5E	28293B

* 上記の結果は、文字のコード値を 16 進表現で出力したものです。16 進の 2 文字がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトが 1 文字値に対応します。

\$BASE64X 入力形式

Base 64 エンコーディングを使用して、ASCII テキストを文字データに変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

配置: 左

構文

\$BASE64X*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32767

詳細

Base 64 は、ポジション指定スキームに基づき、ASCII 文字のみ使用したエンコード文字を指定するエンコーディング方式です。複数の Base 64 エンコーディングスキームが、メールやコンテンツマスキングなどの特定の用途に定義されています。ポジション 0-61 を文字 A-Z、a-z、0-9 にマップします。ポジション 62 は文字+にマップし、ポジション 63 は文字/にマップします。

次に、Base 64 エンコーディングの使用例を示します。

- XML ファイルの埋め込みバイナリデータ
- パスワードのエンコード
- URL のエンコード

エンコード結果の '=' 文字は、結果にゼロビットが埋め込まれたことを示します。エンコード文字をデコードするには、 '=' をデコードする値に含める必要があります。

例

input @1 b64exmpl \$base64x64.;

データ行	結果
RkNBMDFBNzk5M0JD	FCA01A7993BC
TXIQYXNzd29yZA==	MyPassword
d3d3Lm15ZG9tYWluLmNvbi9teWhpZGRlbiVSTA==	www.mydomain.com/ myhiddenURL

関連項目:

- XMLDOUBLE オプション: [“LIBNAME Statement Syntax” \(SAS Viya XML LIBNAME Engine: User's Guide\)](#)

出力形式:

- [“\\$BASE64X 出力形式” \(62 ページ\)](#)

\$BINARY 入力形式

バイナリデータを文字データに変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$BINARY*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。8 ビットのバイナリ情報で 1 文字を表すため、\$BINARY*w*. が読み込む 8 ビットの入力ごとに 1 文字値に変換され、変数に保存されます。

$w < 8$ の場合、\$BINARY*w*. は *w* 桁以降は 0 が続いているとしてデータを読み込みます。\$BINARY4. は文字 0101 を 01010000 として読み込み、EBCDIC の場合は **&** に、ASCII の場合は **P** に変換します。 $w > 8$ であっても 8 の倍数でない場合、\$BINARY*w*. は、データを変換する前に *w* 未満で最大の 8 の倍数の桁数まで読み込みます。

デフォルト 8

範囲 1-32767

詳細

\$BINARY*w*. 入力形式はバイナリデータを解釈しませんが、0 または 1 のみを含む文字列をバイナリ情報として変換します。そのため、入力には数字 1 と 0 のみを使用します。空白は挿入できません。\$BINARY*w*. では、先頭と末尾の空白は無視されます。

印字不可文字のバイナリコード表現を読み込むには、特定の文字の ASCII 表現または EBCDIC 表現に対応する、0 および 1 からなる文字列を入力します。\$BINARY*w*. 入力形式はその文字列に対応する文字値に変換します。

比較

- \$BINARY*w*. 入力形式は、0 または 1 のみを含む 8 文字の入力を 1 バイトの数値データの 2 進表現として読み込みます。
- \$HEX*w*. 入力形式は、文字データの ASCII 表現または EBCDIC 表現を 16 進表現で表したものを読み込みます。

例

```
input @1 name $binary16.;
```

データ行	結果	
----+----1----+----2	ASCII	EBCDIC
0100110001001101	LM	<

\$CB 入力形式

カラムバイナリファイルから標準文字データを読み込みます。

カテゴリ: カラムバイナリ
CAS

構文

\$CB*w*.

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト なし

範囲 1-32767

詳細

カラムバイナリデータストレージは、80 項目を超えるデータを 1 つの"仮想"パンチカードに保存できるように、データを圧縮します。

\$CB*w*.入力形式は、カラムバイナリファイルから標準文字データを読み込みます。各カードカラムは 2 バイトで表されます。\$CB*w*.入力形式はデータを標準文字コードに変換します。その組み合わせが無効なパンチコードの場合、空白が返され、自動変数_ERROR_が 1 に設定されます。

例

```
input @1 name $cb2.;
```

データ行 *	結果	
----+----1	EBCDIC	ASCII
200A	+	N

* データ行はカラムバイナリの 16 進表現です。サンプルデータの"仮想"パンチカードカラムでは、行 12、行 6、行 8 がパンチされています。2 進表現は、0010 0000 0000 1010 となります。

関連項目:

入力形式:

- “CB 入力形式” (401 ページ)
- “PUNCH 入力形式” (451 ページ)
- “ROW 入力形式” (457 ページ)

\$CHAR 入力形式

空白を含む文字データを読み込みます。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$CHAR*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

\$CHAR*w*. 入力形式は、保存前に、前後の空白を切り捨てたり、入力データフィールドの 1 つのピリオドを空白に変換したりしません。DATA ステップ内の INFORMAT ステートメントまたは ATTRIB ステートメントに \$CHAR*w*. を使用してリスト入力を読み込む場合、デフォルトでは、先頭の空白を含め、データに埋め込まれている空白はフィールド区切り文字として解釈されます。

比較

- \$CHAR*w*. 入力形式は、\$*w*. 入力形式とほとんど同じです。ただし、\$CHAR*w*. は値の前の空白を切り捨てることも入力データフィールドの 1 つのピリオドを空白に変換することも行いませんが、\$*w*. 入力形式は行います。
- 次の表は、SAS 入力形式の \$CHAR8. と他のプログラミング言語での表記方法を比較したものです。

言語	文字表記
SAS	\$CHAR8.
IBM 370 アセンブラ	CL8

言語	文字表記
C	char [8]
COBOL	PIC x(8)
Fortran	A8
PL/I	CHAR(8)

例

```
input @1 name $char5.;
```

データ行	結果 *
----+----1	
XYZ	XYZ##
XYZ	#XYZ#
.	##.##
X YZ	#X#YZ

* (文字#は空白を表します)。

\$CHARZB 入力形式

2進ゼロを空白に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$CHARZB*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 1。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

\$CHARZBw.入力形式は、文字データの前後の空白を値の保存前に切り捨てません。

比較

\$CHARZBw.入力形式は\$CHARw.入力形式とほぼ同じですが、\$CHARZBw.はバイナリ 0 を含むバイトを空白文字に変換します。

例

```
input @1 name $charzb5.;
```

データ行 *		結果 **
EBCDIC	ASCII	
E7E8E90000	58595A0000	XYZ##
00E7E8E900	0058595A00	#XYZ#
00E700E8E9	005800595A	#X#YZ

* データ行は、文字コードを 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに相当し、1 バイトが 1 文字に相当します。

** 文字#は空白を表します。

\$EBCDIC 入力形式

EBCDIC 文字データをネイティブな形式に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$EBCDIC*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 1。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

詳細

EBCDIC がネイティブな形式の場合、変換は実行されません。

注: テキストファイルがローカルエンコーディング環境以外で作成された場合はいつでも、ENCODING=オプションに ASCII または EBCDIC 環境を指定する必要があります。EBCDIC テキストファイルを ASCII プラットフォームで読み込む場合、FILENAME ステートメントまたは INFILE ステートメントの ENCODING=オプションを指定することをお勧めします。ただし、DSD を使用し、FILENAME ステートメントまたは INFILE ステートメントの DLM=オプションまたは DLMSTR=オプションを使用する場合、ENCODING=オプションが必要条件となります。これらのオプションは、セッションエンコーディングで示された特定の文字(引用符、カンマ、空白など)が必要なためです。エンコーディング固有の入力形式は、バイナリファイルに使用するためのものです。つまり、文字フィールドと非文字フィールドの両方が含まれます。

比較

- IBM メインフレームシステムの場合、\$EBCDICw. は \$CHARw. 入力形式と同じように振る舞います。
- その他のすべてのシステムでは、\$EBCDICw. は EBCDIC データを ASCII に変換します。

例

```
input @1 name $ebcdic3.
```

データ行	結果 *	
----+----1	ASCII	EBCDIC
qrs	717273	9899A2
QRS	515253	D8D9E2
+;>	2B3B3E	4E5E6E

* 上記の結果は、文字のコード値を 16 進表現で出力したものです。16 進の 2 文字がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトが 1 文字値に対応します。

\$HEX 入力形式

16 進データを文字データに変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$HEX*w.*

構文の説明

w

16 進データの桁数を指定します。

$w=1$ の場合、\$HEX w は 値の後に 16 進の 0 を埋め込みます。 w が 1 より大きい奇数の場合、\$HEX w は $w-1$ 桁の 16 進文字を読み込みます。

デフォルト 2

範囲 1-32767

詳細

\$HEX w 入力形式は、16 進データを 2 桁ごとに 1 バイトの文字データに変換します。入力方法が印字可能な文字に限られる場合は、\$HEX w を使用して、16 進値を文字変数にエンコードします。SAS はこの入力形式で読み取る数値を ASCII 値に変換します。

比較

HEX w 入力形式は、2 桁の 16 進データを一度に読み込み、それらを 1 バイトの数値データに変換します。

例

```
input @1 name $hex4.;
```

データ行	結果
----+----1	ASCII
6C6C	

\$N8601B 入力形式

基本表記または拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間値、日時値、間隔値の完全形式、切り捨て形式、省略形式を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文

\$N8601B $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト	50
範囲	1-200
要件	期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト	0
範囲	0-3

詳細

\$N8601B 入力形式は、ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を次の基本表記の文字データとして読み込みます。

時間要素	ISO 8601 表記	例
期間	<i>Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	P2012-09-15T15:53:00
	<i>PyyyymmddThhmmss</i>	P00020304T050607
	<i>PnYnMnDTnHnMn.fffS</i>	P2y10m14dT20h13m45.22s
	<i>PnW</i>	P6w
間隔	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/</i> <i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	2012-09-15T15:53:00/2014-11-13T00:00:00
	<i>yyyymmddThhmmss.fff/</i> <i>yyyymmddThhmmss.fff</i>	20120915T155300/20141115T120000
	<i>PnYnMnDTnHnMn.fffS/</i> <i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	P2y10M14dT20h13m45s/ 2012-09-15T15:53:00
	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/</i> <i>PnYnMnDTnHnMn.fffS</i>	2012-09-15T15:53:00/ P2y10M14dT20h13m45s
日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	2012-09-15T15:53:00
	<i>yyyymmddThhmmss.fff</i>	20120915T155300

\$N8601B 入力形式は、省略要素または切り捨て要素を含む ISO 8601 規格の期間要素、間隔要素、日時要素も読み込みます。省略要素は、1つのハイフン(-)を使用して、その省略要素を示す必要があります。

比較

\$N8601B 入力形式は、基本表記または拡張表記で示される期間、間隔、日時を読み込みます。

\$N8601E 入力形式は、拡張表記でのみ示される期間、間隔、日時を読み込みます。拡張表記の準拠を確保したい場合は\$N8601E 入力形式を使用します。

例

```
input @1 i860 $n8601b.;
```

データ行	結果
p0002-04-05t5:1:12	0002405050112FFC
2012-09-15T15:53:00/2010-09-15T00:00:00	2012915155300FFD2010915000000FFD
p0033-01-04T3:2:55/2012-09-15T15:53:00	0033104030255FFC2012915155300FFD

関連項目:

["ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

\$N8601E 入力形式

拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間、日時、間隔の値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.4, complete representation

構文

\$N8601E*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 50

範囲 1-200

要件 期間値または日時値の最小長は 16 です。間隔値の最小長は 16 です。

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-3

詳細

\$N8601E 入力形式は、次の拡張表記で示される ISO 8601 規格の期間、間隔、日時の値を読み込みます。

時間要素	ISO 8601 表記	例
期間	<i>Pyyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	P2012-09-15T15:53:00
	<i>PnW</i>	P6w
間隔	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/ yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	2012-09-15T15:53:00/2014-11-13T00:00:00
	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff/ PnYnMnDTnHnMns.fffS</i>	2012-09-15T15:53:00/ P2Y10M14DT20H13M45S
日時	<i>yyyy-mm-ddThh:mm:ss.fff</i>	2012-09-15T15:53:00

n

年数、月数、日数を表す数字です。

P

年数、月数、日数、時間数、分数、秒数で示される期間が続くことを示す文字です。

W

期間が週数で示されることを表す文字です。

T

時間値が続くことを示すために使用される文字です。すべての時間値が 0 の場合、T は不要です。

/

間隔の開始日時値と終了日時値を区切るために使用されます。

yyyy

4 桁の年を示します。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月を示します。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日を示します。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間を示します。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分を示します。

- ss**
00 から 59 までの 2 桁の秒を示します。
- fff**
3 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の端数を示します。各桁は 0 から 9 までです。
- Y**
期間の年数を示すために使用される文字です。
- M**
期間の月数を示すために使用される文字です。
- D**
期間の日数を指定するために使用される文字です。
- H**
期間の時間数を示すために使用される文字です。
- M**
期間の分数を指定するために使用される文字です。
- S**
期間の秒数を指定するために使用される文字です。

比較

\$N8601E 入力形式は、拡張表記でのみ示される有効な期間、間隔、日時を読み込みます。

\$N8601B 入力形式は、基本表記または拡張表記で示される有効な期間、間隔、日時を読み込みます。

拡張表記の準拠を確保したい場合は \$N8601E 入力形式を使用します。

例

input @1 i860 \$n8601e.;

データ行	結果
p0002-04-05t5:1:12s	0002405050112FFC
2012-09-15T15:53:00/2014-09-15T00:00:00	2012915155300FFD2014915000000FFD
p0033-01-04T3:2:55/2012-09-15T15:53:00	0033104030255FFC2012915155300FFD

関連項目:

["ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

SOCTAL 入力形式

8 進データを文字データに変換します。

カテゴリ: 文字

CAS

構文

\$OCTAL*w*.

構文の説明

w

入力幅をビットで指定します。1桁の8進データは3ビットの2進情報を表すため、*w*の値を\$OCTAL*w*.が読み込む8進データの1カラムごとに3ずつ増分します。

デフォルト 3

範囲 1-32767

詳細

8ビットの2進データは、1桁の文字データのコードを表します。そのため、1桁の文字データを表すために少なくとも3桁の8進データが必要です。ビットが追加されることもあります。\$OCTAL*w*.は、3桁の8進データを1桁の文字データとして処理します。追加ビットは無視します。

印字不可文字のバイナリコードを8進表現で表したものを読み込むには、\$OCTAL*w*.を使用します。特定の文字のASCIIコードまたはEBCDICコードを8進表記で入力します。次に、\$OCTAL*w*.を使用して、文字データに変換します。

入力には、0から7までの数字のみを使用します。空白は挿入できません。\$OCTAL*w*.では、先頭と末尾の空白は無視されます。

比較

OCTAL*w*.入力形式は、8進データを読み込んで数値データに変換します。

例

```
input @1 name $octal9.;
```

データ行	結果	
----+----1	EBCDIC	ASCII
114	<	L

\$PHEX 入力形式

パック16進データを文字データに変換します。

カテゴリ: 文字

CAS

構文

\$PHEX*w*.

構文の説明

w

入力のバイト数を指定します。

\$PHEX*w*.を使用してパック 16 進データを読み込む場合、変数の長さは *w* ではなく、その文字値の保存に必要なバイト数です。通常、\$PHEX*w*.によって暗黙的に長さ定義される文字変数では、その長さは $2w-1$ となります。

デフォルト 2

範囲 1-32767

詳細

パック 16 進データは、パック 10 進データに似ていますが、すべての 16 進文字が有効である点が異なります。パック 16 進データでは、下位ニブルの値には意味がありません。パック 10 進データでは、下位ニブルの値はデータが表す数値の符号を示します。\$PHEX*w*.入力形式は文字値を返し、実際の値に関係なく符号ニブルの値を **X'F'**として扱います。

比較

PD*w.d*.入力形式は、パック 10 進データを読み込み、それを数値データに変換します。

例

```
input @1 devaddr $phex2.;
```

データ行*	結果
0001111000001111	1E0

* データ行は 2 バイトのバイナリデータを表し、0.5 バイトが 16 進数の 1 文字に対応します。データ行は 16 進表記で表すと、1E0F に相当します。

\$QUOTE 入力形式

対になっている引用符を文字データから削除します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$QUOTE*w*.

構文の説明

W

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。**範囲** 1-32767

例

```
input @1 name $quote7.;
```

データ行	結果
----+----1	
'SAS'	SAS
"SAS"	SAS
"SAS's"	SAS's

\$UPCASE 入力形式

文字データを大文字に変換します。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$UPCASE*W*.

構文の説明

W

入力幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。**範囲** 1-32767

詳細

ハイフンなどの特殊文字は、変更されません。

例

```
input @1 name $upcase3;
```

データ行	結果
----+----1	
sas	SAS

\$VARYING 入力形式

可変長の文字データを読み込みます。

カテゴリ: 文字
CAS

構文

\$VARYING*w*. *length-variable*

構文の説明

w

入力ファイルのすべてのレコードに対する文字フィールドの最大幅を指定します。

デフォルト 変数の長さが定義されていなければ 8。その他の場合、デフォルトは変数の長さ。

範囲 1-32767

length-variable

現在のレコードの文字フィールドの幅を含む数値変数を指定します。*length-variable* の値は、INPUT ステートメントに記述されたフィールドから直接読み込むか、DATA ステップで値を計算して求めます。

制限事項 *length-variable* には、配列参照は使えません。

要件 *length-variable* は、INPUT ステートメント内で \$VARYING*w*. の直後に指定する必要があります。

ヒント *length-variable* の値が負の値または欠損値の場合、そのレコードのデータは読み込まれません。

length-variable の値が 0 の場合、変数の値は空白文字になります。*length-variable* の値に 0 を指定することで、ゼロ長のレコードとフィールドの読み込みが可能です。

\$VARYING.入力形式以外の入力形式を使用して読み込まれた変数に対して、同一のデータを *length-variable* が 0 の \$VARYING.入力形式で読み込むと、前の値が空白値で上書きされます。

length-variable が 0 より大きく、*w* より小さい場合、*length-variable* によって指定されるカラム数が読み込まれます。次に、変数に割り当てられる最大幅になるように値の後に空白が埋め込まれます。

length-variable が *w* 以上の場合、*w* カラムが読み込まれます。

詳細

文字値の長さがレコード間で異なる場合は、\$VARYING*w*.を使用します。データ値を\$VARYING*w*.で読み込んだ後、ポインタはこのデータ値の次のカラムに設定されます。

例

例 1: 現在のレコード長を直接取得する

```
input fwidth 1. name $varying9. fwidth;
```

データ行	結果 *
----+----1	
5shark	shark
3sunfish	sun
8bluefish	bluefish

* 2 番目のデータ行を読み込んだ結果に注意してください。

例 2: レコード長を間接的に取得する

INFILE ステートメントの LENGTH=オプションを使用して、レコード長を間接的に取得します。入力データ行とその結果は、SAS ステートメントの説明の後に示します。

```
data one;
  infile file-specification length=reclen;
  input @;
  fwidth=reclen-9;
  input name $ 1-9
        @10 class $varying20. fwidth;
run;
```

INFILE ステートメントの LENGTH=オプションは、INPUT ステートメントの初回実行時に内部的に保存されたレコード長を RECLEN に割り当てます。後置@は、別の INPUT ステートメントのレコードを保持します。次に、割り当てステートメントは、レコード長の合計からレコードの固定長部分を引いて可変長フィールドの値を計算します。変数 FWIDTH は、最後のフィールドの長さを含み、\$VARYING20.入力形式の *length-variable* 引数になります。

データ行	結果
---+----1----+----2	
PATEL CHEMISTRY	PATEL CHEMISTRY
JOHNSON GEOLOGY	JOHNSON GEOLOGY
WILCOX ART	WILCOX ART

\$w 入力形式

標準文字データを読み込みます。

カテゴリ: 文字

CAS

別名: \$Fw.

構文

`$w.`

構文の説明

w

入力幅を指定します。デフォルト値は提供されていないため、*w* は必ず指定してください。

範囲 1-32767

詳細

`$w` 入力形式は、テキストの保存前に値の前の空白を切り捨て、値を左揃えにします。また、フィールドに空白と1つのピリオドのみ含まれている場合、`$w.` はピリオドを空白に変換します。ピリオドは欠損値として解釈されるためです。`$w` 入力形式は、フィールド内の2つ以上のピリオドは文字データとして処理します。

比較

`$w` 入力形式は、`$CHARw` 入力形式とほとんど同じです。ただし、`$CHARw.` は値の前の空白を切り捨てることも入力フィールドの1つのピリオドを空白に変換することも行いませんが、`$w.` はこれらを行います。

例

```
input @1 name $5.;
```

データ行	結果 *
---+---1	
XYZ	XYZ##
XYZ	XYZ##
.	
XYZ	X#YZ#

* (文字#は空白を表します)。

ANYDTDTE 入力形式

さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日付値を読み込み、抽出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

ANYDTDTE w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 9

範囲 5-60

詳細

ANYDTDTE 入力形式は、次の入力形式のいずれか、または日付形式、時間形式、日時形式に対応する入力データを読み込み、派生した値から日付部分を抽出します。

入力形式または入力値の形式	サンプルデータ	入力形式または入力値の形式	サンプルデータ
DATE	01JAN12 01JAN2012	MONYY	JAN12 JAN2012
DATETIME	01JAN12 14:30:08 01JAN2012 14:30:08.5	TIME	14:30 14:30:08.05

入力形式または入力値の形式	サンプルデータ	入力形式または入力値の形式	サンプルデータ
DDMMYY	010112 01012012	YMDDTTM	12-01-01 11:23
JULIAN	12001 2012001	YYMMDD	120101 20120101
MDYAMPM	01-01-12 3:53 pm	YYQ	12Q1 2012Q1
MMDDYY	010112 01012012	YY<YY>xMM *	12/01 2012-01
MMxYY<YY> *	01/12 01-2012	<i>month-day-year</i>	January 1, 2012

* x は、年から月を区切る特殊文字です。

入力値が時間のみの値である場合、日付は 01JAN1960 と仮定されます。

01-02-03、01-02 などの入力データでは、月、日、年の区別が不明確になる可能性があります。この場合、DATESTYLE システムオプションを使用して、月、日、年の順序を示します。

コロンを含む入力データは時間データとして解釈されます。たとえば、2013:12 は、2013 年 12 月としてではなく、2013 時間および 12 分として解釈されます。時間値の読み込みによる日付の結果は 0 です。

比較

ANYDTDTE 入力形式は、派生した値から日付部分を抽出します。ANYDXTDTM 入力形式は、日時部分を抽出します。ANYDXTTME 入力形式は、時間部分を抽出します。

例

```
input dateinfo anytdt21.;
```

データ行	入力形式	結果	DATEw.出力形式
----+----1----+----2			
01JAN12	DATE	18993	01JAN12
01JAN2012 14:30:08.5	DATETIME	18993	01JAN12
01012012	DDMMYY	18993	01JAN12
2012001	JULIAN	18993	01JAN12

データ行	入力形式	結果	DATEw.出力形式
01/01/12	MMDDYY	18993	01JAN12
JAN2012	MONYY	18993	01JAN12
14:30	TIME	0	01JAN60
20120101	YYMMDD	18993	01JAN12
12q1	YYQ	18993	01JAN12
January 1, 2012	なし	18993	01JAN12

関連項目:

入力形式:

- [“ANYDTDTM 入力形式” \(380 ページ\)](#)
- [“ANYDTTME 入力形式” \(384 ページ\)](#)
- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DATETIME 入力形式” \(406 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“MDYAMPM 入力形式” \(433 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“MONYY 入力形式” \(436 ページ\)](#)
- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)
- [“YMDDTTM 入力形式” \(491 ページ\)](#)
- [“YYMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)
- [“YYQ 入力形式” \(496 ページ\)](#)

ANYDTDTM 入力形式

さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から日時値を読み込み、抽出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

操作: 入力日時値に文字のフォーマット用の特殊文字が含まれ、その文字が B、C、N、P、または S でない場合、ANYDTDTMw.入力形式では、入力の日付部分のみが読み取られ、時間が 0 に設定されます。たとえば、EN_US ロケールの場合、入力値 '150501X1' から 01MAY15:00:00:00 が抽出されます。

構文

ANYDTCM^w.

構文の説明

^w

入力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 1-60

詳細

ANYDTCM 入力形式は、次の入力形式のいずれかの形式、または日付/時間形式のデータを読み込み、派生した値から日時部分を抽出します。

入力形式または入力値の形式	サンプルデータ
DATE	01JAN12 01JAN2012
DATETIME	01JAN12 14:30:08 01JAN2012 14:30:08.5
DDMM<YY>YY ** ***	010112 01012012
JULIAN	12001 2012001
MMDD<YY>YY ** ***	010112 01012012
MMx<YY>YY * **	01/12 01-2012
MDYAMPM ***	01/01/12 02:30:08 AM 01/01/12 02:30:08 AM
MONYY	JAN12 JAN2012
TIME	14.30 14:30:08.05
<YY>YYMMDD **	120101 20120101

入力形式または入力値の形式	サンプルデータ
<YY>YYQ **	12Q1 2012Q1
<YY>YYxMM * **	12/01 2012/01
month-day-year	January 1, 2012
month-day-year hh:mm:ss	01/01/12 12:00:00 AM

* x は、年から月を区切る特殊文字です。

** <YY>は、世紀がオプションであることを示します。

** 月値と日値の区別が不明確である場合、DATESTYLE=システムオプションの値を使用してその順序が決定されます。

入力値が時間のみの値である場合、日付は 01JAN1960 と仮定されます。入力値が日付のみの値である場合、時間は 12:00 (午前 0 時)と仮定されます。入力値の時間値には、時間と分を含める必要があります。入力値にいずれかの日付構成要素が含まれない場合や、時間値の時間および分がないまたは範囲外である場合、読み込まれる値は SAS 欠損値になります。

前述の入力形式の入力値は、MMDDYY、DDMMYY、または YYMMDD を除き、2桁の年の使用時は相互排他になります。01-02-03、01-02 などの入力データでは、月、日、年の区別が不明確になる可能性があります。この場合、DATESTYLE システムオプションを使用して、月、日、年の順序を示します。

ANYDTTME 入力形式では、時間値のコロン、ピリオドの読み込み時に次のルールが使用されます。

コロンとピリオドの使用	例
値 h:m の 1 つのコロンは、時間と分を示します。	14:30
値 h:m:s の 2 つのコロンは、時間、分、秒を示します。	14:30:08
値 m:s.ff (ff は秒の分数)の 1 つのピリオドは、ピリオドの前の数字が秒数であることを示します。	2:39.66
値の複数のピリオドは、ピリオドが日付の区切り文字であることを示します。値は時間値ではありません。	12.25.2012

比較

ANYDTDTE 入力形式は、派生した値から日付部分を抽出します。ANYDTDTM 入力形式は、日時部分を抽出します。ANYDTTME 入力形式は、時間部分を抽出します。

例

input dateinfo anydtdtm21.;

データ行	入力形式またはデータ形式	結果	DATETIMEw .d 出力形式 を適用
---+---1---+---2			
01JAN2012	DATE	1640995200	01JAN12:00:00:00
01JAN2012 14:30:08.5	DATETIME	1641047408.5	01JAN12:14:30:09
01012012	DDMMYY	1640995200	01JAN12:00:00:00
2012001	JULIAN	1546387200	01JAN12:00:00:00
01/01/12	MMDDYY	1546387200	01JAN12:00:00:00
01-12	MMxYY	1546387200	01JAN12:00:00:00
JAN2012	MONYY	1546387200	01JAN12:00:00:00
14:30	TIME	52200	01JAN60:14:30:00
20120101	YYMMDD	1546387200	01JAN12:00:00:00
12Q1	YYQ	1546387200	01JAN12:00:00:00
January 1, 2012	<i>month-day-year</i>	1546387200	01JAN12:00:00:00

関連項目:

入力形式:

- [“ANYDTCM 入力形式” \(378 ページ\)](#)
- [“ANYDTCM 入力形式” \(384 ページ\)](#)
- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DATETIME 入力形式” \(406 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“MONYY 入力形式” \(436 ページ\)](#)
- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)
- [“YYMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)
- [“YYQ 入力形式” \(496 ページ\)](#)

ANYDTTME 入力形式

さまざまな日付形式、時間形式、および日時形式から時間値を読み込み、抽出します。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

ANYDTTME*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-60

詳細

ANYDTTME 入力形式は、次の入力形式または形式のいずれかに対応する入力データを読み込みます。

入力形式または入力値の形式	サンプルデータ	入力形式または入力値の形式	サンプルデータ
DATE	01JAN12 01JAN2012	MONYY	JAN12 JAN2012
DATETIME	01JAN12 14:30:08 01JAN2012 14:30:08.5	YYMMDD	120101 20120101
DDMMYY	010112 01012012	YYQ	12Q1 2012Q1
JULIAN	12001 2012001	YYQ	12Q1 2012Q1
MMDDYY	010112 01012012	<i>month-day-year</i>	January 1, 2012 2012-01

入力値が時間のみの値である場合、日付は 01JAN1960 と仮定されます。入力値が日付のみの値である場合、時間は 12:00 (午前 0 時) と仮定されます。

01-02-03、01-02 などの入力データでは、月、日、年の区別が不明確になる可能性があります。この場合、DATESTYLE システムオプションを使用して、月、日、年の順序を示します。

ANYDTTME 入力形式では、時間値のコロン、ピリオドの読み込み時に次のルールが使用されます。

コロンとピリオドの使用	例
値 <i>h:m</i> の 1 つのコロンは、時間と分を示します。	14:30
値 <i>h:m:s</i> の 2 つのコロンは、時間、分、秒を示します。	14:30:08
値 <i>m:s.ff</i> (<i>ff</i> は秒の分数) の 1 つのピリオドは、ピリオドの前の数字が秒数であることを示します。	2:39.66
値の複数のピリオドは、ピリオドが日付の区切り文字であることを示します。値は時間値ではありません。	12.25.2012

比較

ANYDTDTE 入力形式は、派生した値から日付部分を抽出します。ANYDTDTEM 入力形式は、日時部分を抽出します。ANYDTTME 入力形式は、時間部分を抽出します。

例

```
input dateinfo anydttme21.;
```

データ行	入力形式	結果	TIMEw.d 出力形式を適用
----+----1----+----2			
01JAN12	DATE	0	00:00:00
01JAN2012 14:30:08.5	DATETIME	52208.5	14:30:09
010112	DDMMYY	0	00:00:00
2012001	JULIAN	0	00:00:00
01012012	MMDDYY	0	00:00:00
JAN2012	MONYY	0	00:00:00
14:30:08.5	TIME	52208.5	14:30:09
20120101	YYMMDD	0	00:00:00
12Q1	YYQ	0	00:00:00

データ行	入力形式	結果	TIMEw.d 出力形式を適用
January 1, 2012	month-day-year	0	00:00:00

関連項目:

入力形式:

- [“ANYDTE 入力形式” \(378 ページ\)](#)
- [“ANYDTM 入力形式” \(380 ページ\)](#)
- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DATETIME 入力形式” \(406 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“MONYY 入力形式” \(436 ページ\)](#)
- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)
- [“YMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)
- [“YYQ 入力形式” \(496 ページ\)](#)

B8601CI 入力形式

世紀マーカを含む、*cyymmddhhmmss<fff>*形式の IBM 日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

構文

B8601CI*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 10-26

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601CI 入力形式は、IBM 時間表記 *cyymmddhhmms<fff>* で示される時間値を読み込みます。

c

世紀を表す 1 桁の数字です。

0 1900～1999 年を表します。

1 2000～2099 年を表します。

2 2100～2199 年を表します。

n 2200 年以降について、計算で求めた世紀に属する、年の下 2 桁を表します。世紀マーカを決定するには、年から 1900 を引き、その結果を 100 で割ります。余りは切り捨てます。残った整数が世紀マーカです。たとえば、年 2382 に対して世紀マーカを決定するには、計算 $(2382-1900)/100=4.82$ を実行します。 $.82$ を切り捨てます。この世紀マーカは 4 になります。

yy

00 から 99 までの 2 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

fff

各桁は 0 から 9 までです。

例

input @1 bci b8601ci,;

日付と時間	データ行	結果
	----+----1----+	
January 1, 1900 12:00:00	0000101120000	-1893326400
October 1, 2011 12:15:30.25	111100112153025	1633090530.3

B8601DA 入力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して示される日付値を読み込みます。

カテゴリ:	日付と時間 ISO 8601
配置:	左
別名:	ND8601DAw
制限事項:	UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
サポート:	ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

B8601DA*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 10 である必要があります。

詳細

B8601DA 入力形式は、ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して示される日付値を読み込みます。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

月または日の値が省略されている場合、SAS では、月または日に 1 の値が使用されます。また、時間、分または秒の値が省略されている場合は、時間、分または秒に 0 の値が使用されます。

例

```
input @1 bda b8601da.;
```

データ行	結果	B8601DA 出力形式の適用後
----+----1		
20120915	19251	20120915

データ行	結果	B8601DA 出力形式の適用後
2012	18993	20120101

関連項目:

[“ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

B8601DJ 入力形式

yyyymmddhhmmss<ffffff>形式の Java 日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

構文

B8601DJ*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 16

範囲 10-26

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601DJ 入力形式は、Java 日時表記 yyyymmddhhmmss<ffffff>を使用して示される日時値を読み込みます。

yyyy

0000 から 9999 までの 4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

比較

B8601DJ 入力形式は、時間から日付を区切るための T を含まない日時値を読み込みます。

Java 日時値は、T を含みません。たとえば、2011 年 1 月 1 日の午前 4:30:25 は、20110101043025 と表記されます。

ISO 8601 規格の日時値は、T を含みます。たとえば、2011 年 1 月 1 日の午前 4:30:25 は、20110101T043025 と表記されます。

例

```
input @1 bdj b8601dj.;
```

日付と時間	データ行	結果
	----+----1----+-----	
July 31, 2011 2:33:35 p.m.	20110731142335	1627741415
September 1, 2012 7:30:00.33 a.m.	2012090107300033	1662103800.3

B8601DN 入力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmdd* を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

別名: ND8601DNw

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

B8601DN*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 入力幅は 10 である必要があります。

詳細

B8601DN 入力形式は、ISO 8601 規格の基本日付表記 *yyyymmdd* を使用して示される日付値を読み込み、SAS 日時値の日付を返します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

```
input @1 bdn b8601dn.;
```

データ行	結果
----+----1	
20120915	1663286400

関連項目:

[“ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

B8601DT 入力形式

ISO 8601 規格の基本表記 *yyyymmddThhmmss<ffffff>* を使用して示される日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

配置: 左

別名: B8601LX*w.d*

ND8601DT*w.d*

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

構文

B8601DT*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 14-26

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601DT 入力形式は、ISO 8601 規格の基本日時表記 *yyyymmddThhmmss<ffffff>* を使用して示される日時値を読み込みます。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

月または日の値が省略されている場合、SAS では、月または日に 1 の値が使用されます。また、時間、分または秒の値が省略されている場合は、時間、分または秒に 0 の値が使用されます。

例

```
input @1 bdt b8601dt.;
```

データ行	結果	B8601DT 出力形式の適用後
----+----1		
20120915T155300	1663343580	20120915T155300
2012	1640995200	20120101T000000

関連項目:

[“ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

B8601DX 入力形式

協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの基本表記 `yyyymmddThhmmss+|-hhmm` を使用して書き出されます。

参照項目: B8601DX*w*. 入力形式は、B8601DZ*w.d* 入力形式を使用してデータを読み込みます。[“B8601DZ 入力形式” \(393 ページ\)](#)を参照してください。

構文

B8601DX*w*.

B8601DZ 入力形式

ISO 8601 規格の日時基本表記 `yyyymmddThhmmss+|-hhmm` または `yyyymmddThhmmss<ffffff>Z` を使用して示される協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

別名: B8601DX*w.d*
ND8601DZ*w.d*

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

B8601DZ*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 15-35

d

秒の端数を表す秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。B8601DZ 入力形式は、次の ISO 8601 規格の基本日時表記のいずれかで示される日時値を読み込みます。

- `yyyymmddThhmmss+|-hhmm`
- `yyyymmddThhmmss<ffffff>Z`

yyyy

4桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 24 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは *+|-hhmm* (つまり+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式 *+|-hh* はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+0000 UTC 時間であることを示します。

例

```
input @1 bdz b8601dz.;
```

データ行	結果
----+----1	
20120915T155300+0500	1663325580

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

B8601LX 入力形式

ISO 8601 規格の基本表記 `yyyymmddThhmmss+|-hhmm` を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として読み込みます。

参照項目: B8601LX*w.d* 入力形式は、B8601DT*w.d* 入力形式を使ってデータを読み込みます。
[“B8601DT 入力形式” \(391 ページ\)](#)を参照してください。

構文**B8601LX*w.d***

B8601TM 入力形式

ISO 8601 規格の基本表記 `hhmmss<ffffff>` を使用して示される時間値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
 ISO 8601

配置: 左

別名: ND8601TM*w.d*

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Elements 5.3.1.1 and 5.3.1.3, complete representation and representation of decimal fractions

構文**B8601TM*w.d*****構文の説明*****w***

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 6-15

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

B8601TM 入力形式は、ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss<ffffff>* を使用して示される時間値を読み込みます。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss
00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff
6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

```
input @1 btm b8601tm;
```

データ行	結果
----+----1	
155300	57180

関連項目:

["ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

B8601TX 入力形式

協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss+|-hhmm* を使用して、ローカル時間を読み込みます。

参照項目: B8601TXw.入力形式は、B8601TZw.d 入力形式を使用してデータを読み込みます。
["B8601TZ 入力形式" \(396 ページ\)](#)を参照してください。

構文

B8601TXw.

B8601TZ 入力形式

ISO 8601 規格の基本時間表記 *hhmmss<ffff>+|-hhmm* または *hhmmss<ffffff>Z* で示される時間値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置:	左
別名:	B8601TX <i>w.d</i> ND8601TZ <i>w.d</i>
制限事項:	UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
サポート:	ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

B8601TZ*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 7-20

d

(オプション)秒値の小数点以下の桁数を指定します。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 時間値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。B8601TZ 入力形式は、次の ISO 8601 規格の基本時間表記のいずれかで示される時間値を読み込みます。

- *hhmmss*<*ffffff*>+|-*hhmm*
- *hhmmss*<*ffffff*>Z

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

+|-*hhmm*

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは +|-*hhmm* (つまり+または-を伴う 4 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+0200 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-0600 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式+|-*hh* はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)に対応した時間、つまり+0000 UTC 時間であることを示します。

B8601TZ 入力形式を使用して UTC 時間を読み込み、調整された時間が 240000 より大きい、または 000000 より小さい場合、000000 と 240000 の間になるように時間値を調整します。たとえば、B8601TZ 入力形式を使用して UTC 時間 234344-0500 を読み込む場合、この UTC 時間に 5 時間を追加して 284344 としてから、時間調整を行います。時間 044344+0000 を示す値が保存されます。

例

```
input @1 btz b8601tz.;
```

データ行	結果
----+----1	
202401-0500	5041
202401Z	73441
202401+0000	73441

関連項目:

[“ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

BINARY 入力形式

正のバイナリ値を整数に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

BINARY*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-64

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれている場合も *d* 値が使用されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

入力には、数字 1 と 0 のみを使用します。空白は挿入できません。BINARYw.d では、先頭と末尾の空白は無視されます。

BINARYw.d では、負の値を読み込むことはできません。すべての入力値は正数 (符号なし) として処理されます。

例

```
input @1 value binary8.1;
```

データ行	結果
---+---1	
00001111	1.5

BITS 入力形式

ビットを抽出します。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

BITSw.d

構文の説明

w
読み込むビット数を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-64

d
ゼロを基点とするオフセットを指定します。

範囲 0-63

詳細

BITSw.d 入力形式は入力ストリームから指定したビットを抽出して、抽出したビット文字列に相当する数値を変数に割り当てます。同時に、*w* と *d* の値により、文字列の読み込む場所が指定されます。

この入力形式は、1 バイトに多くの情報を含むシステムレコードからデータを抽出するときに使用します。

例

```
input @1 value bits4.1;
```

データ行	結果 *
----+----1----+	
B	8

* 大文字 B は、EBCDIC バイナリコードでは 11000010、ASCII バイナリコードでは 01000010 となります。

入力ポインタはカラム 2(*d*=1)に移動します。次に、INPUT ステートメントは 4 ビット(*w*=4)、ここではビット文字列 1000 を読み込み、このバイナリの組み合わせに相当する数値 8 を保存します。

BZ 入力形式

空白をゼロに変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

BZ*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、*d* 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

BZw.d 入力形式は、数値を読み込み、末尾の空白や埋め込まれている空白を 0 に変換しますが、先頭の空白は無視します。

BZw.d 入力形式は、フィールド内の数値はその位置にかかわらず読み込むことができます。空白は数値の前後に置くことが可能です。マイナス記号は負の値の前に置く必要があります。BZw.d 入力形式は、入力フィールド内のマイナス記号と数値の間の空白を無視します。

BZw.d 入力形式は、フィールド内の 1 つのピリオドを 0 として解釈します。フィールド内の複数のピリオドまたはその他の数値以外の文字は欠損値として解釈します。

BZw.d を DATA ステップのリスト入力で使用するには、INFILE ステートメントの DLM=オプションまたは DLMSTR=オプションを使用して、リスト入力の区切り文字を変更します。デフォルトでは、データ行の値の間の空白は 0 ではなく、区切り文字として解釈されます。

比較

BZw.d 入力形式は、末尾の空白と埋め込まれている空白を 0 に変換します。末尾の空白を 0 に変換しない場合(E 表記で値を読み込む場合など)は、w.d 入力形式か、Ew.d 入力形式をかわりに使用します。

例

```
input @1 x bz4.;
```

データ行	結果
---+----1	
34	3400
-2	-200
-2 1	-201

CB 入力形式

カラムバイナリファイルから標準数値を読み込みます。

カテゴリ: カラムバイナリ
CAS

構文

CBw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

範囲 1-32

d値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれている場合も *d* 値が使用されます。この引数はオプションです。

詳細

カラムバイナリデータストレージは、80 項目を超えるデータを 1 つの"仮想"パンチカードに保存できるように、データを圧縮します。

CBw.d 入力形式は標準数値をカラムバイナリファイルから読み込み、そのデータを標準バイナリ形式に変換します。

まず、CBw.d を使用して読み込んだカラムバイナリデータの各カラムを 2 進表記で保存します。このとき、各バイトの高位 2 ビットは無視されます。パンチコードが有効な場合、それに相当する数値を指定の変数に保存します。組み合わせが無効な場合、変数に欠損値を割り当て、自動変数_ERROR_を 1 に設定します。

例: 例

```
input @1 x cb8.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
0009	9

* データ行はカラムバイナリの 16 進表現です。サンプルデータの"仮想"パンチカードカラムでは、行 9 がパンチされています。2 進表現は、0000 0000 0000 1001 となります。

関連項目:

入力形式

- ["\\$CB 入力形式" \(362 ページ\)](#)
- ["PUNCH 入力形式" \(451 ページ\)](#)
- ["ROW 入力形式" \(457 ページ\)](#)

COMMA 入力形式

埋め込み文字を取り除きます。

カテゴリ: 数値
CAS

別名: DOLLARw.d

構文

COMMA $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、 d 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

COMMA $w.d$ 入力形式では数値を読み込み、埋め込まれているカンマ、空白、ドル記号、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから取り除きます。COMMA $w.d$ 入力形式では、フィールドの先頭にある開きかっこがマイナス記号に変換されます。

比較

COMMA $w.d$ 入力形式は、COMMAX $w.d$ 入力形式と機能は似ていますが、小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。

例

input @1 x comma10.;

データ行	結果
----+----1----+	
\$1,000,000	1000000
(500)	-500

COMMAX 入力形式

埋め込まれているピリオド、空白、ドル記号、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから取り除きます。フィールドの先頭にある開きかっこはマイナス記号に変換されます。COMMAX 入力形式では、小数点とカンマの役割が逆になっています。

カテゴリ: 数値

CAS

別名: DOLLARX $w.d$

構文

COMMAX $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点を表すカンマが含まれる場合、 d 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

COMMAX $w.d$ 入力形式では数値を読み込み、埋め込まれているピリオド、空白、ドル記号、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから取り除きます。COMMAX $w.d$ 入力形式では、フィールドの先頭にある開きかっこがマイナス記号に変換されます。

比較

COMMAX $w.d$ 入力形式は、COMMA $w.d$ 入力形式と機能は似ていますが、小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。

例

```
input @1 x commax10.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
\$1.000.000	1000000
1.234,56	1234.56
(500)	-500

DATE 入力形式

ddmmyy または ddmmyyyy 形式の日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

構文

DATE*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 7

範囲 7-32

ヒント 4桁の年を読み込む場合は幅に 9 を指定します。

詳細

日付値は *ddmmyy* または *ddmmyyyy* 形式にする必要があります。*dd*

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

年、月、日の値は、空白や特殊文字で区切ることができます。入力幅には、空白および特殊文字のスペースを考慮する必要があります。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

input calendar_date date11.;

データ行	結果
----+----1----+	
16mar12	19068
16 mar 12	19068
16-mar-2012	19068

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)

関数:

- [“DATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

DATETIME 入力形式

ddmmyy hh:mm:ss.ss または *ddmmyyyy hh:mm:ss.ss* 形式の日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

DATETIME w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 18

範囲 13-40

詳細

日時値は *ddmmyy* または *ddmmyyyy* 形式にし、その後に空白または特殊文字を挿入し、次に *hh:mm:ss.ss*(時間)を追加する必要があります。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

hh

時間を表す 00 から 23 までの整数です。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

ss.ss

小数点以下の秒の端数を含む、00 から 59 の範囲の秒数です。

DATETIME w . には、日付と時間の両方の値が必須です。ただし、*ss.ss* の部分はオプションです。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

注: AM と PM を含む時間値を読み込むことができます。

比較

DATETIMEw.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む *dd-mmm-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM|PM* 形式の日時値を読み込みます。日付と時間は特殊文字で区切られる場合もあります。

MDYAMPMw.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む *mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM | PM* 形式の日時値を読み込みます。日付と時間の間にはスペースが必要です。

YMDDTTMw.d 入力形式は、必須の区切り文字を含む *<yy>yy-mm-dd/hh:mm:ss.ss* 形式の日時値を読み込みます。

例

```
input date_and_time datetime20.;
```

データ行	結果
----+----1----+----2	
16mar12:11:23:07.4	1647516187.4
16mar2012/11:23:07.4	1647516187.4
16mar2012/11:23 PM	1647559380.0

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DATETIME 出力形式” \(112 ページ\)](#)
- [“TIME 出力形式” \(274 ページ\)](#)

関数:

- [“DATETIME Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“MDYAMPM 入力形式” \(433 ページ\)](#)
- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)
- [“YMDDTTM 入力形式” \(491 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

DDMMYY 入力形式

ddmmyy<*yy*>または *dd-mm-yy*<*yy*>形式の日付値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)などの特殊文字で日、月、年を区切ります。年は2桁または4桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

DDMMYY*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 6-32

詳細

日付値は *ddmmyy*<*yy*>または *ddxmmxyy*<*yy*>形式にする必要があります。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

mm

月を表す 01 から 12 までの整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

x

区切り文字です。特殊文字または空白となります。

区切り文字を使用する場合は、すべての値の間に挿入します。空白は日付の前後に挿入することもできます。入力幅には、空白および特殊文字のスペースを考慮する必要があります。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input calendar_date ddmmyy10.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
160308	19068

データ行	結果
16/03/08	19068
16-03-2008	19068
16 03 2008	19068

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“YMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

E8601DA 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-dd* を使用して示される日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左

別名: IS8601DAw.

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

E8601DAw.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 入力幅は 10 である必要があります。

詳細

E8601DA 入力形式は、ISO 8601 規格の拡張日付表記 *yyyy-mm-dd* で示される日付値を読み込みます。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

input eda e8601da.;

データ行	結果
----+----1	
2012-09-15	19251

関連項目:

["ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

E8601DN 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-dd* を使用して示される日付値を読み込み、値の時間部分が 000000 である SAS 日時値を返します。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左**別名:** IS8601DNw**制限事項:** UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。**サポート:** ISO 8601 Element 5.2.1.1, complete representation

構文

E8601DN*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

要件 入力幅は 10 である必要があります。

詳細

E8601DN 入力形式は、ISO 8601 規格の拡張日付表記 *yyyy-mm-dd* を使用して示される日付値を読み込み、SAS 日時値の日付を返します。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

例

input edn e8601dn.;

データ行	結果
----+----1	
2012-09-15	1663286400

関連項目:

["ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

E8601DT 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>* を使用して示される日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左

別名: E8601LX*w.d*

IS8601DT*w.d*

制限事項: UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

E8601DT*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 19-26

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

E8601DT 入力形式は、ISO 8601 規格の拡張日時表記 *yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>* を使用して示される日時値を読み込みます。

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

input @1 edt e8601dt.;

データ行	結果
----+----1-----2----+----3	

データ行	結果
2012-09-15T15:53:00	1663343580

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

E8601DX 入力形式

協定世界時(UTC)日時値をユーザーのローカル日付と時間に調整します。その後、ローカルの日付と時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+|-hh:mm` を使用して読み込まれます。

カテゴリ: CAS

参照項目: E8601DX*w*. 入力形式は、E8601DZ*w.d* 入力形式を使用してデータを読み込みます。[“E8601DZ 入力形式” \(413 ページ\)](#)を参照してください。

構文

E8601DX*w*.

E8601DZ 入力形式

ISO 8601 規格の日時拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+|-hh:mm.<fffff>` または `yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<fffff>Z` を使用して示される、協定世界時(UTC)の日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

ISO 8601

CAS

配置: 左

別名: E8601DX*w.d*

IS8601DZ*w.d*

サポート: ISO 8601 Element 5.4.1, complete representation

構文

E8601DZ*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 26

範囲 20-35

d

最小単位の構成要素に対し値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。E8601DZ 入力形式は、UTC 時間オフセットを含み、次の ISO 8601 規格の拡張日時表記のいずれかで示される日時値を読み込みます。

- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>+|-hh:mm`
- `yyyy-mm-ddThh:mm:ss.<ffffff>Z`

yyyy

4 桁の年です。

mm

01 から 12 までの 2 桁の月です(ゼロ埋め込み)。

dd

01 から 31 までの 2 桁の日です(ゼロ埋め込み)。

hh

00 から 24 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

+|-hhmm

基準子午線時間からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは *+|-hh:mm* (つまり+または-に続く 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。たとえば、+02:00 は基準子午線の東部での 2 時間差を表し、-06:00 は基準子午線の西部での 6 時間差を表します。

制約: 短い形式 *+|-hh* はサポートされていません。

Z

時間が基準子午線(イギリスのグリニッジ)上の UTC 時間であることを示します。

例

INPUT ステートメント	データ行	結果
	----1----+----2----+----3	

INPUT ステートメント	データ行	結果
input edz e8601dz.;	2012-09-15T15:53:00Z	1663343580
input edz e8601dz28.2;	2012-09-15T15:53:00+03:00	1663332780

関連項目:

[“ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” \(336 ページ\)](#)

E8601LX 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 `yyyy-mm-ddThh:mm:ss+|-hh:mm` を使用して、ローカル時間と UTC 間のタイムゾーンオフセット差を追加することにより、日時値をローカル時間として読み込みます。

参照項目: E8601LX*w*. 入力形式は、E8601DT*w.d* 入力形式を使用してデータを読み込みます。[“E8601DT 入力形式” \(411 ページ\)](#)を参照してください。

構文

E8601LX*w*.

E8601LZ 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 `hh:mm:ss+|-hh:mm.<fffff>` または `hh:mm:ss.<fffff>Z` を使用して示される協定世界時(UTC)値を読み込み、ローカル時間に変換します。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601

配置: 左

別名: IS8601LZ*w.d*

サポート: ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

E8601LZ*w.d*

構文の説明

w 入力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

要件 Z タイムゾーンインジケータ付きの時間を読み込む場合、同じデータ行にデータが続くときは入力幅に 9 を指定する必要があります。

d

最小単位の構成要素に対し値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。E8601LZ 入力形式は、次の ISO 8601 規格の拡張時間表記のいずれかで示される UTC 時間値を読み込み、ローカル時間に対応する SAS 時間値を返します。

- *hh:mm:ss.<ffffff>+|-hh:mm*

- *hh:mm:ss.<ffffff>Z*

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

+|-hhmm

基準子午線からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは *+|-hh:mm* (つまり+または-に続く 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。

制約: 短い形式 *+|-hh* はサポートされていません。

Z

基準子午線に対応した時間、つまり+00:00 UTC 時間であることを示します。

E8601LZ 入力形式を使用して UTC 時間を読み込み、調整された時間が 24:00:00 より大きい、または 00:00:00 より小さい場合、時間が 00:00:00 と 24:00:00 の間になるように値が調整されます。たとえば、E8601LZ 入力形式を使用して UTC 時間 23:43:44-05:00 を読み込むと、この UTC 時間に 5 時間を追加して 28:43:44 としてから、時間調整が行われます。時間 04:43:44+00:00 を示す値が保存されます。

例

```
input elz e8601lz;
```

データ行	結果
----+----1----+	
09:13:21+02:00	26001
23:43:44Z	85424

関連項目:

["ISO 8601 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

E8601TM 入力形式

ISO 8601 規格の拡張表記 *hh:mm:ss.<ffffff>* を使用して示される時間値を読み込みます。

- カテゴリ:** 日付と時間
ISO 8601
CAS
- 配置:** 左
- 別名:** IS8601TM*w.d*
- 制限事項:** UTC タイムゾーンオフセット値はサポートされていません。
- サポート:** ISO 8601 Elements 5.3.1.1 and 5.3.1.3, complete representation and representation of decimal fractions

構文

E8601TM*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 8-15

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

E8601TM 入力形式は、ISO 8601 規格の拡張時間表記 *hh:mm:ss.<ffffff>* を使用して示される時間値を読み込みます。

hh
00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm
00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss
00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff
6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

例

```
input @1 etm e8601tm.;
```

データ行	結果
----+----1	
15:53:00	57180

関連項目:

“ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み” (336 ページ)

E8601TX 入力形式

協定世界時(UTC)値をユーザーのローカル時間に調整します。その後、ローカルの時間は、ISO 8601 規格の日時とタイムゾーンの拡張表記 *hh:mm:ss+|-hh:mm* を使用して読み込まれます。

参照項目: E8601TX*w*. 入力形式は、E8601TZ*w.d* 入力形式を使用してデータを読み込みます。“E8601DZ 入力形式” (413 ページ)を参照してください。

構文

E8601TX*w*.

E8601TZ 入力形式

ISO 8601 規格の拡張時間表記 *hh:mm:ss+|-hh:mm.<ffffff>* または *hh:mm:ssZ* を使用して示される時間値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
ISO 8601
CAS

配置: 左

別名: E8601TX*w.d*
IS8601TZ*w.d*

サポート: ISO 8601 Element 5.3.1.1, complete representation

構文

E8601TZ $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 14

範囲 9-20

要件 Z タイムゾーンインジケータ付きの時間を読み込む場合、同じデータ行にデータが続くときは入力幅に 9 を指定する必要があります。

d

最小単位の構成要素に対し値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-6

詳細

UTC 時間値は、イギリスのグリニッジの基準子午線に基づく時間とタイムゾーンを示します。E8601TZ 入力形式は、次の ISO 8601 規格の拡張表記のいずれかで示される UTC 時間値を読み込みます。

- $hh:mm:ss+|-hh:mm.<ffffff>$
- $hh:mm:ssZ$

hh

00 から 23 までの 2 桁の時間です(ゼロ埋め込み)。

mm

00 から 59 までの 2 桁の分です(ゼロ埋め込み)。

ss

00 から 59 までの 2 桁の秒です(ゼロ埋め込み)。

ffffff

6 桁までの有効桁数を持つ、オプションの秒の分数です。各桁は 0 から 9 までです。

$+|-hhmm$

基準子午線からの時間と分の符号付きオフセットです。オフセットは $+|-hh:mm$ (つまり+または-に続く 5 文字)である必要があります。

+は基準子午線の東部タイムゾーンに、-は基準子午線の西部タイムゾーンにそれぞれ使用します。

制約: 短い形式 $+|-hh$ はサポートされていません。

Z

基準子午線に対応した時間、つまり+00:00 UTC 時間であることを示します。

E8601TZ 入力形式を使用して UTC 時間を読み込み、調整された時間が 24:00:00 より大きい、または 00:00:00 より小さい場合、時間が 00:00:00 と 24:00:00 の間になるように値を調整します。たとえば、E8601TZ 入力形式を使用して UTC 時間 23:43:44-05:00 を読み込む場合、この UTC 時間に 5 時間を追加して 28:43:44 としてから、時間調整を行います。時間 04:43:44+00:00 を示す値が保存されます。

例

```
input @1 etz e8601tz.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
23:43:44-05:00	17024
23:43:44Z	85424

関連項目:

["ISO 860 規格の基本表記と拡張表記を使用した日付と時間の読み込み" \(336 ページ\)](#)

EURO 入力形式

数値を読み込み、ヨーロッパ通貨の埋め込み文字を取り除いて、カンマと小数点を逆にします。

カテゴリ: 数値

構文

EURO*w.d*

説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、*d* 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

EUROw.d 入力形式では数値を読み込み、埋め込みユーロ記号(E)、カンマ、空白、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから削除します。小数点は、実数部と小数部を分ける区切り文字と見なされます。EUROw.d 入力形式では、フィールドの先頭にある開きかっこがマイナス記号に変換されます。

比較

- EUROw.d 入力形式は EUROXw.d 入力形式に似ていますが、EUROXw.d 入力形式は小数点とカンマの役割が逆になっています。この規則はヨーロッパの国で共通です。
- 入力にカンマもピリオドもない場合、EUROw.d 入力形式と EUROXw.d 入力形式は相互に交換可能です。

例

次の表に、ユーロでの通貨の入力値、適用される SAS ステートメントおよび結果を示します。

```
data _null;
  input x euro10.;
  put x=;
  datalines;
E1
E1.23
1.23
1,234.56
;
run;
SAS Log:
x=1
x=1.23
x=1.23
x=1234.56
```

値	ステートメント	結果
		----+----1----2
E1	input x euro10.; put x;	1
E1.23	input x euro10.; put x;	1.23
1.23	input x euro10.; put x;	1.23
1,234.56	input x euro10.; put x;	1234.56

関連項目:**出力形式:**

- “EURO 出力形式” (142 ページ)
- “EUROX 出力形式” (145 ページ)

入力形式:

- “EUROX 入力形式” (422 ページ)

EUROX 入力形式

数値を読み込み、ヨーロッパ通貨の埋め込み文字を削除します。

カテゴリ: 数値

構文

EUROX $w.d$

説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点を表すカンマが含まれる場合、 d 値は無視されます。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

EUROX $w.d$ 入力形式では数値を読み込み、埋め込みユーロ記号(E)、ピリオド、空白、パーセント記号、ハイフン、閉じかっこを入力データから削除します。カンマは、実数部と小数部を分ける区切り文字と見なされます。EUROX $w.d$ 入力形式では、フィールドの先頭にある開きかっこがマイナス記号に変換されます。

比較

- EUROX $w.d$ 入力形式は EUROW $w.d$ 入力形式に似ていますが、EUROW $w.d$ 入力形式では、カンマと小数点の役割が逆になっています。この規則は英語圏の国で共通です。
- 入力にカンマもピリオドもない場合、EUROX $w.d$ 入力形式と EUROW $w.d$ 入力形式は相互に交換可能です。

例

次の表に、ユーロでの通貨の入力値、適用される SAS ステートメントおよび結果を示します。

```
data _null_;
  input x eurox10.;
  put x=;
  datalines;
E1
E1.23
1.23
1,234.56
; run;
SAS Log:
7  input x eurox10.;
8  put x=;
9  datalines;
x=1
x=123
x=123
x=1.23456
```

値	ステートメント	結果
		----+----1----2
E1	input x eurox10.; put x=;	1
E1.23	input x eurox10.; put x=;	123
1.23	input x eurox10.; put x=;	123
1,234.56	input x eurox10.; put x=;	1.23456

関連項目:

出力形式:

- [“EURO 出力形式” \(142 ページ\)](#)
- [“EUROX 出力形式” \(145 ページ\)](#)

入力形式:

- [“EURO 入力形式” \(420 ページ\)](#)

FLOAT 入力形式

正の単精度浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。

カテゴリ: 数値

CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

FLOAT $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 w は 4 である必要があります。

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

詳細

FLOAT $w.d$ 入力形式は、浮動数値が倍精度の切り捨て値と異なる動作環境に使用します。

IBM メインフレームシステム上では、4 バイトの浮動小数点数は 8 バイトに切り捨てられた浮動小数点数と同じです。IEEE 浮動小数点数規格を使用する動作環境 (IBM PC、LINUX など) では、4 バイトの浮動小数点数は倍精度の切り捨て値と異なります。そのため、RB4 入力形式は FLOAT4 と同じ結果を生成しません。IEEE 以外の浮動小数点表現にもこの同じ特徴がみられます。FLOAT4 で読み込まれる値は通常、使用している動作環境で実行されている他の外部プログラムから取り込まれます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語での浮動表記を比較したものです。

言語	浮動表記
SAS	FLOAT4.
Fortran	REAL*4
C	float
IBM 370 ASM	E

言語	浮動表記
PL/I	FLOAT BIN(21)

例

input x float4.;

データ行 *	結果
----1-----2	
3F800000	1

* データ行は、IEEE 形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。

HEX 入力形式

16 進の正のバイナリ値を整数(固定小数点)または実数(浮動小数点)のバイナリ値に変換します。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

HEX w .

構文の説明

w

入力値のフィールド幅を指定し、最終値を固定小数点または浮動小数点にするかも指定します。

$w < 16$ の場合、HEX w は入力値を正のバイナリ整数値に変換し、すべての入力値を正数(符号なし)として処理します。 w が 16 の場合、HEX w は、負の値を含めて入力値をバイナリ実数(浮動小数点数)値に変換します。

デフォルト 8

範囲 1-16

詳細

HEX w 入力形式は、正の 2 進数の 16 進数表現を 2 進浮動小数点実数値に変換します。HEX w 入力形式のバイト幅の値は、入力が整数(固定小数点)の 2 進数または実数(浮動小数点)の 2 進数を表しているかを判断する入力形式です。バイト幅の値を 1 - 15 に設定すると、入力形式は入力する 16 進数を整数の 2 進数と解釈します。バイト幅の値を 16 に設定すると、入力形式は入力する 16 進数を浮動小数点値と解釈します。

HEX w 入力形式では、先頭と末尾の空白は無視されます。

例

```
input @1 x hex3. @5 y hex16.;
```

データ行	結果
----+----1----+----2	
88F 4014800000000000	2191 5.125

HHMMSS 入力形式

形式 *hh:mm:ss* または *hhmmss*. の時、分、秒を読み取ります。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

HHMMSS*w*.

構文の説明

w 入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-20

詳細

HHMMSS*w*. 入力形式は、次のうちいずれかの形式の時間値を読み込みます。

- *hh:mm:ss*
- *hhmmss*

hh 時間数を表す整数です。

: 時間、分、秒を区切る特殊文字を表します。

mm 分数を表す整数です。

ss 秒数を表す整数です。秒数の端数は無視されます。

入力データが 6 桁の場合、データは左から右へ時間、分、秒として読み込まれます。6 桁未満のデータの場合、SAS は次のルールに従います。

- 数の桁が奇数の場合に SAS は、最初の桁の左にゼロを 1 つ埋め込みます。その後 SAS は、最後の桁の右側に、6 桁が揃うまでゼロを埋め込みます。

- 数の桁が偶数の場合に SAS は、最後の桁の右側に、6 桁が揃うまでゼロを埋め込みます。

最初の 2 桁は時間として読み込まれます。3 桁目と 4 桁目は分として読み込まれます。5 桁目と 6 桁目は秒として読み込まれます。

1 は 010000 または 1:00:00 と同じです。

02 は 020000 または 2:00:00 と同じです。

124 は 0124000 または 1:24:00 と同じです。

1435 は 143500 または 14:35:00 と同じです。

20345 は 020345 または 2:03:45 と同じです。

165532 は 16:55:32 と同じです。

6 桁を超えている場合、右端の 2 桁が秒として読み込まれます。SAS は右から 3 桁目と 4 桁目を分として読み込みます。残りの桁(分のすぐ左まで)は、時として読み込みます。

2358444 は 235:84:44 と同じです。

12545533 は 1254:55:33 と同じです。

入力データにあるコロンが 1 つのみの場合(たとえば、17:35)、SAS はコロンの前の 2 桁を時間として読み込みます。SAS はコロンの後の 2 桁を秒として読み込みます。秒数は 0 です。

12:3400 のように、分と秒の間のコロンが省略されると、SAS は 3400 を 3400 分として読み込みます。3400 分では、12 時間に 56 時間 40 分が追加されるため、68:40:00 となります。

例

```
input tm hhmmss.;
```

データ行	結果	TIMEw を適用
23	82800	23:00:00
12:45:44	45344	12:45:44
2358444	851084	236:24:44
17:35	63300	17:35:00
12:3400	247200	68:40:00

関連項目:

入力形式:

- [“TIME 入力形式” \(478 ページ\)](#)

IB 入力形式

負の値を含む、ネイティブのバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

参照項目:

構文

IBw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

IBw.d 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。IBw.d では、バイナリ整数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム 上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (330 ページ)を参照してください。

比較

IBw.d と PIBw.d 入力形式は、ネイティブな形式の整数を読み込むために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 入力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類の表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、IB 入力形式を指定できます。ただし、これらの例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0080'x,ib2.);
y=input('8000'x,ib2.);
```

SAS ステートメント	ビッグエンディアンプラットフォームでの結果	リトルエンディアンプラットフォームでの結果
put x=;	128	-32768
put y=;	-32768	128

関連項目:

入力形式:

- [“IBR 入力形式” \(429 ページ\)](#)

IBR 入力形式

Intel および DEC 形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

IBR*w.d*

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d
値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

IBRw.d 入力形式では、2 の補数で表される負の値を含む、バイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。IBRw.d では、Intel および DEC のプラットフォームで生成されるバイナリ整数値を読み込みます。IBRw.d を使用して、Intel または DEC の環境のバイナリ整数データを他の動作環境で読み込みます。IBRw.d 入力形式によって、動作環境に関係なくデータを読み込むためのポータブルな実装が用意されます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム 上のバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (330 ページ)を参照してください。

比較

IBw.d と PIBw.d 入力形式は、ネイティブな形式の整数を読み込むために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 入力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を読み込むために使用されます。

Intel および DEC の動作環境では、IBw.d と IBRw.d 入力形式は同じものです。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、IBR 入力形式を指定できます。ただし、これらの例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0100'x,ibr2.);
y=input('0001'x,ibr2.);
```

SAS ステートメント	ビッグエンディアンプラットフォームでの結果	リトルエンディアンプラットフォームでの結果
put x=;	1	1
put y=;	256	256

関連項目:

入力形式:

- “[IB 入力形式](#)” (428 ページ)

IEEE 入力形式

IEEE 形式の浮動小数点値を読み込み、その値を 10 の d 乗で除算します。

カテゴリ: 数値

CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

IEEE $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 3-8

ヒント

w が 8 の場合、IEEE の倍精度浮動小数点数が読み込まれます。 w が 5、6 または 7 の場合、相当するバイト数が切り捨てられたと仮定して、IEEE の倍精度浮動小数点数が読み込まれます。 w が 4 の場合、IEEE の単精度浮動小数点数が読み込まれます。 w が 3 の場合、1 バイトが切り捨てられたと仮定して、IEEE の単精度浮動小数点数が読み込まれます。

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。

詳細

IEEE $w.d$ 入力形式は、IEEE 浮動小数点表現を使用する動作環境で使用します。また、IEEE $w.d$ 入力形式を使用して、IEEE 浮動小数点表現を使用する動作環境のプログラムによって作成されるファイルを読み込むこともできます。

通常プログラムは、単精度(4 バイト)または倍精度(8 バイト)で IEEE 値を生成します。切り捨ては、出力ファイルのスペースを削減する場合にのみプログラムによって実行されます。機械語命令では、浮動小数点数が 4 バイトまたは 8 バイトのいずれかである必要があります。IEEE $w.d$ 入力形式では、他の長さも処理できるため、スペースの削減のために切り捨てられたデータを含むファイルからデータを読み込めます。

例

```
input test1 ieee4.;
input test2 ieee5.;
```

データ行*	結果
----1----	
3F800000	1
3FF0000000	1

* データ行は、IEEE 形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。

最初の INPUT ステートメントは最初のデータ行を読み込み、2 番目の INPUT ステートメントは次のデータ行を読み込みます。

JULIAN 入力形式

yyddd または *yyyyddd* 形式のユリウス日付を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

JULIAN*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 5-32

詳細

日付値は、次のうちいずれかの形式である必要があります。

- *yyddd*
- *yyyyddd*

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

dd または *ddd*

年の日を表す 01 から 365 の整数です。

ユリウス日付は、数字が連続して続く文字列であり、年値と日値の間のスペースにはゼロが埋め込まれます。

1582 年より前の年値を含むユリウス日付は、グレゴリオ日付に変換できません。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input julian_date julian7.;
```

データ行	結果 *
----+----1	
12076	19068
2012076	19068

* 入力値は、2012 年の 76 日目、つまり 3 月 16 日に対応しています。

関連項目:

出力形式:

- [“JULIAN 出力形式” \(159 ページ\)](#)

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

MDYAMPM 入力形式

mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM|PM 形式の日時値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)またはコロン(:)などの特殊文字で月、日、年は区切られます。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

- カテゴリ:** 日付と時間
CAS
- 配置:** 右
- 要件** スペースで日付と時間を区切る必要があります。
- 注:** デフォルトの時間は AM です。
-

構文

MDYAMPM*w.d*

構文の説明

w 出力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 8-40

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。小数点以下の桁数は、秒の端数を示します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-39

詳細

MDYAMPW.d 入力形式は、*mm-dd-yy<yy> hh:mm<:ss<.ss>> <AM | PM>*形式の日時値を読み込みます。

mm

月を表す 01 から 12 までの整数です。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

hh

時間を表す 00 から 23 までの整数です。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

ss.ss

小数点以下の秒の端数を含む、00 から 59 の範囲の秒数です。

要件: 秒の端数が指定される場合、小数点が必須となり、その表記にはピリオドのみ使用できます。

AM | PM

00:01–12:00 (AM) または 12:01–12:00 (PM) のいずれかです。

- または :

日付要素と時間要素を区切るために使用するスラッシュ(/)、ハイフン(-)、コロンの(:)、空白文字などの特殊文字のいずれか 1 つを表します。特殊文字は、日付要素間または時間要素間、日付と時間の間の区切り文字として使用できます。

比較

MDYAMPW.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む *mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM | PM* 形式の日時値を読み込みます。日付と時間の間にはスペースが必要です。

DATETIMEw.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む *dd-mmm-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM|PM* 形式の日時値を読み込みます。日付と時間は特殊文字で区切られる場合もあります。

YMDDTTW.d 入力形式は、必須の区切り文字を含む *<yy>yy-mm-dd/hh:mm:ss.ss* 形式の日時値を読み込みます。

例

input @1 dt mdyampm25.2.;

データ行	結果
09.15.2012 03:53:00 pm	1663343580
09-15-12 3.53 pm	1663343580

関連項目:

入力形式:

- [“DATETIME 入力形式” \(406 ページ\)](#)
- [“YMDDTTM 入力形式” \(491 ページ\)](#)

MMDDYY 入力形式

mmdyy または *mmdyyyy* 形式の日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

MMDDYY*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 6-32

詳細

日付値は、次のうちいずれかの形式である必要があります。

- *mmdyy*
- *mmdyyyy*

mm

月を表す 01 から 12 までの整数です。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

月、日、年のフィールドは、空白や特殊文字で区切ることができます。ただし、区切り文字を使用する場合は、値のすべてのフィールドの間に挿入します。空白は日付の前後に挿入することもできます。

注: SAS では、2桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input calendar_date mmddy8.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
031612	19068
03/16/12	19068
03 16 12	19068
03162012	19068

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YMMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“YMMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

MONYY 入力形式

`mmmyy` または `mmmyyyy` 形式の年月を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

MONYY w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 5

範囲 5-32

詳細

日付値は、次のうちいずれかの形式である必要があります。

- *mmmyy*
- *mmmyyyy*

mmm

月名の最初の 3 文字になります。

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

MONYY w 入力形式によって読み込まれる値は SAS 日付値となり、指定した月の第 1 日に対応します。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input month_and_year monyy7.;
```

データ行	結果
----+----1	
mar 12	19053
mar2012	19053

関連項目:

出力形式:

- “DDMMYY 出力形式” (115 ページ)
- “MMDDYY 出力形式” (161 ページ)
- “MONYY 出力形式” (172 ページ)

- “YMMDD 出力形式” (301 ページ)

関数:

- “MONTH Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “YEAR Function” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)

入力形式:

- “DDMMYY 入力形式” (408 ページ)
- “MMDDYY 入力形式” (435 ページ)
- “YMMDD 入力形式” (493 ページ)

システムオプション:

- “YEARCUTOFF= System Option” (*SAS Viya System Options: Reference*)

MSEC 入力形式

TIME MIC の値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

MSEC*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 *w* は 8 である必要があります。IBM メインフレーム上の OS タイムマクロまたは STCK システム/370 命令がそれぞれ 8 バイト値を返すためです。

詳細

MSEC*w* 入力形式は、IBM メインフレーム動作環境によって生成される時間値を読み込み、それらの値を SAS 時間値に変換します。

2 つの IBM メインフレームの TIME 値の差異をおよそマイクロ秒の精度で求めるには、MSEC*w* 入力形式を使用します。

比較

MSEC*w* 入力形式と TODSTAMP*w* 入力形式はともに IBM の TOD クロックを読み込みますが、MSEC*w* 入力形式は時間値、TODSTAMP*w* 入力形式は日時値を変数に割り当てます。

例

```
input btime msec8.;
```

データ行 *	結果
0000EA044E65A000	62818.412122

* データ行は、8 バイトの TOD クロックのバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、午後 5:26:58.41 に対応する SAS 時間値です。

関連項目:

入力形式:

- [“TODSTAMP 入力形式” \(479 ページ\)](#)

NUMX 入力形式

小数点をカンマとして数値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

NUMX $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

d

小数点以下の桁数を指定します。データに小数点が含まれる場合、 d 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

NUMX $w.d$ 入力形式は数値を読み込み、カンマを小数点として解釈します。

比較

NUMX $w.d$ 入力形式は、 $w.d$ 入力形式とほぼ同じですが、NUMX $w.d$ では小数点の位置にカンマを含む数値を読み込みます。

例

```
input @1 x numx10.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
896,48	896.48
3064,1	3064.1
6489	6489

関連項目:**出力形式:**

- [“NUMX 出力形式” \(240 ページ\)](#)
- [“w 出力形式” \(283 ページ\)](#)

OCTAL 入力形式

正の 8 進値を整数に変換します。

カテゴリ: 数値

構文

OCTAL*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 3

範囲 1-24

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

制限事項 *w* 値以上である必要があります。

詳細

入力には、0 から 7 までの数字のみを使用します。空白は挿入できません。OCTAL*w.d* 入力形式では、先頭と末尾の空白は無視されます。

OCTALw.d では、負の値を読み込むことはできません。すべての入力値は正数 (符号なし) として処理されます。

例

```
input @1 value octal3.1;
```

データ行	結果
----+----1	
177	12.7

PD 入力形式

IBM のパック 10 進形式で保存されているデータを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

PDw.d

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d
値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

PDw.d 入力形式は、多くのプログラムでは保存域の効率を考慮してデータをパック 10 進形式で書き出されるために使用されます。パック 10 進形式では、2 桁を 1 バイトに当てはめ、符号には 4 ビットを使用します。

注: 動作環境によってパック 10 進値の保存方法は異なります。ただし、PDw.d では、パック 10 進値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

PDw.d 出力形式は、欠損数値データを-0として書き出します。PDw.d 入力形式で-0が読み出されると、0として保存されます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのパック 10 進表記を比較したものです。

言語	表記
SAS	PD4.
COBOL	COMP-3 PIC S9(7)
IBM 370 アセンブラ	PL4
PL/I	FIXED DEC

例

例 1: パック 10 進データの読み込み

```
input @1 x pd4.;
```

データ行 *	結果
---+---1	
0000128C	128

* データ行は、パック 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。

例 2: パック 10 進データを読み込んで SAS 日付値を作成する

```
input x: $hex10.;
mnth=input(x, pd5.);
date=input(put(mnth,8.),mmdyy6.);
```

データ行 *	結果
---+---1	
012252010C	18621

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のパック 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、2010 年 12 月 25 日に対応する SAS 日付値です。

PDJULG 入力形式

IBM で使用する 16 進の *yyydddF* 形式のパックユリウス日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

構文

PDJULG*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 4

詳細

PDJULG*w*入力形式は、*yyyydddF*形式の IBM で使用するパックユリウス日付値を読み込みます。

yyyy

4桁のグレゴリオ暦の年を2バイトで表したものです。

ddd

ユリウス日 1-365 (うるう年の場合は 1-366)に対応する3桁の整数を1.5バイトで表したものです。

F

2進表現の1のみで構成される、値を正とする0.5バイトです。

注: SAS では、2桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された100年の期間内であると解釈します。

例

input date pdjulg4.;

データ行	結果 *
----+----1	
2012003F	18995

* SAS 日付値 18995 は、2012年1月3日を表します。

関連項目:

出力形式:

- ["JULDAY 出力形式" \(158 ページ\)](#)
- ["JULIAN 出力形式" \(159 ページ\)](#)
- ["PDJULG 出力形式" \(244 ページ\)](#)
- ["PDJULI 出力形式" \(245 ページ\)](#)

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“PDJULI 入力形式” \(444 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

PDJULI 入力形式

IBM で使用する 16 進の *ccyydddF* 形式のパックユリウス日付を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

構文

PDJULI*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 4

詳細

PDJULI*w* 入力形式は、*ccyydddF* 形式の IBM で使用するパックユリウス日付値を読み込みます。

cc

世紀を表す 2 桁の整数を 1 バイトで表したものです。

yy

年を表す 2 桁の整数を 1 バイトで表したものです。PDJULI*w* 入力形式は、正しい 4 桁のグレゴリオ暦の年を生成するために、1900 を 2 バイトの *ccyy* 値に加算して、1 バイトの世紀表現の調整を行います。この調整の結果、*ccyy* の値 0098 が 1998 に、値 0101 が 2001 に、値 0218 が 2118 になります。

ddd

ユリウス日 1-365 (うるう年の場合は 1-366) に対応する 3 桁の整数を 1.5 バイトで表したものです。

F

2 進表現の 1 のみで構成される、値を正とする 0.5 バイトです。

例

```
input date pdjuli4.;
```

データ行	結果 *
----+----1	
0099001F	14245
0112015F	19007

* SAS 日付値 14245 は 1999 年 1 月 1 日、SAS 日付値 19007 は 2012 年 1 月 15 日になります。
SAS 日付値 19007 は 2012 年 1 月 15 日、SAS 日付値 19007 は 2012 年 1 月 15 日になります。

関連項目:

出力形式:

- [“JULDAY 出力形式” \(158 ページ\)](#)
- [“JULIAN 出力形式” \(159 ページ\)](#)
- [“PDJULG 出力形式” \(244 ページ\)](#)
- [“PDJULI 出力形式” \(245 ページ\)](#)

関数:

- [“DATEJUL Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“JULDATE Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“JULIAN 入力形式” \(432 ページ\)](#)
- [“PDJULG 入力形式” \(442 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

PDTIME 入力形式

SMF レコードと RMF レコードのパック 10 進の時間を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

PDTIME*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 **w** には 4 を指定します。RMF レコードと SMF レコードのパック 10 進の時間値に 4 バイトの情報が含まれています。

詳細

PDTIMEw.入力形式は、IBM メインフレームシステムによって生成される SMF レコードと RMF レコードに含まれるパック 10 進の時間値を読み込み、その値を SAS 時間値に変換します。

パック 10 進の時間値を 16 進表記で表した一般的な形式は、*OhhmmssF* です。

0

0 のみを含む 0.5 バイトです。

hh

時間に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

mm

分に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ss

秒に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

F

1 のみを含む 0.5 バイトです。

フィールドに 0 のみが含まれる場合、PDTIMEw.では欠損値として処理します。

PDTIMEw.を使用して、動作環境に関係なく IBM メインフレームで作成されたファイルからパック 10 進の時間値を読み込むことができます。

例

```
input begin pdtime4.;
```

データ行 *	結果
0142225F	51745

* データ行は、パック 10 進形式で保存したバイナリ時間値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、午後 2:22.25 に対応する SAS 時間値です。

PERCENT 入力形式

百分率を数値として読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

PERCENT $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、 d 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

PERCENT $w.d$ 入力形式は、COMMA $w.d$ 入力形式と同じ方法を使用して、入力データの数値部分を数字に変換します。入力フィールドでパーセント記号(%)が数字の後にある場合、PERCENT $w.d$ はその数字を 100 で除算します。

例

input @1 x percent3. @4 y percent5.;

データ行	結果
----+----1	
1% (20%)	0.01 -0.2

PIB 入力形式

正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

PIB $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

すべての値は、正として処理されます。PIBw.d では、正のバイナリ整数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

注: 動作環境によって正のバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (330 ページ) を参照してください。

比較

- 正のバイナリ整数値は、符号ビットが値の一部である点を除きバイナリ整数値と同じであり、常に正の整数になります。PIBw.d 入力形式はすべての値を正として処理し、値の一部として符号ビットを含めます。
- PIBw.d 入力形式は、幅が 1 の場合、1 バイトのコンテンツを 2 進表現した値を読み込みます。1 バイトのコンテンツを 2 進表現する値は、データに 16 進数の 80 と 16 進数の FF の間の値が含まれる場合に使用します。この場合、高位ビットが誤って負の符号として解釈される可能性があります。
- IBw.d と PIBw.d 入力形式は、ネイティブな形式の整数を読み込むために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 入力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ) を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ) を参照してください。.

例

INPUT ステートメントを使用して、PIB 入力形式を指定できます。ただし、これらの例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0100'x,pib2.);
y=input('0001'x,pib2.);
```

SAS ステートメント	ビッグエンディアンプラットフォームでの結果	リトルエンディアンプラットフォームでの結果
put x=;	256	1
put y=;	1	256

関連項目:

入力形式:

- [“PIBR 入力形式” \(449 ページ\)](#)

PIBR 入力形式

Intel 形式と DEC 形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

PIBR $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

すべての値は、正として処理されます。PIBR $w.d$ は、Intel および DEC の動作環境で生成される正のバイナリ整数値を読み込みます。PIBR $w.d$ を使用して、Intel または DEC の環境の正のバイナリ整数データを他の動作環境から読み込みます。PIBR $w.d$ 入力形式によって、動作環境に関係なくデータを読み込むためのポータブルな実装が用意されます。

注: 動作環境によって正のバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、[“ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム”](#)

[ーム上でのバイナリ整数データのバイトオーダリング” \(330 ページ\)](#)を参照してください。

比較

- 正のバイナリ整数値は、符号ビットが値の一部を除きバイナリ整数値と同じであり、常に正の整数になります。PIBRw.d 入力形式はすべての値を正として処理し、値の一部として符号ビットを含めます。
- PIBRw.d 入力形式は、幅が 1 の場合、1 バイトのコンテンツを 2 進表現した値を読み込みます。この値は、データに 16 進数の 80 と 16 進数の FF の間の値が含まれる、高位ビットが負の符号として誤って解釈される可能性がある場合に使用します。
- Intel および DEC の動作環境では、PIBw.d と PIBRw.d 入力形式は同じものです。
- IBw.d と PIBw.d 入力形式は、ネイティブな形式の整数を読み込むために使用されます。(ネイティブな形式により、同じ動作環境で作成される値の読み込みと書き出しが可能になります。)IBRw.d と PIBRw.d 入力形式は、動作環境に関係なくリトルエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類を表については、[“ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み” \(330 ページ\)](#)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、[“バイナリ整数表記と各種プログラミング言語” \(9 ページ\)](#)を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、PIBR 入力形式を指定できます。ただし、これらの例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0100'x,pibr2.);
y=input('0001'x,pibr2.);
```

SAS ステートメント	ビッグエンディアンプラットフォームでの結果	リトルエンディアンプラットフォームでの結果
put x=;	1	1
put y=;	256	256

関連項目:

入力形式

- [“PIB 入力形式” \(447 ページ\)](#)

PK 入力形式

符号なしパック 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値

CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

PK*w.d*

構文の説明

w

符号なしパック 10 進データのバイト数を指定します。1 バイトに 2 桁を含みます。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

符号なしのパック 10 進データは、1 バイトに 2 桁を含みます。

比較

PK*w.d* 入力形式は PD*w.d* 入力形式と同じですが、PK*w.d* ではフィールドの最終バイトの半分を値の符号としてではなく、値の一部として処理します。

例

```
input @1 x pk3.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
001234	1234

* データ行は、符号なしパック 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。

PUNCH 入力形式

カラムバイナリデータ行のパンチの有無を読み込みます。

カテゴリ: カラムバイナリ

CAS

構文

PUNCH.d

構文の説明

d

読み込むカードカラムの行を指定します。

範囲 1-12

詳細

カラムバイナリデータストレージは、80 項目を超えるデータを 1 つの"仮想"パンチカードに保存できるように、データを圧縮します。

この入力形式は、現在のカードカラムの行 *d* にパンチがある場合は変数に値 1 を割り当てます。現在のカードカラムの行 *d* にパンチがない場合は 0 を割り当てます。PUNCH.*d* では、フィールドの読み込みの終了後、ポインタは次のカラムに移動しません。

例

データ行 *	SAS ステートメント	結果
12-7-8	input x punch.12	1
	input x punch.11	0
	input x punch0.7	1

* データ行は"仮想"パンチカードコードです。サンプルデータのパンチカードカラムでは、行 12、行 7、行 8 がパンチされています。

関連項目:

入力形式:

- ["\\$CB 入力形式" \(362 ページ\)](#)
- ["CB 入力形式" \(401 ページ\)](#)
- ["ROW 入力形式" \(457 ページ\)](#)

RB 入力形式

バイナリ実数(浮動小数点)表記で格納されている数値データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

RB*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

注: 動作環境によってバイナリ実数値の保存方法は異なります。ただし、RB*w.d* 入力形式では、バイナリ実数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

比較

次の表は、各種プログラミング言語でのバイナリ実数表記名を比較したものです。

言語	バイナリ実数表記	
	4 バイト	8 バイト
SAS	RB4.	RB8.
Fortran	REAL*4	REAL*8
C	float	double
IBM 370 アセンブラ	F	D
PL/I	FLOAT BIN(21)	FLOAT BIN(53)

注意:

RB*w.d* 入力形式を、IEEE の標準基準に準拠した環境からのバイナリ実数情報の読み込みに使用すると、浮動小数点数は実際の 4 バイトの浮動小数点数(単精度)ではなく、8 バイトの数字(倍精度)に切り捨てられます。

例

```
input @1 x rb8.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
42800000000000000	128

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のバイナリ実数(浮動小数点数)を 16 進表現で示したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

入力形式:

- [“IEEE 入力形式” \(431 ページ\)](#)

RMFDUR 入力形式

RMF レコードの継続間隔を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

RMFDUR*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 *w* には 4 を指定します。RMF レコードのパック 10 進の継続間隔値に 4 バイトの情報が含まれています。

詳細

RMFDUR*w*. 入力形式では、IBM メインフレームシステムによってパック 10 進データとして生成される RMF レコードの RMF 測定継続間隔を読み込み、SAS 時間値に変換します。

RMF レコードの継続間隔データを 16 進表記で表した一般的な形式は、*mmsstttF* です。

mm

分に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ss

秒に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ttt

1000 分の 1 秒に対応する 3 桁を表す 1.5 バイトです。

F

2進表現の1のみで構成される、値を正とする0.5バイトです。

フィールドに10進パックデータが含まれていない場合、RMFDURw.は欠損値を返します。

比較

- RMFDURw.入力形式と RMFSTAMPw.入力形式はどちらも、IBM メインフレームシステムによって生成される RMF レコードからパック10進情報を読み込みます。
- RMFDURw.入力形式は継続間隔データを読み込み、時間値に変換します。
- RMFSTAMPw. 入力形式は TOD データを読み込み、日時値に変換します。

例

```
input dura rmdur4.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
3552226F	2152.226

* データ行は、RMF レコード形式のパック10進で保存したバイナリ継続間隔値を16進表現で表したものです。1バイトは、入力フィールドの1カラムを使用します。結果は、00:35:52.226に対応するSAS時間値です。

関連項目:

入力形式:

- ["RMFSTAMP 入力形式" \(455 ページ\)](#)
- ["SMFSTAMP 入力形式" \(476 ページ\)](#)

RMFSTAMP 入力形式

RMF レコードの日付フィールドと時間フィールドを読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

RMFSTAMP*w.*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 *w* には、8 を指定します。RMF レコード内のパック 10 進時間値と日付値には 8 バイトの情報が含まれているためです。4 バイトの時間データの後に 4 バイトの日付データが続きます。

詳細

RMFSTAMP*w*.入力形式は、IBM メインフレームシステムによって生成される RMF レコードのパック 10 進の時間値と日付値を読み込み、それらの値を SAS 日時値に変換します。

RMF レコードの日時情報を 16 進表記で表した一般的な形式は、*0hhmmssFccyydddF* です。

0

バイナリ 0 のみを含む 0.5 バイトです。

hh

その日の時間に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

mm

分に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ss

秒に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

cc

世紀に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

yy

世紀に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ddd

年の日に対応する 3 桁を含む 1.5 バイトです。

F

バイナリ 1 のみを含む 0.5 バイトです。

世紀インジケータ 00 は 1900、01 は 2000、02 は 2100 に対応します。

RMFSTAMP*w*. を使用して、動作環境に関係なく、IBM メインフレームで作成されたファイルからパック 10 進の時間値と日付値を読み込むことができます。

比較

RMFSTAMP*w*.入力形式と PDTIME*w*.入力形式は、RMF レコードからパック 10 進値を読み込みます。RMFSTAMP*w*.入力形式は時間値と日付値を読み込み、SAS 日時値に変換します。PDTIME*w*.入力形式は時間値のみを読み込み、SAS 時間値に変換します。

例

```
input begin: $hex16.;
y=input(begin, rmfstamp8.);
```

データ行 *

結果

----+----1----+----2

データ行*	結果
0142225F2612200F	80550512545

* データ行は、RMF レコード形式のパック 10 進で保存したバイナリ日時値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、2012 年 7 月 18 日午後 2:22.25 に対応する SAS 日時値です。

ROW 入力形式

カードカラムに記録されているカラムバイナリフィールドを読み込みます。

カテゴリ: カラムバイナリ

構文

ROW*w.d*

構文の説明

w

フィールドが始まる行を指定します。

範囲 0-12

d

フィールドの行の長さを指定します。

デフォルト 0

範囲 0-25

詳細

カラムバイナリデータストレージは、80 項目を超えるデータを 1 つの"仮想"パンチカードに保存できるように、データを圧縮します。

ROW*w.d* 入力形式は、フィールドのパンチの相対位置を数値変数に割り当てます。

指定したフィールドに複数のパンチがある場合、ROW*w.d* は変数に欠損値を割り当て、自動変数 `ERROR` を 1 に設定します。フィールドにパンチがない場合、ROW*w.d* は変数に欠損値を割り当てます。

ROW*w.d* は、すべてのカラムのフィールドを読み込むことができます。新しいカラムの 12 行目まで読み込み、次に残りの行を読み込みます。ROW*w.d* では、フィールドの読み込みの終了後、ポインタは次の行に移動します。

例

```
input x row5.3
input x row7.1
input x row5.2
input x row3.5
```

データ行*	結果
---+---1	
00	
04	3
	1
	.
	5

* データ行はカラムバイナリの 16 進表現です。サンプルデータの“仮想”パンチカードカラムでは、行 7 がパンチされています。2 進表現は、0000 0000 0000 0100 となります。

関連項目:

入力形式:

- “\$CB 入力形式” (362 ページ)
- “CB 入力形式” (401 ページ)
- “PUNCH 入力形式” (451 ページ)

S370FF 入力形式

EBCDIC 形式の数値データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

S370FF*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 12

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

S370FFw.d 入力形式は、EBCDIC で表されている数値データを読み込み、データをネイティブ形式に変換します。EBCDIC がネイティブな形式の場合、S370FFw.d は変換を実行しません。

S370FFw.d は、1 桁 1 バイトで表される EBCDIC 数値を読み込みます。S370FFw.d を使用して、IBM メインフレームファイルの数値データを他の動作環境で読み込みます。

S370FFw.d は、フィールド内の数値はその位置にかかわらず読み込みます。数値の前後に挿入されている EBCDIC 空白による影響はありません。値が負の場合、EBCDIC マイナス記号を値の直前に置く必要があります。S370FFw.d は、EBCDIC 小数点を含む値と科学的表記の値を読み込みます。1 つの EBCDIC ピリオドは、欠損値として扱います。

比較

S370FFw.d 入力形式は、文字データに対する \$EBCDICw.d 入力形式の処理と同じ処理を数値データに実行します。つまり、IBM メインフレームシステム上では、S370FFw.d は、w.d 標準入力形式と同じ処理を行います。それ以外のシステムでは、S370FFw.d を使用することは、w.d 標準入力形式だけでなく \$EBCDICw.d 標準入力形式と同じ処理を行います。

例

```
input @1 x s370ff3.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
F1F2F3	123
F2F4F0	240

* データ行は、文字コードを 16 進表現で表したものです。16 進の 2 文字がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトが 1 文字値に対応します。

S370FIB 入力形式

負の値を含む、IBM メインフレーム形式のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FIBw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

S370FIBw.d 入力形式は、2 の補数で表される負の値を含む、IBM メインフレーム形式で保存されるバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。S370FIBw.d では、バイナリ整数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

S370FIBw.d を使用して、IBM メインフレーム形式で作成されるバイナリ整数データを他の動作環境で読み込みます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダリングといいます。バイトオーダリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダリング](#)” (330 ページ)を参照してください。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FIBw.d と IBw.d は同じものです。
- S370FPIBw.d、S370FIBUw.d および S370FIBw.d は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類の表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、S370FIB 入力形式を指定できます。ただし、この例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0080'x,s370fib2.);
```

SAS ステートメント	結果
put x=;	128

関連項目:**入力形式**

- “S370FIBU 入力形式” (461 ページ)
- “S370FPIB 入力形式” (465 ページ)

S370FIBU 入力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FIBU*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれている場合も *d* 値が使用されます。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

S370FIBU*w.d* 入力形式は、2 の補数で表される負の値を含む、IBM メインフレーム形式で保存される符号なしバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。符号なしバイナリ整数値はバイナリ整数値と同じですが、すべての値が正として処理される点が異なります。S370FIBU*w.d* では、バイナリ整数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

S370FIBU*w.d* を使用して、IBM メインフレーム形式で作成される符号なしバイナリ整数データを他の動作環境で読み込みます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダリングといいます。バイトオーダリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム上のバイナリ整数データのバイトオーダリング](#)” (330 ページ)を参照してください。

比較

- S370FIBUw.d 入力形式は、COBOL の表記 PIC 9(n) BINARY と同じです。n は桁数です。
- S370FIBUw.d 入力形式と S370FPiBw.d 入力形式は同じものです。
- S370FPiBw.d、S370FIBUw.d および S370FIBw.d は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ) を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ) を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、S370FIBU 入力形式を指定できます。ただし、これらの例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('7F'x,s370fib1.);
y=input('F6'x,s370fib1.);
```

SAS ステートメント	結果
put x=;	127
put y=;	246

関連項目:

入力形式:

- [“S370FIB 入力形式”](#) (459 ページ)
- [“S370FPiB 入力形式”](#) (465 ページ)

S370FPD 入力形式

IBM メインフレーム形式のバック 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FPDw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

パック 10 進データでは、1 バイトに 2 桁が含まれますが、入力フィールドの 1 桁のみが符号を表します。最後のバイトの下位 4 ビットは符号を表します。C または F の場合は正数、D の場合は負数になります。

S370FPDw.d を使用して、IBM メインフレームファイルのパック 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FPDw.d 入力形式と PDw.d 入力形式は同じものです。
- 次の表は、各種プログラミング言語でのパック 10 進表記を比較したものです。

言語	パック 10 進表記
SAS	S370FPD4.
PL/I	FIXED DEC(7,0)
COBOL	COMP-3 PIC 9(7)
アセンブラ	PL4

S370FPDU 入力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしパック 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FPDU*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-16

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

パック 10 進データは、1 バイトに 2 桁を含みます。最後のバイトの下位 4 ビットは、符号付きパックデータの符号を示します。符号なしパックデータの場合、常に F になります。

S370FPDU*w.d* を使用して、IBM メインフレームファイルの符号なしパック 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- S370FPDU*w.d* 入力形式は、S370FPD*w.d* 入力形式と似ていますが、S370FPDU*w.d* 入力形式では F 以外の符号は拒否されます。
- S370FPDU*w.d* 入力形式は、COBOL の表記 PIC 9 (*n*) PACKED-DECIMAL と同じです。*n* 値は桁数です。

例

```
input @1 x s370fpdu3.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
12345F	12345

* データ行は、パック 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FPIB 入力形式

IBM メインフレーム形式の正のバイナリ整数(固定小数点)値を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FPIB*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 1-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-10

詳細

正のバイナリ整数値はバイナリ整数値と同じですが、すべての値が正として処理される点が異なります。S370FPIB*w.d* では、バイナリ整数値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

S370FPIB*w.d* を使用して、IBM メインフレーム形式で作成される正のバイナリ整数データを他の動作環境で読み込みます。

注: 動作環境によってバイナリ整数値の保存方法は異なります。この概念をバイトオーダーリングといいます。バイトオーダーリングの詳細については、“[ビッグエンディアンプラットフォームとリトルエンディアンプラットフォーム 上でのバイナリ整数データのバイトオーダーリング](#)” (330 ページ)を参照してください。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FPIB*w.d* と PIB*w.d* は同じものです。
- S370FPIB*w.d*、S370FIBU*w.d* および S370FIB*w.d* は、動作環境に関係なくビッグエンディアン整数を読み込むために使用されます。

ビッグエンディアン整数およびリトルエンディアン整数に関連して使用する入力形式の種類を表については、“[ビッグエンディアンまたはリトルエンディアンプラットフォームで生成されたデータの読み込み](#)” (330 ページ)を参照してください。

各種プログラミング言語でのバイナリ整数表記の比較表については、“[バイナリ整数表記と各種プログラミング言語](#)” (9 ページ)を参照してください。

例

INPUT ステートメントを使用して、S370FPIB 入力形式を指定できます。ただし、この例では入力形式を INPUT 関数と使用します。バイナリ入力値は 16 進リテラルを使用して表されます。

```
x=input('0100'x,s370fpib2.);
```

SAS ステートメント	結果
put x=4;	256

関連項目:

入力形式:

- “[S370FIB 入力形式](#)” (459 ページ)
- “[S370FIBU 入力形式](#)” (461 ページ)

S370FRB 入力形式

IBM メインフレーム形式のバイナリ実数(浮動小数点)を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FRB*w.d*

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

バイナリ実数値は、値を表す仮数部と値の大きさを表す指数部から成ります。

S370FRBw.d を使用して、IBM メインフレームフィルのバイナリ実数データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FRBw.d と RBw.d は同じものです。
- 次の表は、各種プログラミング言語でのバイナリ実数表記を示したものです。

言語	バイナリ実数表記	
	4 バイト	8 バイト
SAS	S370FRB4.	S370FRB8.
PL/I	FLOAT BIN(21)	FLOAT BIN(53)
Fortran	REAL*4	REAL*8
COBOL	COMP-1	COMP-2
アセンブラ	E	D
C	float	double

関連項目:

入力形式:

- [“RB 入力形式” \(452 ページ\)](#)

S370FZD 入力形式

IBM メインフレーム形式のゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZD $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、 d 値は無視されます。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

ゾーン 10 進データは、標準 10 進データと同じように 1 桁には 1 バイトが必要です。ただし、値の符号は最後の桁とともに最後のバイトに保存されます。

S370FZD $w.d$ を使用して、IBM メインフレームファイルのゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- SAS を IBM メインフレームで使用する場合、S370FZD $w.d$ と ZD $w.d$ は同じものです。
- 次の表は、各種プログラミング言語での 10 進表記を示したものです。

言語	ゾーン 10 進表記
SAS	S370FZD3.
PL/I	PICTURE'99T'
COBOL	PIC S9(3) DISPLAY
アセンブラ	ZL3

例

```
input @1 x s370fzd3.;
```

データ行 *	結果
----+----1	

データ行 *	結果
F1F2C3	123
F1F2D3	-123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

関連項目:

入力形式:

- [“ZD 入力形式” \(497 ページ\)](#)

S370FZDB 入力形式

空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZBD*w.d*

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDB*w.d* 入力形式を使用して、IBM メインフレームファイルのゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

例

```
input @1 x s370fzdb8,;
```

データ行 *	結果
----+----1	
40404040F14040C0	1000
4040404040F1F2D3	-123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDL 入力形式

IBM メインフレーム形式の前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZDL*w.d*

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d
値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDL*w.d* を使用して、IBM メインフレームファイルのゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- 前符号付きゾーン 10 進データは、標準ゾーン 10 進データと似ていますが、最初のバイトに最初の桁と一緒に値の符号が保存される点が異なります。
- S370FZDLw.d 入力形式は、COBOL の表記 PIC S9 (n) DISPLAY SIGN LEADING と同じです。n 値は桁数です。

例

```
input @1 x s370fzdl3,;
```

データ行 *	結果
----+----1	
C1F2F3	123
D1F2F3	-123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDS 入力形式

IBM メインフレーム形式の分離した前符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZDSw.d

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 2-32

d
値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDSw.d を使用して、IBM メインフレームファイルのゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- 分離した前符号付きゾーン 10 進データは、標準のゾーン 10 進データと似ていますが、値の符号は最初のバイトに保存され、値の最初の桁は 2 バイト目に保存される点が異なります。
- S370FZDSw.d 入力形式は、COBOL の表記 PIC S9 (n) DISPLAY SIGN LEADING SEPARATE と同じです。n 値は桁数です。

例

```
input @1 x s370fzds4.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
4EF1F2F3	123
60F1F2F3	-123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDT 入力形式

IBM メインフレーム形式の分離した後符号付きゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZDTw.d

構文の説明

w
入力幅を指定します。

デフォルト 8
 範囲 2-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0
 範囲 0-31

詳細

S370FZDTw.d を使用して、IBM メインフレームファイルのゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- 分離した後符号付きゾーン 10 進データは、分離した前符号付きゾーン 10 進データと似ていますが、値の符号が最後のバイトに保存される点が異なります。
- S370FZDTw.d 入力形式は、COBOL の表記 PIC S9 (n) DISPLAY SIGN TRAILING SEPARATE と同じです。n 値は桁数です。

例

input @1 x s370fzdt4.;

データ行 *	結果
----+----1	
F1F2F34E	123
F1F2F360	-123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

S370FZDU 入力形式

IBM メインフレーム形式の符号なしゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
 CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

S370FZDUw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-31

詳細

S370FZDUw.d を使用して、IBM メインフレームファイルの符号なしゾーン 10 進データを他の動作環境で読み込みます。

比較

- S370FZDUw.d 入力形式は、S370FZDw.d 入力形式と似ていますが、S370FZDUw.d 入力形式では F 以外の符号は拒否されます。
- S370FZDUw.d 入力形式は、COBOL の表記 PIC 9 (n) DISPLAY と同じです。n 値は桁数です。

例

```
input @1 x s370fzdu3.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
F1F2F3	123

* データ行は、IBM メインフレーム動作環境上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。16 進数の 2 桁がバイナリデータの 1 バイトに対応します。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムに対応します。

SHRSTAMP 入力形式

SHR レコードの日付値と時間値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

CAS

構文

SHRSTAMP w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 w には、8 を指定します。SHR レコード内のパック 10 進日付値および時間値には 8 バイトの情報が含まれているためです。4 バイトの日付データの後に 4 バイトの時間データが続きます。

詳細

SHRSTAMP w . 入力形式は、IBM メインフレーム環境によって生成される SHR レコードのパック 10 進の日付値と時間値を読み込み、それらの値を SAS 日時値に変換します。

SHR レコードの日時情報を 16 進表記で表した一般的な形式は、 $ccyydddFhhmmssth$ です。

$ccyy$

年を 2 バイトで表したものです。cc は、世紀を表す 2 桁の整数を 1 バイトで表したものです。yy は、年に対応する 2 桁を 1 バイトで表したものです。

cc は、世紀インジケータです。たとえば、00 は 19yy、01 は 20yy、02 は 21yy のように表します。16 進表記の年値 0115 は、年 2015 と同じです。

ddd

年の日に対応する 3 桁を含む 1.5 バイトです。

F

バイナリ 1 のみを含む 0.5 バイトです。

hh

その日の時間に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

mm

分に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ss

秒に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

th

秒の 100 分の 1 に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

SHRSTAMP w . 入力形式を使用して、動作環境に関係なく IBM メインフレームで作成されたファイルからパック 10 進の日付値と時間値を読み込むことができます。

例

```
input begin: $hex16.;
y=input(begin, shrstamp8.);
```

データ行 *

結果

----+----1----+----2

データ行*	結果
0110239F12403576	1598532035.8

* データ行は、SHR レコード形式で保存したパック 10 進の日付値と時間値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、2010 年 8 月 27 日、27, 2010 12:40:36.27, 2010 12:40:36.

SMFSTAMP 入力形式

SMF レコードの日時値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

SMFSTAMP w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 w には、8 を指定します。SMF レコード内の時間値と日付値には 8 バイトの情報が含まれているためです。4 バイトの時間データの後に 4 バイトの日付データが続きます。

ヒント SMF レコードの時間部分は、4 バイトのバイナリ整数です。これは午前 0 時からの 100 分の 1 秒単位の経過時間を表しています。

詳細

SMFSTAMP w 入力形式は、IBM メインフレームシステムによって生成される SMF レコードのバイナリ整数の時間値とパック 10 進の日付値を読み込み、それらの値を SAS 日時値に変換します。

SMF レコードの日付部分を 16 進表記で表した形式は、 $ccyydddF$ です。

cc

世紀に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

yy

世紀に対応する 2 桁を表す 1 バイトです。

ddd

年の日に対応する 3 桁を含む 1.5 バイトです。

F

バイナリ 1 のみを含む 0.5 バイトです。

SMFSTAMP w 入力形式を使用して、動作環境に関係なく IBM メインフレームで作成されたファイルからバイナリ整数の時間値とパック 10 進の日付値を読み込むことができます。

例

```
input begin: $hex16.;
y=input(begin, smfstamp8.);
```

データ行 *	結果
----+----1----+----2	
0058DC0C0108200F	1532016635

* データ行は、SMF レコード形式で保存したバイナリの時間値と日付値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、2008 年 7 月 18 日 16:10:35 に対応する SAS 日時値です。

STIMER 入力形式

時間値を読み込み、読み込んだ値が時間、分、秒であるかを識別します。STIMER システムオプションの出力を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間

構文

STIMER*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 10

範囲 1-32

詳細

STIMER 入力形式は、STIMER システムオプションが SAS ログに書き出すパフォーマンス統計量を読み込みます。

この入力形式は時間値を読み込み、値が時間、分または秒であるかどうかを小数点とコロンに基づいて次のように識別します。

- コロンがない場合、値は秒数とします。
- コロンが 1 つある場合、コロンの前の値は分数とします。コロンの後の値は秒数とします。
- コロンが 2 つある場合、時、分、秒の順に時間が示されているとします。

いずれの場合でも、結果は SAS 時間値となります。

STIMER の入力値は、次のうちいずれかの形式である必要があります。

- SS
- SS.SS

- *mm:ss*
- *mm:ss.ss*
- *hh:mm:ss*
- *hh:mm:ss.ss*

ss

秒数を表す整数です。

mm

分数を表す整数です。

hh

時間数を表す整数です。

TIME 入力形式

hh:mm:ss.ss 形式の時、分、秒を読み込みます。コロン(:)やピリオド(.)などの特殊文字が時、分、秒を区切るために使用されます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

TIME*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 8

範囲 5-32

詳細

TIME*w* 入力形式は、*hh:mm:ss<.ss>* <AM | PM>形式の時間値を読み込みます。

hh

時間数を表す整数です。

:

時間、分、秒を区切る特殊文字を表します。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

ss<.ss>

秒数を表す整数です。必要に応じて、10 分の 1 秒も表せます。秒と 10 分の 1 秒は、常にピリオドで区切る必要があります。

AM | PM

AM は、12:00 (午前 0 時)から午前 11:59 までの時間を示します。PM は、12:00 (午後 0 時)から午後 11:59 までの時間を示します。

hh、*mm* および *ss* を特殊文字で区切ります。ピリオドが特殊文字として使用される場合、時間は時、分、秒の順に解釈されます。たとえば、23.22 は 23 時間と 22 分で、23 分と 22 秒でも 23 秒と 220 ミリ秒でもありません。

秒の値を入力しない場合、SAS は値が 0 であるとしします。

保存値は、時間値の秒数合計です。

例

```
input begin time10.;
```

データ行	結果	TIMEw を適用
----+----1		
12.56	46560	12:56:00
120:120	439200	122:00:00
1:13 pm	47580	13:13:00

関連項目:

出力形式:

- “HHMM 出力形式” (150 ページ)
- “HOUR 出力形式” (152 ページ)
- “MMSS 出力形式” (165 ページ)
- “TIME 出力形式” (274 ページ)

関数:

- “[HOUR Function](#)” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “[MINUTE Function](#)” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “[SECOND Function](#)” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)
- “[TIME Function](#)” (*SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference*)

TODSTAMP 入力形式

8 バイトの TOD スタンプを読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

TODSTAMPw.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 **w** は 8 である必要があります。IBM メインフレーム上の OS タイムマクロまたは STCK 命令がそれぞれ 8 バイト値を返すためです。

詳細

TODSTAMP**w**.入力形式は、IBM メインフレームオペレーティングシステムによって生成される TOD クロック値を読み込み、そのクロック値を SAS 日時値に変換します。

TOD 値がすべて 0 の場合、TODSTAMP**w**.は欠損値を返します。

TODSTAMP**w**.を他の動作環境で使用して、IBM メインフレームによって生成された TOD 値を読み込みます。

例

```
input btime: $hex16.;
y=input(btime, todstamp8.);
```

データ行 *	結果
----+----1----+----2	
B591183D5FB80000	1300786905

* データ行は、8 バイトの TOD クロックのバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、2001 年 3 月 21 日 9:41:45 に対応する SAS 日時値です。

TRAILSGN 入力形式

後置のプラス符号(+)とマイナス符号(-)を読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

構文

TRAILSGN**w**.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 1-32

詳細

データに小数点が含まれている場合、TRAILSGN 入力形式は入力データ内の小数点以下桁数を保持します。データにカンマが含まれている場合は。カンマを無視して値を読み込みます。

例

input x trailsgn8.;

データ行	結果
----+----1	
1	1
1,000	1000
1+	1
1-	-1
1.2	1.2
1.2+	1.2
1.2-	-1.2

TU 入力形式

タイマーユニットを読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

TU w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

要件 w には、4 を指定します。OS タイムマクロが 4 バイトの値を返すためです。

詳細

TUw.入力形式は、IBM メインフレーム動作環境によって生成されるタイマーユニット値を読み込み、それらの値を SAS 時間値に変換します。

1 秒は 38,400 ソフトウェアタイマーユニットです。タイマーユニット値の下位ビットは、約 26.041667 マイクロ秒を表します。

TUw.入力形式を使用して、IBM メインフレームによって生成されたタイマーユニット値を他の動作環境で読み込みます。

例

```
input btime tu4.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
8FC7A9BC	62818.411563

* データ行は、4 バイトのバイナリタイマーユニット値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。結果は、午後 5:26:58.41 に対応する SAS 時間値です。

VAXRB 入力形式

VMS 形式のバイナリ実数(浮動小数点)データを読み込みます。

カテゴリ: 数値

CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

VAXRB $w.d$

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 2-8

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-10

詳細

VAXRBw.d 入力形式を使用して、VMS ファイルの浮動小数点データを他の動作環境で読み込みます。

比較

VMS で実行している SAS を使用する場合、VAXRBw.d と RBw.d 入力形式は同じものです。

関連項目:

入力形式:

- [“RB 入力形式” \(452 ページ\)](#)

VMSZN 入力形式

VMS および MicroFocus COBOL ゾーン数値データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

VMSZNw.d

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

数値の小数点以下の桁数を指定します。この引数はオプションです。

詳細

VMSZNw.d 入力形式は、ZDw.d 入力形式とほぼ同じです。どちらも桁を ASCII で表現した文字列を読み込みます。最後の桁は、値の最後の桁の大きさと値の符号を示す特殊文字になります。VMSZNw.d 入力形式と ZDw.d 入力形式の相違点は、最後の桁に使用される特殊文字です。次の表は、VMSZNw.d 入力形式とほぼ同じです。

表現する桁	特殊文字	表現する桁	特殊文字
0	0	-0	p
1	1	-1	q
2	2	-2	r
3	3	-3	s
4	4	-4	t
5	5	-5	u
6	6	-6	v
7	7	-7	w
8	8	-8	x
9	9	-9	y

例

```
input @1 vmszn4.;
```

データ行	結果
----+----1	
1234	1234
123t	-1234

関連項目:

出力形式:

- [“VMSZN 出力形式” \(281 ページ\)](#)

入力形式:

- [“ZD 入力形式” \(497 ページ\)](#)

w 入力形式

標準数値データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

別名: BESTw.d、Dw.d、Ew.d、Fw.d

構文

w.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。データに小数点が含まれる場合、*d* 値は無視されます。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

w.d 入力形式は、フィールド内の数値はその位置にかかわらず読み込みます。数値の前後に挿入されている空白による影響はありません。マイナス符号は、空白を区切りとして挿入せずに、負の値の直前に置く必要があります。w.d 入力形式は、小数点を含む値と E 付きの指数表記の値を読み込みます。1 つのピリオドは、欠損値として扱います。

比較

- w.d 入力形式は、BZw.d 入力形式と同じですが、w.d 入力形式は数値の後の空白を無視します。数値の後の空白を 0 として読み込むには、BZw.d 入力形式を使用します。
- w.d 入力形式は、E 付きの指数表記の値を Ew.d 入力形式と同じように読み込みます。

例

```
input @1 x 6. @10 y 6.2;
put x @7 y;
```

データ行	結果
----+----1----+	----+----1----+
23 2300	23 23
23 2300	23 0
23 -2300	23 -23
23.0 23.	23 23
2.3E1 2.3	23 2.3

データ行	結果
-23 0	-23 .

WEEKU 入力形式

週番号が使用される形式の値を読み込み、U アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。

カテゴリ: 日付と時間

構文

WEEKU*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 3-200

詳細

WEEKU*w*.入力形式は、年内の週番号が使用される形式の値を読み込み、U アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。入力に年表現が含まれていない場合、WEEKU*w*.入力形式は現在の年をデフォルトの年表現として使用します。入力に日表現が含まれていない場合、WEEKU*w*.入力形式は週の最初の日をデフォルトの日表現として使用します。

U アルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します(日曜日を週の最初の日と見なします)。週番号値は、先頭に 0 を付けた 0 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値は 53 になります。たとえば、年の 5 週目は 05 として表されます。

次の例の WEEKU*w*.入力形式の入力値は、すべて同じ日付となります。現在の年は 2012 です。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	12W01
7-8	yyWwwdd	12W0101
9-10	yyyyWwwdd	2012W0101
11-200	yyyy-Www-dd	2012-W01-01

比較

WEEKUw.入力形式は、週番号値を 0 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、日曜日を週の最初の日とします。

WEEKVw.入力形式は、週番号値を 01 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。年の第 1 週は、1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方を含む週です。1 月の最初の木曜日が 2 日、3 日、4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。

WEEKWw.入力形式は、週番号値を 00 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、月曜日を週の最初の日とします。

例

次の例では、現在の年は 2012 です。

ステートメント	結果
	----+----1
<pre>v=input('W01',weeku3.); w=input('03W01',weeku5.); x=input('03W0101',weeku7.); y=input('2003W0101',weeku9.); z=input('2003-W01-01',weeku11.); put v; put w; put x; put y; put z;</pre>	<pre>18993 18993 18993 18993 18993</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU 出力形式” \(288 ページ\)](#)
- [“WEEKV 出力形式” \(290 ページ\)](#)
- [“WEEKW 出力形式” \(291 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKV 入力形式” \(487 ページ\)](#)
- [“WEEKW 入力形式” \(489 ページ\)](#)

WEEKV 入力形式

週番号が使用される形式の値を読み込み、V アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。

カテゴリ: 日付と時間

構文

WEEKV*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 11

範囲 3-200

詳細

WEEKV*w*.入力形式は、年内の週番号値を読み込みます。入力に年表現が含まれていない場合、WEEKV*w*.入力形式は現在の年をデフォルトの年表現として使用します。入力に日表現が含まれていない場合、WEEKV*w*.入力形式は週の最初の日をデフォルトの日表現として使用します。

V アルゴリズムでは、SAS 日付値を計算します。週番号値は、01 から 53 の範囲の 10 進数で表し、先頭に 0 を使用します。最大値は 53 です。各週は月曜日から始まり、年の第 1 週は 1 月 4 日と年の最初の木曜日を含む週です。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。たとえば、年の 5 週目は 06 として表されます。

次の例の WEEKV*w*.入力形式の入力値は、すべて同じ日付となります。現在の年は 2012 です。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	12W01
7-8	yyWwwdd	12W0101
9-10	yyyyWwwdd	2012W0101
11-200	yyyy-Www-dd	2012-W01-01

比較

WEEKV*w*.入力形式は、週番号値を 01 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、月曜日を週の最初の日とします。年の第 1 週は、1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方を含む週です。1 月の最初の月曜日が 2 日、3 日または 4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。

WEEKU*w*.入力形式は、週番号値を 0 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、日曜日を週の最初の日とします。

WEEKW*w*.入力形式は、年の週番号値を 00 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、月曜日を週の最初の日とします。

例

次の例では、現在の年は 2012 です。

ステートメント	結果
	----+----1
<pre>v=input('W01',weekv3.); w=input('03W01',weekv5.); x=input('03W0101',weekv7.); y=input('2003W0101',weekv9.); z=input('2003-W01-01',weekv11.); put v; put w; put x; put y; put z;</pre>	<pre>18994 18994 18994 18994 18994</pre>

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU 出力形式” \(288 ページ\)](#)
- [“WEEKV 出力形式” \(290 ページ\)](#)
- [“WEEKW 出力形式” \(291 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKU 入力形式” \(486 ページ\)](#)
- [“WEEKW 入力形式” \(489 ページ\)](#)

WEEKW 入力形式

週番号が使用される形式の値を読み込み、W アルゴリズムを使用して SAS 日付値を返します。

カテゴリ: 日付と時間

構文

WEEKW*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト	11
範囲	3-200

詳細

WEEKWw.入力形式は、年内の週番号値を読み込みます。入力に年表現が含まれていない場合、WEEKWw.入力形式は現在の年をデフォルトの年表現として使用します。入力に日表現が含まれていない場合、WEEKWw.入力形式は週の最初の日をデフォルトの日表現として使用します。W アルゴリズムでは、年内の週番号を使用して SAS 日付値を計算します(月曜日を週の最初の日と見なします)。週番号値は、先頭に 0 を付けた 0 から 53 の範囲の 10 進数として表され、最大値は 53 になります。たとえば、年の 5 週目は 05 として表されます。

次の例の WEEKWw.入力形式の入力値は、すべて同じ日付となります。現在の年は 2012 です。

幅	出力形式	例
3-4	Www	w01
5-6	yyWww	12W01
7-8	yyWwwdd	12W0101
9-10	yyyyWwwdd	2012W0101
11-200	yyyy-Www-dd	2012-W01-01

比較

WEEKWw.入力形式は、週番号値を 00 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、月曜日を週の最初の日とします。

WEEKUw.入力形式は、週番号値を 00 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、日曜日を週の最初の日とします。

WEEKVw.入力形式は、週番号値を 01 から 53 の範囲の 10 進数として読み込みます。このとき、月曜日を週の最初の日とします。年の第 1 週は、1 月 4 日と年の最初の木曜日の両方を含む週です。1 月の最初の木曜日が 2 日、3 日、4 日の場合、それより前の日は前年の最後の週に組み込まれます。

例

次の例では、現在の年は 2012 です。

ステートメント	結果
	----t----1

ステートメント	結果
v=input('W01',weekw3.); w=input('03W01',weekw5.); x=input('03W0101',weekw7.); y=input('2003W0101',weekw9.); z=input('2003-W01-01',weekw11.); put v; put w; put x; put y; put z;	 18994 18994 18994 18994 18994

関連項目:

出力形式:

- [“WEEKU 出力形式” \(288 ページ\)](#)
- [“WEEKV 出力形式” \(290 ページ\)](#)
- [“WEEKW 出力形式” \(291 ページ\)](#)

関数:

- [“WEEK Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“WEEKU 入力形式” \(486 ページ\)](#)
- [“WEEKV 入力形式” \(487 ページ\)](#)

YMDDTTM 入力形式

<yy>yy-mm-dd hh:mm:ss.ss 形式の日時値を読み込みます。ハイフン(-)、ピリオド(.)、スラッシュ(/)またはコロン(:)などの特殊文字で年、月、日、時間、分、秒が区切られます。年は 2 桁または 4 桁のいずれかになります。

カテゴリ: 日付と時間

配置: 右

構文

YMDDTTM $w.d$

構文の説明

w

出力幅を指定します。

デフォルト 19

範囲 13-40

d

秒値の小数点以下の桁数を指定します。小数点以下の桁数は、秒の端数を示します。この引数はオプションです。

デフォルト 0

範囲 0-39

詳細

YMDDTTMw.d 入力形式は、<yy>yy-mm-dd hh:mm:<ss<.ss>>形式の日時値を読み込みます。

yy または yyyy

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

mm

月を表す 01 から 12 までの整数です。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

hh

時間を表す 00 から 23 までの整数です。

mm

分を表す 00 から 59 までの整数です。

ss.ss

小数点以下の秒の端数を含む、00 から 59 の範囲の秒数です。

要件 秒の端数が指定される場合、小数点が必要となり、その表記にはピリオドのみ使用できます。

- または :

日付要素と時間要素を区切るために使用するスラッシュ(/)、ハイフン(-)、コロンの(:)、空白文字などの特殊文字のいずれか 1 つを表します。特殊文字は、日付要素間または時間要素間、日付と時間の間の区切り文字として使用できます。

比較

YMDDTTMw.d 入力形式は、必須の区切り文字を含む<yy>yy-mm-dd/hh:mm:ss.ss 形式の日時値を読み込みます。

MDYAMPWw.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む mm-dd-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM | PM 形式の日時値を読み込みます。日付と時間の間にはスペースが必要です。

DATETIMEw.d 入力形式は、オプションの区切り文字を含む dd-mmm-yy<yy> hh:mm:ss.ss AM|PM 形式の日時値を読み込みます。日付と時間は特殊文字で区切られる場合もあります。

例

input @1 dt ymddttm24.;

データ行	結果
2012-03-16 11:23:07.4	1647516187.4
2012 03 16 11 23 07.4	1647516187.4
12.3.16/11:23	1647516180

関連項目:

入力形式:

- “DATETIME 入力形式” (406 ページ)
- “MDYAMPM 入力形式” (433 ページ)

YYMMDD 入力形式

yymmdd または *yyyymmdd* 形式の日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

YYMMDD^{*w*}.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 6

範囲 6-32

詳細

次のうちいずれかの形式の日付値を読み込みます。

- *yymmdd*
- *yyyymmdd*

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

mm

月の日を表す 01 から 12 の整数です。

dd

月の日を表す 01 から 31 の整数です。

年、月、日の値は、空白や特殊文字で区切ることができます。ただし、区切り文字を使用する場合は、すべての値の間に挿入します。空白は日付の前後に挿入することもできます。入力幅には、空白および特殊文字のスペースを考慮する必要があります。

注: SAS では、2桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input calendar_date yymmdd10.;
```

データ行	結果
----+----1	
120316	19068
12/03/16	19068
12 03 16	19068
2012-03-16	19068

関連項目:

出力形式:

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 出力形式” \(161 ページ\)](#)
- [“YYMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

YYMMN 入力形式

yyyymm または *yymm* 形式の日付値を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

YYMMN w .

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 4-6

詳細

次のうちのいずれかの形式の日付値を読み込みます。

- *yyyymm*
- *yymm*

yy または *yyyy*

年を表す 2 桁または 4 桁の整数です。

mm

月を表す 2 桁の整数です。

入力形式名として N も必ず使用する必要があります。これは、年値と月値が空白または特殊文字で区切られないことを示します。日値 01 がこの値に自動的に追加され、有効な SAS 日付変数が作成されます。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input date1 yymn6.;
```

データ行	結果
----+----1	
201208	19206

関連項目:**出力形式:**

- [“DATE 出力形式” \(109 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 出力形式” \(115 ページ\)](#)
- [“YMMDD 出力形式” \(301 ページ\)](#)
- [“YMM 出力形式” \(299 ページ\)](#)
- [“YMON 出力形式” \(306 ページ\)](#)

関数:

- [“DAY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MONTH Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“MDY Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

入力形式:

- [“DATE 入力形式” \(404 ページ\)](#)
- [“DDMMYY 入力形式” \(408 ページ\)](#)
- [“MMDDYY 入力形式” \(435 ページ\)](#)
- [“YMMDD 入力形式” \(493 ページ\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

YYQ 入力形式

yyQq または *yyyyQq* 形式の年の四半期を読み込みます。

カテゴリ: 日付と時間
CAS

構文

YYQ*w*.

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 4

範囲 4–32 (SAS 6 の場合、範囲は 4-6)

詳細

次のうちいずれかの形式のデータを読み込みます。

- *yyQq*
- *yyyyQq*

yy または *yyyy*

2 桁または 4 桁の年を表す整数です。

q

四半期を表す整数(1、2、3、4 のいずれか)です。四半期を 01、02、03、04 と表すこともできます。

文字 Q で年値と四半期値を区切る必要があります。年値、文字 Q および四半期値を空白で区切ることはいけません。YYQw. で読み込まれる値により、指定された四半期の最初の日に対応する SAS 日付値が生成されます。

注: SAS では、2 桁の年は YEARCUTOFF=システムオプションで定義された 100 年の期間内であると解釈します。

例

```
input quarter yyq9.;
```

データ行	結果
----+----1----+	
12Q2	19084
12Q02	19084
2012Q02	19084

関連項目:

関数:

- [“QTR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YEAR Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)
- [“YYQ Function” \(SAS Viya Functions and CALL Routines: Reference\)](#)

システムオプション:

- [“YEARCUTOFF= System Option” \(SAS Viya System Options: Reference\)](#)

ZD 入力形式

ゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

ZDw.d

構文の説明

w

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

ZDw.d 入力形式は、ゾーン 10 進データを読み込みます。ゾーン 10 進データは、1 桁に 1 バイト必要で、最後のバイトに値の符号が最後の桁とともに含まれます。

注: 動作環境によってゾーン 10 進値の保存方法は異なります。ただし、ZDw.d では、ゾーン 10 進値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

ゾーン 10 進形式の正数値を PC から入力できます。一部のキー装置では、マイナス符号を最後の桁に重ね打ちすることにより、負数値を入力できます。

比較

- w.d 入力形式のように、ZDw.d 入力形式は、1 桁に 1 バイトが必要なデータを読み込みます。ZDVw.d または ZDw.d を使用して、最後のバイトに最後の桁と符号を含むゾーン 10 進データを読み込みます。
- ZDw.d 入力形式は ZDVw.d 入力形式と同様に機能しますが、ZDVw.d は入力文字列を検査し、無効なデータを排除する点が違います。
- 次の表は、各種プログラミング言語でのゾーン 10 進入力形式の表記を比較したものです。

言語	ゾーン 10 進表記
SAS	ZD3.
PL/I	PICTURE'99T'
COBOL	DISPLAY PIC S 999

言語	ゾーン 10 進表記
IBM アセンブラ	ZL3

例

```
input @1 x zd4.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
F0F1F2C8	128

* データ行は、IBM メインフレームコンピュータシステム上のゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。

関連項目:

入力形式

- [“w 入力形式” \(484 ページ\)](#)
- [“ZDV 入力形式” \(500 ページ\)](#)

ZDB 入力形式

空白を含むゾーン 10 進データを読み込みます。

カテゴリ: 数値
CAS

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

ZDBw.d

構文の説明

w 入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

ZDBw.d 入力形式は、IBM 1410、1401 および 1620 形式で生成されたゾーン 10 進データを読み込みます。

例

```
input @1 x zdb3.;
```

データ行 *	結果
---+---1	
F140C2	102

* このゾーン 10 進データでは、0 はパンチされるのではなく、空白で残されます。データ行は、IBM メインフレーム動作環境上でスペース用コードを含むゾーン 10 進形式で格納したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。1 バイトは、入力フィールドの 1 カラムを使用します。

ZDV 入力形式

ゾーン 10 進データを読み込んで検証します。

カテゴリ: 数値
CAS

制限事項: このオプションが指定されても、z/OS では検証処理を実行しません。

操作: この入力形式が INFORMAT=ステートメントで指定されたか、ATTRIB=ステートメントで INFORMAT=引数を使用して指定された場合、リスト入力とバイナリ入力が矛盾します。SAS では、警告が発行され、フォーマットされた入力を使用してデータが読み込まれます。

構文

ZDVw.d

構文の説明**w**

入力幅を指定します。

デフォルト 1

範囲 1-32

d

値を除算する 10 のべき乗を指定します。この引数はオプションです。

範囲 0-31

詳細

ZDVw.d 入力形式は、1 桁に 1 バイトが必要で、最後のバイトには最後の桁と一緒にその値の符号が含まれている、データを読み込みます。また、入力文字列を検証し、無効なデータを許可しません。

ZDVw.d は、動作環境に依存します。たとえば、IBM メインフレーム上では、ZDVw.d 入力形式には、最後の上位ニブルを除くすべての上位ニブルに F が 1 つ必要です。(これに対して、ZDw.d 入力形式では、符号と関連付けられているニブル以外のすべてのバイトの上位ニブルを無視します。)最後の上位ニブルには、A から F までの値を使用できます。A、C、E および F が正の値で、B と D が負の値です。IBM メインフレーム上の下位ニブルは、ZD と同じように、0 から 9 までの数値である必要があります。

注: 動作環境によってゾーン 10 進値の保存方法は異なります。ただし、ZDVw.d 入力形式では、ゾーン 10 進値を、SAS の実行に使用する動作環境で値が作成されたものとして読み込みます。

比較

ZDVw.d 入力形式は ZDw.d 入力形式と同様に機能しますが、ZDVw.d は入力文字列を検査し、無効なデータを排除する点が違います。

例

```
input @1 test zdv4.;
```

データ行 *	結果
----+----1	
F0F1F2C8	128

* データ行は、ゾーン 10 進形式で保存したバイナリ値を 16 進表現で表したものです。この例は、IBM メインフレームワークで実行されました。結果は、動作環境によって異なります。

関連項目:

入力形式:

- [“w 入力形式” \(484 ページ\)](#)
- [“ZD 入力形式” \(497 ページ\)](#)

推奨資料

本書の内容に関連する推奨される参考文献のリストを次に示します。

- *An Array of Challenges--Test Your SAS Skills*
- [Base SAS Glossary](#)
- [SAS Viya Data Management and Utility Procedures Guide](#)
- [Batch and Line Mode Processing in SAS Viya](#)
- *The Little SAS Book, A Primer, Fifth Edition*
- [SAS Viya 各国語サポート: リファレンスガイド](#)
- *The SAS Workbook*

SAS 刊行物の一覧については、sas.com/store/books から入手できます。必要な書籍についての質問は SAS 担当者までお寄せください:

SAS Books
SAS Campus Drive
Cary, NC 27513-2414
電話: 1-800-727-0025
ファクシミリ: 1-919-677-4444
メール: sasbook@sas.com
Web アドレス: sas.com/store/books

キーワード

-
- \$**
- \$ASCIIw.出力形式 61
 - \$ASCIIw.入力形式 358
 - \$BASE64Xw.出力形式 62
 - \$BASE64Xw.入力形式 359
 - \$BINARYw.出力形式 63
 - \$BINARYw.入力形式 361
 - \$CBw.入力形式 362
 - \$CHARw.出力形式 64
 - \$CHARw.入力形式 363
 - \$ASCII 入力形式との比較 359
 - \$CHARZBw.入力形式との比較 365
 - \$EBCDICw.入力形式との比較 366
 - \$w.入力形式との比較 377
 - \$CHARZBw.入力形式 364
 - \$CSTRw.出力形式 65
 - \$EBCDICw.出力形式 66
 - \$EBCDICw.入力形式 365
 - \$Fw.出力形式 60
 - \$Fw.入力形式 377
 - \$HEXw.出力形式 67
 - \$HEXw.入力形式 366
 - \$BINARYw.入力形式との比較 361
 - \$MSGCASEw.出力形式 68
 - \$N8601BAw.d 出力形式 70
 - \$N8601Bw.d 出力形式 69
 - \$N8601Bw.d 入力形式 367
 - \$N8601EAW.d 出力形式 73
 - \$N8601EHw.d 出力形式 74
 - \$N8601Ew.d 出力形式 71
 - \$N8601Ew.d 入力形式 369
 - \$N8601EXw.d 出力形式 75
 - \$N8601Hw.d 出力形式 76
 - \$N8601Xw.d 出力形式 78
 - \$OCTALw.出力形式 79
 - \$OCTALw.入力形式 371
 - \$PHEXw.入力形式 372
 - \$QUOTEw.出力形式 80
 - \$QUOTEw.入力形式 373
 - \$REVERJw.出力形式 81
 - \$REVERSw.出力形式 82
 - \$UPCASEw.出力形式 83
 - \$UPCASEw.入力形式 374
 - \$VARYINGw.出力形式 84
 - \$VARYINGw.入力形式 375
 - \$w.出力形式 60
 - \$w.入力形式 377
 - \$CHARw.入力形式との比較 363
- %**
- %SYSFUNC 関数
 - 出力形式の指定 6
- 1**
- 16 進
 - バイナリ実数(浮動小数点)値を変換 149
 - パックユリウス暦の日付 244
 - パックユリウス暦の日付, IBM 245
 - 文字データの～への変換 67
 - 16 進値
 - パックユリウス日付を読み込み, IBM 444
 - パックユリウス暦の日付を読み込み, IBM 442
 - 16 進データ, 文字に変換 366
 - 16 進バイナリ値, 整数に変換 425
 - 16 進バイナリ値, バイナリ実数に変換 425
- 2**
- 2 進
 - 数値を～に変換 104
 - 2 進ゼロ, 空白に変換 364
- 8**
- 8 進
 - 数値を変換 241
 - 文字データの～への変換 79
 - 8 進データ
 - 整数に変換 440
 - 文字に変換 371

A

AM または PM
 ~付きの時間値 276
 ~付きの日時値 110, 433
 ANYDTDEw.入力形式 378
 ANYDTDTMw.入力形式 380
 ANYDTTMEw.入力形式 384
 ASCII
 文字データの変換 61
 ASCII データ
 ネイティブな形式への変換 358
 文字データの変換, Base 64 エンコーディング 62, 359
 ATTRIB ステートメント
 出力形式の指定 6
 入力形式の指定 328

B

B8601CI 入力形式 386
 B8601DAw.出力形式 86
 B8601DAw.入力形式 388
 B8601DJ 入力形式 389
 B8601DNw.出力形式 87
 B8601DNw.入力形式 390
 B8601DTw.d 出力形式 88
 B8601DTw.d 入力形式 391
 B8601DXw.d 入力形式 393
 B8601DXw.出力形式 89
 B8601DXw.入力形式
 参照項目: B8601DZw.d 入力形式
 B8601DZw.d 入力形式 393
 B8601DZw.出力形式 91
 B8601LXw.d 入力形式 391
 B8601LXw.出力形式 92
 B8601LXw.入力形式
 参照項目: B8601DTw.d 入力形式
 B8601LZw.出力形式 94
 B8601TMw.d 出力形式 95
 B8601TMw.d 入力形式 395
 B8601TXw.d 入力形式 396
 B8601TXw.出力形式 96
 B8601TXw.入力形式
 参照項目: B8601TZw.d 入力形式
 B8601TZw.d 出力形式 98
 B8601TZw.d 入力形式 396
 Base 64 エンコーディング
 ASCII テキストへの文字データの変換 62, 359
 BASE64X 359
 BESTDOTXw.出力形式 103
 BESTDw.p 出力形式 101
 BESTw.d 入力形式 484
 BESTw.出力形式 99
 BINARYw.d 入力形式 398
 BINARYw.出力形式 104

BITSw.d 入力形式 399
 BZw.d 入力形式 400
 w.d 入力形式との比較 485

C

CBw.d 入力形式 401
 COMMAw.d 出力形式 105
 COMMAw.d 入力形式 402
 COMMAXw.d 入力形式との比較 404
 COMMAXw.d 出力形式 106
 COMMAXw.d 入力形式 403
 COMMAw.d 入力形式との比較 403
 CSTR 65

D

DATEAMPMw.d 出力形式 110
 DATETIMEw.d 出力形式 112
 DATETIMEw.入力形式 406
 DATEw.出力形式 109
 DATEw.入力形式 404
 DAYw.出力形式 114
 DDMMYYw.出力形式 115
 DDMMYYw.入力形式 408
 DDMMYYxw.出力形式 116
 DEC 形式
 正のバイナリ整数(固定小数点)値 251
 正のバイナリ整数値を読み込み 449
 バイナリ整数(固定小数点)値 155
 ~でバイナリ整数値を読み込み 429
 DOLLARw.d 出力形式 118
 DOLLARw.d 入力形式 402
 DOLLARXw.d 出力形式 119
 DOLLARXw.d 入力形式 403
 DOWNAMEw.出力形式 121
 DTDATw.出力形式 122
 DTMONYw.出力形式 123
 DTWKDATXw.出力形式 124
 DTYEARw.出力形式 125
 DTYYQCw.出力形式 126
 Dw.d 入力形式 484
 Dw.p 出力形式 107

E

E8601DAw.出力形式 128
 E8601DAw.入力形式 409
 E8601DNw.出力形式 129
 E8601DNw.入力形式 410
 E8601DTw.d 出力形式 130
 E8601DTw.d 入力形式 411
 E8601DXw.d 入力形式 413
 E8601DXw.出力形式 132

- E8601DXw.入力形式
 参照項目: E8601DZw.d 入力形式
- E8601DZw.d 入力形式 413
- E8601DZw.出力形式 133
- E8601LXw.d 入力形式 411
- E8601LXw.出力形式 135
- E8601LXw.入力形式
 参照項目: E8601DTw.d 入力形式
- E8601LZw.d 入力形式 415
- E8601LZw.出力形式 136
- E8601TMw.d 出力形式 138
- E8601TMw.d 入力形式 417
- E8601TXw.d 入力形式 418
- E8601TXw.出力形式 139
- E8601TXw.入力形式
 参照項目: E8601TZw.d 入力形式
- E8601TZw.d 出力形式 140
- E8601TZw.d 入力形式 418
- EBCDIC
 数値データ 258
 文字データの変換 66
- EBCDIC データ
 ネイティブな形式に変換 365
 読み込み 458
- EUROX 出力形式 145
- EUROX 入力形式 422
- EURO 出力形式 142
- EURO 入力形式 420
- Ew.d 入力形式 484
- Ew.出力形式 127
- F**
- FLOATw.d 出力形式 147
- FLOATw.d 入力形式 424
- FORMAT ステートメント
 出力形式の指定 6
- FRACTw.出力形式 148
- Fw.d 出力形式 283
- Fw.d 入力形式 484
- H**
- HEX 67
- HEXw.出力形式 149
- HEXw.入力形式 425
 \$HEXw.入力形式との比較 367
- HHMMSSw.入力形式 426
- HHMMw.d 出力形式 150
- HOURw.d 出力形式 152
- I**
- IBM
 パックユリウス暦の日付を 16 進で
 245
- IBM パック 10 進データ, 読み込み
 441
- IBM 日付と時間, 読み込み 386, 389
- IBM メインフレーム形式
 数値データ 258
 正のバイナリ整数(固定小数点)値
 265
 前符号付きゾーン 10 進データ 269
 ゾーン 10 進データ 268
 バイナリ実数(浮動小数点)データ
 266
 バイナリ整数(固定小数点)値 259
 パック 10 進データ 262
 符号なしゾーン 10 進データ 272
 符号なしバイナリ整数(固定小数点)
 値 261
 符号なしパック 10 進データ 264
 分離した後符号付きゾーン 10 進デ
 ータ 271
 分離した前符号付きゾーン 10 進デ
 ータ 270
- IBRw.d 出力形式 155
- IBRw.d 入力形式 429
- IBw.d 出力形式 154
- IBw.d 入力形式 428
 S370FIBw.d 入力形式との比較 460
- IEEE 浮動小数点値
 読み込み 431
- IEEEw.d 出力形式 157
- IEEEw.d 入力形式 431
- IEEE 浮動小数点値 157
- INFORMAT ステートメント
 ~で入力形式を指定 327
- INPUT 関数
 入力形式の指定 327
- INPUT ステートメント
 入力形式の指定 327
- Intel 形式
 正のバイナリ整数(固定小数点)値
 251
 正のバイナリ整数値を読み込み 449
 バイナリ整数(固定小数点)値 155
 ~でバイナリ整数値を読み込み 429
- IS8601DAw.出力形式 128
- IS8601DAw.入力形式 409
- IS8601DNw.入力形式 410
- IS8601DTw.d 出力形式 130
- IS8601DTw.d 入力形式 411
- IS8601DZw.d 入力形式 413
- IS8601DZw.出力形式 133
- IS8601LZw.d 入力形式 415
- IS8601LZw.出力形式 136
- IS8601TMw.d 出力形式 138
- IS8601TMw.d 入力形式 417
- IS8601TZw.d 出力形式 140
- IS8601TZw.d 入力形式 418

- ISO 8601 規格の期間出力形式と日時出力形式
 \$N8601BA 出力形式, 基本表記 70
 \$N8601B 出力形式, 基本表記 69
 \$N8601EA 出力形式, 拡張表記 73
 \$N8601EH 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 74
 \$N8601EX 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素に x を出力する 75
 \$N8601E 出力形式, 拡張表記 71
 \$N8601H 出力形式, 省略した構成要素にハイフンを出力する 76
 \$N8601X 出力形式, 省略した構成要素に x を出力する 78
- ISO 8601 規格のフォーマットシンボル 14, 336
- ISO 8601 日時出力形式
 B8601DA 出力形式, 基本表記 86
 B8601DN 出力形式, 基本日時表記, 日付の出力形式 87
 B8601DT 出力形式, 基本日時表記, タイムゾーンなし 88
 B8601DX 出力形式, 基本日時表記, タイムゾーンオフセット 89
 B8601DZ 出力形式, 基本日時表記 (タイムゾーンあり) 91
 B8601LX 出力形式, 基本日時表記, タイムゾーンオフセット 92
 B8601LZ 出力形式, 基本ローカル時間(タイムゾーンあり) 94
 B8601TM 出力形式, 基本時間表記, タイムゾーンなし 95
 B8601TX 出力形式, 基本時間表記, タイムゾーンオフセット 96
 B8601TZ 出力形式, 基本時間表記(タイムゾーンあり) 98
 E8601DA 出力形式, 拡張日付表記 128
 E8601DN 出力形式, 拡張日時表記, 日付の出力形式 129
 E8601DX 出力形式, 基本日時表記, タイムゾーンオフセット 132
 E8601LX 出力形式, 基本日時表記, タイムゾーンオフセット 135
 E8601TM 出力形式, 拡張時間表記, タイムゾーンなし 138
 E8601TX 出力形式, 基本時間表記, タイムゾーンオフセット 139
 E8601TZ 出力形式, extended time notation(タイムゾーンあり) 140
 拡張日時, タイムゾーンあり 133
 拡張ローカル時間(UTC オフセット) 136
 タイムゾーンなしの拡張日時 130
- ISO 8601 日時入力形式
 \$N8601E 入力形式, 期間値, 日時値, 間隔値の拡張表記 369
 \$N8601 入力形式, 期間値, 日時値, 間隔値の基本表記および拡張表記 367
 B8601DA 入力形式, 基本日付表記 388
 B8601DN 入力形式, 基本日時表記, 日付を日時値で返す 390
 B8601DZ 入力形式, 基本日時表記 (タイムゾーンあり) 393
 B8601TM 入力形式, 基本時間表記, タイムゾーンなし 395
 B8601TZ 入力形式, 基本時間表記(タイムゾーンあり) 396
 E8601DA 入力形式, 拡張日付表記 409
 E8601DN 入力形式, 拡張表記, 日付を日時値で返す 410
 E8601DT 入力形式, 拡張日時表記, タイムゾーンなし 411
 E8601DT 入力形式, 基本日時表記, タイムゾーンなし 391
 E8601DZ 入力形式, 拡張日時表記(タイムゾーンあり) 413
 E8601LZ 入力形式, 拡張ローカル日時表記(タイムゾーンあり) 415
 E8601TM 入力形式, 拡張時間表記, タイムゾーンなし 417
 E8601TZ 入力形式, 拡張時間表記(タイムゾーンあり) 418
- J**
 Java 日付と時間, 読み込み 389
 JULDAYw.出力形式 158
 JULIANw.出力形式 159
 JULIANw.入力形式 432
- M**
 MDYAMPWw.d 出力形式 160
 MDYAMPWw.d 入力形式 433
 MicroFocus COBOL
 ゾーン数値データ 483
 MicroFocus Cobol ゾーン数値データ 281
 MMDDYYw.入力形式 435
 MMDDYYxw.出力形式 161, 163
 MMSSw.d 出力形式 165
 MMYWw.出力形式 167
 MMYXw.出力形式 168
 MONNAMEw.出力形式 170
 MONTHw.出力形式 171
 MONYYw.出力形式 172

MONYYw.入力形式 436
MSECw.入力形式 438

N

N8601B 69
N8601E 71
N8601EH 74
ND8601DAw.入力形式 388
ND8601DNw.入力形式 390
ND8601DTw.d 入力形式 391
ND8601DZw.d 入力形式 393
ND8601TMw.d 入力形式 395
ND8601TZw.d 入力形式 396
NEGPARENw.d 出力形式 173
NENGO 出力形式 174
NLBEST 出力形式 176
NLDATEL 出力形式 179
NLDATEMDL 出力形式 181
NLDATEMDM 出力形式 182, 204
NLDATEMDS 出力形式 183
NLDATEMD 出力形式 180
NLDATEMN 出力形式 184
NLDATEMYL 出力形式 190
NLDATEM 出力形式 180
NLDATES 出力形式 185
NLDATEWN 出力形式 187
NLDATEW 出力形式 186
NLDATEYMM 出力形式 190
NLDATEYMS 出力形式 191
NLDATEYM 出力形式 188
NLDATEYQL 出力形式 193
NLDATEYQM 出力形式 194
NLDATEYQS 出力形式 195
NLDATEYQ 出力形式 192
NLDATEYR 出力形式 196
NLDATEYW 出力形式 197
NLDATE 出力形式 178
NLDATMAP 出力形式 199
NLDATMDT 出力形式 200
NLDATML 出力形式 201
NLDATMMDL 出力形式 203
NLDATMMDS 出力形式 205
NLDATMMD 出力形式 202
NLDATMMN 出力形式 206
NLDATMM 出力形式 202
NLDATMS 出力形式 207
NLDATMTM 出力形式 208
NLDATMTZ 出力形式
日時値 209, 222
NLDATMWN 出力形式 211
NLDATMWZ 出力形式
日時値 212
NLDATMW 出力形式 210
NLDATMYML 出力形式 214
NLDATMYMM 出力形式 215

NLDATMYMS 出力形式 215
NLDATMYM 出力形式 213
NLDATMYQL 出力形式 217
NLDATMYQM 出力形式 218
NLDATMYQS 出力形式 219
NLDATMYQ 出力形式 216
NLDATMYR 出力形式 220
NLDATMYW 出力形式 221
NLDATM 出力形式 198
NLMNYI 出力形式 224
NLMNY 出力形式 223
NLNUMI 出力形式 227
NLNUM 出力形式 226
NLPCTI 出力形式 230
NLPCTN 出力形式 231
NLPCTP 出力形式 232
NLPCT 出力形式 228
NLPVALUE 出力形式 233
NLSTRMON 出力形式 234
NLSTRQTR 出力形式 236
NLSTRWK 出力形式 237
NLTIMAP 出力形式 238
NLTIME 出力形式 239
NUMXw.d 出力形式 240
NUMXw.d 入力形式 439

O

OCTALw.d 入力形式 440
OCTALw.出力形式 241
OCTALw.入力形式
\$OCTALw.入力形式との比較 372

P

PDJULGw.出力形式 244
PDJULGw.入力形式 442
PDJULIw.出力形式 245
PDJULIw.入力形式 444
PDTIMEw.入力形式 445
RMFSTAMPw.入力形式との比較
456
PDw.d 出力形式 242
PDw.d 入力形式 441
\$PHEXw.入力形式との比較 373
PKw.d 入力形式との比較 451
S370FPDw.d 入力形式との比較 463
PERCENTNw.d 出力形式 248
PERCENTw.d 出力形式 247
PERCENTw.d 入力形式 446
PIBRw.d 出力形式 251
PIBRw.d 入力形式 449
PIBw.d 出力形式 249
PIBw.d 入力形式 447
S370FPIBw.d 入力形式との比較
465

- PKw.d 出力形式 252
- PKw.d 入力形式 450
- PM または AM
 - ～付きの時間値 276
 - ～付きの日時値 110
- PUNCH.d 入力形式 451
- PUT 関数
 - 出力形式の指定 5
- PUT ステートメント
 - 出力形式の指定 5
- PVALUEw.d 出力形式 253
- p 値
 - 書き出し 253

- Q**
- QTRRw.出力形式 255
- QTRw.出力形式 255

- R**
- RBw.d 出力形式 256
- RBw.d 入力形式 452
 - S370FRBw.d 入力形式との比較 467
 - VAXRBw.d 入力形式との比較 483
- RMFDURw.入力形式 454
- RMFSTAMPw.入力形式 455
 - RMFDURw.入力形式との比較 455
- RMF レコード, 継続間隔の読み込み 454
- ROMANw.出力形式 258
- ROWw.d 入力形式 457

- S**
- S370FFw.d 出力形式 258
- S370FFw.d 入力形式 458
- S370FIBUw.d 出力形式 261
- S370FIBUw.d 入力形式 461
- S370FIBw.d 出力形式 259
- S370FIBw.d 入力形式 459
- S370FPDUw.d 出力形式 264
- S370FPDUw.d 入力形式 463
- S370FPDw.d 出力形式 262
- S370FPDw.d 入力形式 462
 - S370FPDUw.d 入力形式との比較 464
- S370FPIBw.d 出力形式 265
- S370FPIBw.d 入力形式 465
 - S370FFw.d 入力形式との比較 459
 - S370FIBUw.d 入力形式との比較 462
- S370FRBw.d 出力形式 266
- S370FRBw.d 入力形式 466
- S370FZDB 469
- S370FZDBw.d 入力形式 469
- S370FZDLw.d 出力形式 269
- S370FZDLw.d 入力形式 470
- S370FZDSw.d 出力形式 270
- S370FZDSw.d 入力形式 471
- S370FZDTw.d 出力形式 271
- S370FZDTw.d 入力形式 472
- S370FZDUw.d 出力形式 272
- S370FZDUw.d 入力形式 473
- S370FZDw.d 出力形式 268
- S370FZDw.d 入力形式 467
 - S370FZDUw.d 入力形式との比較 474
- SAS 入力形式 325
- SHRSTAMPw.入力形式 474
- SHR レコード
 - ～の日付値と時間値を読み込み 474
- SMFSTAMPw.入力形式 476
- SSNw.出力形式 274
- STIMERw.入力形式 477

- T**
- TIMEAMPw.d 出力形式 276
- TIMEw.d 出力形式 274
- TIMEw.入力形式 478
- TODSTAMPw.入力形式 479
 - MSECw.入力形式との比較 438
- TODw.d 出力形式 278
- TRAILSGNw.入力形式 480
- TUw.入力形式 481

- V**
- VAXRBw.d 出力形式 280
- VAXRBw.d 入力形式 482
- VMS
 - ゾーン数値データ 281, 483
- VMSZNw.d 出力形式 281
- VMSZNw.d 入力形式 483
- VMS 形式
 - バイナリ実数(浮動小数点)データ 280

- W**
- w.d 出力形式 283
- w.d 入力形式 484, 500
 - NUMXw.d 入力形式との比較 439
 - ZDw.d 入力形式との比較 498
- WEEKDATEw.出力形式 284
- WEEKDATXw.出力形式 285
- WEEKDAYw.出力形式 287
- WEEKU 288
- WEEKUw.出力形式 288
- WEEKUw.入力形式 486
- WEEKVw.出力形式 290

WEEKVw.入力形式 487
 WEEKWw.出力形式 291
 WEEKWw.入力形式 489
 WORDDATEw.出力形式 293
 WORDDATXw.出力形式 294
 WORDFw.出力形式 295
 WORDSw.出力形式 296

Y

YEARw.出力形式 297
 YEN 出力形式 298
 YMDDTTMw.d 入力形式 491
 YMMDDw.出力形式 301
 YMMDDw.入力形式 493
 YMMDDxw.出力形式 303
 YMMNw.入力形式 495
 YMMw.出力形式 299
 YMMxw.出力形式 305
 YMONw.出力形式 306
 YYQRw.出力形式 310
 YYQRxw.出力形式 312
 YYQw.出力形式 307
 YYQw.入力形式 496
 YYQxw.出力形式 309
 YYQZw. format 313
 YYWEEKU 出力形式 314
 YYWEEKV 出力形式 316
 YYWEEKW 出力形式 317

Z

ZDBw.d 入力形式 499
 ZDVw.d 入力形式 500
 関連項目: w.d 入力形式
 関連項目: ZDw.d 入力形式
 ZDw.d 入力形式との比較 498
 ZDw.d 出力形式 320
 ZDw.d 入力形式 497, 500
 ZDVw.d との比較 501
 Zw.d 出力形式 319

あ

一時的な出力形式 6
 引用符
 削除 373
 埋め込み文字, 削除 402, 403
 英語表現
 数値を書き出し 296
 エンコーディング
 出力形式 10
 大文字
 \$UPCASEw.入力形式 374
 文字データの書き出し 68
 文字データを～に変換 83

～としてデータを読み込み 374

か

かっこ
 負の数値を書き出し 173
 カラムバイナリ, 読み込み
 空白を含む 363
 カラムバイナリデータ, 読み込み
 カードカラムの下方向 457
 パンチカードコード 451
 カラムバイナリファイル, 読み込み
 362
 間隔値
 \$N8601BA 出力形式, ISO 8601 基本表記 70
 \$N8601B 出力形式, 基本表記 69
 \$N8601EA 出力形式, ISO 8601 拡張表記 73
 \$N8601EH 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 74
 \$N8601EX 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素に x を出力する 75
 \$N8601E 出力形式, 拡張表記 71
 \$N8601E 入力形式, 拡張表記 369
 \$N8601H 出力形式, 基本表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 76
 \$N8601X 出力形式, 省略した構成要素に x を出力する 78
 \$N8601 入力形式, ISO 8601 基本表記および拡張表記 367
 カンマ
 小数点を置換 240
 数値内の～ 105, 106
 期間値
 \$N8601BA 出力形式, ISO 8601 基本表記 70
 \$N8601B 出力形式, 基本表記 69
 \$N8601EA format, ISO 8601 extended notation 73
 \$N8601EH 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 74
 \$N8601EX 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素に x を出力する 75
 \$N8601E 出力形式, 拡張表記 71
 \$N8601E 入力形式, 拡張表記 369
 \$N8601H 出力形式, 基本表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 76
 \$N8601X 出力形式, 省略した構成要素に x を出力する 78
 \$N8601 入力形式, ISO 8601 基本表記および拡張表記 367

- 逆順の文字データ 81, 82
- 空白
 - 2進ゼロを～に変換 364
 - ゼロに変換 400
- 恒久的な出力形式 6
- 後置のプラス符号またはマイナス符号 480
- 固定小数点値
 - DEC 形式 155, 251
 - Intel 形式 155, 251
 - Intel 形式および DEC 形式で読み込み 429, 449
 - 書き出し 154, 249
- さ**
- 時間値
 - B8601LZ 出力形式, ISO 8601 基本ローカル時間(タイムゾーンあり) 94
 - B8601TM 出力形式, ISO 8601 基本時間表記, タイムゾーンなし 95
 - B8601TM 入力形式, ISO 8601 規格の基本時間表記, タイムゾーンなし 395
 - B8601TZ 出力形式, ISO 8601 基本表記(タイムゾーンあり) 98
 - B8601TZ 入力形式, ISO 8601 規格の基本表記(タイムゾーンあり) 396
 - E8601TM 出力形式, ISO 8601 規格の拡張表記, タイムゾーンなし 138
 - E8601TM 入力形式, ISO 8601 規格の拡張時間表記, タイムゾーンなし 417
 - E8601TZ 出力形式, ISO 8601 規格の拡張表記(タイムゾーンあり) 140
 - E8601TZ 入力形式, ISO 8601 規格の拡張表記(タイムゾーンあり) 418
 - HHMMw.d 出力形式 150
 - HOURw.d 出力形式 152
 - ISO 8601 規格の拡張ローカル時間(UTC オフセット) 136
 - MMSSw.d 出力形式 165
 - TIMEAMPm.w.d 出力形式 276
 - TIMEw.d 出力形式 274
 - TODw.d 出力形式 278
 - 入力値から抽出 384
- 指数表記 127
- 社会保障番号 274
- 週
 - 週番号, 10 進出力形式, U アルゴリズム 288
 - 週番号, 10 進出力形式, V アルゴリズム 290
 - 週番号, 10 進出力形式, W アルゴリズム 291
 - 週番号, 日付値, U アルゴリズム 486
 - 週番号, 日付値, V アルゴリズム 487
 - 週番号, 日付値, W アルゴリズム 489
- 出力形式 4
 - %SYSFUNC 関数で指定 6
 - ATTRIB ステートメントで指定 6
 - FORMAT ステートメントで指定 6
 - PUT 関数で指定 5
 - PUT ステートメントで指定 5
 - 一時的 6
 - エンコーディング 10
 - 恒久的 6
 - 構文 4
 - ゾーン 10 進データ 10
 - データの変換 10
 - バイトオーダリング 8
 - バイナリ整数表記 9
 - パック 10 進データ 10
 - ユーザー定義 7
- 小数点
 - カンマに置換 240
- 小数点, カンマとして読み込み 439
- 小数点以下の桁数
 - 揃え 101, 107
- 数値
 - 2進表現に変換 104
 - 8進に変換 241
 - DOLLARw.d 出力形式 118
 - DOLLARXw.d 出力形式 119
 - 英語表現で書き出し 296
 - 最適な表記 99
 - 小数点以下の桁数の揃え 101, 107
 - 百分率として書き出し 247
 - 負の数値をかっこで囲んで書き出し 173
 - 分数付きの英語表現 295
 - 分数に変換 148
 - ローマ数字 258
 - ～内のカンマ 105, 106
- 数値データ
 - 1 バイト 1 桁 283
 - EBCDIC 出力形式 258
 - IBM メインフレーム形式 258
 - 円 298
 - 指数表記 127
 - 小数点をカンマに置換 240
 - 先頭にゼロ 319
 - ゾーン 10 進形式 320
 - 日本の日付 174
- 数値データ, 読み込み
 - カラムバイナリファイルから 401

小数点を表すカンマ 439
 標準形式 484
 数値表記
 最善、ロケールに基づく 176
 整数
 小数なしで出力 101
 正のバイナリ整数(固定小数点)値
 IBM メインフレーム形式 265
 正のバイナリ整数値
 DEC 形式 251
 Intel 形式 251
 Intel 形式および DEC 形式で読み込み 449
 書き出し 249
 ゼロ
 先頭にゼロを含む数値データ 319
 ゼロ, 2 進
 空白に変換 364
 先頭にゼロを含む 319
 前符号付きゾーン 10 進データ
 IBM メインフレーム形式 269
 前符号付きゾーン 10 進データ, 読み込み
 IBM メインフレーム形式 470
 ゾーン 10 進形式 320
 ゾーン 10 進データ 11, 333
 IBM メインフレーム形式 268
 サポートする言語 12
 サポートするプラットフォーム 12, 333
 出力形式 10
 出力形式と入力形式の概要 13
 定義 10
 定義済み 332
 ～の出力形式と入力形式 334
 ゾーン 10 進データ, 読み込み 497, 499
 IBM メインフレーム形式 467
 ゾーン数値データ
 MicroFocus COBOL 281, 483
 VMS 281, 483

た

通貨

円 298
 データ値, 読み取り 325
 データ値の読み取り 325
 データの変換
 出力形式 10
 トランスコーディング 10

な

二重引用符

データ値を囲む 80

日時値

\$N8601BA 出力形式, ISO 8601 基本表記 70
 \$N8601B 出力形式, 基本表記 69
 \$N8601EA 出力形式, ISO 8601 拡張表記 73
 \$N8601EH 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 74
 \$N8601EX 出力形式, 拡張表記, 省略した構成要素に x を出力する 75
 \$N8601E 出力形式, 拡張表記 71
 \$N8601E 入力形式, 拡張表記 369
 \$N8601H 出力形式, 基本表記, 省略した構成要素にハイフンを出力する 76
 \$N8601X 出力形式, 省略した構成要素に x を出力する 78
 \$N8601 入力形式, ISO 8601 基本表記および拡張表記 367
 AM または PM 付きの～ 110
 B8601DN 出力形式, ISO 8601 基本日時表記, 日付の出力形式 87
 B8601DT 出力形式, ISO 8601 基本表記, タイムゾーンなし 88, 89, 92
 B8601DZ 出力形式, ISO 8601 基本表記(タイムゾーンあり) 91
 B8601TX 出力形式, ISO 8601 基本表記, タイムゾーンオフセット 96
 DATEAMPW.d 出力形式 110
 DATETIMEw.d 出力形式 112
 DDATEw.出力形式 122
 DTMONYYw.出力形式 123
 DTWKDATXw.出力形式 124
 DTYEARw.出力形式 125
 DTYQCw.出力形式 126
 E8601DN 出力形式, ISO 8601 拡張, 日付の出力形式 129
 E8601DT 出力形式, ISO 8601 の基本表記, タイムゾーンなし 132, 135
 E8601DT 入力形式, ISO 8601 規格の拡張表記, タイムゾーンなし 411
 E8601DZ 入力形式, ISO 8601 規格の拡張表記(タイムゾーンあり) 413
 E8601LZ 入力形式, ISO 8601 規格の拡張ローカル表記(タイムゾーンあり) 415
 E8601TX 出力形式, ISO 8601 基本表記, タイムゾーンオフセット 139
 午前または午後の使用 199
 時刻 208

- 月名 206
- 月の名前と月の日 202
- 月の名前、月の日、年 200
- 年 220
- 年と四半期 216
- 年と週の名前 221
- 年と月の名前 213
- 日時 198
- 入力値から抽出 380
- 曜日 211
- 曜日と日時 210
- 日時出力形式
 - ISO 8601 規格の拡張日時, タイムゾーンあり 133
 - ISO 8601 規格のタイムゾーンなしの拡張日時 130
- 日時入力形式
 - B8601DN 入力形式, ISO 8601 規格の基本日付表記, 日付を日時値で返す 390
 - B8601DT 入力形式, ISO 8601 規格の基本日時表記, タイムゾーンなし 391
 - B8601DZ 入力形式, ISO 8601 規格の基本表記(タイムゾーンあり) 393
- IBM 日付と時間の読み込み 386
- Java 日付と時間の読み込み 389
- 日本の日付 174
- ニブル 332
 - 定義 11
- 入力形式 325
 - INPUT 関数で指定 327
 - 一時的 329
 - 恒久的 329
 - 構文 326
 - 指定, ATTRIB ステートメントで 328
 - 指定, INFORMAT ステートメントで 327
 - 指定, INPUT ステートメントで 327
 - ゾーン 10 進データおよび 13
 - バイトオーダーリング 330
 - バイナリ整数表記 331
 - パック 10 進データおよび 13
 - ユーザー定義 329
- は**
- バイトオーダーリング 8, 330
- バイナリ
 - 文字データの変換 63
- バイナリ実数(浮動小数点)値
 - 16 進に変換 149
- バイナリ実数(浮動小数点)データ
 - IBM メインフレーム形式 266
 - VMS 形式 280
- バイナリ実数出力形式
 - バイナリ実数データ(浮動小数点) 256
- バイナリ実数データ
 - バイナリ実数出力形式 256
- バイナリ実数データ, 読み込み 452
 - IBM メインフレーム形式 466
 - VMS 形式 482
- バイナリ整数(固定小数点)値
 - IBM メインフレーム形式 259
- バイナリ整数値
 - DEC 形式 155
 - Intel 形式 155
 - Intel 形式および DEC 形式で読み込み 429
 - 書き出し 154
- バイナリ整数値, 読み込み 428, 447
- バイナリ整数データ
 - バイトオーダーリング 8
 - 表記とプログラミング言語 9
- バイナリ整数データ, 読み込み
 - IBM メインフレーム形式 459, 465
- バイナリ整数表記 331
- バイナリデータ, 変換
 - 整数 398
- バイナリデータ, ~への変換
 - 文字 361
- パック 10 進出力形式
 - データを書き出し 242
- パック 10 進データ 11, 332
 - IBM メインフレーム形式 262
 - サポートする言語 12, 333
 - サポートするプラットフォーム 12, 333
- 出力形式 10
- 出力形式と入力形式の概要 13
- 定義 10
- 定義済み 332
- 符号なし出力形式 252
- ~の出力形式と入力形式 334
- パック 16 進データ, 文字への変換 372
- パックデータ, IBM メインフレーム形式で読み込み 462
- パックユリウス日付
 - 16 進形式で読み込み, IBM 444
- パックユリウス日付値
 - 16 進形式で読み込み, IBM 442
- パックユリウス暦の日付 11, 333
 - 16 進で書き出し 244
 - IBM で使用する 16 進で書き出し 245
- ビッグエンディアンプラットフォーム
 - バイトオーダーリング 8

- ビッグエンディアンプラットフォーム, バイトオーダリング 330
- 日付
 - 日付値 178
- 日付/時間値, 読み込み
 - IBM メインフレーム 445
 - IBM メインフレーム, RMF レコード 455
 - IBM メインフレーム, SMF レコード 476
 - RMF レコード 445
 - SMF レコード 445
 - TIME MIC 値 438
 - TOD スタンプ 479
 - 時間, hh:mm:ss.ss 478
 - 時間値, IBM メインフレーム 438
 - 四半期 496
 - タイマーユニット 481
 - 年月の値 436
 - 日付, mmddyy 435
 - 日付, mmddyyyy 435
 - 日付, yymm 495
 - 日付, yymmmdd 493
 - 日付, yymmn 495
 - 日付, yyyymmdd 493
 - 日付値, dddmmmyy 404
 - 日付値, dddmmmyy hh:mm:ss.ss 406
 - 日付値, dddmmmyyyy 404
 - 日付値, dddmmmyyyy hh:mm:ss.ss 406
 - 日付値, ddmmyy 408
 - 日付値, ddmmyyyy 408
 - ユリウス暦の日付 432
- 日付値
 - B8601DA 出力形式, ISO 8601 基本表記 86
 - B8601DA 入力形式, ISO 8601 規格の基本表記 388
 - DATEw.出力形式 109
 - DDMMYYw.出力形式 115
 - DDMMYYxw.出力形式 116
 - DTDATEw.出力形式 122
 - E8601DA 出力形式, ISO 8601 拡張表記 128
 - E8601DA 入力形式, 拡張表記 409
 - E8601DN 入力形式, ISO 8601 規格の拡張表記, 日付を日時値で返す 410
 - MMDDYYw.出力形式 161
 - MMDDYYxw.出力形式 163
 - MMYYw.出力形式 167
 - MMYYxw.出力形式 168
 - MONYYw.出力形式 172
 - WEEKDATEw.出力形式 284
 - WEEKDATXw.出力形式 285
 - WEEKDAYw.出力形式 287
 - WORDDATEw.出力形式 293
 - WORDDATXw.出力形式 294
 - YEARw.出力形式 297
 - YMDDTTMw.d 入力形式 491
 - YYMMDDw.出力形式 301
 - YYMMDDxw.出力形式 303
 - YYMMw.出力形式 299
 - YYMMxw.出力形式 305
 - YYMONw.出力形式 306
 - YYQRw.出力形式 310
 - YYQRxw.出力形式 312
 - YYQw.出力形式 307
 - YYQxw.出力形式 309
 - ある月の日付部分として 114
 - 月 171
 - 月名 170, 184
 - 月の名前と月の日 180
 - 年 196
 - 年と四半期 192
 - 年と週 197
 - 年と月の名前 188
 - 年の四半期 255
 - 年の四半期としてローマ数字で 255
 - 日本語 174
 - 入力値から抽出 378
 - 日付 178
 - 日付と曜日 186
 - ユリウス暦の日付 159
 - ユリウス暦の日付部分 158
 - 曜日 187
 - 曜日名 121
 - 日付値と時間値
 - SHR レコード 474
 - ビット, 抽出 399
 - 百分率
 - 数値に変換 446
 - 数値を~として 247
 - 負の値にマイナス符号 248
 - フォーマットシンボル
 - ISO 8601 14, 336
 - 符号なしゾーン 10 進データ
 - IBM メインフレーム形式 272
 - 符号なしゾーン 10 進データ, 読み込み
 - IBM メインフレーム形式 473
 - 符号なしバイナリ整数(固定小数点)値
 - IBM メインフレーム形式 261
 - 符号なしバイナリ整数データ, 読み込み
 - IBM メインフレーム形式 461
 - 符号なしパック 10 進出力形式 252
 - 符号なしパック 10 進データ
 - IBM メインフレーム形式 264
 - 符号なしパック 10 進データ, 読み込み 450

IBM メインフレーム形式 463
 浮動小数点値 147
 IEEE 157
 浮動小数点値, 読み込み 424
 浮動小数点データ(IEEE), 読み込み
 431

負の数値
 かっこで囲んで書き出し 173
 プラス符号
 後置 480
 プログラミング言語
 ゾーン 10 進データのサポート 12
 バイナリ整数表記と 9
 パック 10 進データのサポート 12
 分数 148, 295
 分離した後符号付きゾーン 10 進データ
 IBM メインフレーム形式 271
 分離した後符号付きゾーン 10 進データ, 読み込み
 IBM メインフレーム形式 472
 分離した前符号付きゾーン 10 進データ
 IBM メインフレーム形式 270
 分離した前符号付きゾーンデータ, 読み込み
 IBM メインフレーム形式 471

ま

マイナス符号
 後置 480
 文字データ
 16 進への変換 67
 8 進への変換 79
 ASCII テキストへの変換, Base 64 エンコーディング 62, 359
 ASCII への変換 61
 EBCDIC への変換 66

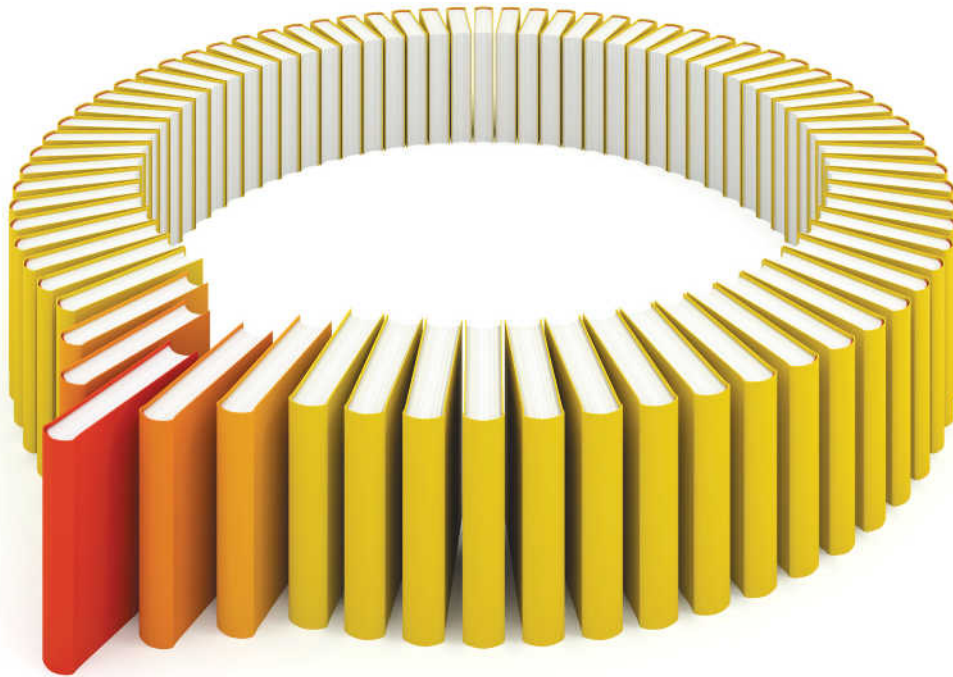
大文字での書き出し 68
 大文字変換 83
 書き出し 60, 64
 可変長 84
 逆順, 空白を保持 81
 逆順, 左揃え 82
 バイナリへの変換 63
 文字データ, 読み込み
 可変長フィールド 375
 カラムバイナリファイルから 362
 空白を含む 362
 標準形式 377
 文字データの書き出し 60, 64

や

ユーザー定義の出力形式 7
 ユーロ
 出力形式 142, 145
 ユリウス日付, パック
 16 進形式で読み込み, IBM 444
 ユリウス日付値, パック
 16 進形式で読み込み, IBM 442
 ユリウス暦の日付 159, 333
 パック 11
 パック値を 16 進で 244
 パック値を IBM で使用する 16 進で
 245
 日付部分 158

ら

リトルエンディアンプラットフォーム
 バイトオーダリング 8
 リトルエンディアンプラットフォーム, バイトオーダリング 330
 ローマ数字 255, 258, 310, 312
 ロケール
 最適な数値表記 176



Gain Greater Insight into Your SAS[®] Software with SAS Books.

Discover all that you need on your journey to knowledge and empowerment.

 support.sas.com/bookstore
for additional books and resources.


THE POWER TO KNOW.

SAS and all other SAS Institute Inc. product or service names are registered trademarks or trademarks of SAS Institute Inc. in the USA and other countries. ® indicates USA registration. Other brand and product names are trademarks of their respective companies. © 2013 SAS Institute Inc. All rights reserved. S107969US.0613

